

担い手育成基盤整備事業(芹ヶ沢地区)  
国道299号線バイパス建設事業  
埋蔵文化財発掘調査報告書

ひじり いし 遺 跡  
なが みね 遺 跡  
(べっ た ざわ 遺 跡)  
聖 石 遺 跡  
長 峯 遺 跡  
(別 田 沢 遺 跡)

—第1分冊—

本文編

2005. 1

長野県諏訪地方事務所  
長野県諏訪建設事務所  
長野県茅野市  
長野県埋蔵文化財センター

担い手育成基盤整備事業(芹ヶ沢地区)  
国道299号線バイパス建設事業  
埋蔵文化財発掘調査報告書

ひじり いし 遺 跡  
なが みね 遺 跡  
(べつ た ざわ 遺 跡)  
聖 石 遺 跡  
長 峯 遺 跡  
(別 田 沢 遺 跡)

—第1分冊—

本文編

2005. 1

長野県諏訪地方事務所  
長野県諏訪建設事務所  
長野県茅野市  
長野県埋蔵文化財センター





長峯遺跡

別田沢遺跡

聖石遺跡





竪穴住居跡の分布



長峯遺跡の全景 縮尺 約1:2,000

—平成6年茅野市空撮写真に平成11・12年調査の空撮写真を合成・編集している。—



# 序

聖石・長峯遺跡一帯で圃場整備事業が実施されることになり、遺跡が破壊されてしまうことになりました。聖石・長峯遺跡は同一台地上に、隣り合っております。両遺跡は昭和30年代の開田工事によって、遺跡はすでに失われているのではと思われていました。当初、茅野市教育委員会が発掘調査を始めましたところ、予想を大きく上回る多数の遺構、遺物が発見され、遺存状態も良いことが判明してきました。工事が急がれる中、市教育委員会は調査を工事工程のなかで完了させることは不可能ということになり、長野県埋蔵文化財センターが調査を受託することになりました。

調査の結果、両遺跡から発見された住居跡は300軒余、土坑5000基余などです。住居跡は円形に並び、その内側には、掘立柱建物跡、翡翠の玉を伴う土坑、遺構のない広場が発見され、典型的な縄文時代中期集落が台地上にふたつ現れました。整理の中で両遺跡から出土した磨製石斧が接合する事実などが判明し、両集落は何らかのかかわりのあることが証明されました。また、長峯遺跡では、過去の発掘調査の痕跡、復元されて各種冊子に掲載されている著名な有孔鍔付土器の復元部分の土器片を発見するという事もありました。

膨大な遺構数、遺物量のため調査・整理期間は長くなってしまいました。まだ、両遺跡の本質に迫る追究はできていませんが、本報告では発掘調査で得た情報をできる限り多く提示しようとの基本姿勢を大切にしてきました。不足の部分は多々あるかと思いますが、八ヶ岳山麓の縄文文化解明に役立てていただければうれしい限りです。

最後になりましたが、発掘作業から整理作業及び報告書刊行に至るまで深いご理解とご協力をいただいた長野県諏訪地方事務所・同諏訪建設事務所、茅野市・同教育委員会など関係機関、直接ご指導・ご助言いただいた長野県教育委員会文化財・生涯学習課、発掘作業・整理作業に携わっていただいた多くの方々に感謝申し上げます。

平成17年1月31日

(財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター 所長 小沢 将夫



## 例 言

- 1 本書は担い手育成基盤整備事業（芹ヶ沢地区）・国道299号線バイパス建設事業にかかわる長野県茅野市所在の聖石遺跡、長峯遺跡、別田沢遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は県諏訪地方事務所、県諏訪建設事務所、茅野市の委託を受けた財団法人長野県埋蔵文化財センター（当時、現在財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター、以下県埋蔵文化財センター）が実施したものである。
- 3 遺跡の概要は県埋蔵文化財センター刊行の『長野県埋蔵文化財センター年報』15～18で紹介しているが、内容において本書と相違がある場合は本報告をもって訂正する。
- 4 整理作業は、県埋蔵文化財センターで実施した。
- 5 本書で使用した地図は、茅野市役所作成の茅野市計画基本図（1：2,500）、茅野市全図（1：25,000）、茅野市教育委員会作成の茅野市遺跡分布図（1：25,000）、国土交通省国土地理院発行の地形図「諏訪」「蓼科山」「高遠」「八ヶ岳」（1：50,000）などをもとに作成した。
- 6 本調査における委託業務は業者に委託した。  
現地測量一式 聖石遺跡（平成10年度） 株式会社写真測図研究所  
長峯遺跡（平成11・12年度） 株式会社こうそく  
別田沢遺跡（平成11年度） 株式会社こうそく  
石器実測（一部） 株式会社シン技術コンサル  
遺物写真撮影 株式会社長野フジカラー 土器展開撮影 小川忠博氏  
遺構図・地形図デジタルトレス 株式会社こうそく、株式会社シン技術コンサル
- 7 理化学的分析は以下の諸氏、諸機関に依頼、また業者委託し、報告を受けている。  
黒曜石の産地同定 国立沼津高等工業専門学校 望月明彦教授  
石材の分析鑑定 糸魚川市立フォッサマグナミュージアム 宮島宏館長補佐  
動物骨の鑑定 京都大学霊長類研究所 茂原信生所長  
土器の胎土分析 東京藝術大学 建石徹助手  
土器付着物などの年代測定 国立歴史民俗博物館 小林謙一氏 今村峯雄氏 坂本稔氏 永島正春氏  
炭化物の鑑定・年代測定 株式会社古環境研究所
- 8 発掘調査及び整理作業の体制は本書第1章に記載してある。
- 9 土器復元は徳永哲秀が担当した。
- 10 本書の執筆は以下の通りである。  
市澤英利 第1章第1節、第5章第1節、第7章  
柳澤 亮 第1章第2節1、第2章、第3章第1・2・4節、第4章第1・2・4節、第6章第1節、附章第1・2節  
寺内隆夫 第1章第2節2、第3章第3・5節、第4章第3節、第6章2・3節、附章第3節
- 11 本書の編集・校正は柳澤亮、寺内隆夫が行い、市澤英利がこれを校閲した。
- 12 本書で報告した記録および資料一式は、平成16年度まで県埋蔵文化財センターが保管している。なお平成17年度に茅野市教育委員会へ移管される予定である。



## 目 次

<p>巻頭図版</p> <p>序…………… i</p> <p>例言…………… ii</p> <p>目次…………… iii</p> <p>挿図目次…………… iv</p> <p>挿表目次…………… v</p> <p>第1章 序説……………1</p> <p>  第1節 調査の経過……………1</p> <p>    1 発掘調査に至る経過……………1</p> <p>    2 発掘調査・整理事業体制および実施内容……………1</p> <p>    3 指導者・協力者……………3</p> <p>    4 発掘調査参加者および整理事業調査参加者……………3</p> <p>  第2節 調査の方法……………4</p> <p>    1 発掘調査の方針と手順……………4</p> <p>    2 整理の方法……………9</p> <p>第2章 環境……………15</p> <p>  第1節 地形と地質的環境……………15</p> <p>    1 遺跡の位置……………15</p> <p>    2 地形……………15</p> <p>  第2節 歴史的環境……………17</p> <p>第3章 聖石遺跡……………21</p> <p>  第1節 遺跡と調査の概観……………21</p> <p>  第2節 縄文時代の遺構……………22</p> <p>    1 概要……………22</p> <p>    2 縄文時代中期の住居跡……………24</p> <p>    3 縄文時代後期の住居跡……………36</p> <p>    4 掘立柱建物跡……………40</p> <p>    5 屋外埋設土器……………42</p> <p>    6 遺物集中……………42</p> <p>    7 炉跡・焼土跡……………43</p> <p>    8 土坑……………43</p> <p>  第3節 縄文時代の遺物……………47</p> <p>    1 概要……………47</p> <p>    2 土器……………48</p> <p>    3 土製品……………71</p> <p>    4 石器……………71</p> <p>    5 その他の遺物……………78</p> <p>  第4節 縄文時代以後の遺構……………78</p> <p>  第5節 縄文時代以後の遺物……………78</p> <p>第4章 長峯遺跡……………79</p> <p>  第1節 遺跡と調査の概観……………79</p>	<p>  第2節 縄文時代の遺構……………81</p> <p>    1 概要……………81</p> <p>    2 縄文時代中期の住居跡……………82</p> <p>    3 縄文時代後期の住居跡……………114</p> <p>    4 掘立柱建物跡……………116</p> <p>    5 屋外埋設土器……………117</p> <p>    6 遺物集中……………118</p> <p>    7 炉跡・焼土跡……………118</p> <p>    8 土坑……………119</p> <p>    9 礫・石器集中……………124</p> <p>   10 その他……………124</p> <p>  第3節 縄文時代の遺物……………125</p> <p>    1 概要……………125</p> <p>    2 土器……………126</p> <p>    3 土製品……………152</p> <p>    4 石器……………154</p> <p>    5 その他の遺物……………160</p> <p>  第4節 縄文時代以後の遺構……………160</p> <p>  第5節 縄文時代以外の遺物……………160</p> <p>第5章 分析と鑑定……………161</p> <p>  第1節 分析および鑑定のねらい……………161</p> <p>  第2節 出土炭化材の樹種同定・年代測定、           および出土炭化物の種実同定……………162</p> <p>  第3節 長峯遺跡出土縄文土器の胎土分析……………169</p> <p>  第4節 長野県茅野市聖石遺跡・           長峯遺跡出土黒曜石産地推定結果……………173</p> <p>  第5節 装身具、磨製石斧の石材分析……………179</p> <p>  第6節 長野県茅野市長峯・           聖石遺跡のAMS<sup>14</sup>C年代測定……………181</p> <p>第6章 まとめ……………191</p> <p>  第1節 遺構から……………191</p> <p>  第2節 遺物から……………195</p> <p>  第3節 縄文時代における聖石・長峯・           別田沢遺跡の土地利用変遷……………215</p> <p>第7章 今後の研究及び活用……………227</p> <p>附章 別田沢遺跡……………228</p> <p>  第1節 遺跡と調査の概観……………228</p> <p>  第2節 縄文時代の遺構……………229</p> <p>    1 住居跡……………229</p> <p>    2 土坑……………229</p> <p>  第3節 縄文時代の遺物……………229</p> <p>報告書抄録</p>
--	--



## 挿図目次

図1 試掘トレンチ設定図 ……………5	図28 「三本指」装飾部分の割取りと破断面のつぶれ状況……196
図2 調査範囲と調査区の設定 ……………7	図29 代表的な土器接合関係 ……………198
図3 茅野市の地形区分図……………16	図30 長峯遺跡出土縄文中期中葉土器の系統別分類 ……………200
図4 聖石・長峯遺跡の位置と周辺遺跡……………18	図31 長峯遺跡・縄文中期中葉の主要竪穴住居跡出土土器の 系統別組成比率 ……………201
図5 土器観察表分類基準と記号（1）……………53	図32 長野・山梨県出土の阿玉台式土器とその変容形土器 ……203
図6 土器観察表分類基準と記号（2）……………66	図33 長野県内の阿玉台式土器 および参考資料出土遺跡の位置 ……………204
図7 宮坂英弑氏緊急調査時の痕跡と同一個体土器……………81	図34 隣接都県出土の大波状・扇状把手付き阿玉台式土器 （I b・II）……………205
図8 聖石遺跡出土の炭化材 ……………CD所収	図35 「R」字、反転「R」字、 逆位「し」字状垂下文の類例 ……………206
図9 長峯遺跡出土の炭化材（1）……………CD所収	図36 SB214出土土偶（土偶装飾付土器）と類例 ……………209
図10 長峯遺跡出土の炭化材（2）……………CD所収	図37 聖石遺跡主要竪穴住居跡出土石器器種別組成比率 （100点以上出土した例）……………211
図11 長峯遺跡出土の種実 ……………CD所収	図38 長峯遺跡主要竪穴住居跡出土石器器種別組成比率 （120点以上出土した例）……………211
図12 胎土分析を実施した土器 ……………170	図39 磨製石斧接合関係図 ……………213
図13 長峯遺跡出土縄文土器の胎土分析結果（Si-Fe相関）…171	図40 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（1）……………219
図14 沓岐以東の主な黒曜石産地分布図 ……………175	図41 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（2）……………220
図15 聖石遺跡出土の黒曜石の産地判別図（1）……………CD所収	図42 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（3）……………221
図16 聖石遺跡出土の黒曜石の産地判別図（2）……………CD所収	図43 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（4）……………222
図17 長峯遺跡出土の黒曜石の産地判別図（1）……………CD所収	図44 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（5）……………223
図18 長峯遺跡出土の黒曜石の産地判別図（2）……………CD所収	図45 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（6）……………224
図19 <sup>14</sup> C年代測定を実施した土器 ……………181	図46 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（7）……………225
図20 長峯遺跡 <sup>14</sup> C分析試料拡大写真（1）……………186	図47 聖石・長峯・別田沢遺跡遺構変遷図（8）……………226
図21 長峯遺跡 <sup>14</sup> C分析試料拡大写真（2）、 および炭化物付着状況写真（1）……………187	付図1 聖石遺跡・長峯遺跡・別田沢遺跡全体図
図22 長峯遺跡 <sup>14</sup> C分析試料炭化物付着状況（2）、 漆付着状況写真（1）……………188	付図2 聖石遺跡全体図
図23 暦年較正確率分布（1）……………188	付図3 長峯遺跡全体図
図24 暦年較正確率分布（2）……………189	
図25 暦年較正確率分布（3）……………190	
図26 長峯遺跡竪穴住居の形態変遷（1）……………193	
図27 長峯遺跡竪穴住居の形態変遷（2）……………194	



## 挿表目次

表 1	聖石・長峯・別田沢遺跡注記記号一覧	12	表29	長峯遺跡掲載土器・土製品一覧	CD所収
表 2	周辺遺跡	19	表30	長峯遺跡全出土土器一覧	CD所収
表 3	聖石遺跡縄文時代中期住居跡	24	表31	長峯遺跡遺構時期と出土遺物量	127
表 4	聖石遺跡縄文時代後期住居跡	36	表32	長峯遺跡出土主要土器属性表	132
表 5	聖石遺跡掘立柱建物跡	40	表33	長峯遺跡出土赤彩・漆関係資料一覧	146
表 6	聖石遺跡屋外埋設土器	42	表34	長峯遺跡出土土製品一覧	152
表 7	聖石遺跡遺物集中	42	表35	長峯遺跡出土土器片製円板一覧	153
表 8	聖石遺跡炉跡・焼土跡	43	表36	長峯遺跡出土石器器種別一覧	CD所収
表 9	聖石遺跡土坑	45	表37	長峯遺跡出土石器の組成	156
表10	聖石遺跡出土遺物の概要	47	表38	聖石遺跡における樹種同定結果	162
表11	聖石遺跡図版掲載土器・土製品一覧	CD所収	表39	長峯遺跡における樹種同定結果(1)	164
表12	聖石・長峯・別田沢遺跡時期区分対照表	48	表40	長峯遺跡における樹種同定結果(2)	164
表13	聖石遺跡遺構時期と出土遺物量	49	表41	長峯遺跡出土縄文土器の胎土分析結果	171
表14	聖石遺跡出土主要土器の属性	56	表42	産地原石判別群	174
表15	聖石遺跡出土赤彩・漆関係資料一覧	69	表43	器種別分析試料(聖石遺跡)	175
表16	聖石遺跡出土土製品一覧	71	表44	器種別分析試料(長峯遺跡)	175
表17	聖石遺跡出土土器片製円板一覧	72	表45	聖石遺跡・長峯遺跡出土黒曜石産地組成	177
表18	聖石遺跡出土石器の組成	73	表46	聖石遺跡出土黒曜石器種別産地組成	178
表19	聖石遺跡出土石器器種別一覧	CD所収	表47	長峯遺跡出土黒曜石器種別産地組成	178
表20	長峯遺跡縄文時代中期住居跡	82	表48	聖石遺跡黒曜石産地推定結果	CD所収
表21	長峯遺跡縄文時代後期住居跡	114	表49	長峯遺跡黒曜石産地推定結果	CD所収
表22	長峯遺跡掘立柱建物跡	116	表50	聖石遺跡出土装身具・磨製石斧の石材分析結果	179
表23	長峯遺跡屋外埋設土器	117	表51	長峯遺跡出土装身具・磨製石斧の石材分析結果	179
表24	長峯遺跡遺物集中	118	表52	処理試料一覧	182
表25	長峯遺跡炉跡・焼土跡	118	表53	試料の重量・炭素量	183
表26	長峯遺跡土坑	119	表54	測定結果と歴年較正年代	184
表27	長峯遺跡礫・石器集中	124	表55	別田沢遺跡遺構時期と遺物量	229
表28	長峯遺跡出土遺物の概要	125			



# 第1章 序 説

## 第1節 調査の経過

### 1 発掘調査に至る経過

尖石遺跡、阿久遺跡、井戸尻遺跡といった史跡を筆頭に多数の縄文時代の遺跡が密集する八ヶ岳山麓で、圃場整備事業が大々的に計画された。茅野市では市街地や山林を除く一帯ほとんど、とっていいくらいに事業が計画された。事業実施計画地内には多数の遺跡が存在しており、事業着手に当たってその保護措置を事業主体者である諏訪地方事務所、茅野市教育委員会、長野県教育委員会で協議した。基本的には、遺跡部分を事業対象地から除く、やもうえない場合は発掘調査による記録保存、記録保存によって重大な発見があった場合は設計を変更など、遺跡の現状保存を第1義に協議は進められた。

しかし、遺跡の立地環境と事業実施計画とが整合し、遺跡が現状保存されるようになることは困難を極めた。そのため、事業実施に伴って記録保存せざるを得ない遺跡が続出した。茅野市教育委員会では、調査体制を充実させながら毎年継続して調査を実施してきたが、常に調査量は過飽和の状況にあった。

平成9年茅野市教育委員会が聖石遺跡の調査を行ったところ、過去の開田工事で遺跡は失われているという予想に反し、大形敷石住居跡をはじめとして多量の遺構・遺物が発見された。予定していた年度内の調査終了ができず、次年度調査を継続することになった。しかし、次年度はすでに他遺跡の調査が計画されており、市教育委員会の体制では聖石遺跡の調査実施は不可能の状況に陥った。そこで、県教育委員会の働きかけがあって、長野県埋蔵文化財センターで調査が実施できないか協議された。その結果、平成10年度の聖石遺跡の発掘調査は、長野県埋蔵文化財センターが諏訪地方事務所・茅野市と委託契約を結んで実施することとなった。平成10年度は4月に調査を開始し11年1月で聖石遺跡の調査は終了した。

そうした中で、平成11年度隣接する長峯遺跡の調査が予定されていて、茅野市教育委員会が試掘調査を行った結果、調査面積は当初計画より大幅に増加し、遺構も多数存在することが判明した。そこで、諏訪地方事務所・茅野市教育委員会・長野県教育委員会・埋蔵文化財センターで協議し、聖石遺跡との関連も考えられることから埋蔵文化財センターで発掘調査することとなった。

平成11年度は4月に調査を開始し12月までで計画予定地の調査を終了し、12年度は遺構の密度が高いことが見込まれたため、12年3月から調査を開始し13年1月までかかって長峯遺跡の調査が完了した。

聖石・長峯遺跡から発見された遺構遺物は膨大な量であり、その整理には長時間必要とされた。そこで、関係機関で協議し、平成13・14年度の2年間を使って埋蔵文化財センターで整理作業を実施し、平成15年度報告書刊行という日程が組まれ、それに沿って作業を進めた。ただし、平成15年度報告書刊行は連絡調整不足があって、次年度へ延期され、平成16年度報告書刊行となった。

### 2 発掘調査・整理作業体制及び実施内容

平成10年度	所長	佐久間鉄四郎
	副所長兼管理部長	山崎悦雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・白居直之・白田広之



聖石遺跡15,600㎡を4月13日から11年1月14日まで発掘調査実施。縄文時代中期・後期の遺構多数発見。以後3月末日まで基礎整理実施。

<b>平成11年度</b>	所長	佐久間鉄四郎
	副所長兼管理部長	山崎悦雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・臼居直之・西 香子

長峯遺跡20,650㎡を4月1日から12月28日まで発掘調査を実施。縄文時代中期・後期の遺構多数発見。聖石遺跡との関係の究明が必要との認識をもつ。以後2月末まで基礎整理作業実施。

<b>平成12年度</b>	所長	佐久間鉄四郎
	副所長兼管理部長	春日光雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫・西 香子

長峯遺跡15,150㎡を3月10日から13年1月12日まで発掘調査を実施。縄文時代中期・後期の遺構を昨年度以上の数発見し、長峯遺跡の発掘調査を終える。以後3月末まで基礎整理作業実施。

<b>平成13年度</b>	所長	佐久間鉄四郎、7月1日より深瀬弘夫
	副所長兼管理部長	春日光雄
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	百瀬長秀
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫

遺構図の個別チェックと全体図作成、土器の接合・復元、石器の分類・計測などの整理作業を実施。黒曜石の原石・石核・剥片などが多量にあり、原産地近郊の遺跡の性格が浮かび上がる。

<b>平成14年度</b>	所長	深瀬弘夫
	副所長兼管理部長	原 聖
	調査部長	小林秀夫
	調査課長	廣瀬昭弘
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫

遺構図の版下及び遺物の実測から版下作成など、報告書作成作業を実施。聖石・長峯遺跡で出土した磨製石斧が接合することが判明し、両遺跡間の関係を考える資料が得られた。

#### 平成15年度

報告書刊行予定であったが、諏訪地方事務所と埋蔵文化財センターとの連絡調整不足があり、次年度刊行とする。

<b>平成16年度</b>	所長	小沢将夫
	副所長兼管理部長	藤岡俊文
	調査部長	市澤英利
	調査課長	平林 彰
	調査研究員	柳澤 亮・寺内隆夫

原稿の一部見直し、ページ数の削減を行って原稿を整え、報告書を印刷刊行し、関係機関へ配布する。また、発掘調査・整理作業で作成した記録類、復元や整理した遺物類の移管事務を茅野市教育委員会と協



議し、17年度移管することとした。

### 3 指導者・協力者

発掘調査と整理作業にあたり、下記の方々や機関にご指導・ご協力をいただいた。お名前を記して感謝申し上げます。(敬称略・五十音順)

今村峯雄・小川忠博・河内晋平・榑原功一・小林謙一・坂本 稔・県営ほ場整備事業芹ヶ沢地区・同地権者各位・建石 徹・尖石縄文考古館・永嶋正春・長野県教育委員会・宮島 宏・望月明彦・山田昌久  
※ このほか見学会や資料閲覧時に際し、地元研究者をはじめとする多くの方々からご指導・ご教示をいただいた。

### 4 発掘調査参加者および整理作業参加者

#### (1) 発掘作業参加者

青木 巖・赤堀彰子・秋月静子・朝倉智秋・朝倉ともえ・伊藤公典・伊藤たけ子・伊藤益郎・稲垣桂子・稲垣幸子・岩波ナミエ・岩波ナミエ・牛山康代・牛山セキ・牛山つね子・大久保栄一・岡田幸子・荻原一二・小沢富夫・小野 敦・柿沢タケミ・柿沢昌子・柿澤美恵子・金子正美・北沢一江・北沢久美子・北澤定夫・北澤みつ江・北原常彦・窪田喜美子・窪田金司・小池美秋・国府田理恵・小刀 文・小平 育・小平和子・小平志づか・小林智子・小松純子・小松とよみ・小松勇志・五味計佐雄・今野沙貴子・佐藤 隆・塩田真弓・篠原治郎・篠原定二・清水太助・清水正進・新村 力・鈴木圭子・鈴木志づ代・鷹野原長智・高橋儀男・田中 進・田中初一・寺島皓二・東城久美子・中村美佳・名取一也・林 賢・原 徳治・原敏江・日達美和・平出雄一・平島伴右衛門・平島正夫・福田幸宗・藤森三千恵・藤原正春・松島恒弘・三石千波・三井ひとみ・宮坂今朝寿・宮坂茂子・宮下加代子・宮下容子・室岡正男・百瀬衛登・森元元治郎・森谷文雄・両角つる美・両角益夫・両角良子・両角良子・矢崎つな子・矢崎みよ子・柳澤喜久雄・柳沢好文・山崎けさみ・山崎裕子・山本吉一・湯田坂あさゑ・吉川春男

#### (2) 整理作業参加者

浅井とし子・安東武子・飯島公子・飯塚妙子・石田多美子・稲玉美紀・宇賀村節子・丑山和江・内山美砂・大口直明・大林久美子・風間夏枝・加藤周子・倉沢より子・黒岩美枝・近藤朋子・斉藤いづみ・島田恵子・滝沢みゆき・中川麻由美・西沢米子・半田純子・日向富美子・柳沢るり子・柳原智子・柳原澄子・山崎明子・山下千幸



発掘作業参加者（長峯遺跡）



整理作業参加者



## 第2節 調査の方法

### 1 発掘調査の方針と手順

調査にあたっては、県埋蔵文化財センター作成の「遺跡調査の方針と手順」（以下「方針と手順」）を準拠して、遺跡調査計画を作成し、発掘調査を行った。

#### (1) 事前調査と調査範囲の確定（図1・付図1）

聖石遺跡と長峯遺跡の事前調査（試掘トレンチ調査）は茅野市教育委員会が実施した。平成8・9年度に聖石遺跡、平成10年度に長峯遺跡の試掘調査が行われている。試掘調査はバックホウによるトレンチ掘削、人力による精査、記録の手順で進められている。試掘調査によって、台地全体に遺構が分布し、さらには台地傾斜面、低位面にまで集落が展開することが明らかになった。明瞭ではなかった聖石遺跡と長峯遺跡の範囲については、表層の遺物分布で予想された範囲を大きく超え、隣接するが接していなかった両遺跡を結ぶ台地の狭まる部分にまで遺構が発見され、遺構の分布としてはほぼ接合する遺跡であることも明らかになった。

聖石遺跡と長峯遺跡の調査範囲は先行して調査を実施している茅野市教育委員会と県埋蔵文化財センターで協議のもと、いくつかの範囲に分割し、その調査を2者で分担して実施した（茅野市2004）。

また別田沢遺跡は、平成11年度、工事による盛土が3m以上に及ぶ可能性がある低位面について遺跡確認のために試掘調査を実施した。調査は茅野市教育委員会主導のもと、隣接する長峯遺跡を調査していた県埋蔵文化財センターによって行われた。その結果、これまで遺跡範囲ではなかった部分から、遺物や遺構が検出され、新発見遺跡として「別田沢遺跡」が登録される。圃場整備事業では盛土保存されるため、調査と記録はトレンチ範囲内におさめている。

#### (2) 遺跡の名称と遺跡記号

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称とした。また発掘調査および整理作業の便宜上、センター特有のアルファベット大文字3字で遺跡名を表記する遺跡記号を用いている。頭文字は長野県内を九つに分割した地区を示している。2番目・3番目には遺跡名を省略したものを付している。

なお、遺物の注記には、上記センター遺跡記号の冠に、茅野市教育委員会の遺跡地図に記されている2桁の遺跡番号を付した。また別田沢遺跡は茅野市教育委員会主導の調査であるため、茅野市の遺跡番号のみ用い、センターの遺跡記号は付していない。記号は以下の通りである。

遺跡名	読み方	遺跡記号
聖石遺跡	ひじりいしいせき	51 GHJ
長峯遺跡	ながみねいせき	50 GNG
別田沢遺跡	べったざわいせき	ベッタ（略称）

#### (3) 調査区（グリッド）の設定（図2）

「方針と手順」に従い、国家座標を基準とした調査区（グリッド）を下記の通り設定した。なお、調査当時は国土交通省国土地理院の旧測量法による日本測地系を基本として基点測量を行っている。本書刊行までに新測量法が施行され、現在は世界測地系を基本とされているが、本書ではすべて旧日本測地系を用いている。世界測地系との照合は、巻末の抄録の緯度・経度の項目において実施している。

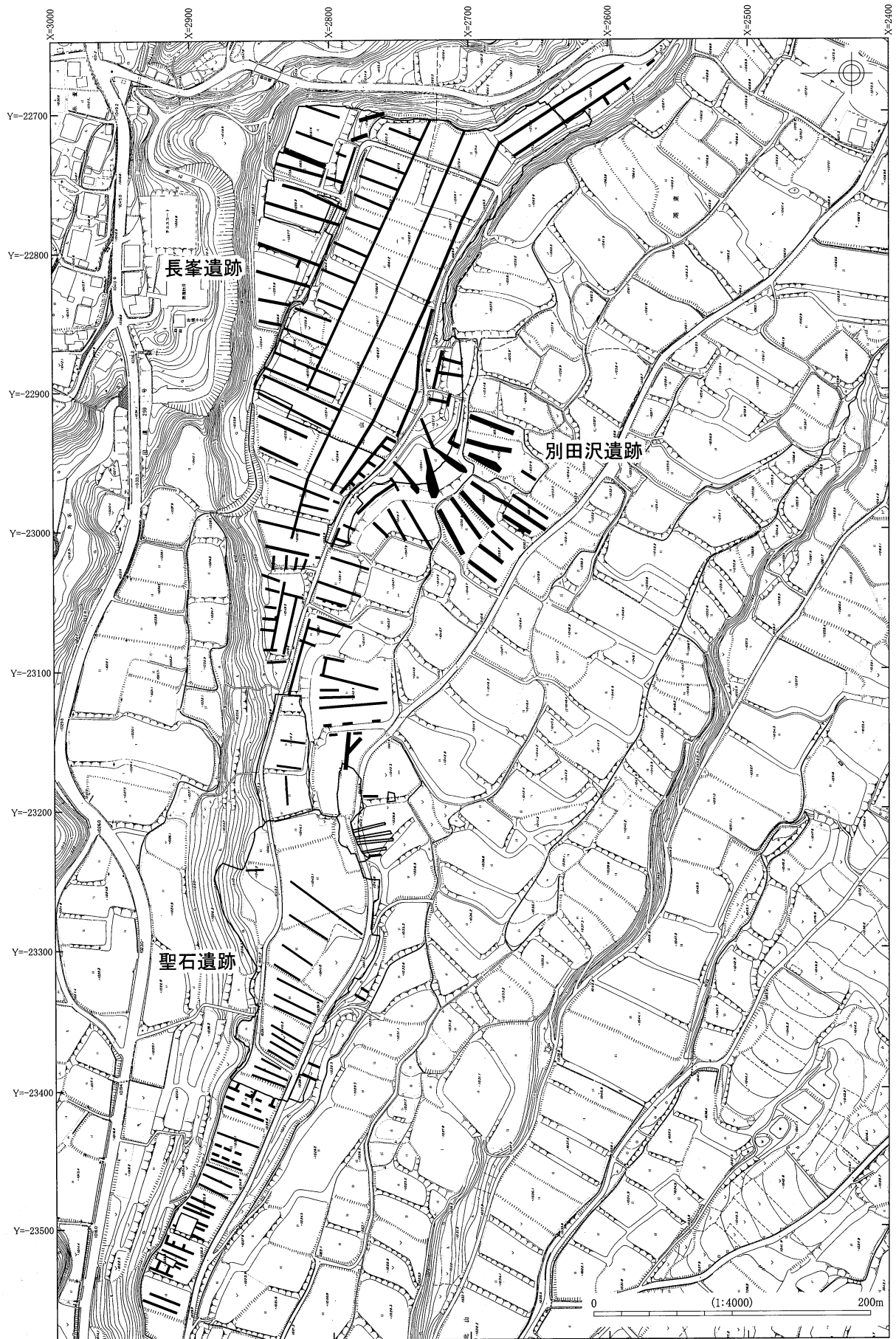


図1 試掘トレンチ設定図



調査区の設定手順は以下の通りである。

#### ア 大々地区（200×200m四方）の設定

調査区は、国土地理院の日本測地系である平面直角座標系の原点、第Ⅷ系 $X=0.000$ 、 $Y=0.000$ を基点に200の倍数値を選択して、調査区内のX軸・Y軸を測量基準線とした。大々地区は調査範囲を覆う最小限度にとどめ、原則として北東から南西にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・・・のローマ数字を用いる。

聖石遺跡はⅠ・Ⅱ区（基点 $X=3000$ ， $Y=-23400$ ）、長峯遺跡はⅠ～Ⅳ区（基点 $X=3000$ ， $Y=-23000$ ）を設定した。なお別田沢遺跡は長峯遺跡のグリッド内に包括されるが、単独標高点測量（以下、単点測量）による測量成果を用いたため、グリッド調査法を採用していない。

#### イ 大地区（40×40m四方）の設定

大々地区を40×40mの25区画に分割し、大地区と呼ぶ。大地区は北西から南東へA～Yの順に大文字アルファベットを用いる。

#### ウ 中地区（8×8m四方）の設定

大地区をさらに8×8mの25区画に分割し、中地区と呼ぶ。中地区も北西から南東へ1～25のアラビア数字を付け、主に遺構測量、遺物取り上げの基準線とする。

実際の呼称例は図2に記した。

### （4）測 量

#### ア 基準点と地形測量

**聖石遺跡** 先行して調査を実施していた茅野市教育委員会の基準杭の成果を用いて、調査区内に基準点を設置し、測量を行っている。

地形測量は調査区中央部では空中測量を実施し、外周は単点測量を用い調査年度内に合成、編集した。

**長峯遺跡** 初年度に三角点から点を移動して、調査区内に基準杭を設定した。次年度は初年度の成果を用いた。

地形測量はすべて単点測量にて作成し、平成12年度にデジタル編集した。

#### イ 遺構測量

**聖石遺跡** 基本的に上記（3）の調査区（グリッド）を用いた簡易遣り方測量によって遺構の測量を実施した。また時間短縮のため、一部に単点測量、空中測量を併用し、年度内に合成、編集した。

**長峯遺跡** 聖石遺跡同様に、簡易遣り方測量による測量を基本としたが、遺構密度の希薄な地区、傾斜の著しい地区では、基準杭の設定を最小限にして、単点測量による測量を実施した。



調査風景（秋の八ヶ岳を望む）



列石の検出作業

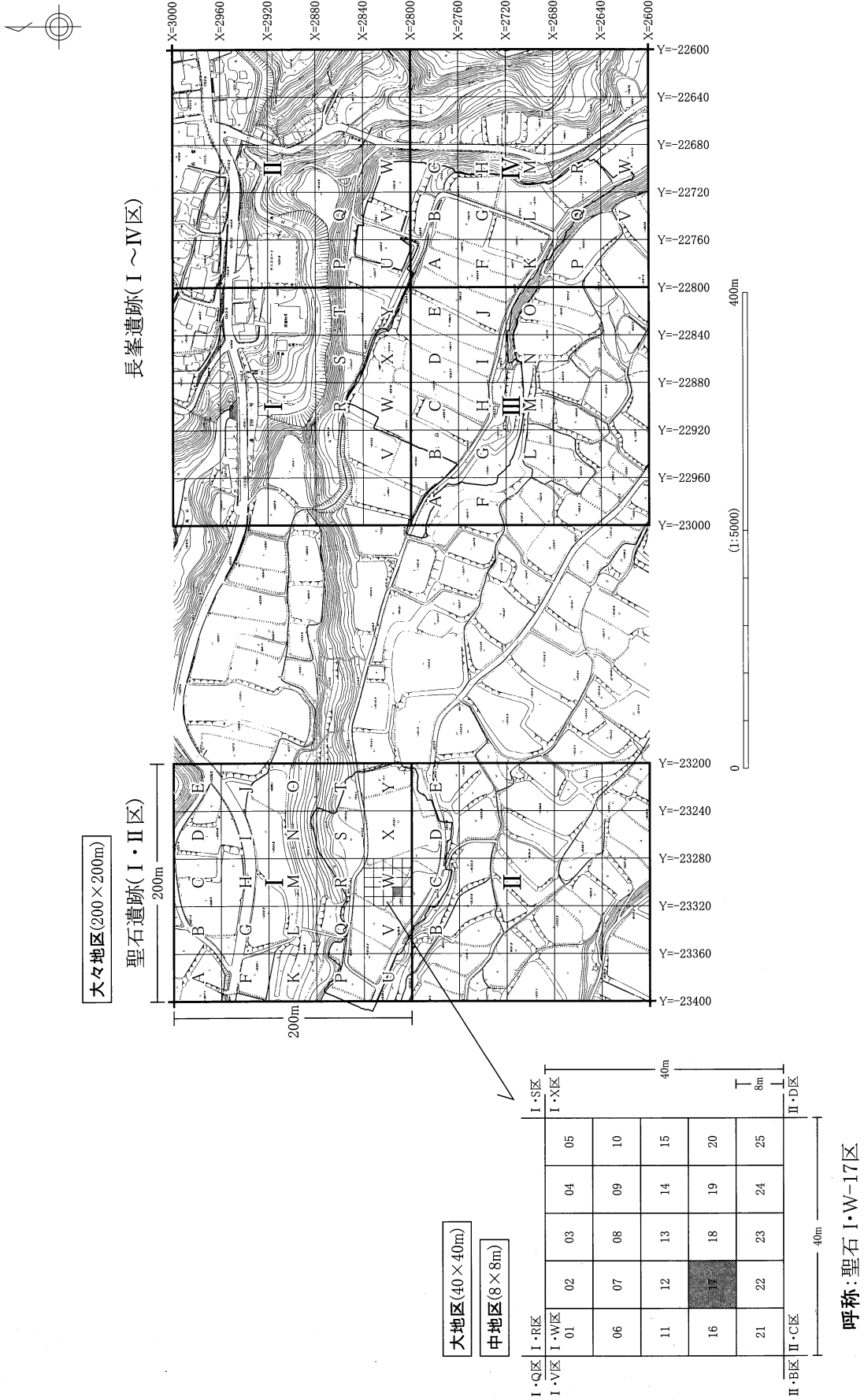


図2 調査範囲と調査区(グリッド)の設定



また遺構密度が濃密な地区では、空中撮影写真をデジタル処理し、オルソ画像（正射投影画像）化したのち、縮尺1：20に出力した画像を用いて、手書き図化作業を実施した。これにより時間短縮かつ詳細な遺構観察を併用することが実現した。

### （5）写 真

遺跡の景観や遺構などの撮影には、PENTAX67（6×7）とニコンFM2（35mm）を併用し、ともにモノクロネガフィルム（ネオパン）、カラーリバーサルフィルム（富士クローム）で撮影した。遺物出土状況や遺構の完掘などは基本的に35mmフィルムで記録し、6×7フィルムは遺跡全体撮影、また報告書掲載が予想される場面に用いた。撮影はすべて調査研究員が行い、現像と焼付けは業者委託とした。

航空写真は聖石遺跡で4回、長峯遺跡で10回撮影した。

### （6）主な遺構の調査方法

#### ア 遺構の名称と遺構記号、遺構番号

遺跡記号と同様に調査段階より各種台帳や遺物の注記は便宜的に遺構記号を用いている。また遺構番号は遺跡単位に種類ごと、検出順に付けた。整理段階でそれらを精査し、遺構名を変更したもの、新規に付けたものがある。その結果、元記号、元番号には欠番が生じている。

なお本書でもこれらの記号、番号を用いている。

記号	種類・性格	記号	種類・性格
SB	竪穴住居跡、敷石住居跡	ST	掘立柱建物跡
SK	土坑	SH	集石
SD	溝、水路	SF	炉跡、焼土集中
SQ	遺物集中	SX	屋外埋設土器、不明遺構
UM	屋外埋設土器（H11年長峯遺跡）	LM	ロームマウンド（風倒木痕）

#### イ 竪穴住居跡

検出段階で遺構形状が明確な場合、遺構中央で十字に交わるトレンチを設定して床面、壁面の状況、遺物の分布状況を確認し、トレンチ横を十字に土層ベルトを残して覆土全体を掘り下げる。主だった遺物を残しながら掘削を進め、土層観察、記録を実施した後、ベルトを除去し、必要に応じて遺物の記録写真撮影、図化、取り上げを実施する。次に床面、壁面を精査して炉やピット、埋甕といった内部施設を検出し、



遺構の実測作業



現地説明会

調査する。最終的な平面測量、写真撮影を実施、所見を記録する。

#### ウ 掘立柱建物跡

調査段階で、明確に柱穴が矩形に組める例は少ない。特に土坑の密集する地区での遺構単位の抽出は困難であった。このため、まず各柱穴（ピット）にSK番号（土坑番号）を付し、個別の調査と記録作業を実施した。整理段階では、全体図作成と同時に遺構の抽出を行い、遺構記号、番号を変更し、新規に登録した。

#### エ 屋外埋設土器

遺構検出で露出する土器のうち、土器口縁部が水平に検出されるなど、明らかに埋設された状況を示す個体について屋外埋設土器と認定し、詳細な記録作業を実施した。なお一部に調査が進行した段階、整理段階にて竪穴住居跡や敷石住居跡の炉体土器と判断され、遺構記号などを変更した例がある。

#### オ 土坑

竪穴住居跡より平面形が小さい掘り込みをすべて土坑（SK）とした。大半を半截し、土層観察の後完掘した。その多くについて断面図を作成したが、本書では紙面の都合から抜粋して掲載している。

#### カ 配石および礫群

敷石住居跡や集石といった、小規模な単位にまとめることが難しい礫の分布について、配石および礫群という大きな範囲でとらえ、記録を取った。整理段階で敷石住居跡の敷石部と判断できる場合もあった。

#### キ その他

LM（ルームマウンド）は、通常竪穴住居跡と同程度の大きさで検出される。しかしながら平面形状が不整形である点、底面形状が不規則である点、土層観察から覆土中央にルームブロックが主体的に堆積する部分がある点を勘案して、風倒木痕と判断した。自然現象を要因とする落ち込みと判断したが、遺構と重複する例も多く、基本的には完掘し遺物を採集した。

## 2 整理の方法

### （1）調査の記録類の整理

図面類は記載事項の点検を行い、各種図面を相互に照合、修正または補筆した。また調査担当者が調査経過、遺構の構造所見などを「遺構所見カード」に記載した。写真の整理は、ネガフィルム、6×7リバーサルフィルムについては撮影順にアルバムに貼付し、撮影事項を記載した。35mmカラーリバーサルフィルムは撮影事項をマウントに記載した後、遺構順、撮影種類順に並び替えて、アルバムに収納した。

また各種台帳は記録類と照合し、修正をした。

### （2）測量図のデジタル化

3遺跡で5万㎡を超える調査範囲である点、遺構の密度が濃厚である点を勘案して、整理段階にて調査範囲全体の地形図と遺構分布図についてデジタル化を実施した。調査段階の図化測量が多種多様であったため、その合成作業は困難を極めたが、完成したデジタルデータは縮尺に規制されず、表現の自由度が高いため、報告書への掲載時には効率的に働いた。

### （3）調査および遺構の掲載方法

縄文時代の中期から後期という、同時期の3遺跡を一つの報告書へまとめる点から、全体を見渡せること、相互に比較ができることを主眼とした掲載方法とした。

遺構の所見は、紙面の都合から、各遺構単位に表立てで掲載した。詳細は3・4章を参照のこと。



図版は、地形と3遺跡の立地状況を示す全体図（付図1）、聖石遺跡の全体図（付図2）、長峯遺跡、別田沢遺跡の全体図（付図3）といったA2版の折図により遺跡全体の状況を示した。また1:120縮尺の割付平面図では、各遺跡を小区画に分割して図化し、より近接した遺構の立地状況を示し、また個別図には掲載できない遺構の報告に当てた。竪穴住居跡をはじめとする、個々のもつ情報度の高い遺構を厳選して個別図（縮尺1:60、1:30）を作成し、平面図・断面図や微細図を掲載した。また長峯遺跡の図版の一部には写真を掲載し、詳細図の代用としている。

写真図版は、図面図版と連携させながら、図面では表現できない部分を補描する目的も加味した。特に遺物の出土状況は、図面では掲載できない部分が多いため、写真図版にて掲載している。

また巻頭図版2では、長峯遺跡の複数回の空中撮影写真と茅野市撮影の空中撮影写真を合成し、遺跡全体が見渡せる写真図版としている。

### （3）遺物整理作業の経過と報告書への掲載方法

#### ア 遺物整理および報告書掲載資料の作成にあたって

昭和30年代のは場整備事業によってかなりの範囲が削平されていたとはいえ、縄文時代中期の集落2ヶ所をほぼ全掘し、後期集落の一部におよんだ調査から得られた遺物量は膨大であった。

整理作業の開始当初より、この膨大な遺物を分析するための時間と人員は見込めなかった。そこで、中途半端な考察のために時間を割くのではなく、より多くのデータを取って公表することを優先することとした。図や写真の数を増やすこと、全体量の中で掲載遺物がどの程度であるのかを明示すること、個々の遺物の計測値や特徴を数値などで提示することを主眼にしたのである。

その理由は、縄文の本場と言われている地域にあって、すでに膨大な数の資料が蓄積されているにもかかわらず、図や写真として第三者が分析できる資料の比率が少ない点が気にかかっていたためである。公表資料が限られているため、全体量の提示がなされ、その中で何%の資料を図化したかがおおむね把握できる他県の資料との比較がしづらかったのである。他地域で「特徴的・・・」されている資料が、本当に八ヶ岳西麓には無いのか、あるいは単に資料化から漏れていただけなのか、第三者には推測すらできない状況を変えたい、というのが本書の遺物報告のねらいの一つであった。

また、現実問題として、調査研究員が当該遺跡の整理に常駐できない状況が考えられたこともあり、機械的な作業に重点を置いたことも理由の一つである。

土器資料に関しては、ある程度目的を達することができたが、調査研究員が専従できなかった期間の影響でデータに一貫性を保てなかった部分が生じている。例えば、先行して整理が進んでいた聖石遺跡と長峯遺跡間で整合性を持たせる時間がなかった点。あるいは、縄文中期前葉・中葉で設定した土器仮分類基準が、その後整理を開始した中期後葉の土器資料を活かすために修正が必要となり、統一的な分類基準となっていない点。作業開始に先立って設定した石器分類基準についても、観察を重ねてゆく中で弱点が浮かび上がったが、全資料を見直す機会を作れなかった点。さらには、長峯遺跡の石器データが重量の計測のみにせざるを得なかった点。表には接合関係の詳細な記載をしたにも関わらず、遺物分布図を提示できなかった点。など反省すべき点が多い。最終的には、再考、吟味、精査、校正の行われていない生データの提示に終わってしまった観が強い。今後、機会があれば遺物分布図などのデータの追加、あるいは提示したデータを基に再考をしたいと考えている。

以下、整理作業の進め方、報告書への掲載方法を参考として、提示したデータのレベルを推測し、問題点を指摘していただきたい。

## イ 土器・土製品

①**水洗・注記・資料選別・復元作業** 水洗は、主に発掘調査時に仮設プレハブで行い。一部を残して平成12年度までに終了させた。その後の作業は、整理作業棟において平成13年度から実施した。注記は全てインクジェット方式の機械を使用した。一部平成12年度より、発掘調査と平行して行い、平均2名の補助員で、約12ヶ月を要した。出土位置などには、略号(埋甕→ウメ、ロームマウンド→LMなど)を使用した。遺物本体や報告書・CD所収の表に記載された「注記用略記号」については、表1を参考にしていきたい。

②**仮分類と選別および接合** 聖石遺跡の場合、資料の選別・接合・復元個体や実測個体の抽出を、長峯遺跡の発掘調査と並行して行った。聖石・長峯遺跡の本格的な整理作業が開始された時点では上記の作業が終了しており、その後、担当者が交代したため、長峯遺跡との間で選択基準や統計資料に若干の違いがある。例えば、聖石遺跡の土器総数に関する計測は、遺構内出土資料の重量を計測したのみである。

一方、平成13年度より遺物整理作業を開始した長峯遺跡では、屑片に至るまで、全出土資料に対して調査研究員が目を通して仮分類し、出土地点(層位)別に点数と重量の計測を行った(CD表30)。点数は完存品から3cm以上の破片を一律1点とカウントし、3cm以下を屑片として一括した。10万点余の仮分類を、石器分類や他の作業と平行して、一名の調査研究員が約1年間で行った。そのため、再確認・再検討はしていない。正確を期するには再チェックが必要であるが、接合を円滑に進めるための参考、あるいは遺跡の大ざっぱな土器様相をとらえる目的を達することはできた。

長峯遺跡については、仮分類作業の終了した遺構毎に接合作業を行った。補助員2～3名が1年7ヶ月間をかけた。遺構間接合に関しては、先行して復元できた個体に対してと、同時に接合スペースを確保できた隣接住居間のみで試みた。そのため、接合事例が多いとされる20～30m離れた遺構間の作業、あるいはそれ以上離れた遺構間では、一部で試みただけに終わっている。

調査時にすでに土器と分離して保管されていた土偶などの土製品に加え、仮分類作業および接合作業段階において、最終的な土製品や土器片製円板、赤彩・漆塗布・付着土器の抜き出しを行った。これらについては全点、計測・分類を行い、別台帳を作成した(表15・16・17, 33・34・35)。

③**復元作業** 復元個体の選別は、実測のための補強を前提とし、自立する個体、自立しないが1/3周程度は接合する個体。それ以下であるが重要と判断した異系統土器を対象とした。そのため、少数の破片から全体像を復元するような方法は取っていない。聖石遺跡474例、長峯遺跡781例、別田沢遺跡3例が復元対象となった。ただし、上記の条件を満たしていても脆弱な資料、あるいは資料数の多い類型については割愛せざるを得なかった。復元作業には5名の補助員があたり、他の複数遺跡と平行してではあるが約3年を要した。復元作業を行った個体については、作業にあたって詳細なデータを作成した(CD所収基本台帳)。



土器復元作業



土器実測作業



表1 聖石・長峯・別田沢遺跡 注記記号一覧

※いくつか表示していない例があるが、下記の応用で解釈することが可能である。

区分	注記略号	取り上げ時の注記ほか	内 容
遺跡を表す記号	51GHJ	聖石遺跡	頭の数字は茅野市教育委員会の遺跡記号、51が聖石、50が長峯、●が別田沢。
	50NGG	長峯遺跡	ローマ字は長野県埋蔵文化財センターの遺跡記号。長野県内を北から地区割りし、諏訪地域がGとなる。HJはHIJIRISI(聖石)、NGは(長峯)、別田沢は新発見のため、注記時点で略号が決まっていおらず、カタカナで表記した。
層位を表す記号	ベッタ	別田沢遺跡	
	I層	基本土層のI層	基本土層はローマ数字で表記し、遺構内層位は算用数字
	コカ	黒褐色土	基本土層名称確定前に注記した例、黒褐色土
	ホ	遺物包含層	基本土層名称確定前に注記した例、遺物包含層
	ヒョ	表土	現耕作土、表土から出土した遺物
ケ	検出面	表土・包含層と遺構が検出できる層の境界面で出土した資料	
ハギ	表土剥ぎ	表土および検出面より上の層位から出土した資料	
地区を表す記号	IV-G-16	IVG16	最初のローマ数字IVは、200m四方の大々地区名、2番目のローマ字Gが40m四方の大地区、最後の算用数字16が8m四方の中地区を表す
	G-12-10	G12-10	8mグリットをさらに1mや2m毎に分割した場合は、8mグリットの後に-10などの数字が
	12区/12ク	⑫区	⑫区は調査の都合上付した仮地区名、現水田や道路の区画にあわせたもの
	5区N	⑤区の北半部	仮地区名⑤区を南北に二分した場合
	1T	第1トレンチ	遺跡範囲や遺構確認のための先行トレンチ
ミチ	現・農道	調査初期の便宜的な仮地区名、ミチは現・農道下。西田は西側にあった現・水田下	
例1	IV-K-4~5 東西へIV-1 12区ミチ IVK -25	⑫区南IVK4-K5ライン 西ベルトIV-1層中(II層)	仮地区名⑫区内の、IVK4からK5グリットの北側ライン(東西方向)に設定した土層観察用ベルトのIV-1層から出土した遺物。グリット名があるため仮地区名は省略してあり仮地区名省略。IVK25グリットにあった現・農道(ミチ)下から出土した遺物。この後、下層でSB140の輪郭が検出され、SB140覆土に属する可能性があるためSB140?を付けた。
例2	SB140? 12区ミチ ヒョ コカ	⑫区道 表土&黒褐色土	仮地区名⑫区にあった現・農道下の表土から黒褐色土にかけて掘削中に出土した遺物
例3	12区S 東田 シ2T	2T 0001	仮地区名⑫区南側にあった現・水田のうち東側の水田に設定した2番目の遺跡範囲確認トレンチから出土した遺物
遺構を表す記号	LM	ロームマウンド	風倒木痕
	SB	竪穴住居跡	竪穴住居跡
	SD	溝跡	溝、流路跡
	SF	焼土・火床跡	屋外で検出された炉跡ほか
	SH	集石・配石跡	屋外で検出された集石、配石、石器製作跡と見られる石器・石材・屑片の集中箇所?
	SK	土坑	墓坑、貯蔵穴をはじめ単独で検出された柱穴と見られる穴についてもSKとした。
	SQ	遺物集中	掘り込みや施設が不明確だが、遺物が集中的に出土した地点
	ST	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡
	SX	性格不明の遺構	性格不明の遺構
	UM	屋外・単独埋葬	屋外で発見された埋設土器
遺構内で使用した記号	ケ	遺構検出面	当該遺構を平面検出中に出土した遺物
	1層	1層	覆土1層から出土した遺物
	シヨ混	焼土混入層	層位記号確定前に、現地で付けた略称。また、シヨは焼土層
	フ	覆土	覆土より出土し、細別層位名を確定しなかったもの
	フ上	覆土上層	覆土のうち、やや上層部分から出土したもの
	ユ	床面・床面直上	床面および直上から出土した遺物
	ユ下	床下	床面を剥いた時点で出土した遺物
	ピット10	ピット10	柱穴など
	炉	炉覆土内出土	炉の覆土中から出土した遺物。炉施設として設置された遺物は炉ウメ、炉S1などと表記
	ウメガメ	屋内埋葬	埋葬に使用された土器
周溝/周溝	周溝・壁溝	壁際に巡る溝内から出土した遺物	
トレンチ	先行トレンチ	遺構の堆積状況や重複関係を確認するために設定した先行トレンチから出土	
サブトレ	サブトレンチ	重複関係の確認などのために、便宜的に設定したトレンチから出土	
ベ	土層観察用ベルト	土層観察用にベルト状に残した土手から出土した資料	
フ-3	覆土3区	遺構内をベルトを基準に4分割した場合、北東から便宜的に付けた地区名(1~4)	
フNO2	覆土②	覆土を1mないしは2mグリットに分割した場合の2番目の区画	
遺物取上番号	p1	p1	土器取り上げ番号には頭にpがつく
	s1	s1	石器取り上げ番号には頭にs
	OB1	OB1	多量に出土した黒曜石に関しては頭にOBをつけた
例1	SB01フ-2	SB01 フク土②	竪穴住居跡SB01の覆土を4分割した2区。4分割した地区の略号には、フ南東あるいは南東区と方位で示した例もある。
例2	SB04LMフ キン	SB04ロームマウンド付 近	SB04覆土中ではあるが、重複したLM(ロームマウンド)の近くから出土した例
例3	SB04 C-20 7ク	SB04 III C-20⑦	SB04覆土中。8mグリットをさらに分割した7つめの区画
例4	SB51 南ベ クロカツ	SB51 南ベルト黒カツ	SB51覆土中。南側に設定した土層観察用ベルトの黒褐色土層中から出土した例
例5	4T SB-A 炉	シツ 4T SBA炉	別田沢遺跡は試掘トレンチのみ、4トレンチで見つかった竪穴住居跡Aの炉内出土遺物
その他	z	不明	出土地点、層位、遺構などの所属がわからない例。表採、排土中から採取した遺物

このデータを報告書掲載土器選択の基本資料とした。

④**報告書掲載土器の選択** 復元個体と仮分類を終えた破片資料から、報告書掲載用の外形実測用個体と拓影図用破片を選択した。実測図掲載遺物の選定は、遺構内出土例を中心に行い、執筆担当者が紙数との関係からさらに厳選した。埋甕、炉体、床面上の伏甕に関しては脆弱資料を除きほぼ全て実測図を掲載した。拓影図は、上記の資料や覆土中に復元個体がなかった遺構を中心とした。また、長峯遺跡に関しては、紙数の許す限り、区分された各層位から選出した。系統毎の掲載比率はおおむね出土比率を参考としたが、在地以外の異系統土器は、ごく微量であっても極力掲載した。小破片の拓影図に東海系土器などが比較的多いのはそのためである。遺跡間の比重の置き方では、中期後葉が充実している聖石遺跡では中期後葉の掲載数を多めにした。これに対し長峯遺跡では、中期後葉土器の選び出しを聖石遺跡の基準より厳しくして量を減らし、その分前葉～中葉土器を多めに掲載した。長峯遺跡の掲載土器は、重量比で全出土資料の34%に達した(表29)。遺構内で掲載率が高いのは、復元個体をより多く載せたためである。特に多数の土器を掲載した住居は、覆土中に多量の土器が廃棄されていた例である。

⑤**実測・拓本・トレース・写真** 実測は、当初すべての作業を手描きで進めていたが、時間短縮のため本格整理後は写真实測へ移行した。写真实測の方法は、スケールとともに設置した土器を、6～8m離れた地点から200ミリ望遠レンズをつけたデジタルカメラで撮影。データをパソコン上で補正し、実寸大か1/2でプリントアウトし、鉛筆トレースした。導入前の実験的な図作成において、手で計測した場合との誤差は1/4掲載図ではほとんどないことがわかっている。また、大型の把手などカメラの焦点に対して周辺部でゆがみが生じる場合は、パソコン上での補正のほか、手実測によって補った。

掲載図では、手実測の場合、原則的に土器正面図の中に断面図を描き込んである。写真实測の場合は、断面図が正面図とは別図になっているので、参考にしていただきたい。ただし後者では、報告書への掲載数を増やすため、トレース時に断面図を土器正面図中に嵌め込んだ例が若干ある。土器実測は5～6名の補助員があたり、他遺跡と平行してであるが3年を要した。拓影図については、3名で8ヶ月を費やした。

トレースは、描線の統一を図るため調査研究員1名・補助員1名の計2名で、2年弱をかけて全個体のトレースを行った。

写真は、すべての復元個体と一部の破片資料を撮影した。(株)長野フジカラーへ委託し、当センター内の写場と機材を活用して行った。展開写真に関しては小川忠博氏に委託した。

⑥**掲載方法** 土器の掲載は、印刷による実測・拓影図と一部の写真。それに、CDに掲載した写真資料である。掲載順は、遺構図掲載順(SB→ST→SK・・・)に準じた。よって、竪穴住居跡出土資料については中期と後期を分離した。一方、土坑などに関しては、伴出遺物と混入遺物の違いが不明瞭な場合が認められるため、時期区分せずに遺構番号順に掲載した。

実測図掲載土器については、表11・29に出土層位、位置、取り上げ番号、接合関係、赤彩の有無などを明記した。また、復元個体のうち、器形の大半が残存し装飾の構図を知ることのできる資料について、属性表を作成した(表14・32)。属性表の観察基準は3章3節に示した。出土状況に関するデータは、聖石遺跡の主な事例に限り遺構個別図で示した。報告書に掲載できなかった出土位置の高さの情報や、長峯遺跡のデータについては、何らかの機会に公にしてゆきたいと考えている。

⑦**収納方法** 土器の収納は、報告書掲載遺物と未掲載遺物に分離し、さらに遺構・出土地区別に分類して収納した。赤彩・漆付着土器は、掲載資料については掲載順を重視して収納し、未掲載資料については一括して別収納した。また、土製品や土器片製円板については、土器とは分離して収納した。



### C 石器・石製品ほか

①**洗浄・注記** 洗浄作業は、一部を除き平成12年度までに行い。主に発掘現場において水洗ブラシを使用した。微細な使用痕観察などのために超音波洗浄機など特別な方法を取った例は、一部の石製品や磨製石斧に限られる。聖石遺跡出土石器への注記は手書きと機械を併用し、大形剥片石器と礫石器を対象に行った。小形剥片石器や石核・剥片・碎片については、膨大な数量にのぼったため、石器本体への注記を断念し、収納袋にのみ記載した。さらに、長峯遺跡に関しては、整理期間との関係で、石器本体への注記は一切行っていない。収納袋への記載のみであるため、今後、資料の実見に際しては注意が必要である。

②**分類・観察・計測** 次に、遺構別・出土地点・層位別に納めた石器全点に対して、器種分類と法量（長さ・幅・厚さ・重さ）の計測を行った（表19・36）。さらに、聖石遺跡に関しては、器種毎の形態分類、欠損部位や使用痕などの属性観察を行った。計測・観察は聖石遺跡では3名の補助員が1年間専属であったり、調査研究員がチェックを行った。長峯遺跡では、整理期間との関係上、分類と重量計測のみを実施し、補助員2名で約1年を要した。

当初、聖石遺跡の竪穴住居跡出土石器については、石核や剥片類が多く出土したため接合を行ったが、膨大な時間が必要となるため割愛せざるをえなかった。また、石材については、全ての器種について鑑定を行うことができなかった。ヒスイなどの垂飾類、あるいは磨製石斧に限定して委託した。また、黒曜石については遺構出土資料ほぼ全点の産地同定を委託した。

③**報告書掲載石器の選択** 装飾が時期や地域を推定する手がかりとなる土器と異なり、機能によってある程度形態が限定されるため、極力掲載数を減らす方向で選択した。遺構毎に選び出すのではなく、各器種毎に特徴的な形態を任意に抽出した。あるいは法量の違いによって選択した。長峯遺跡については重量の計測しかできなかったため、時期毎の傾向を知るデータは組成のみになってしまった。

④**実測・トレース・写真** 実測は一部を除いて㈱シン技術コンサルへ委託とした。素図段階で校正をおこない、聖石遺跡については、補助員2名が3ヶ月ほどでトレースを行った。また、長峯遺跡はトレースまで同社へ委託した。写真は、報告書掲載石器を対象として㈱長野フジカラーへ委託し、整理棟内の写場と機材を活用して撮影した。

⑤**報告書への掲載** 報文は紙数の関係上、器種分類の基準と概要に止め、表は竪穴住居跡の組成表のみを掲載した（表18・37）。個別石器の出土位置、法量、石材（一部のみ）についてはCD表19・36に収録してある。ただし、計測・属性観察の結果については、作業の行えなかった長峯遺跡との統一を図るため、未掲載とし収納保管した。図は、各器種毎に、遺構順に掲載した。掲載比率は各器種によって異なっている。定型石器のうち小形刃器は、形態にバラエティがあるため多めに掲載した。一方、くさび形石器や二次加工のある剥片、微細な剥離のある剥片などは代表的な数点を掲載したのみである。また、石材鑑定を委託した磨製石斧は多めにし、装身具類は全点掲載した。写真は、装身具類などのみを掲載し、CDに収録した写真も厳選した。



土器実測図トレース作業



通明小学校職場見学会

## 第2章 環 境

### 第1節 地形と地質的環境

#### 1 遺跡の位置

聖石遺跡と長峯遺跡は、茅野市北山芹ヶ沢に所在し、八ヶ岳から流れ下る渋川とその支流、角名川左岸の東西にのびる段丘上に立地する。この周辺は八ヶ岳から放射状に伸びる平坦度の高い侵食段丘が連続し、2遺跡の立地する段丘もその一つといえる（図3）。

#### 2 地 形

この一帯の地形および地質研究の第一人者である、河内晋平氏らの研究によると、この北山地域の地形面は、高い方から広見面（図中4a・4b）、南大塩面（3）、上川面（1b）に4分される（河内・北沢・小林1967）（図3）。以下にその概要を記す。

**広見面**（図中4a・4b）1：地域の東部、広見付近を中心に発達する広い、扇状地性の地形面。一般に平坦度はかなり高い。ただ須栗平、笹原方面では、模式地の広見面に相当する東西性の狭長な面（高位面、図4a）と、これより5～8m低い面（低位面、4b）からなる。広見面は地域の中央、南大塩付近で、より新しい南大塩面と斜交して下位にもぐり、その境界部は不明。

**南大塩面**（3）：南大塩付近で広見面を覆い、その西側に広く発達する。上川および柳川の支流によって、東西性の細長い谷が刻まれている。沖積面（1a）との標高は最北端の上川沿いでもっとも高く60mに近い。

**芹ヶ沢面**（2）：この面は上川・柳川やその支流によって刻まれた東西性の細長い谷の中に形成されたもので、沖積面との比高が10m前後の侵食段丘である。この面上には暑さ0.5～1.5m程度のローム層が堆積している。

**上川面**（1b）：上川・柳川沿いに発達する地形面で、河床からの比高は数m前後で厚さ2m前後の礫層をのせている侵食段丘である。この面上にはローム層をのせていない。

上記の地形区分上では、聖石遺跡・長峯遺跡は角名川と渋川によって刻まれた狭長な面、広見高位面（4a）上に立地することがわかる。また2遺跡の南に位置する北山菖蒲沢遺跡A・B、また尖石遺跡も同じく広見高位面（4a）に立地しているが、この辺りでは扇状地性の地形の特徴が強く、比較的広大で平坦度が高い台地を形成している。

しかしながら別田沢遺跡は、上記のような縄文時代中期の集落遺跡の典型例ともいえる立地環境に対し、広見低位面（4b）にあたり、聖石遺跡や長峯遺跡の狭小な段丘や南対岸の北山菖蒲沢遺跡の立地する段丘を侵食した、なだらかな谷地形の一部に立地する。調査時にもこの一帯は湧水点や湿地が豊富で、あたかも縄文時代の「水場」を想起させるに十分な場所である。ただ今回の確認調査ではその谷地形のなかにも段丘に平行する微高地が数条あることが判明している。これらの地形は上流から供給された土石流の堆積による地形と考えられ、今回新発見され、住居跡などが見つかった別田沢遺跡もその微高地上に立地している。

八ヶ岳山麓ではこれまでの調査から、大地形区分による侵食段丘上に縄文時代の集落遺跡は立地するという所見が定説化している感が強い。もちろん遺跡の大半は台地上に展開していることは間違いないが、



- 1 a : 沖積低位面
- 1 b : 沖積高位面 (上川面)
- 2 : 芹ヶ沢面
- 3 : 南大塩面
- 4 a : 広見低位面
- 4 b : 広見高位面
- 5 : 糸萱溶岩
- 6 : 立科高原溶岩
- 7 : 一の坂溶岩
- 8 : 基盤岩山地

この図は「河内1967第2図」をトレース、一部加筆したものである。

図3 茅野市の地形区分図 (1/7000)



その下位面の谷地形にあっても、縄文時代以前に離水している微高地は、当時の人々にとって水場に近い最適な住環境を与える地形であった可能性を示しているかもしれない。

### 引用文献

河内晋平・北沢和男・小林武彦1967「八ヶ岳北西山麓の火砕流堆積物—八ヶ岳火山列 円頂丘形成期の火山活動（I）—」  
『地質学雑誌』73,3,p139-150

諏訪教育会諏訪の自然誌地質編集委員会1975『諏訪の自然誌 地質編』諏訪教育会p531

## 第2節 歴史的環境（図4、表2）

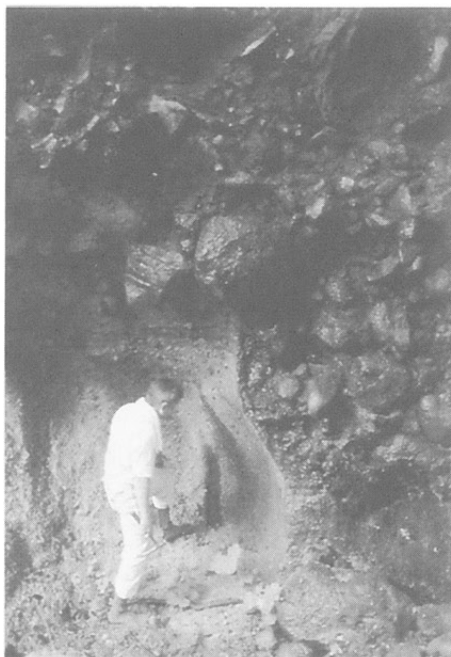
ここでは、茅野市内でも八ヶ岳山麓の台地、霧ヶ峰山麓の扇状地および上川の氾濫原、また上川沖積地・永明寺山麓という3つの地域における遺跡の立地を概観する。図3では聖石(51)、長峯(50)、別田沢(327)遺跡が営まれた縄文時代中期、後期、そしてその前段階の前期に該当する遺跡の分布を示した。

これによると前期のみ確認される遺跡はそれぞれが小規模で点在していることがわかる。また標高の低い上川沖積地一帯（現在の茅野市街地）には分布を見ない。次に前期から中期にわたる遺跡は、数は少ないもののそれぞれ面積が大きく、大規模な集落遺跡といわれる範疇に含まれるものが多い。分布域は前期のみの遺跡とほぼ同じである。

中期のみの遺跡では国特別史跡の尖石遺跡（87）といった大規模で密度の濃い遺跡もあるが、多くは小規模な遺跡と認識されているものが多い。ただ分布範囲は八ヶ岳山麓の標高1,100mを超える地域から上川沖積地まで拡大している。

聖石、長峯、別田沢遺跡も含まれる中期から後期の遺跡、また国史跡である駒形遺跡（34）、上之段遺跡（17）、仮面土偶で有名な中ツ原遺跡（60）、国宝土偶が出土した棚畑遺跡（44）のように前期から後期までの時間幅を持つ遺跡は非常に大規模な集落遺跡であり、その数は少なく分布域は広範囲である。

また後期のみ確認されている遺跡は極めて稀であり、中期遺跡から継続する状況が一般的であろう。



故河内晋平先生と地質・石材調査  
（露降の滝対岸の露頭にて）

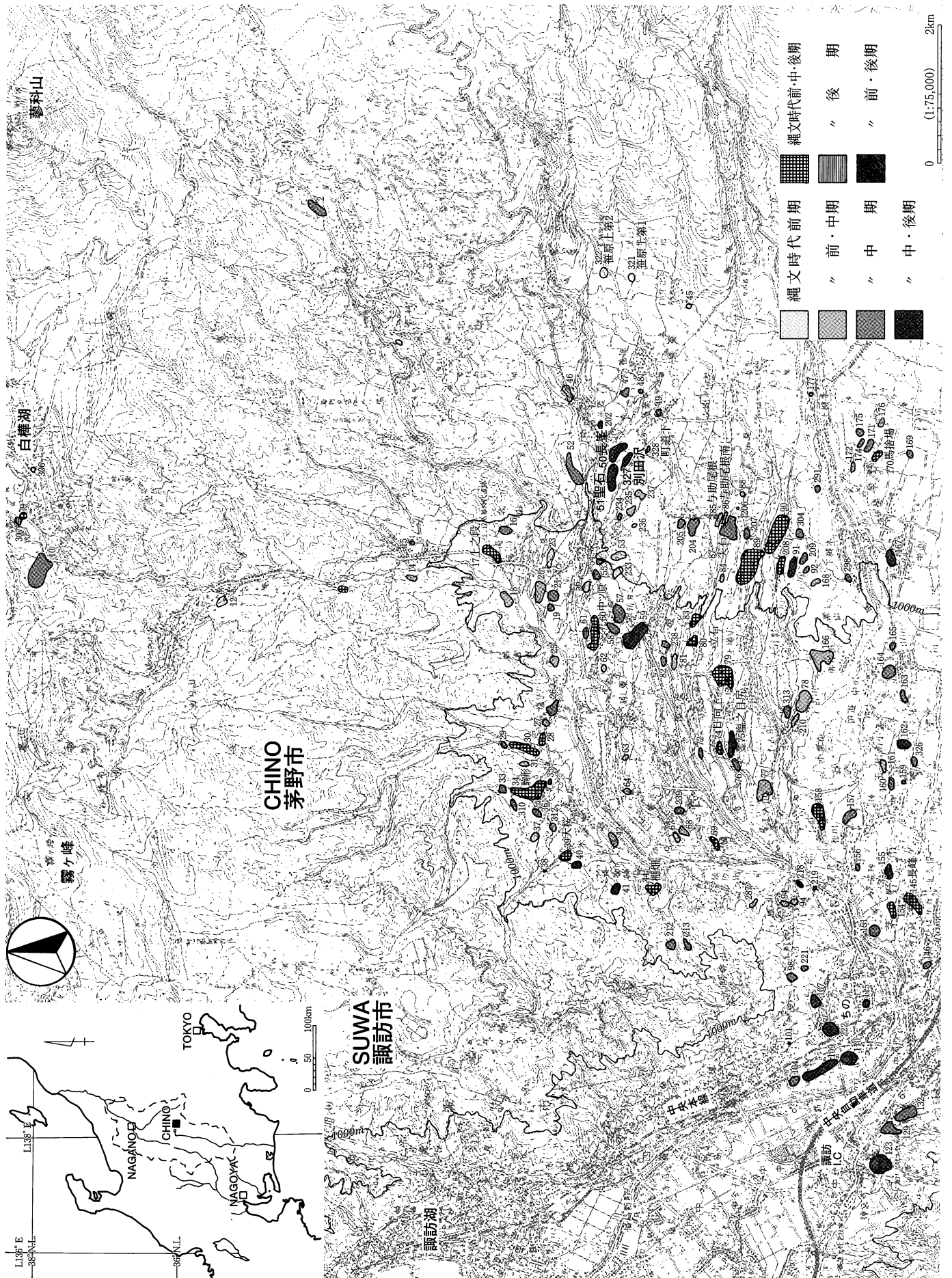


図4 聖石・長峯遺跡の位置と周辺遺跡





第2章 環 境

番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	縄文							弥生	弥生			古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
					草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明		中期	後期	不明						
154	下ノ原	茅野市玉川荒神		●			●	●	●								●				
155	中御前	茅野市玉川荒神		●			●	●	●												
156	上の原	茅野市玉川粟沢		●			●	●	●												
157	和田日向	茅野市玉川粟沢		●			●	●	●												
158	茅野和田	茅野市玉川粟沢		●			●	●	●					●			●				
159	久保川	茅野市玉川神之原		●			●	●	●												
160	小堂見	茅野市玉川神之原		●			●	●	●								●				
161	上御前	茅野市玉川神之原	●	●			●	●	●								●	●			
162	藤塚	茅野市玉川神之原		●			●	●	●												
163	一本木	茅野市玉川山田		●			●	●	●												
164	尾根田	茅野市玉川山田		●			●	●	●												
165	中沢	茅野市玉川山田		●			●	●	●												
166	上の平	茅野市豊平御作田		●			●	●	●								●	●			
167	日鴨寺	茅野市泉野中道		●			●	●	●												
168	上見	茅野市泉野下槻木	●	●			●	●	●												
169	鹿垣	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●												
170	馬捨場	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●												
171	山之神	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●												
172	丸生戸	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●												
174	菖蒲沢Ⅲ	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●								●				
175	菖蒲沢Ⅱ	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●												
176	菖蒲沢Ⅰ	茅野市泉野小屋場		●			●	●	●												
177	夕立	茅野市泉野上槻木	●	●			●	●	●												
202	糸萱	茅野市豊平		●			●	●	●												
204	菖蒲沢A	茅野市湖東堀		●			●	●	●								●				
205	菖蒲沢B	茅野市湖東堀		●			●	●	●												
206	竜神平下	茅野市豊平東獄		●			●	●	●												
207	新水掛B	茅野市豊平上場沢		●			●	●	●												
208	金堀場	茅野市豊平上場沢		●			●	●	●												
209	禪田頭B	茅野市泉野下槻木	●	●			●	●	●												
210	威力不動尊東	茅野市豊平上古田		●			●	●	●												
212	尼御前	茅野市米沢埴原田		●			●	●	●												
213	田部石	茅野市米沢埴原田		●			●	●	●												
218	土佐屋敷	茅野市ちの本町		●			●	●	●					●	●	●	●				
219	御座石神社	茅野市ちの本町		●			●	●	●												
221	西入	茅野市ちの本町		●			●	●	●												
222	阿弥陀堂	茅野市ちの塚原		●			●	●	●		●	●				●	●				
233	矢倉田	茅野市北山		●			●	●	●												
234	山之神沢	茅野市北山		●			●	●	●												
235	北山菖蒲沢A	茅野市北山		●			●	●	●								●				
236	広井出	茅野市北山	●	●			●	●	●												
237	北山菖蒲沢B	茅野市北山	●	●			●	●	●								●				
238	珍部坂A	茅野市湖東堀		●			●	●	●												
239	簗原	茅野市湖東下管沢		●			●	●	●												
287	平十郎久保	茅野市米沢埴原田		●			●	●	●												
291	梵天原	茅野市泉野		●			●	●	●												
298	入之嶺東	茅野市北山軍山		●			●	●	●												
304	禪田頭C	茅野市泉野		●			●	●	●								●				
306	対山館	茅野市北山柏原	●	●			●	●	●												
307	池ノ平	茅野市北山柏原		●			●	●	●												
310	大田苅	茅野市米沢北大塩		●			●	●	●										●		
312	買地	茅野市米沢北大塩		●			●	●	●												
313	久保御堂	茅野市豊平上古田		●			●	●	●								●	●			
321	笹原上第1	茅野市湖東		●			●	●	●												
322	笹原上第2	茅野市湖東		●			●	●	●												
326	式部汐	茅野市玉川神之原		●			●	●	●												
327	別田沢	茅野市北山芦ヶ沢		●			●	●	●												
328	町道下	茅野市湖東		●			●	●	●												

(遺跡番号は茅野市の登録番号による。)

## 第3章 聖石遺跡

### 第1節 遺跡と調査の概観

遺跡の標高は1040m前後であり、尖石遺跡と同じく、縄文時代の大規模な集落遺跡では比較的高位な位置にある。台地の最大幅は80m、遺構の確認される範囲の長さは550mと長大である。

聖石遺跡という名は、古くから畑の中にあった安山岩の巨礫「ヒジリ石」に由来する。当地は以前から土器や石器が拾えることで有名であった。高燥な台地上であるため、桑畑などに利用されていたが昭和34年に大規模な開田工事が実施したところ、多くの遺物が出土したという。またその際に縄文時代の遺構の大半が破壊されたことから、長峯遺跡とともに縄文時代中期の大規模な集落遺跡でありながら、「失われた遺跡」と認識されていた。

今回のほ場整備事業は、聖石遺跡の立地する台地を削り、その土で谷を埋めて施工するという大規模な工事である。県・市教育委員会と関係部局は複数年度にわたる保護協議で、台地を残す施工を検討したが、周囲のほ場が完成しつつある中で、台地を残す工事は工法的に困難であり、記録保存を前提とする発掘調査を実施することが決定した。

平成8年度に茅野市教育委員会が実施した確認調査では、開田工事による遺跡破壊部分は僅かであること、調査必要面積15,000㎡（試掘では予想遺跡面積12,000㎡以上であるが、試掘範囲外への遺構の広がりを見想定）、遺跡内の土層堆積状況は良好で、縄文時代の文化層である黒褐色土層中に礫や焼土跡が存在し、部分的に2面調査が必要である、といった結果が報告される。昭和34年の開田工事では、傾斜する台地に水平な田面を作る際、田面毎に山側を削って谷側に盛り付けるという工法を採用しているため、基盤層まで削平される部分と、逆に盛り土によって良好な状態で保護された部分とが相互に分布していて、結果的に調査範囲は台地全体、つまり遺跡全体に及ぶこととなる。この状況は長峯遺跡でも同様である。

平成9年度の市教育委員会の調査は、調査範囲確定を目的とした試掘調査と市教委1～3区の本格調査である。試掘調査では、台地平坦面最大幅部の南斜面（市教委3区）における縄文時代後期の敷石住居跡および配石群、斜面低位における土坑、焼土跡の発見があり、発掘調査面積（トレンチ調査のみも含む）は20,000㎡を超えることとなる。市教委1区は県埋蔵文化財センター調査区に接する南斜面と、西へ100m離れた台地平坦面にあたり、トレンチ調査と拡張範囲の合計440㎡から7基の土坑が検出されている。そのうち4基は貯蔵穴と考えられている。詳細な時期は不明であるが、東に近接する県埋文センターI・P、Q区の遺構群に含まれると示唆されている。

市教委2区（2,800㎡）は県埋蔵文化財センター調査区東に隣接する台地上にあたる。竪穴住居跡（縄文時代中期後葉4、後期前半1、不明1）、方形柱穴列2基（縄文時代）、土坑107基（縄文時代）、焼土跡1基（縄文時代）である。

市教委3区の台地南斜面部では礫群の諸記録、敷石住居跡や配石・列石の検出を実施し、平成10年度に継続調査することとなる。

平成10年度は市教育委員会と県埋蔵文化財センターが地区を分けて調査を担当した。市教委は3区（1,360㎡）において、縄文時代の住居跡19軒、方形柱穴列2基、土坑219基、配石6基、列石8基、埋設土器1基、焼土跡7基、土器集中2箇所、黒曜石集積1箇所、流路跡1条と縄文時代の遺物包含層が検出されている。平安時代の住居跡1軒も見つかっている。

この調査は斜面部を造成して作り出したテラス部に縄文時代後期前半の9mを超えるような大形の敷石

住居跡や配石、列石などが濃密に重複していること、台地下位つまり谷地形の上部に当該期の土坑や方形柱穴列が発見されることなど、台地平坦面における縄文時代中期後葉の大規模な環状集落の形成以後の、新たな集落形成の一樣相を提示する稀有な例となった。

県埋蔵文化財センターが担当した調査区は、遺跡の主体部である台地平坦面の最大幅部にあたり、調査面積は15,600㎡である。そのうち西側1,000㎡分は国道299号線の付け替え関連事業に係る範囲である。

調査区は市教育委員会が実施したトレンチ溝、表土除去範囲がそのままの状態シートにより保護されている状況であった。それら先行調査部分の調査状況の把握と基本土層の確認によって、2面調査が必要な部分が、最大幅部の西半分にわたり、そこでは縄文時代後期面（Ⅲ層遺物包含層中に存在）と縄文時代中期面（Ⅳ層上面、中期遺構を確実に検出できる面）が存在することを再認識した。またそれ以外の地区ではⅢ層がほとんど存在しないため、現旧耕作土を除去したのち、Ⅳ層上面での面的調査を実施する必要性を確認した。

調査は平成10年4月13日に開始。本体工事の工程により、西側の台地の狭まる部分から着手した。国道299号線付け替え工事分を先行して実施し、西側地区を都合2回明け渡しつつ、調査期間の大半を最大幅部の完全発掘に要した。規模の大きさ、2面調査、遺構の密度の濃さに苦慮しつつ、ようやく平成11年1月14日に調査を終了した。

旧石器時代（約12,000年以上前）平成9年度の市文化財課の調査では、旧石器時代に属する石器が出土しているが、県埋文センターの調査では見つかっていない。地区の一部では縄文時代中期の遺構検出面にあたるⅣ層上面下位の基盤層についてトレンチ調査を実施したが、成果は上がっていない。また非常に密度濃く分布する縄文時代の遺構を調査しても、旧石器時代に該当する遺物の痕跡が見当たらない点を勘案しても、当該期の文化層の存在は非常に希薄であると考えてよいかもしれない。

## 第2節 縄文時代の遺構

### 1 概要

今回見つかった遺構の大半は縄文時代中期から後期に該当する。遺構としては竪穴住居跡116軒（縄文時代中期91軒、後期25軒）、掘立柱建物跡17棟、屋外埋設土器15基、遺物集中14箇所、炉跡・焼土跡30箇所、土坑1,618基である。

竪穴住居跡の個別の記載は、原則的に次の順序である。遺構番号、掲載図版番号（割付図版・個別図版・PL）位置（地区・グリッド）、所属時期、検出面、形態・規模（主軸長、副軸長、床面積、壁高）、床面、ピット（数、支柱穴、所見）、炉（位置、形態、所見）、埋甕（有無・数、埋設位、所見）、付属施設、遺物の出土状況、埋没過程、重複関係、備考。主な計測基準、記述基準は以下のとおり。

位置 遺跡単位で設定したグリッド名を記入している。

所属時期 区分基準：土器の時期設定による。（第3章、第3節参照）

認定資料：当該住居の時期を決定した根拠を示す。（例）埋甕の時期、床面の遺物など

検出面 当該住居を確認した調査面を示す。

形態・規模 平面形：調査図化した状況から、円形、方形、五角形、長楕円形、後期住居跡には柄鏡形をあてはめている。即断できない形状の場合、略円形などと表現している。

主軸方向：平面形、炉・埋甕の位置から主軸線を推定した。敷石住居跡の場合張り出し部の中心線および対ピットの中心線を延長させて設定している。その表記は座標



北から東西方法への傾斜角を示している。(例) N12° W

また、主軸線が推定できない場合があり、その場合には平面形の長軸方向を計測した。

主軸長：主軸線上の壁間の長さを平面図より計測している。壁が残っていない住居については周溝などから推定計測した。長軸長を計測してある場合もある。

副軸長：主軸に直交する軸上の壁間の最大長を平面図より計測している。長軸に直交する短軸を計測しある場合もある。

壁 高：基本的に平面図及び断面図からわかる、最も深い位置で計測している。

床面 貼り床や硬さなどの調査所見。

ピット 数：当該住居跡に伴うと考えられるピットの数。重複の著しい調査区では、遺構単位での分類ができていないため、調査時のままの数である。

主柱穴：位置と大きさから主たる柱穴と推定したピットを記載している。

炉 位置：住居全体からの位置

形態：石囲炉（掘り方が浅く、主に亜円礫を並び囲んだ炉）、石組炉（掘り方が深く、扁平で大形な礫を立てて組んでいる炉）、埋甕炉、石囲埋甕炉、地床炉（浅く掘りくぼめた穴をそのまま炉に用いている例）

埋甕 位置：住居全体からの位置

数：当該住居に伴う埋甕の数。

埋設位：正位、逆位を基本とし、傾斜して埋設されているものは正斜位、逆斜位と記した。

遺物の出土状況 特徴的な遺物と、その出土状況を記した。

埋没過程 土層観察で得られる住居の埋没過程を記した。

掘立柱建物跡の個別記載は以下の通りである。

遺構番号、掲載図版番号（割付図版・個別図版・PL）、位置（地区・グリッド）、旧遺構名、所属時期・認定資料、検出面、形態・規模（柱配置、主軸方向、主軸長、副軸長）、ピット個別所見（平面形、断面形、平面規模、深さ、柱痕）、重複関係、備考。

主な計測基準、記述基準は以下のとおり。

所属 時期：概して出土遺物が少ないため住居跡のような詳細な時期区分は捉えられないが、重複関係などを考慮し、極力所属時期を決定した。

構造・規模：柱配置 柱間を短軸・長軸の順に数える。(例) 1間×2間

主軸 方向：長軸方向で推定・計測した。

ピット個別所見：ピットそれぞれの属性を記載した。

重複 関係：平面・断面、また調査所見から重複関係を求めた。

なお調査段階で建物跡と認定した遺構はST01のみである。他は濃密な遺構重複から、明確に認定できなかった。そのため個別土坑として登録・記録し、配置から建物跡の可能性のある土坑はその所見を捉えた。整理業務では縮小した全体図と断面図から建物跡を組んでいく作業を重ねた。その結果、17棟の建物跡を確認した。なお出来る限り明瞭な矩形を呈する配置にのみ限定して選択している。

2 縄文時代中期の住居跡 (表3)

表3 聖石遺跡縄文中期住居跡 (1)

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期				検出面	形状・規模					床面	ピット			
					認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m	数	主柱穴	所見
SB2	36,37	50		I・S-24・25	埋壁	中期	後葉	2	中期後葉2~3	Ⅲ層中で黒色溜りを確認したが、明確な検出はⅣ層上面である。	略円形	N69° E	5.28	5.10	0.43	堅固な敷き床、炉付近がやや低くなる。	16	P1,3,4,5,7	主柱穴は5基、たらい状のP16は貯蔵か。
SB3	36,37,44	51		I・S-20・25	埋壁	中期	後葉	4,3	中期後葉1~4	Ⅳ層上面	円形	N16° E	4.98	5.34	0.21	堅固な敷き床。	10	旧P2,4,8,17 新P1,5,9,15	住居改築、都張に伴い、柱穴も再掘削されている。床面にあるP8は貯蔵目的か。
SB4	36,37	52		I・S-19・24	伏壁?	中期	後葉	4		Ⅳ層上面	円形	N01° E	4.92	4.80	0.37	堅固な敷き床。	6	P1,3,5,7	P2は石礎を埋設するための地方。P8は入り口施設か。
SB7	25,26,36,37	53		I・S-18・19・23・24	埋土	中期	後葉	2	中期後葉1~2	Ⅲ層中で黒色溜りを確認したが、明確な検出はⅣ層上面	円形	N51° E	4.92	4.62	0.24	軟弱。	8	P1,2,3,4,9,5	柱穴は細く深い、土質から1層は柱痕と考えられる。
SB8	25,26	54		I・S-17・18・23	埋土	中期	後葉	1	中期後葉1~(2)	Ⅳ層上面	隅丸五角形	N85° E	5.34	5.10	0.33	やや軟弱。	7	P1,2,3,4,5,8	P6以外は小さな柱穴である。
SB9	1,4,25,26	55		I・S-16・17	埋土	中期	後葉	1	中期後葉1	Ⅳ層上面	不整形円形	N44° E	6.98	(6.06)	0.35	軟弱。	10	P1,2,3,5,6,8,9	柱穴は比較的細く深い、P6,9に土質差から柱痕確認。P7は入り口施設か。
SB10	35	56		I・S-4・5・9・10	ピット内	中期	後葉	5?	中期後葉~後期前葉	Ⅳ層上面	方形(敷石住居跡)?	N02° E	(1.68)	(3.66)	0.20	軟弱。敷石状に扁平な礎が敷き並ぶ。	1	不明	敷石下に1m程のピットがあるが、性格不明。
SB11	36,37	56,57		I・X-4	埋土	中期	後葉	5	中期後葉4~5	Ⅳ層上面	円形	N36° E	(5.40)	(4.50)	0.30	軟弱。	13	不明	ピットは床面で多数検出したが、どのピットが本跡に伴うか不明である。
SB12	36,37	56,57		I・S-24・X-4	埋土	中期	後葉	3	中期後葉3~	Ⅳ層上面	隅丸方形	N19° E	(4.92)	4.98	0.35	一部堅固な部分あり。	11	P1,3,6,9	主柱穴は大きく深い、P9を主柱穴と判断したが、その上にあるP8もその可能性がある。
SB13	25,26,36,37	58		I・S-23・X-3	炉内ほか	中期	後葉	3	中期後葉2~3	Ⅳ層上面	円形	N03° E	5.10	5.40	0.40	堅固。	9(床下ピット2)	P1,3,7,9	柱穴は細く深い、P2,6は補助柱穴と考えられる。
SB14	9	58		I・V-23・24, II・B-3・4	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉3~5	Ⅳ層上面	隅丸五角形	N1° W	5.58	5.04	0.35	北側堅固。	13	P1,4,8,11	柱穴は深く、土性から柱痕を確認した。
SB15	9			I・V-14	埋土	中期	後葉	?		Ⅳ層上面	円形?	N22° E	(4.44)	(4.20)	削平。	一部堅固な部分あり。	7	5	円形に分布
SB16	8,9			I・V-9・10・14・15	埋土	中期	後葉	?		Ⅳ層上面	円形?	N5° E	(5.40)	(5.40)	削平。	なし。	10	5	重複している。2組あるか、建替えの可能性あり。
SB17	44	59,60		I・T-21・22	埋土	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	Ⅲ層上面	不明	-	-	-	削平。	軟弱。	30	不明	多数のピットを検出したが、最終的にどれが本跡に伴うか判断できない。
SB18	36,37,44	59,60		I・S-25, I-21	埋壁	中期	後葉	4,3	中期後葉1~5	Ⅳ層上面	不整形五角形	N10° W	5.82	5.10	0.25	堅固。		古P1,5,8,19 新P1,5,10,20	東側の拡張に伴い、主柱穴も移動している。
SB19	25,26	61		I・S-22・X-2	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉3~4	Ⅳ層上面	入り口部がやや突出した円形	N18° W	5.22	4.86	0.40	堅固。	8	P8,2,4,7	主柱穴は大きく深い、P1,5,6は位置的にも性格不明である。

遺構番号	炉			埋室			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	位置	形態	所見	有無・数	埋設位	所見					
SB2	中央壁より、新炉の下位に旧炉検出。	石囲炉。旧炉を破壊埋設後、新炉を構築した可能性あり。	新炉の左炉石除去されている。旧炉には、裏込めの小礫のみ残るが、石囲炉と推定。	1	入り口、周溝際設置。正位。	底部を欠いた深縁を正位に埋設している。掘り方は深く、柱穴的。	周溝が全周。	P1の上部から、筒型の特殊土器(289)が出土している。	レンズ状の堆積状況で自然埋没の可能性が高いが、2~3層内に多量の土器、石器が廃棄されている。	重複新…SK50,SK61	
SB3	中央奥寄り。	石囲炉。旧炉も不明だが、石囲炉である。	新炉の炉石は四方に扁平な礫を組み、さらに入り口側には扁平な礫を横に敷いている。旧炉はその礫の下位にあったと考えられる。炉石奥隅には小型土器が埋設されている。	入り口3,炉1	入り口…埋室(1)は底部欠損正位。2…同、3は口へ胴上半のみ、正位。	埋室3が2を切る状況。埋室1は内側の周溝を切っていて、この埋室が埋設層では最も新しいと判断できようか。	周溝が2重にまわる。内側が旧住居のものと考えられる。	炉隅の埋室4は新炉に伴うが、土器型式は最も古い。	覆土が浅いため、詳細は不明。覆土上面に焼土ブロック存在。	重複新…SK53	
SB4	中央奥寄り。	石囲炉。	大形の石組み炉であるが、石は抜き取られている。炉はその後埋め戻されている。	なし。			石枠の埋設・建立施設(P2)が炉奥にある。また石枠の周囲には扁平な礫ととも、底部を欠く土器(179)が出土している。	床面には、左記以外に土器181がある。ほかには1層に土器が廃棄されている。	炉は人為的な埋没。石枠建立後、廃棄され、後自然埋没。1層は窪み地形に土器が廃棄され、その後自然埋没した状況。	重複新…SK49,50	
SB7	中央奥寄り。	石囲炉。	小形の垂円礫を円形に敷き並べた浅い炉。	なし。			なし。	床面から高さ20cm前後、柱穴より内側に完形土器が多量に廃棄されている。石器も多量に出土。	土器の一括廃棄か。後、自然埋没か。	なし。	
SB8	中央奥寄り。	石囲土器炉。	扁平な礫を敷き並べた浅い炉。中央に肩切した土器を埋設している。	なし。			なし。	床面および床面から高さ10cmほどの範囲に完形に近い土器や大形把手、石皿などの石器が多量に出土。	土器廃棄後、自然埋没。その後SB23構築のため、覆土南側が掘り取られている。	重複新…SB23	
SB9	中央奥壁より。	石囲炉。	扁平な垂円礫を円形に敷き並べた浅い炉。	なし。			なし。	炉の周囲および、床面から高さ10cmの範囲に完形に近い土器が一括廃棄されている。	土器廃棄後は自然埋没と考えられる。P7上部にある4層は別遺構の覆土か。	なし。茅野市の試掘-レンチで西隅が破壊されている。	
SB10	不明。			なし。				遺物は非常に少ない。	自然埋没と考えられるが、傾斜地のため詳細は不明である。	なし。	北斜面で検出。敷石住居の一種と考える。北側は崩壊して不明。
SB11	中央。	石囲炉と推定。	炉石が抜き取られている。礫がわずかに残存する。	なし。			なし。	少ない。	炉付近の堆積が乱れている。炉の破壊行為を示すか。それ以外は自然埋没。	重複古…SB12	南側は開田工事で削平されている。
SB12	中央奥壁寄り。	石囲炉。	炉石が抜き取られているが、掘り方の形状から扁平な礫を組んだ炉と判断する。	なし。			北東壁、西壁の一部に周溝あり。	覆土から完形率の高い土器が出土している。一括廃棄の様相を示す。	自然埋没。	重複古…SB12 重複新…SB11,27,99	
SB13	中央奥壁寄り。	大形の石囲炉。	奥壁側の炉石が抜かれている。焚口部には扁平な礫が横に敷かれている。焚口部手前の床面は焼熱する。	なし。			東壁に周溝。	床面付近から土器出土。P7から小形の香炉形土器(129)出土。	自然埋没。覆土をきると土層断面から観察できる。	重複新…SK1774	
SB14	中央奥壁寄り。	石囲炉。	炉石は奥壁以外取り除かれている。	1	正位	体下半を打ち欠き、埋置している。上部は削平のため不明。	北東壁に周溝あり。	少ない。	自然埋没。農道の造成で南西部破壊。	なし。	
SB15	中央奥寄り。	石囲炉?	掘り方のみ。火床広く分布。	なし。			周溝が東壁際に残存。	なし。	不明。	なし。	床面下位まで削平。
SB16	中央奥寄り。	不明。	火床のみ。	なし。			周溝が東壁際に残存。	なし。	不明。	なし。	床面下位まで削平。
SB17	中央北側寄り?	石囲炉か?	浅いらしい状の掘り方の炉。中央に火床あり。炉石などはない。取り除かれたのか。	なし。			東壁に周溝。	床面から覆土に土器破片が散在。	自然埋没。覆土上層に本跡を切る土坑らしき落ち込みがある。	重複新…SB18,31,SK113,512,115,116 重複不明…SK114,510	
SB18	中央奥寄り。	石囲炉。	裏込めの石のみ残るが、掘り方から方形で深い石囲炉と判断する。	2	1…体下半欠、正位。上部が割れている。住居の拡張に伴うか。	土器形式や埋設位置から、2~1の順に埋設されたと考えられる。住居の拡張に伴うか。	南東壁に周溝あり。	床面から覆土に土器破片が散在。	自然埋没。覆土上層を切るとSB31炉が構築されている。	重複古…SB17,21 重複新…SB31	重複
SB19	中央奥寄り。	石囲炉。	方形で深い石囲炉。焚口部の炉石は横に置かれている。	1	体下半欠、逆位。上部に石蓋を置く。	土器の把手を打ち取り、体部丁寧に打ち欠き、体部中央に円形の孔を開けた深縁を逆位に埋設している。その後扁平な石で蓋している。	炉北西側に伏せ塚(169)あり。主柱穴際には立石状の石は敷石状に扁平な礫が敷かれている。	伏せ塚以外にも完形率の高い土器が床面およびピット、炉内から出土している。	自然埋没。P6は本跡の覆土を切っているため、別遺構と考えられる。	重複新…SB1(敷石住居跡) 重複古…SB24	



表3-2

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PUNo.	位置	所属時期					検出面	形状・規模					床面	ピット		
					認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m		敷り床堅固、床下層あり。	数	主柱穴
SB20	7,9	62		I・V-18	埋土	中期	後葉	4	中期後葉4	IV層上面	不整形円形	N44° E	4.20	4.50	0.10	4	P1,2,3	柱穴からすると3本柱の構造が考えられる。P4は床下検出。性格不明。	
SB21	36,37,44	59,60		I・S-25X-5	埋土	中期	後葉	3	中期後葉2~3	IV層上面	円形	N27° E	4.74	4.80	0.45	14	P2,3,8,10,13	ピットは床面で多数検出するが、すべてが本跡に伴うか判断できない。柱穴はP2,3以外、比較的口径が大きい。	
SB22	7	62		I・V-17	埋土	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	IV層上面	円形か。	N75° E	(3.60)	(3.90)	0.30	3	東壁側の小ピットか。	壁際に小ピットがある。柱穴の性格と考える。	
SB23	25,26	54		I・S-17・18・23	埋土	中期	後葉	4	中期後葉3~4	IV層上面	略円形	N46° W	(4.68)	(4.14)	0.36	8	P1,2,3,4,6,7	柱穴は縁が深い。	
SB24	25,26	63		I・S-22・23X-2・3	埋土	中期	後葉	2	中期後葉2	IV層上面	円形	N07° E	4.74	4.80	0.45	6	P5,6,2.	主柱穴は3基検出したが、SB19に切られる部分不明。	
SB25	15,16,25,26,27,28	63		I・X-6・7	埋土	中期	後葉	4	中期後葉3~4	IV層上面	横長の楕円六角形	N08° W	4.44	5.22	0.40	9	P7,1,8,4,6	奥壁のP1を含めら本柱を想定する。	
SB26	11,15,16	64		I・W-5-X-1	埋土	中期	後葉	2	中期後葉1~2	IV層上面	円形	N06° E	5.82	5.88	0.45	8	P1,2,3,4,8	縁が長い柱穴。5本柱を想定。	
SB27	25,36	64		I・X-4	埋土	中期	後葉	5	中期後葉4~5	III層上面	楕円形(数石住居跡)	N57° E	(6.24)	(5.16)	-	不明	-	一本敷石が入り口側に一頂点を持つ五角形に並ぶ。それ以外は軟弱。	
SB28	15,16,17,18	65		I・W-19・20	埋土	中期	後葉	2	中期後葉2~4	IV層上面	円形	N64° W	5.82	5.10	0.10	9	P1,4,5,7,9	SB28と重複するが、位置関係から主柱穴を抽出した。	
SB29	13,17,18	66		I・W-17・18	埋土	中期	後葉	5	中期後葉5	IV層上面	不整形円形	N18° E	4.38	4.20	0.17	6	不明	P6は主柱穴的であるが、ほかの柱穴を抽出できない。	
SB30	25,26,27,28	66		I・X-7	埋土	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~5	IV層上面	奥壁がやや平らな円形。	N09° E	3.90	3.78	0.30	7	P1,6他抽出できない。	位置と形状からP1,6を主柱穴とした。3本柱としてST10P4辺りにもう1基入ると予想される。	
SB31	44	59,60		I・Y-1	炉	中期	後葉	5	中期後葉2~5	III層上面	不明	-	-	-	不明	不明	不明	SB18のP2,4,11,12,15,18辺りが本跡の柱穴の可能性はある。	
SB32	21,22,23,24,31,32	67		II・D-1	埋土	中期	後葉	2	中期後葉2~3	III層上面	III層で黒褐色土溜りを確認。プランはIV層上面で検出。	楕円方形	N12° W	4.56	4.56	0.47	7	P1,3,4,6	P5は入り口施設に伴ったピットか。P7の性格は不明である。
SB33	10	67		I・W-7・12	埋土	中期	後葉	5	中期後葉5	IV層上面	円形	N0° W	4.20	3.96	0.15	5	P1,2,3,4	P1脇のP5は小ピット。主柱穴の東側(P2,3)は深い。西側(P1,4)は浅い。	
SB34	44	68		I・T-21・22	ピット他	中期	後葉	?	中期後葉	IV層上面	円形か。	N03° E	(5.16)	(5.16)	0.06	12	P9,10,11,6	P10,11はそれぞれ2基の柱穴であるが、新旧は不明。建替えがあったと考えられる。	
SB35	21,22,27,28	68		I・X-21,W-25,II・D-1	埋土	中期	後葉	2	中期後葉1~2	III層上面	III層で黒褐色土溜りを確認。プランはIV層上面で検出。	不整形円形2軒。	S37° W	5.10	5.28	0.22	19	不明ではないが、P1,4,8,10,13, P3,5,7,11,14,02組が想定できる。新旧はP10がP11を切る。	2軒の住居のピットが重複するが、明確な新旧関係は不明である。

第2節 縄文時代の遺構

遺構番号	炉			埋室			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考		
	位置	形態	所見	有無・数	埋設位	所見							
SB20	中央奥寄り	石囲炉	焚口部以外の炉石はすべて除去されている	1		体中央欠く、逆位、やや斜位。	周溝	P1から磨製石斧出土。	覆土浅く、不明。	重複新…SK60,B1…SK79,142	重複古		
SB21	中央奥壁寄り	石囲炉	炉石は全くないが、掘り方の形状から石囲炉と判断した。	なし。				入り口以外に周溝あり。	全体に少ない。	自然堆積。	重複新…SB18		
SB22	中央	石囲炉	P1としたピットが焼土を伴うため、石囲炉と考える。	なし。			北東壁に伏せ壁あり。	少ない。	不明。	重複新…SB139,99	南西側が大きく削平されている。		
SB23	ほぼ中央	石囲炉	扁平な礎を外側に転ように組んでいる。焚口部(南東側)のみ、柱状の礎を横に据えている。	なし。			床面に扁平な礎が分布。性格不明。	特徴的な状況なし。	覆土下位はやや乱れているが、上層は自然埋没だろう。	重複古…SB08			
SB24	中央奥寄り	石囲炉	炉石はすべて残存しないが、掘り方などから深い石囲炉と考えられる。	なし。			北壁に周溝。	覆土中層に大量の土器や石器が廃棄されている。	自然埋没後、土器の一括廃棄が観察される。	重複新…SB19,98(敷石住居跡)			
SB25	中央やや奥寄り	石囲炉	しっかりと組まれた方形で深い石囲炉。焚口部の炉石は床面に平らに置かれている。	なし。			P1のピット上位に釣手土器130が埋設されている。周溝、南西壁際には古い周溝も床下から検出。	東壁際から石椀3が出ている。	自然埋没と考えられる。	重複新…ST116P5,ST111P1			
SB26	中央奥寄り	石囲炉	縦軸に長い、楕円形の浅い石囲炉	なし。			周溝、北東壁際に自然礎の石柱がやや傾いて立つ。	床面から、3層にかけて、完形土器や石器が多量に出土している。	遺物の廃棄後、自然埋没だろう。	重複新…SK164			
SB27	主体部ほぼ中央	小形の石囲炉	外反する炉石で組まれた炉。	1		正位、上部欠損(後世の破壊か)	張り出し部中央、やや西よりに基礎埋設、底部は残存する。	五角形の敷石は外形部分はよく残るが、炉周囲の床面では礎の残存は悪い。	破片が一定量出土している。床面付近が多い。	不明。	重複古…SB99,12,72,13	外形ラインは整理で推定した。	
SB28	中央奥寄り	石囲炉	中央部をST02P4に壊されているが、浅い楕円形の石囲炉である。	なし。			なし。	検出面から床面が近い。全体に少ない。	不明。	重複新…SB38,ST02	住居の南東部分が、後世の掘削で大きく破壊されている。また上面も耕作によって削られている。		
SB29	中央奥寄り	石囲炉か?	掘り方から石囲炉と推測する。炉石がなく詳細不明。	なし。				一部に周溝あり。	少ない。	自然埋没の後、SK143が掘り込まれる。	重複新…SK143		
SB30	中央奥寄り	石囲炉	北東壁に小形埋設土器あり。	なし。				北壁以外、周溝。	少ない。	自然埋没と考える。	重複新…ST10P3,4,ST11P2,ST11P2,ST16P3,4		
SB31	住居跡の全体がつかめ位置は不明	方形の石囲炉	皿層上で検出。炉石が後世の削平などで破壊されている。	なし。				なし。	炉内より少量。	不明。	重複古…SB17,18		
SB32	中央奥寄り	方形の石囲炉	炉石は残存していない、内部に一部が廃棄される。	1		南側入り口壁直下、周溝寄り、底部欠。正位、やや斜位、上部欠	石蓋は5cm程西側にずれて、土器の一部露出。掘り方は貼床(2層)され、貼床直下に磨製石斧(15)の上部出土。	周溝が全周。	覆土4層に集中的に分布。礎多く、土器は破片が多い。接合部は高い。礎とともに一括で廃棄された様相。	5,6層までが自然埋没。4層で遺物が廃棄された後、更に自然埋没といえる。	重複新…SK163		
SB33	中央東にずれ、やや奥寄り	方形の石囲炉	比較的厚い扁平礎を4面立てて組んでいる。	なし。				南東壁際に周溝、炉北側に伏せ壁262あり。	覆土浅く、遺物少ない。	床面直上4層と1層の間に焼土がまばらに分布する。4層堆積後、この住居内で火を燃やした痕跡と考えられる。	なし。	空測図に炉個別図を合成。	
SB34	中央東にずれ、やや奥寄り	石囲炉か?	不定形な掘り方と、中央に火床部分が残る。破壊された石囲炉であろう。なお形状から作り替えがあった可能性もある。柱穴同様建替えを示唆するか。	なし。					ピットは多いが、上面に別遺構が存在する可能性があるが、詳細は不明である。	覆土が浅く、非常に少ない。	不明。	新旧不明…SB17	
SB35	中央やや西壁寄り	楕円形の浅い石囲炉	炉石らしき面円礎が4個あるが、現位置保たない。火床礎か、不整形な掘り方のため2軒の住居の炉の残骸か。	P14から深鉢290の口縁部の1/4程度が正位の状態で出土。これが埋室の類か	P14は北よりの住居の周溝と重複して、南東壁際にある。	古いピットあるいは、解体した後、柱穴に埋設したような性格だろう。	周溝が2条流る。その状況から2軒の重複といえるが、新旧は不明。	少ない。床面とP14の土器290が接合している。	覆土浅く、不明。土層は単純。	重複新…SK158,159,160,161,162,216	2軒の住居の新旧は不明。		

表3-3

遺構番号	割付図版No	個別図版No	PLAN	位置	所属時期					検出面	形状・規模					床面	ピット		
					認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の 時間層(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m		数	主柱穴	所見
SB36	21,22,31,32,33,34	69		II・D-1・2	埋壁	中期	後葉	3	中期後葉3~4	IV層上面	入口部が突出した隅丸五角形	N30° W	5.58	5.48	0.33	堅固	27	旧住居…P2,9,13,22新住居…P1,8,16,24	拡張住居。新旧住居ともに同溝溝に柱穴あり。旧住居の柱穴P9,13,27は貼床されている。
SB37	8,10	70		I・V-10・15,W-6・11	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉4~5	IV層上面	入口部やや突出した隅丸五角形	N11° E	6.70	6.60	0.60	堅固	13	P1,2,3,4	P6,8,10は柱穴際。P5,7,9は東西北壁の柱穴間の壁間にあり。補助柱穴か。P11,12,13は入口壁際と並ぶ。
SB38	15,16	65		I・W-15・20	埋土	中期	後葉	4	中期後葉4~5	IV層上面	隅丸方形	N32° W	4.80	4.80	0.30		9	P1,4,6,8,9	SB38と重複するか、位置関係から柱穴を抽出した。
SB39	12,13	71		I・W-16・21	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉3~4	IV層上面	入口部やや突出した隅丸五角形	N17° W	6.06	5.58	0.52	堅固	5	P2,3,4,1	P5入口付近にあり。
SB40	17,18,21,22,23,24,31,32	72		II・C-5・10	炉縁埋壁	中期	後葉	4	中期後葉3~4	IV層上面	入口突出の隅丸五角形	N12° E	4.90	(4.60)	0.35	堅固	11	旧住居…P2,4,5,11新住居…P1,3,5,10	旧住P4は貼床あり。
SB41	9,12	72		I・V-24・25,II・B-4・5	炉内ほか	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~4	IV層上面	円形	N36° E	5.37	5.89	0.15	堅固	9	P1,2,3,4,5,8	5本柱の柱穴。
SB43	12,13	73		I・V-25,W-21,II・B-5,C-1	埋土	中期	後葉	4	中期後葉4~5	IV層上面	横長の楕円形	N2° E	4.79	5.57	0.45	堅固	4	4基	壁際に柱穴あり。炉の軸と対応した配置。
SB44	13,17,18,19,20	74		II・C-2・3・7・12	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉4~5	IV層上面	円形	N19° W	5.70	5.60	0.35	堅固	20	P1,2,3,6,10 補助柱穴か(P4,10)	壁際こそ基の主柱穴。内側の溝間にも小ピットあり。
SB45	17,18,19,20	75		II・C-7・12・13	埋土	中期	後葉	?	中期後葉	IV層上面	隅丸方形	N19° W	(4.00)	(3.70)	0.20	堅固	(16)	P3,1,7,15	主柱穴以外にも小ピット多い。帰属不明。
SB46	12,13	73		I・W-21	埋土	中期	後葉	3	中期後葉2~3	IV層上面	円形に近い隅丸五角形	N19° W	(4.50)	4.26	0.40	堅固	6	4基	四隅に柱穴。
SB47	13,17,18,19,20	76		II・C-8・9・13・14	埋壁	中期	後葉	3	中期後葉3	IV層上面	隅丸方形	N24° E	5.72	5.72	0.20	堅固	(18)	P1,3,7,8	壁際の四隅に柱穴。小ピットは上部遺構の帰属か。不明。
SB48	17,18	77,78		II・C-3・4・8	埋壁	中期	後葉	1	中期後葉1~2	IV層上面	円?	N63° W	(5.00)	(5.00)	0.33	堅固	(11)	P1,2,7,9他不明	不明。南側は別住居跡と重複し、判別できない。
SB49	13,17,18,19,20	77,78		II・C-1・3・4・8・9	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉4	IV層上面	円?	N24° E	(5.40)	(4.80)	0.10	堅固	(9)	不明	壁間面にピットがあるが、主柱穴は不明。
SB50	12,13,19,20	76		I・W-21・22,II・C-1・2	埋土	中期	後葉	3	中期後葉2~3	IV層上面	円形	N22° E	5.38	5.48	0.40	堅固	(10)	P1,2,6,9,10	壁際こそ基の主柱穴。
SB51	12	79		II・B-5	埋土	中期	後葉	2?	中期後葉	IV層上面	円	N8° E	(3.70)	(4.40)	0.15	堅固	4	P1,2,3,4	4本柱。
SB52	13,19,20	75		II・C-2・7・12	炉内	中期	後葉	4	中期後葉4	IV層上面	円	N15° E	(5.00)	(5.10)	0.10	堅固	(20)	P5,2,13,8,(SK703)	壁際に主柱穴。5基



遺構番号	炉			埋室			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	位置	形態	所見	有無・数	埋没位	所見					
SB36	中央やや奥壁寄り。	石囲炉か？	礎などなし。方形の堀方から石囲炉と判断する。中央に火床。焚口側の堀方テラス状。	新住入口に1	正位、上部石蓋。	底部を欠いた深鉢を正位に埋設している。掘り方は深く、柱穴的。正位に埋設。上面に川原礫の蓋あり。	旧住の周溝(内脚と新住の周溝(外脚)それぞれ全周。	炉内、床上10cm(2層内)に土器多量出土。	レンズ状堆積(自然埋没か)。	SK399に切られる。SK1503と前後関係不明。	炉廃絶。遺物投棄の様相。
SB37	中央やや奥壁寄り。	方形の石囲炉	堀方比較的小さい。炉石は大形の角礫。奥壁側の炉石はP7上床面で検出。中央火床よく揃う。	入口壁際1。	正位、石蓋。	底部ある深鉢を正位で埋設。内部に礎が入る。石蓋は扁平な川原礫。	北東壁際周溝。	軟土。炉内床面に石礫が倒置。	床面中央被熱箇所。レンズ状堆積(自然埋没か)。	なし。	
SB38	中央奥寄り。	石囲炉	炉石は焚口部が横に置かれ、奥側が斜めに立つ。それ以外は残存しない。掘り方から、比較的深い炉を想定する。	なし。			なし。	炉上よりほぼ完形の土器119,123出土	検出面から床面が近い。埋没状況は不明である。	重複古…SB28 ST02,SK185	重複新…
SB39	中央東側やや奥壁寄り。	石囲炉の残骸。	炉石がない。堀方形から石囲炉と判断。火床広範囲。床面から露出する大形の自然礫のため位置判約。	入口に1。	体下半欠く深鉢、逆位、石蓋。	石蓋は扁平な安山岩。埋室から西へややずれる。	P3内南側に小形深鉢埋設。底部欠き、正位。	平面中央、床上10cmの範囲に大量出土。土器完形率高い。	レンズ状堆積(自然埋没)。	なし。	深鉢埋設。底部土器完形率高い。
SB40	中央奥寄り。	方形の石囲炉	方形の堀方。小礫(裏込め)がやや残る。入口側掘り方やテラス状。	伊勢埋設土器(埋室)1	奥寄り北西隅に底部欠く小形深鉢斜位で埋設。		周溝全周。	炉内および中央付近の床上から覆土内に集中する。	レンズ状堆積(自然埋没)。	なし。	西側はレンヂで掘削除去されている。
SB41	中央奥寄り。	方形の石囲炉。	炉の軸線は主軸と約45度ずれている。炉石は川原礫。一部欠損。	なし。			周溝全周。	軟土。	単層(自然埋没か)。	なし。	
SB43	主軸から東にずれた奥壁寄り。	石囲炉か？	掘り方形から。石囲炉と判断。炉石一部に残る。火床中央。焚口側テラス状。	なし。			周溝。	平面中央、床上10cmの範囲に大量出土。土器完形率高い。	レンズ状堆積(自然埋没か)。	SB46を切る。	炉廃絶。遺物投棄の様相。
SB44	中央奥寄り。	浅く不定形な掘り込み。火床あり。	使用時の形状は不明である。火床は南東側に分布。	入口に2	1…石蓋。掘り込みの下位に1…正位	1…一括土器の破片が重なる状態。2…底部穿孔の小形深鉢を埋置。	周溝ほぼ全周。炉周辺のピット間にこの字状の溝あり。	石礫と石皿が入口床面から出土。	1層土に礫や土器が多量入る。	-	
SB45	中央奥寄り。	副炉を保持する方形石囲炉	副炉が北東隅に残る。炉石はつ方形石囲炉	-	-	-	-	少	水平堆積(自然埋没か)。	SB90を切る。	農道により南西側削平。
SB46	中央奥壁寄り。	石囲炉と推定。	掘り方形。小礫のみ残る。	なし。			周溝。	軟土。	水平堆積(自然埋没か)。	SB43に切られる。	
SB47	不明。LMに切られる。	-	-	入口中央寄り1	正位	底部欠く深鉢。	周溝全周	土器54床面出土。	水平堆積(自然埋没か)。	LM04に切られる。	
SB48	中央奥寄り。	楕円石囲埋室炉	扁平な川原礫を並べ、中央に小形深鉢(底部欠く)を正位で埋置。火床なし。	-	-	-	床面に焼土あり。	少。	単層(不明)。	SB49,60に切られる。	削平顕著。
SB49	中央奥寄り。	方形石囲炉。	扁平な角礫を組む。北側の炉石残らない。中央に火床。掘り方は深い。	入口1	正位	底部欠く深鉢。	床面に焼土あり。	少。	炭層(不明)。	SB48,70を切る。	削平顕著。
SB50	中央奥寄り。	方形石囲炉。	焚口部は平石を横に置き、残る面は礎を斜めに立てている。	-	-	-	北壁際周溝。入口部に伏壁あり。	炉付近に目立つ。	-		
SB51	中央奥寄り。	円形石囲炉	小さな礎を掘り方の外周に組む。中央に火床。	-	-	-	周溝	極小。	水平堆積(自然埋没か)。	ST03。前後関係不明。	
SB52	中央奥寄り。	方形石囲炉？	掘り方のみ。炉石なし。炉覆版に小礫が入る。	-	-	-	周溝(北～東壁)	少	浅く不明。	-	

表3-4

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期					検出面	形状・規模					床面	ピット		
					認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間階(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m		数	主柱穴	所見
SB63	12	79		II-C-5-10	ピット内	中期	後葉	3	中期後葉	IV層上面	隅丸方形?	N7° E	(4.20)	(3.40)	0.05	一部堅固な部分あり。	6	P1,2,3,4	主柱穴4基。斜面側のピット2基は性格不明。
SB64	12,13,19,20	80		II-C-1-2-6	埋土	中期	後葉	4	中期後葉3~4	IV層上面	隅丸方形	N19° E	4.92	4.88	0.35	堅固。	6	P1,2,3,(6)	壁際に主柱穴。
SB65	33,40,42	81		II-D-8-9-14	炉内	中期	後葉	4?	中期後葉3~5?	IV層上面	敷石住居跡?	N81° E	(5.00)	(5.00)	-	平石を敷き並べている。	不明	不明	III層中で敷石検出。床下調査で帰属するピット選択不可。
SB66	33,40,42	81		II-D-9	炉内	中期	後葉	3?	中期後葉	IV層上面	炉のみ	-	(0.92)	(0.85)	-	不明	不明	IV層上面で帰属するピット選択不可。	
SB67	19,20,23,24	80		II-C-14	埋壁	中期	後葉	4?	中期後葉4~5	IV層上面	隅丸方形?	N14° E	(5.00)	(4.60)	0.32	堅固。	12	P1,3,6,9	P8,11は深いピット。性格は不明。
SB68	17,18,19,20,23,24	82		II-C-9-10-14-15	埋壁	中期	後葉	3	中期後葉3~4	IV層上面	円形(作り替え3~4回)	N23° E	(6.70)	(6.70)	0.35/0.3/0.2	堅固。	20	古(外脚)…P9,2,5,6 中…P9,2,5,18 新(内脚)…P8,27,1,4,16 新2…P22,11,1,4,17	3~4回の建替えでピットも内側に移動する。
SB69	23,24,31,32	83		II-C-15	炉内ほか	中期	後葉	3	中期後葉	IV層上面	横長楕円	N1° E	(4.50)	(5.50)	0.20	堅固。	多	P10,13,12	建替えか。北壁側にピットが2重になる。
SB60	17,18,21,22,23,24,31,32	84		II-C-10-15	炉内	中期	後葉	4	中期後葉1~4	IV層上面	円形?	N3° E	0.59	4.12	0.25	堅固。	11	不明	SB65と重複のため帰属関係選択不可。
SB61	21,22,23,24,31,32	85		II-C-10-15D-0-11	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉3~5	IV層上面	円形	N5° W	4.57	4.36	0.15	堅固。	6	P3,4,1,2	壁際に4基。入口にピットあり。
SB62	21,22,23,24,31,32	85		II-D-6	埋土	中期	後葉	5	中期後葉5	IV層上面	隅丸方形	N7° W	(4.45)	(4.95)	0.30	軟弱。	8	不明	壁際にいくつかピットがあるが、柱穴は不明。
SB63	21,22,23,24,31,32	86		II-C-15D-10-11	埋土	中期	後葉	3	中期後葉3~	IV層上面	隅丸長方形?	N30° E	(4.20)	(3.58)	0.15	軟弱。	(11)	P12,1,2,8	伊を囲む4基を抽出した。
SB64	40,41,42,43	86,87		II-D-9-10-14-15	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉1~4	IV層上面	隅丸方形または五角形	N45° W	4.63	(4.60)	-	堅固。	(4)	P1,2,3,4	壁際に4基。小ピットがあるが不明。
SB65	40,41,42,43	86,88		II-D-10-15	埋土	中期	後葉	1?	中期後葉1~	IV層上面	円形	N45° W	4.90	(4.90)	削平	堅固。	(15)	P1,2,3,4,5,6,7,9,南隣ピット	住居外周に9基の柱穴を選択した。
SB66	40,41,42,43	86,88		II-D-10-15E-6-11	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉3~4	IV層上面	隅丸五角形?	N16° W	(4.94)	(4.90)	0.10	堅固。	(16)	P1,3,4,7,9/P2,3,5,7,8	5本柱の柱穴を2組抽出。P1~が埋壁2と合い、P2~が埋壁1と合う。
SB67	42,43,47,48	86,89		II-E-6-7	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉4~5	IV層上面	隅丸五角形?	N11° W	(5.35)	5.20	0.30	堅固。	4基		壁際に柱穴あり。
SB68	47,48	86,89		II-E-6-7	埋土	中期	後葉	4?	中期後葉4前後	IV層上面	方形?	N31° W	(5.00)	(5.20)	0.30	堅固。	(8)	P2,3,5,7(8)	南半分が削平。北側壁際に主柱穴を抽出。

遺構番号	炉			埋壑			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	位置	形態	所見	有無・数	埋没位	所見					
SB63	中央奥寄り。	不明。	掘り方のみ。中央と突口部に被熱部分あり。	-	-	-	残存する北壁際に周溝	ピット2内に完形土器埋置。	不明。	ST03。前後関係不明。	
SB64	中央奥寄り。	方形石囲炉	東西面のみ炉石(扁平礎)残る。掘り方深く、中央に火床。	-	-	-	周溝(西、北、東壁際)	少	水平堆積(自然埋没か?)	-	北側に床面下位までの掘削穴あり。
SB65	敷石面の東側。	方形石囲炉	東西の2面に炉石が立つ状態で残る。他は炉内に崩れる。火床2ヶ所	-	-	-	扁平な川原礎を炉手前に敷き並べる。	極少。	不明。	SB80を切る。SF24.SB66との関係不明。	
SB66	不明。	楕円形石囲炉	浅い掘り方に扁平礎を並べる。南側崩れる。	-	-	-	-	-	-	SK1906を切る。	
SB67	中央奥寄り。	方形石囲炉	浅い掘り方。炉石西面に残る。他は炉内に投棄か。	入口1	正位	削平で上部不明。	周溝(北壁)	ピット13付近の上に底部欠く土器3点出土。	水平堆積(自然埋没か?)	SB68を切る。	南半分削平。
SB68	旧炉→中央奥より。新炉→やや中央。	旧炉→不明。新炉→小形の石囲炉。	旧炉→浅い掘り方。埋め戻され。新炉→浅い炉。南側の炉石残る。	旧→入口1 新→入口1	旧→正位、長大な陶礎が入る。新→逆位。	新段階で旧埋壑を大礎で封鎖したのか。新→口辺部のみの深縁逆位。	周溝も3重である。	新の床面より土器多量出土。	外から内側への建替え。埋積土の様相不明。	SB91に切られる。	西、南側削平。
SB69	中央奥寄り。	石囲炉。	掘り方深。炉石北面に残る。	-	-	-	周溝。	少	水平堆積(自然埋没か?)	SB71に切られる。	西、南側削平。
SB60	中央に新旧2基残る。	石囲炉。	旧(伊3)→掘り方のみ。新(伊1)→きれいに石が組まれている。	-	-	-	周溝。	炉内より土器出土。	不明。	SB91に切られる。	作り替え不明確。
SB61	中央奥寄り。	方形石囲炉	深く、炉石東面に残る。底部欠く土器が正位で出土。	入口1	石蓋。正斜位。	底部を欠いた深縁。	入口部に周溝とピットあり(入口施設か)	ピット5から完形土器106出土。	水平堆積(自然埋没か?)	SK1925に切られる。	
SB62	東側奥寄り。	石囲炉か?	掘り方に礎が多く入る。埋没時に投入された様相。	-	-	-	なし。	床面と炉から完形に近い土器出土。	水平堆積(自然埋没か?)	SB61と隣接。	
SB63	中央やや北寄り。	方形石囲炉	長大な礎と小礎を組んでいる。	-	-	-	北壁際に周溝。	炉内と炉前の床などから土器出土。炉南に丸石あり。	水平堆積(自然埋没か?) 遺物が上層にあり。	なし。	住居形状と炉の位置が不一致である。
SB64	中央奥寄り。	方形石囲炉	掘り方深く、扁平で長大な炉石組む。南東側はレンチのため除去。火床中央にあり。	入口1	正位。	底部を欠いた深縁。土器下位に角礎出土。	周溝。	覆土深く、少ない。	不明。	SB84.93を切る。	削平顕著。南東側はレンチによる掘削もあり。
SB65	中央やや北寄りに基。	円形石囲炉	浅めの掘り方。垂円礎で囲む。	なし。	-	-	周溝。	極少。	不明。	SB66に切られる。SB84との重複。前後関係不明。	西側とレンチで削平される。
SB66	中央奥寄り。	方形石囲炉	方形で深い掘り方。扁平な炉石西側に残る。中央に火床。レンチで掘削破壊されている。	入口2。	埋壑1正位埋壑2逆位。	1→底部抜いた深縁に入る。2→底部欠いた深縁を逆位で入れる。	周溝。	炉などからわずか。	不明。	SB65を切る。SB67との前後関係不明。	埋壑1が2以後に南側に埋設されたのか。住居と合う。
SB67	中央やや北寄り。	方形石囲炉か。	方形の掘り方。一部に小礎残る。中央に火床あり。	2基。1は入口。2は奥壁際にあり。	1は正位。2も正位。	1は上部削平。2は南側下半を欠く深縁正位に入る。	周溝。	炉内に僅かあり。	水平堆積。(自然埋没か?)	SB68を切る。	奥壁に埋壑があり。
SB68	中央北側壁寄り。	方形石囲炉	南西部をSB67に切られる。北壁際に大きな扁平礎残る。中央に火床。掘り方深い。	不明。	-	-	周溝。	炉より土器出土。東周溝内からヒスイ製の未穿孔の玉出土。	不明。	SB67に切られる。	炉周囲の床面が被熱している。

表3-5

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期					検出面	形状・規模					床面	ピット		
					認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m		数	主柱穴	所見
SB69	17,18,19,20,23,24	77,78		II・C-3+4	ピット	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	IV層上面	円形?	N65° W	(4.30)	(4.20)	0.30	地山の礫露出で、一部軟弱。	(11)	不明。	住居などの重複で層関係が不明である。
SB70	17,18,19,20,23,24	77,78		II・C-4+8+9	埋土	中期	後葉	2	中期後葉2	IV層上面	円形	N18° W	(4.10)	(4.30)	0.25	地山の礫露出で、一部軟弱。	(10)	不明。	住居などの重複で層関係が不明である。
SB71	23,24,31,32	83		II・C-15,D-11	埋土	中期	後葉	4	中期後葉2~4	IV層上面	隅丸方形	N5° W	(5.00)	(5.00)	0.05	堅固。	12	P7,11,14	壁際に主柱穴。床に小ピットあり。性格不明。
SB72	25,26,36,37	56,57		II・S-24,X-4	埋土	中期	後葉	?	中期後葉	IV層上面	円形	N11° E	(4.20)	(3.6)	0.33	軟弱。	7	P1,2,5,6	P3,4はSB12床下にて検出。
SB73	21,22,31,32,33,34	90		II・D-1+2,6+7	埋土	中期	後葉	2	中期後葉2~	IV層上面	不整形円形	N68° W	4.90	5.55	0.35	堅固。	(15)	P1,2,10,12,15	壁際に3基を主柱穴と考える。
SB74	21,22,31,32,33,34	91		II・D-7+12	炉内ほか	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~4	IV層上面	隅丸五角形か	N17° W	5.10	(5.30)	0.20	堅固。	(5)	P2,4,19,14	小ピットがあるが、本跡に属するか不明。
SB76	21,22,23,24,31,32	90		II・D-1+2+6	炉内	中期	後葉	3	中期後葉3	IV層上面	方形?	N22° W	(3.50)	(3.60)	0.10	堅固。	7	P4,6,7	平面が三角形になる。3基を柱穴とした。
SB77	12	79		II・B-4+5	炉内	中期	後葉	4	中期後葉4	IV層上面	円形?	N28° E	(3.50)	(3.60)	0.25	堅固。	4	P1~4	壁際に主柱穴4基。
SB78	19,20	75		II・C-12+13	埋土	中期	後葉	3?	中期後葉	IV層上面	隅丸五角形か	N16° W	(4.08)	(4.34)	削平。	堅固な葦き床検出(北東部のみ)	5	P1~5	壁際に主柱穴。
SB79	44,45,46	91		I・Y-2+7	埋土	中期	後葉	5	中期後葉5	IV層上面	隅丸方形?	N11° E	(5.00)	(5.00)	0.05	堅固な葦き床を北東隅にごく一部検出。	5	P2,4,5,1	周溝近くに主柱穴あり。
SB80	33,34,40,41,42,43	92		II・D-8+9	埋土	中期	後葉	5	中期後葉4~5	IV層上面	長方形	N18° W	4.25	4.75	0.15	堅固	多	P1,3,4,6	壁際に主柱穴あり。
SB81	45,46,47,48,49	93		I・Y-2+3	炉内	中期	後葉	3~4?	中期後葉3?~5	IV層上面	方形?	N15° E	(4.00)	(4.00)	なし。	堅固。	(13)	P1,4,5/P2,3,6	主柱穴2組。南西部大きく削平。
SB82	44,45,46	93		I・Y-2+7+8	埋土	中期	後葉	3,4	中期後葉3~4	IV層上面	円形。	N18° W	5.50	(5.30)	0.33	堅固。	(多) 複数遺構のピットと考えられる。選択不可。	不明	小ピットがあるが、多く振り分け不可。
SB84	40,41,42,43	87		II・D-10+15	炉内	中期	後葉	?	中期後葉	IV層上面	不明	N48° W	(4.20)	(4.20)	不明。	不明。	4	P1,2,3,4	炉を囲む4基を抽出した。
SB85	47,48	94		II・E-1+2		中期	後葉	4?	中期後葉4~5	IV層上面	略円形	N12° E	(3.80)	(3.80)	不明。	不明。	4	P1,2,3,4	炉を囲む4基を抽出した。
SB86	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	IV層上面	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB87	45,46	94		I・Y-1+8	埋土	中期	後葉	?	中期後葉5?	IV層上面	五角形か。	N28° E	(4.30)	(4.00)	不明。	削平され不明。	4	P1,2,3,4	4本柱。
SB88	44,45,46	94		I・Y-7+12	埋土	中期	後葉	4	中期後葉4	IV層上面	方形?	N8° E	(5.00)	(4.60)	不明。	削平され不明。	(4)	P1,2,3,4	4本柱。



遺構番号	炉			埋室			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	位置	形態	所見	有無・数	埋設位	所見					
SB69	北東壁寄り。	掘り方のみ。	ピットに切れ詳細不明。	-	-	-	東壁際で周溝。	少。	不明。	SB48を切る。SB70との重複不明。SB107に切られる。	削平顕著。
SB70	中央奥寄り。	方形石囲炉。	扁平な角礫を組む。西面はP12に横されている。	-	-	-	東壁一部に周溝。	少。	不明。	SB69との重複不明。SB107に切られる。	削平顕著。
SB71	中央奥寄り。	石囲炉。	盛り替えあり。西側が斜しい。	-	-	-	北壁際で周溝。	東側床面に遺物が集中。	水平堆積(自然埋没か?)	SB69を切る。	南側削平。
SB72	SB12に破壊され、不明。			なし。			なし。	ごく少ない。覆土から出土。	自然堆積と考えられるが、大半をSB12に破壊されている。	重複新→SB12,27,99	
SB73	中央やや西寄り。	石囲炉。	やや楕円形気味の掘り方。外周に小礫を組む。北東隅に石組有り。下位より旧炉検出。	なし。			なし。	床面付近より土器破片多く出土。	水平堆積(自然埋没か。)	SB78に切られる。ST04を切る。	
SB74	中央奥寄り。	方形石囲炉。	深い掘り方に扁平な炉石が残る。中央に被熱範囲あり。炉奥に、平石を並べた痕跡があるが、上面からのピットにより破壊されている。	なし。			周溝。	炉内より出土。	水平堆積(自然埋没か。)	SB92に切られる。小ピットに切られる。	
SB76	奥壁寄り	方形石囲炉(埋設土器有り)	方形の石囲炉。扁平で大きな炉石を組んでいる。焚口部のみ扁平な面を平らに置く。北東隅に底部を欠いた小形の深鉢を正位で埋められている。	なし。	-	-	周溝。	極少。	水平堆積(自然堆積か。)	ST04を切る。	
SB77	中央奥寄り	不明。	掘り方のみ。深い石囲炉か。中央に火床	-	-	-	周溝	極少。	不明。	SB61を切る。ST03との重複関係不明	南側削平。
SB78	中央奥寄り	方形石囲炉	長方形の掘り方。炉石なし。中央に火床。入口側の掘り方は正位	-	-	-	東壁際で周溝。	少。	不明。	農道により削平顕著。	
SB79	中央奥寄り。	削平されて詳細不明。火床のみ残る		入口。	正位。	底部がある深鉢。上面は削平されている。	不明。	極少。	不明。	多くの小土坑と重複するが前後関係不明。	削平により大半の床面消失。
SB80	中央やや奥寄り。	方形石囲炉(抜き取り)	炉石なし。中央に火床。一部破損抜け込みあり。	なし。	-	-	周溝が全周する。炉手前の床面が被熱。	礎と土器が床より10cmほど上位に多数出土。抜け込みか。	水平堆積(自然埋没か。)	SB65に切られる。SF24に切られる。	
SB81	中央奥寄り。	方形石囲炉。埋設土器あり。	北東隅に小形土器を埋設下痕跡あり。炉石は三方が壊れ、焚口部なし。火床広い。掘り方深い。	不明。	-	-	周溝	削平著しく極少。	不明。	炉手前に別住居跡の周溝あり。SK1850に切られる。	
SB82	中央北壁寄り。	方形の石囲炉か。	掘り方のみ。礎一部抜け込みか。小ピットに切られる。	入口1,入口北東2	1,2,3正位	1は底部欠く深鉢。2は底部あり。2が3を切る。新1→2→3日	周溝2周。内側が埋没2,2に伴う。	炉から土器片。多くない。	水平堆積(自然埋没か)	SK1874に切られる。小ピットが切れる。	拡張住居である。西半分削平。
SB84	中央?	方形炉。	石囲炉か。炉石など残らない。	なし。	-	-	不明。	炉内より極少。	不明。	SB84に切られる。SB65と重複。前後関係不明。	削平顕著。
SB85	奥壁寄りか。	方形石囲炉。	上位遺構に切られていない。北・西側に炉石残る。扁平礎。内部火床全面。	入口1	正位	底部のある深鉢。上部削平。	不明。	炉より底部へ出土。少。	不明。	ST06,SB75,94に切られる。	-
SB86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB87	中央やや奥寄り。	削平されて詳細不明。火床のみ残る。		入口1。	正位か。詳細不明。	上面なし。不明。	不明。	少。	不明。	SK1068,1066,1063,1067,1056,1055,1048,1051,1050,1053,1054,1070,1071と重複。1053,1051にピット4切られる。	床面下位まで削平。
SB88	中央やや奥寄り。	削平されて詳細不明。火床のみ残る。		入口2。	正位。	1は底部ない。2は底部あり。2が1を切る。	不明。	少。	不明。	SK1111,1112,1109,1113,1116,1117,1120,1122,1102,1103,1104,1105,1879など。前後関係不明。	床面下位まで削平。

表3-6

遺構 番号	割付図版 No.	個別図版 No.	FLNo.	位置	所屬時期					検出面	形状・規模					床面	ビット		
					認定資料	大時期区 分	中時期区 分	小時期区 分	埋土出土土器の 時間幅（数量混 入を除く）		平面形	主軸方 向	主軸長 m	副軸長 m	壁高 m		数	主柱穴	所見
SB90	19,20	75		II・C-12	床面の伏 壁	中期	後葉	3	中期後葉3~	IV層上面	隅丸方形?	N13° W	(3.00)	(3.20)	0.10	堅固	-	-	-
SB93	40,41,42,4 3	86,87		II・D-9+10+14+ 15	不明	-	-	-	-	IV層上面	不明	-	(5.00)	(2.70)	削平	軟弱		P1,2,3,4,5	残存状況が良く ないため、南東 側が抽出できな い。
SB95	17,18,21,2 2,3,24	84			ビット5出 土土器 (288)	中期	後葉	1	中期後葉1	IV層上面	略円形	N44° E	(5.00)	(4.70)	不明	不明	5	P1~5	主柱穴5基
SB99	36	64		I・S-24, X-4	埋壁	中期	後葉	4	中期後葉4	III層上面	柄鏡形(数 石か)	N73° E	(4.98)	(4.14)	-	不明	不明	不明	下位住居の床で ビットが検出され ているが、本跡に 伴うビットと判断 できるビットはな い。

遺構番号	炉			埋壘			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	位置	形態	所見	有無・数	埋設位	所見					
SB90	不明	-	-	-	-	-	北壁際にて伏壘2点(78, 79)。上面はSB45の床面で壊れる。	少	浅く不明。	SB46に切られる。	
SB93	不明	-	-	なし。	-	-	周溝。	極少ない	不明。	SB84に切られる。	SB84ピットと旧SB84プランから分離抽出した。
SB95	中央	小楕円石圍炉。	浅く、小楕を並べた炉。	-	-	-	-	ピットより底部を欠いた土器(289)出土。	不明。	SB60,91に切られる。	SB60から抽出。炉2、ピット7、2、床下ピット8、炉3下ピット、No.黒ピットと外周プランを参照する
SB99	主体部ほぼ中央。	石圍炉。	上部に礎があり、封鎖されたような状況の小形の石圍炉。全容調査がなされていないため詳細不明。	1	主体部と入り口部の境に1基、正位。上部欠損(故意か)。	基部のある深縁を正位で埋設している。	なし。	検出面から床面が近い。ため、全体に少ない。	不明。	重複新…SB27 SB72,12	重複古… SB27東にある石組を炉と考え、旧SB72埋壘を本跡の埋壘とした。ピットは抽出していない。

3 縄文時代後期の住居跡 個別の事実記載は縄文時代中期の住居跡と同一である。

表4 聖石遺跡縄文後期住居跡(1)

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	位置	所属時期					埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く) 中期後葉4~後期初頭	接出面	構造・規模				
				認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	平面形			主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB1	25	95	I・S-22.X-2	埋土	後期	初頭			Ⅲ層上面	敷石住居跡、柄鏡形と推定。(整理段階で、石囲炉と周囲の敷石、同一面で検出された様と焼土跡から推定した。)	N28° E	(5.48)	(5.16)	0	
SB5	25,27	96	I・X-8	埋壘	後期	初頭		後期初頭	Ⅲ層上面	柄鏡形か。(推定)	N27° E	(7.50)	(5.90)	不明。	
SB42	13,17,18	97	I・W-22-23.II・C-3	埋壘	後期	前葉	1	中期後葉~後期前葉	Ⅳ層上面	柄鏡形か。(推定)	N27° E	(6.30)	(6.10)	不明。	
SB75	38,39,47,48	98,99,100,101	II・E-1・2.Y-21-22	炉、ピット内	後期	前葉	1	中期後葉~後期前葉	Ⅳ層上面	柄鏡形。入口部斜面で削平。	N25° W	(8.50)	9.20	不明。	
SB83	42,43	97	II・D-24	埋土	後期	初頭?		後期	Ⅳ層上面	円?	-	(3.30)	4.35	0.1	
SB89		102	I・T-11-16	埋土	後期	前葉	?	中期後葉~後期前葉	Ⅲ層中	不明。	-	(5.70)	(3.25)	不明。	
SB91	17,18,21,22,24	102	II・C-10-14-15	埋設土器	後期	前葉	?	中期後葉~後期前葉	Ⅳ層上面	柄鏡か。	N40° E	(5.40)	(5.40)	不明。	
SB92	21,31,32,33,34	103	II・D-7,8,12,13	埋土	後期	?	?	中期後葉~?	Ⅲ層中	柄鏡か。	N25° W	(7.50)	(7.00)	不明。	
SB94	38,39,47,48	98,99,100,101	I・Y-22.II・E-01-02	埋土	後期	?	?	中期後葉~後期前葉	Ⅳ層上面( SB75の下から確認。)	柄鏡か。	N11° W	(7.20)	(6.80)		
SB96	17,19,23	104	II・C-8-9	埋壘	後期	初頭		中期後葉~後期初頭	Ⅳ層上面	柄鏡形。入口部斜面で削平。	N44° E	(5.00)	(4.70)	不明。	
SB97	15,25,27	104	I・X-6	埋壘(旧SX02)	後期	初頭		無し。	Ⅳ層上面	柄鏡形か。	N17° E	(6.80)	(5.50)	不明。	
SB98	25,26	105	I・S-22-23.X-2,3	埋土	後期	初頭?		後期	Ⅲ層中	円形?柄鏡形?	N67° E	(4.10)	(4.10)	不明。	
SB100	25,27,29	106,107	I・X-7,8,13	埋設土器	後期	前葉?		後期	Ⅲ層中	柄鏡形か。	N55° W	(5.00)	(5.40)	不明。	



床面	ピット			炉			埋篋			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・数	埋設位	所見					
石囲炉の周囲に敷石が残る。扁平な亜円礫と角礫が混在する。10~20cm大が主体でその間に小礫を込めている。	不明	-	Ⅲ層下位の調査で、本跡に付属するピットを抽出できていない。	主体部中央、やや張り出し部寄り	石囲炉	縁辺に長方形の礫を配した小形の方形石囲炉。掘り込み、火床は検出不可。	なし				敷石上面および、下位に小破片分布する程度。	不明。基本層Ⅱ層下位から礫や土器片がある程度集中していた。その下位に敷石面が見つかった状態。掘り込みは不明。		敷石は空測図を利用して、また同一調査面にある焼土、SF12、22は本跡に伴う可能性がある。堅い床面は検出されていない。
入口部に敷石、その他は不明。	不明	-	下位遺構調査では検出できなかった。	主体部中央	小形の方形石囲炉	浅い掘込み。周囲に角礫を組む。覆土中層に土器片重積。	主体部入口側1	正位	やや割れた状態で出土している。	周囲に焼土跡があるが関連性がつかめない。	炉内から1個体分の土器片出土。	不明	SB30,100を切る。	整理業務で形状を把握した。
敷石住居跡の残骸。削平されていてピットと炉のみ検出。	17	P2,3,4,5,7,8 (入口 P10,12)	外周ピットが北東壁際にある。	主体部中央	埋篋炉。炉体土器の被熱顕著。	浅い掘込み。上部に鉢を正位で置く。	なし	-	-	不明	炉体土器のみ。	不明	SK707に切られる。	
戸付近と北東の主柱穴間に敷石。溝に沿う。	14	P1,2,3,4,5,6,7(8),9(10)入口 P11,12,13,14	住居規模同様、大形。P3は深さ1.5m。基盤ロームを掘りぬいている。柱痕も顕著。周囲をローム土などを版築状に敷き締	主体部中央	8角形の石囲炉。火床上に炉体土器あり。	浅いつくり。火床あり。	入口東床面1	正位	底部を欠く鉢。上面削平。	主柱穴間に幅広の間仕切り状の溝あり。	散漫。P3から脚付石血片が、柱間めとして入れられている。	不明	SB85,SB94,ST5,67を切る。	大形の敷石住居跡。茅野市調査例と規模似る。台地縁辺に構築。
軟弱	6	P1,2,3,4,6	壁際に巡る。	中央	地床炉	浅く、周囲まで被熱。	なし	-	-	なし				南側削平。
北側斜面部に礫が分布。	不明	-	-	なし	-	-	-	-	-	なし	周囲に散漫	不明	なし	-
不明	12	P2,4,5,6,7,8,10,11	下位遺構から抽出した。外周に並ぶ。	主体部中央	埋篋炉	炉体土器の下部が残る。	なし	-	-	なし	炉体土器のみ	不明	SB60,58,59を切る。	SX22、SB58ピット3,4,12,13、SB60ピットNoなし3基、SB59ピット12,14,15、Noなし1基を裏返した。
一部に平石点在。敷石の残骸が。	15	無し	外周にピット有り。入口部にP1,2,15	主体部中央	削平されている。地床炉か。	火床残る。	無	-	-	無	柱穴から僅か。	不明	SB74を切る。周囲のSKと重複するが、前後関係は不明。	SB74ピットと周囲SKから整理段階で抽出。
敷石住居跡の残骸。削平されていてピットと炉のみ検出。	31	外周に小ピットが並ぶ。入口 P1,2	主柱穴を持たない。小ピットで上屋を支える。	主体部中央	埋篋炉	炉体土器のみ残る。	不明。ない様子。	-	-	-	炉体土器のみ	なし		SB75SF一炉、SB75ピット17→13、15→16、13→19、SK1587一ピット1、SK1613→ピット2と変
敷石の残骸分布。	不明			不明			入口部中央1	正位	鉢の胴部。上部は欠損か。	不明	埋篋のみ	不明	SB70,47を切る。	IBSB47P9土器を埋篋とする後期初頭の敷石住居跡と認定した。本体はSB47北に円形に分布する壁
不明。削平されている。	5		東側の外周に周る。	主体部中央やや北寄り	火床のみ	削平されていて詳細不明。	入口部中央1	正位	上部欠損。底のある土器。	不明	埋篋のみ	不明	ST13P1,P2を切る。	単独で調査したSX2とその北東にある火床(未登録)、それらを囲む小SK(未登録)をもって、敷石住居の残骸と判断した。
炉の周囲に平石が残る。	7	P1~7	入口のピットは不明。6本柱。	主体部中央	掘り方のみ。火床なし。		無し			無し	僅か。	不明	SB19,24を切る。SB01との重複不明。	SB24上層の配石と、その周囲のピットを見て、敷石住居跡と判断した。
平石が分布。敷石の残骸。	8	P2,3,4,5,6,7	入口P1,8	主体部中央	埋篋炉	鉢の底部を利用。下位に土器片を敷き、上面にも土器片重積。	無し			なし	炉体土器など	不明	SB100,101などと重複。前後関係不明。	IBSX10を炉体土器と考え、南東に入口部を持つ敷石住居跡と認定した。

表4-2

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	位置	所属時期					埋土出土土器の時間幅 (微量混入を除く)	検出面	構造・規模			
				認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	出土層			平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m
SB101	25,27,29,36,3	106,107	I-X-8,13	埋土	後期	前葉	1	後期	IV層上面	柄鏡形か。	N51° W	(5.70)	(6.00)	不明。
SB102	27,29	106,108	I-X-7,8,12,13	埋設土器	後期	前葉	2	後期	Ⅲ層中に礎分布。IV層上面でピット確認。	柄鏡形。	N59° W	(8.60)	(7.00)	不明。
SB103	27,29	106,109	I-X-12,13	埋土	後期	前葉?	1?	中期後葉~後期	Ⅲ層中。	柄鏡形か。	N77° W	(4.50)	(5.20)	不明。
SB104	15,27	106,109	I-X-11,12,17	埋土	後期	前葉	2?	中期後葉~後期	Ⅲ層中。	円形?	N67° W	(6.30)	(6.20)	不明。
SB105	27	105,106	I-X-12,17	埋土	中期	後葉	5	中期後葉4~5	Ⅲ層中。	柄鏡形	N16° E	(5.40)	(5.20)	不明。
SB106	15,27	110	I-X-11,16	埋設土器	後期?	?	?	?	Ⅲ層中。	柄鏡形か。	N72° W	(6.50)	(6.00)	不明。
SB107	17,19,23	110	II-C-4,9	埋設土器	後期	前葉	2?	中期後葉~後期	IV層上面	柄鏡形か。	N37° E	(5.80)	(6.50)	不明。
SB108	31,33	111	II-D-2,3	埋設土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	Ⅲ層中。	柄鏡形か。	N75° W	(6.80)	(7.10)	不明。
SB109	38,39,40,47	112	I-X-20, I-Y-16	埋設土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	IV層上面	柄鏡形か。	N7° W	(7.00)	(7.20)	不明。
SB110	45,47	113	I-Y-17,18	埋土	後期	初頭		中期後葉~後期	IV層上面	柄鏡形か。	N15° W	(6.40)	(7.30)	不明。
SB111	38,44,45,46	114	I-Y-12	埋土	後期	前葉	2	中期後葉~後期	IV層上面	柄鏡形か。	N17° W	(7.00)	(7.40)	不明。
SB112	27,28,29,30	115	I-X-17,18,22,23	埋設土器	後期	前葉	2	中期後葉~後期	Ⅲ層中。	柄鏡形か。	N68° W	(8.40)	(7.40)	不明。

	ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考
	数	支柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・数	埋設位	所見					
床面 敷石の残骸が 炉や柱穴上面 に分布。	8	P2,3,4,5,6,7	入口P1,8	主体部中 央。	方形の石砌 炉。	角礫を使 用。内部に 礫が入る。 火床有り。	なし。			なし。	僅か。	不明。	SB102,100 と重複。また 下位に中期 の墓穴があ る位置。	IBSK1441を 炉として、南 東方向に入 口部をもつ 敷石住居跡 と判断した。
敷き石の残骸 なのか。不明。	9	P2,3,4,5,6,7, 8	入口P1,9	主体部中 央。	埋甕炉	やや深い掘 り方に鉢の 底部を炉体 としている。	なし。			なし。	炉体土器な ど。	不明。	SB100,101 などと重複。 SB101切 る。	IBSX14を炉 体土器とし て南東方向 に入口部を 持つ敷石住 居跡と判断 した。
不明。	綿属不明。			主体部中 央。	土器敷炉	土器片を敷 き並べてい る。小礫も あり。	SX19が位置 では会 が、別遺構 と考える。			なし。	少。炉の み。	不明。	SB102,104 と重複。中 期の土坑群 の上面。	
北側に平石な どが分布。	綿属不明。			中央。	埋甕炉	土器の底部 を重ねる。 下位に火床 あり。	なし。			なし。	炉内のみ。	不明。	SB103,105 と重複。中 期の土坑群 の上面。	
一部に礫が分 布。敷石の残 骸。	綿属不明。			主体部中 央。	火床のみ。		入口部中央 1	正位	底部の残る 深鉢。上面 欠損。	なし。	埋甕とその 内部から土 器小片。	不明。	SB104と重 複。中期の 土坑群の上 面。	
不明。	11		外周にピット が周る。	主体部中 央、やや入 口寄り。	火床のみ。		入口部1	正位。	鉢形土器の 口縁部 のみ。	なし。		不明。	中期の土坑 群の上位。	
礫が分布する。 敷石の残骸。	3		抽出できな い。	主体部中 央、やや入 口寄り。	火床のみ。		なし。			なし。	炉内のみ。	不明。	SB69,70を 切る。	
不明。	7	P2~6	入口P1,7大 形で柱痕が 残るピット多 い。	主体部中 央。	埋甕炉	鉢底部を炉 体で使用。	なし。			なし。	なし。	不明。	中期の土坑 群の上位。	
不明。	7		抽出できな い。	主体部中 央。	火床のみ。		主体部の入 口寄り。	正位。	底部穿孔し た深鉢。上 部欠損。	なし。	なし。	不明。	中期の土坑 群の上位。	
一部に礫が分 布。敷石の残 骸。敷石住居 の残骸。	18	P2,3,4,6,8,11 ,13,17	大形のピット である。	不明。			なし。			不明。	なし。	不明。	下位にピット 的な土坑あ り。	炉などは削 平されてい て不明。
一部に礫が分 布。敷石住居 の残骸。	29	P5,7,10,14,1 9,21,26,28	大形のピット である。	削平され不 明。			不明。			不明。	P5より骨製 品出土。	不明。	土坑群と重 複。本跡が 新しいと考 えられる。	炉などは削 平されてい て不明。
小礫が分布。 敷石の残骸 が。	8	P3,4,(5),6	入口P1,8	不明。			入口1	正位	底のある深 鉢。上面欠 損。	不明。	埋甕のみ。	不明。	中期の土坑 群の上位。	

4 掘立柱建物跡 掘立柱建物跡の記載事項は「1 概要」に記した通りである。

表5 聖石遺跡掘立柱建物跡(1)

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	旧遺構名	所属時期	認定資料	検出面	構造・規模				重複関係				
									柱配置	主軸方向	主軸長m	副軸長m		ビット個別所見			
														平面形	断面形	平面規模	深さ
ST01	4,5	116	18-5	I・U-05,10,V-01,06		中期?		IV層上面	1間×2間	N27° E	5.45	2.6					
P1					SK10				円	方形	0.5×0.4	0.35	なし				
P2					SK11				円	方形	0.47×0.45	0.2	なし				
P3					SK12				円	方形	0.65×0.6	0.27	なし				
P4					SK13				円	方形	0.5×0.45	0.27	なし				
P5					SK14				円	半円形	0.45×0.45	0.25	なし				
P6					SK15				楕円	方形	0.55×0.45	0.35	なし				
ST02	16,22	117		I・W-14,15,19		中期?		IV層上面	1間×2間	N8° E	9.6	3.5					
P1					SK1232				円	台形	0.6×0.58	0.32	あり				
P2					SK1231				円	台形	0.58×0.5	0.28	あり				
P3					SK141				不整	台形	0.82×0.8	0.63	なし				
P4					SK602				円	方形	0.7×0.65	0.55	なし				
P5					SK1238				円	方形	0.76×0.76	0.49	あり				
P6					SK1408				円	台形	0.7×0.58	0.39	あり				
P7					SB28 P2				円	長方形	0.35×0.35	0.35	なし				
P8									円	台形	0.37×0.35	0.15	なし				
ST03	12	116		II・B-05,10		中期?		IV層上面	1間×2間	N40° W	4.16	2.93					
P1									円	方形	0.5×0.45	0.35	なし				
P2					SB51 P7				楕円	長方形	0.5×0.42	0.6	なし				
P3					SB51 P3				円	長方形	0.4×0.3	0.47	なし				
P4					SB51 P1				楕円	方形	0.65×0.47	0.42	なし				
P5					SB53 P3				円	台形	0.5×0.45	0.45	なし				
ST04	22,32,34	118		II・D-1,2,6,7		中期?		IV層上面	1間×2間	N41° W	5.98	3.75					
P1					SB76 P1				楕円	方形	0.88×0.76	0.57	なし				
P2					SB76 P7				円	半円形	0.74×0.72	0.66	なし				
P3					SK1524				楕円	方形	0.7×0.66	0.46	なし				
P4					SK1525				長楕円	台形	1.04×0.92	0.47	なし				
P5					SK1526				楕円	皿形	0.94×0.74	0.49	なし				
P6					SK711				楕円	台形	1.1×0.84	0.54	なし				
ST05	47,48	118		II・E-1,2		中期?		IV層上面	1間×1間	N62° E	6.13	5.8					
P1					SK1530				楕円	台形	1.6×1.34	1.22	なし				
P2									不整	2段	1.42×1.18	0.91	あり				
P3					SK1614				楕円	皿形	0.86×0.62	0.56	なし				
P4					SK1615				不整	台形	0.74×0.7	0.68	あり				
P5									円	長方形	0.56×0.56	0.66	なし				
P6									楕円	皿形	1.18×1.12	0.87	なし				
ST06	39,47,48	119		I・Y-22, II・E-1,2		中期?		IV層上面	1間×2間	N82° W	8.4	4.75					
P1					SK1529				円	方形	1.35×1.3	0.85	なし				
P2					SK1531				楕円	台形	1.48×1.26	0.97	なし				
P3					SK1616				円	皿形	0.96×0.94	0.51	あり				
P4					SK1532				不整	皿形	1.34×1.14	0.79	なし				
P5									不整	長方形	0.92×0.86	0.94	あり				
P6									楕円	半円形	1.64×1.02	0.59	あり				
ST07	39,47,48	120		I・Y-22		中期?		IV層上面	1間×2間	N14° E	5.53	3.62					
P1					SK385				円	方形	0.82×0.8	0.64	あり				
P2					SK837				楕円	長方形	0.74×0.7	0.93	あり				
P3					SK835				円	皿形	0.72×0.7	0.6	あり				
P4					SK1307				楕円	方形	1.15×0.7	0.76	不明				
P5					SK844				円	方形	0.7×0.65	0.65	不明				
P6					SK841				楕円	台形	0.86×0.7	0.58	あり				
ST08	39,45,46,47	121		I・Y-11,16,17,21,22		中期?		IV層上面	1間×2間	N9° E	10	4.7					
P1					SK367				楕円	台形	1.22×1.16	0.58	なし				
P2					SK365				楕円	2段	1.22×1	0.41	あり				
P3					SK388				円	台形	1.08×1.02	0.48	あり				
P4					SK840				楕円	皿形	1.08×0.9	0.6	なし				
P5					SK852				不整	台形	1.12×1.1	0.46	あり				
P6					SK379				楕円	2段	1.36×1.22	0.51	あり				
ST09	36,37,44	120		I・X-5,Y-1		中期?		IV層上面	1間×2間	N70° W	5.12	2.92					
P1					SK805				円	半円形	0.6×0.58	0.28	なし				
P2					SK804				楕円	半円形	0.52×0.46	0.25	なし				
P3					SK796				楕円	半円形	0.72×0.66	0.34	なし				
P4					SK794				楕円	皿形	0.88×0.72	0.32	なし				
P5					SK791				楕円	半円形	0.76×0.6	0.34	なし				
P6					SK799				楕円	半円形	0.72×0.56	0.37	なし				
ST10	26,28	122		I・X-2,7		中期?		IV層上面	1間×2間	N38° E	5.36	2.12					
P1									円	皿形	0.5×0.5	0.34	なし				
P2									楕円	皿形	0.68×0.64	0.44	あり				
P3					SB30 P2				楕円	長方形	0.75×0.65	0.53	なし				
P4					SB30 P11				楕円	方形	0.35×0.32	0.32	なし				
P5					SK1430				円	長方形	0.56×0.48	0.64	あり				
P6									円		0.66×0.64	0.4	あり				
ST11	16,26,28	123		I・X-6,7,11		中期?		IV層上面	1間×2間	N49° W	8.64	3.72					
P1					SK157				不整	方形	0.82×0.76	0.76	なし				
P2					SK144				円	長方形	0.78×0.68	0.89	なし				
P3									楕円	長方形	0.66×0.58	0.8	なし				
P4					SK231				円	長方形	0.8×0.7	1.05	なし				
P5									楕円	皿形	0.9×0.8	0.25	あり				
P6									楕円	プラスチック	0.7×0.62	0.94	なし				

表5-2

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PL.No.	位置	旧遺構名	所属時期	認定資料	検出面	構造・規模				重複関係
									柱配置	主軸方向	主軸長m	副軸長m	
									ビット個別所見				
平面形	断面形	平面規模	深さ	柱痕									
ST12	16,28	124		I・X-6,11		中期?		IV層上面	1間×2間	N12° E	7.21	2.53	
P1				SK147					楕円	方形	0.76×0.54	0.59	なし
P2				SK151					円	方形	0.72×0.42	0.57	なし
P3				SK154					楕円	方形	0.66×0.52	0.51	なし
P4				SK201					円	半円形	0.54×0.54	0.53	なし
P5				SK196					円	方形	0.56×0.5	0.51	なし
P6				SK178					円	方形	0.48×0.42	0.43	なし
ST13	16,28	122		I・X-6		中期?		IV層上面	1間×1間	N13° E	3.64	2.74	
P1				SK146					楕円	方形	0.76×0.64	0.63	なし
P2									楕円	血形	0.54×0.44	0.46	なし
P3				SK152					円	方形	0.58×0.52	0.53	なし
P4				SK148					楕円	方形	0.62×0.56	0.63	なし
ST14	16,22,28	125		I・X-11,16,21		中期?		IV層上面	1間×3間	N11° E	10.58	3.86	
P1				SK1303					円	長方形	0.82×0.82	0.94	なし
P2				SK282					隅丸方	長方形	0.78×0.74	1.19	あり
P3				ST01 P4→ST14P2					楕円	長方形	0.66×0.62	1.03	あり
P4				ST01 P1→ST14P3					楕円	長方形	0.94×0.6	1.05	あり
P5				SK1280→ST14P4					長方	長方形	1.06×0.9	0.83	なし
P6				SK1270→ST14P5					円	血形	0.72×0.7	0.66	なし
P7				ST01 P2→ST14P6					隅丸方	長方形	0.76×0.68	0.95	なし
P8				ST01 P3→ST14P1					不整	長方形	0.7×0.66	0.9	あり
ST15	16,22,28	126		I・X-16,21		中期?		IV層上面	1間×1間	N11° E	4.92	2.92	
P1				SK1207					楕円	血形	1×0.88	0.84	なし
P2				SK1198					円	血形	0.7×0.66	0.66	なし
P3				SK1273					楕円	長方形	0.8×0.64	0.98	なし
P4				SK1485					楕円	血形	0.84×0.74	0.73	あり
ST16	26,28	126		I・X-7		中期?		IV層上面	1間×2間	N50° E	3.85	3.26	
P1									円	長方形	0.35×0.3	0.28	
P2									円	長方形	0.3×0.3	0.28	
P3				SK601					不整	方形	0.42×0.42	0.36	なし
P4				SB30 P10					円	方形	0.4×0.4	0.32	
P5				SB25 P3					円	長方形	0.47×0.45	0.35	
P6									円	方形	0.45×0.4	0.35	
ST17	28	127		I・X-17,18		中期?		IV層上面	1間×2間	N7° W	5.64	4.75	
P1				SK1454					円	長方形	0.92×0.92	0.85	あり
P2				SK1456					隅丸方	長方形	0.82×0.8	0.84	あり
P3				SK1467					不整	2段	0.74×0.7	0.94	あり
P4				SK1455					楕円	長方形	0.7×0.62	0.72	あり
P5				SK1475					円	長方形	0.56×0.52	0.86	なし
P6				SK1465					楕円	台形	0.82×0.76	0.7	あり



5 屋外埋設土器

表6 聖石遺跡屋外埋設土器

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	旧遺構名	所属時期	検出面	所見		規模		重複関係	備考
								遺構の様相	内容	平面規模	掘り方深さ		
SX3	27	128-18-7	I・X-11		中期後葉2期	Ⅲ層上面	屋外埋設土器	入れ子状の埋設土器。正位で傾く。底部から体部下半まで。2個体？	0.62×0.54	0.2			
SX4	27	128-18-8	I・X-11		中期後葉2期	Ⅲ層上面	屋外埋設土器	単独の埋設土器。正位でやや傾斜。ほぼ存在か。	0.52×0.52	0.42			
SX5	27	128-18-8	I・X-11		中期後葉	Ⅲ層上面	屋外埋設土器	単独の埋設土器。正位でやや傾斜。底部なし。	0.52×0.52	0.42			
SX7	27	131-19-1	I・X-12,13	SF28	後期初葉	Ⅲ層上面		住居認定できないが、炉跡の可能性あり。 土器片と小礫が一括出土し、焼土も伴う。住居跡の炉跡だろうか。	0.72×0.70	0.12		土器図版は旧遺構名で掲載	
SX11	27,29	128-19-2	I・X-22	SX06から変更	中期後葉2期	Ⅲ層上面	屋外埋設土器	単独の埋設土器。大形の深鉢土器が正位で埋置されている。口辺から底部まで。	1.06×0.9	0.46		土器図版は旧遺構名で掲載	
SX15	27	128-19-2	I・X-22		中期後葉3期と後期	Ⅲ層上面	屋外埋設土器	単独の埋設土器。正位。大形の深鉢土器の底部から口辺まで。内部に購入入る。	0.64×0.64	0.37	SK59を切る。		
SX16	27		I・X-7	SQ16から変更	後期前葉	Ⅲ層上面	後期敷石住居SB5範圍内。	詳細図なし。写真で見ると不明だが、単独の埋設土器である。時期は不明。小形の深鉢土器が正位で埋置されている。					
SX17	25	128-19-3	I・S-23		中期後葉	Ⅲ層上面	屋外の埋設土器	単独の埋設土器。大形の深鉢土器が正位で埋置されている。口辺から底部まで。	0.4×0.4	0.32			
SX18			I・S-25		中期後葉5期		詳細不明	詳細位置不明。写真では深鉢土器の底部がわずかに見られる。				SB18に断面図のみあり 020311	
SX19	27	128-19-4,5	I・X-12		中期後葉	Ⅲ層上面	屋外埋設土器	単独の埋設土器。大形の深鉢土器。正位で口縁から体部下半まで。	0.5×0.45	0.36	SK182を切る。		
SX25	27	129	I・X-17		中期後葉或いは後期	Ⅲ層上面	中期の屋外埋設土器	小形の深鉢土器の底部付近が埋置されている。SX24同様、時期によれば敷石住居の埋置の可能性あり。	0.38×0.32	0.16			
SX27	26		I・X-2			Ⅲ層上面		小破片の集中のため、1点で取り上げている。詳細不明。					
SX28	26	129-19-6	I・X-3		中期後葉3期	Ⅲ層中		中期の屋外埋設土器。後期土器はこの遺構を切るSK713層内である。大形の深鉢土器が逆位で出土している。口辺部のみ。性格不明。	1.36×1.20	0.3	SK713に切られる		
SX29	20		Ⅱ・C-8	IBSB49UM1	中期後葉5期		屋外埋設土器					調査ではSB49の埋設(UM1)としたが、平面図で検討したところ、住居範囲に収まらないことが判明した。また他住居、新住居の認定もできないことから、単独の屋外埋設土器として調査した。調査ではSQ11としたが、実際は掘り込みを伴った埋設土器である。敷石住居跡に伴う可能性があるが、周辺の状況では明確な位置付けができないため、単独の遺構として処理する。なお、記号の意味の共通性を持たせるため、SX30と再登録	
SX30	25	129-19-7	I・X-3-4	IBSQ11	中期後葉5期	Ⅲ層中	時期はどうか、屋外埋設土器				なし		
SX31	30	129-19-8	I・X-24,Ⅱ・D-4	IBSK1414	中期後葉5期		中期の屋外埋設土器	大形の深鉢の底部を抜いて正位で埋められている。	0.44×0.42			調査時点で、埋設の様相をしめていたが、56図で登録していた。整理段階の見直しで、屋外埋設土器であると断定できたため、登録変一括性高く、土坑に伴った土器の集中の可能性あり。	
SX32	29		I・X-12,13	IBSQ7	中期後葉				0.42				

6 遺物集中

表7 聖石遺跡遺物集中

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期	検出面	所見	規模		
								平面規模	掘り方深さ	重複関係
SQ1	4	130		I・P-25		Ⅲ層中	一括性はあるが、完形にはならない土器の出土状況	0.2×0.12	なし	なし
SQ2	4	130		I・P-25		Ⅲ層中	一括性のある、土器片の出土状況	0.2×0.15	なし	なし
SQ3	4	130		I・U-4		Ⅲ層中	一括性のある、土器片の出土状況	0.5×0.3	なし	なし
SQ4	16	130		I・W-10	中期後葉	Ⅲ層中	一括性のある、大形の深鉢形土器(接合率やや高そう)と礫	0.4×0.3	なし	なし
SQ5						Ⅲ層中	一括性のある深鉢土器。			
SQ6		130	20-1	I・S-25	中期後葉	Ⅲ層中	水平分布域が径5mにおよび、垂直分布範囲は狭い、一括性の非常に高い、土器群、焼土もみられ、住居的な様相も示す。5個体以上の土器あり。	5.0×3.4	なし	SK121～126の上層
SQ9										
SQ10										
SQ13	29	130		I・X-13			土。			
SQ14										
SQ15	44			I・T-21,22		Ⅲ層中	掘り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			
SQ16	44			I・T-21,22		Ⅳ層上面	掘り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			
SQ17	14			I・R-10,15		Ⅲ層中	掘り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			
SQ18	14			I・R-9,10			掘り込みはなく、平面的に多量の土器が集中出土。			

7 炉跡、焼土跡

表8 聖石遺跡炉跡・焼土跡

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	旧遺構名	所属時期	検出面	所見	規模		重複関係	備考
									平面規模	掘り方深さ		
1	25	131		I・X-2		後期	皿層中	被熱	0.54×0.32	0.04		
2	25	131	20-2	I・X-3			皿層中	被熱	0.44×0.42	0.04		
3	25	131		I・X-8			皿層中	焼土分布	0.32×0.26	0.04		
4	25	131		I・X-3		後期	皿層中	被熱	0.52×0.48	0.06		
5	27			I・X-12	SB104範囲内	後期?	皿層中					
6	27	131		I・X-8	SB5,SB99範囲内		皿層中	被熱	0.46×0.24	0.02		SB5,SB100範囲内だが帰属関係は不明である。
7	27	131		I・X-8			皿層中	被熱	0.54×0.54	0.04	SK1438上	SB100,102範囲内だが帰属関係は不明である。
8	31	131		II・D-2			皿層中	被熱と焼土	0.32×0.28	0.04	SK1799上	
9	27	131		I・X-17	SB105範囲内に入ると変更しない。	後期	皿層中	被熱	0.38×0.28	0.04	SK1454上	
10	29	131		I・X-18			皿層中	被熱	0.64×0.54	0.04	SK1471,1463上	
11	27	131		I・X-11		後期?	皿層中		0.32×0.18	0.03		
12	25			I・X-2	SB01に包括		皿層中					
13	27			I・X-6			皿層中					
14	25			I・X-2			皿層中					
15	15	131		I・W-10			皿層中	被熱				
16							皿層中					
17	27	131		I・X-13		後期?	皿層中	被熱	0.28×0.28	0.06	SK1727上	
18	27	131		I・X-12		後期?	皿層中		1.18×0.44	0.06	SK1739上	
19	36			I・S-24,25		後期?	皿層中					
20	14	131		I・R-20			皿層中	焼土	1.00×0.3	0.08		
21	9	131		I・V-13			皿層中	被熱	0.12×0.06	0.04		
22				I・X-2	SB01に包括		皿層中	焼土				
23	25			SB55 炉へ			皿層中					
24	42	131		II・D-9		後期	皿層中		0.42×0.44	0.12		SB25を切る。
25	34	131		II・D-14			皿層中	被熱				
26							皿層中					
27	49	131		I・Y-23			皿層中	火床	0.34×0.32	0.04		
28	27	131		I・X-12,13	旧SX7	後期	皿層中	住居跡の炉か				土器片と小溝が一括出土し、焼土も伴う。住居跡の炉跡だろうか。住居の炉であろう。土器の底器片が炉体に転用されている様子、周囲被熱。
29	27			I・X-17,18	旧SX26	中期後葉	皿層中					
I・W21 F1	13			I・W-21			皿層中					
I・X11 SF1	27	131		I・X-11	SB106範囲内に入ると変更しない。		皿層中		0.28×0.14	0.03	SK1240,1303上	
I・X16 SF1	27			I・X-16	SB106範囲内に入ると変更しない。		皿層中					

8 土 坑

聖石遺跡で最も多い遺構が土坑であり、その数は1,618基を数えた。その分布は台地の幅が最も広がり住居跡や建物跡が集中する範囲の内側で濃密であり、重複も著しい。この土坑の分布状況が「環状集落」と呼ぶに最も相応しい形状を見せている。この範囲外の分布は非常に散漫であり、特に台地北側では時期不明の落とし穴が分布する程度である。

土坑の調査は、検出状況で土坑と認定した時点で、連番の遺構記号・番号を登録し、図面・写真・遺物の取り上げといった、あらゆる記録類について、この登録番号を付した。整理業務では、その基本台帳を作成すると同時に、調査所見を点検した。その結果、住居跡や掘立柱建物跡のピット、柱穴に再認定された例も少なくない。その場合、変更後の遺構記号や番号を付して、土坑登録から記録を抹消している。このため土坑番号に欠番が生じている。膨大な数量であることから、混乱を避けるため番号を連番に揃えるような再整理作業は実施していない。

土坑の個別観察と記載事項は、次の順序である。遺構番号、掲載図版番号（割付図版・個別図版・PL）位置（地区・グリッド）、所属時期、形態・規模（平面形・断面形・底面形状・主軸方向・縦軸長・横軸長・深さ）、重複関係、土層堆積、遺物出土状況、備考。主な記述基準、計測基準は以下のとおり。

位置 遺跡単位で設定したグリッド名を記入している。

所属時期 区分基準：土器の時期設定による。

認定資料：当該土坑の時期を決定した根拠を示す。（例）出土土器など

形態・規模 平面形：平面図から、円形、楕円形、長楕円形、方形、長方形、隅丸方形、不整形をあてはめている。即断できない形状の場合、略円形などと表現している。

断面形：長軸線上の断面形で判断した。大形土坑の場合、短軸線もみる場合がある。記述した記号の意味は次のとおり。

(全体形)

- A 平面の径長と深さがおおむね1：1のタイプ。
- B 平面の径長が深さより長いタイプ。
- C 平面の径長が深さより短いタイプ。
- D 平面の径長より、底面の径長が長いタイプ。
- E 土坑の壁面が2段になるタイプ。
- F 底面に小ピットを伴うタイプ。

(底面形)

- 1 丸底                      2 平底                      3 不整形

(記述の方法)

全体形の次に底面形を合わせて記述する。

記述例…A1 (平面の径長と深さがおおむね1：1で、丸底のタイプ)

E2 (土坑の壁面が2段になり、平底のタイプ)

(記述と土坑の性格)

記述される断面形と、予想される土坑の性格は次の通りである。

- |      |             |        |       |
|------|-------------|--------|-------|
| A1   | 小ピット、柱穴など   | A2     | 貯蔵穴など |
| B1・2 | 墓壙など        | C1・2   | 柱穴    |
| D1・2 | 貯蔵穴(フラスコ土坑) | F1・2・3 | 落とし穴  |

主軸方向：長方形や楕円形の土坑のみ記録した。平面図上で長軸線を描き、その線の座標北から東西方法への傾斜角を示している。(例) N12° W  
落とし穴や墓壙といった、軸方向に規則性や何らかの意味がある土坑について基礎資料となる。

縦軸長・横軸長：平面図上で計測した。横軸は縦軸に直交する。

深 さ：最深部と調査面との差。cm以下は四捨五入した。

重複関係：「本跡より新」「本跡より旧」「新旧不明」の欄に該当する重複遺構名を記載。「根拠」欄には調査記録、土層断面、検出などの判断根拠を記載した。

土層堆積：断面図の有無、土層の分層数。堆積状況には柱痕の存在、礫・土器の出土を記載した。

遺物出土状況：ナンバーを付けた遺物などを記載した。

備考：調査所見と土坑の性格が考えられる場合などに記載した。

なお、紙幅の都合により、本書には特筆される土坑のみ選択して掲載した。遺構図版や写真図版も同じである。それ以外の土坑の記述はDISC(表9)へ記録し、土坑の位置は遺構割付図(1：120)に図化した。また写真は空中写真などの全景写真を掲載した。

表9 聖石遺跡土坑(1)

遺構番号	個別図版 No.	PLNo.	位置	所属時期		形状・規模							重複関係				土層堆積			遺物出土 状況 ナンバリング	備考				
				時期	根拠	平面形	断面形	底面形状	主軸方向	縦cm	横cm	深さcm	本跡より新	本跡より旧	新旧不明	根拠	断面図	分層数	堆積状況						
SK1	132		I・P-18			円	B2	平坦	-	90	82	29						有り	1	礫・土器 含む	SK01と同じ。	たらい状の土坑。			
SK24	132		I・P-25			楕円	B1	平坦	N81° W	70	58	35						有り	2			小土坑。			
SK36	132		I・V-6	中期後葉	出土土器	円	F2	平坦、中央小ピットあり	-	154	148	64						有り	3		SI,2	底面中央の小ピット深さ24cm。			
SK41	132		I・U-13			円	B2	平坦	-	100	96	32						有り	2	礫含む		SK01と同じ。			
SK47	132	20-3	I・P-20,25	中期前葉3	出土土器	円	B1	平坦	-	64	58	6						有り	1		一括土器	中期前葉土器の土坑。周囲に4基の小土坑あり。			
SK48	132		I・U-5	中期	出土土器	円	B2	平坦	-	132	132	47						有り	1			P1~P5	たらい状の土坑。		
SK49	132		I・S-19,20,24,25	中期後葉5~後期初頭	出土土器	円	F2	小ピット中央に2基、周溝が全周している。	-	154	152	94		SB04		断面と検出		有り	2				中段があり、底面外周と中央に窪み。貯蔵穴か。		
SK50	132	20-4	I・S-24	中期後葉5	出土土器	円	F2	小ピット中央に1周溝状の窪みがあり一部に有り。	-	162	150	107		SB02,SB04		検出		有り	3				SK49と同じ性格		
SK52	132		I・S-19	中期後葉3	出土土器	円	B2	平坦	-	130	122	66						有り	4						
SK53	132		I・S-20	中期後葉3	出土土器	円	F2	平坦	-	100	94	63			SB03			有り	3				底部に小ピット		
SK60	132	20-5	I・X-16			楕円	B2	平坦	N2° W	60	50	14						有り	1	石棒含む。	石1,2(磨石)3(石種)4	石棒が出土した小土坑。			
SK66	132		I・Q-18			長楕円	F2	平坦、小ピットあり	N88° E	228	122	70						有り	2				底面に小ピット10。陥し穴。		
SK73	133	20-6	I・R-22,23			長楕円	F2	平坦、小ピットあり	N78° E	228	120	34						有り	3				小ピット底面から深さ29cm。陥し穴。		
SK74	133	20-7	I・V-18	中期後葉4	出土土器	円	B2	平坦	-	142	144	57						有り	3			R1~13	覆土の中層から小形深鉢出土。底部欠。		
SK77	133	21-1	I・V-18			円	B2	平坦	-	104	104	32	SK78		土層断面		有り	1							
SK78	133	20-8 21-1	I・V-18	中期後葉5	出土土器	円	A2	平坦	-	192	194	105		SK77		土層断面		有り	5					中段を持つ。大形の貯蔵穴。中層から上部を穿れた深鉢2個体出土。	
SK81	133		I・V-18	中期後葉3	出土土器	円	E2	平坦、中央に小ピットあり	-	98	82	42			SB20			有り	1	礫含む		礫1~7	小ピット底面から7cm		
SK88	133		I・V-19	中期後葉2	出土土器	円	A2	平坦	-	88	86	70		SK89		土層断面		有り	4				R1~8	深く底面平。	
SK89	133		I・V-19			楕円	B2	平坦	N90° W	225	158	30	SK88		土層断面		有り	2			SI		浅く楕円形の土坑。		
SK90	133		I・V-19			楕円	B1	平坦	N83° E	120	102	25						有り	1						
SK94	133		I・V-16	中期後葉II	出土土器	楕円	D2	平坦	N6° E	124	106	52						-	2					フラスコ状土坑。内部より深鉢出土。	
SK97	133		I・V-16			楕円	D2	平坦	N73° W	128	106	63		SK100		土層断面		有り	2			P1,S1,R1~3		フラスコ状土坑。	
SK99	133	21-2	I・V-16,17	中期後葉	出土土器	円	F2	平坦、中央に小ピットあり	-	200 (202)	112							有り	5	礫含む	土器1,礫1~3		大形。小ピット底面から29cm。貯蔵穴か。		
SK100	133		I・V-16	中期後葉	出土土器	円	C2	平坦	-	94 (102)	56		SK97		土層断面		有り	2			SI				
SK103	133		I・V-11			円	B2	平坦	-	100	104	36		SK104		断面図		有り	3	礫含む				たらい状。貯蔵穴	
SK104	133		I・V-11			円	B1	丸い	-	58 (52)	28		SK103		断面図		有り	3							
SK105	134		II・B-9	中期後葉1	出土土器	楕円	B2	平坦	N90° W	152	110	27			SK106		断面図		有り	5					削平を受ける。覆土から後葉の深鉢出土。住居跡の可能性あるが、削平により詳細不明。
SK106	134		II・B-9			楕円?	B2	平坦	N90° W (330)	(104)	34				SK105		断面図		有り	0					浅く削平されるが、底部が平坦な土坑。
SK107	134		I・S-11			楕円	B1	平坦	N9° E	132	118	26						有り	4					浅く削平されるが、底部が平坦な土坑。	
SK109	134		I・R-24			円	B2	平坦	-	108	104	0						有り	4						
SK110	134	21-3	I・R-25			隅丸長方	F2	平坦、中央に小ピットあり	N9° W	164	120	82						有り	5					底面に小ピット深さ33cm。中段を持つ。同様のSK111と並列する。陥し穴。	
SK111	134	21-4	I・R-25,S-21	中期後葉	出土土器	隅丸長方	F2	平坦、中央に小ピットあり	N3° E	140	102	70						有り	7		土器1		底面小ピット深さ31cm。中段を持つ。同様のSK110と並列する。陥し穴。		
SK112	134	21-5	I・S-16	近世近代?	馬の歯出土	円	B3	外周が窪む	-	276	270	90						有り	6	礫含む				底面に礫。間に馬の歯底面より出土。時期は不明。馬の墓と考える。	
SK114	134		I・T-21,22	中期後葉III	出土土器	隅丸長方	A1	平坦	N42° W	104	84	43		SB17		断面図		有り	2			土器1~5,石1		小土坑。	
SK134	134		I・V-12,17			円	B3	平坦	-	96	92	49						有り	7	礫含む				たらい状の土坑。	
SK145	134		I・X-6			楕円	B2	平坦	N10° W	68	64	29						有り	2	礫含む					
SK159	134	21-6,7	I・W-25,X-21	中期後葉	出土土器	長楕円	B2	平坦	N47° E	178	112	39		SK161,SB35		断面図		有り	5			P1~3,S1,R1		頭と両手が欠損した土器出土。覆土中SK161に埋まっている。SB35を切ってSK160あり。	
SK160	134		I・X-21,II・D-1	中期後葉	出土土器	楕円	B1	平坦	N27° E	126	82	14	SK161	SB35				-	0						
SK161	134		I・W-25,X-21,II・C-5,D-1	中期後葉	出土土器	隅丸長方	B	平坦	N45° E	242 (146)	25		SK159	SK160,SB35		断面図		有り	2					大きな浅い土坑。性格不明。	
SK165	135		I・W-14,15,19,20	中期後葉IV?	出土土器	不整	D2	平坦、小ピットあり	-	94	88	130			SB38			有り	4	土器含む				非常に深いフラスコ。底部に小ピット深さ18cm。	
SK168	135		I・W-19	後期初葉	出土土器	円	B2	平坦	-	132	126	35						有り	4					覆土より後期鉢出	
SK193	135		I・W-15			楕円	B2	平坦	N1° E	104	84	30						有り	2						
SK205	135		I・W-15			円	C1	丸い	-	40	38	28			SK207		土層断面		有り	1					小土坑。
SK207	135		I・W-15,X-11			長楕円	B2	平坦	N76° E	160	92	35	SK205		SK206	土層断面		有り	3					浅い舟形。	
SK208	135		I・X-11	後期初頭	出土土器	楕円	B3	凹凸あり	N28° E	132	82	-						有り	3	礫、土器含む	土器1~4 黒曜石1			土器片が入る。	
SK252	135		I・X-11,12			円	A2	平坦	-	72	62	53						有り	2	柱痕あり					
SK256	135		I・X-11			長方	B2	平坦	N2° W	92	58	23			SK1725			有り	1					柱痕あり。	
SK387	135	22-1	II・C-10,D-6			円	B2	平坦	-	46	48	5		SB61		調査記録		有り	4			SI~6(黒曜石の原石)		黒曜石の原石6点の一括集積。土質の違いから、小土坑と判断した。	
SK402	135	22-2	I・X-15	中期後葉5	出土土器	長楕円	B	平坦	N83° E	134	74	29		SK498(隣接)		調査記録		-	0				土器1	浅鉢	覆土/褐色、黒色と黒色粒少々。検出面で浅鉢状とした状態で出土。
SK404	136	22-3,4	I・X-15			楕円	B	平坦	N81° E	148	108	26						-	0				SK404-1ヒスイ	覆土/褐、LB多し粒少々。バミ粒少々。底より2~3cm浮いてヒスイ製重飾り。墓。	
SK420	135		I・X-23,24			円	A2	平坦	-	96	98	75						有り	2	柱痕あり				1.軟、褐色で黒色入る。バミ粒少々。 2.褐色でバミ粒著。大雑上層に入る。1樹、1粒、バミ粒入る。	
SK423	135		I・X-24			円	A2	平坦	-	108	100	77			SK422			有り	2	礫含む				2.褐ベージュ、バミ粒著。風化岩入る。SK423,420はよく似て、LB少々、L粒少々。土器中層にはいる。	
SK448	135	22-5	I・Y-16	中期後葉5	出土土器	楕円	B	平坦	N7° W	138	114	60	SK446		調査記録		-	0							
SK482	135		I・Y-11,16			楕円	C2	平坦	N30° W	64	58	72						有り	0					ごく深。	
SK483	135		I・Y-16			楕円	B2	平坦	N14° W	88	74	73			SK482		土層断面		有り	2	柱痕あり				ごく深。
SK506	135	22-6	II・C-10	中期中葉5	出土土器	楕円	B2	平坦	N36° W	86	80	24						有り	1	土器と礫が一緒集積				土器底部など。	
SK509	136		I・T-22			楕円	A2	平坦	N76° W	60	44	54			SK511			有り	2						

第3章 聖石遺跡

表9-2

SK番号	135		I・T-21,Y-1	中期後葉	出土土器	楕円	B1		N13° W	194	172	51			SB17P30,SK513		有り	6			大形の土坑。			
SK511	136		I・T-22			円	B2	平坦	-	132	124	56			SK509		有り	3						
SK573	136		I・X-10			楕円	A2	平坦	N78° W	78	64	43					有り	2		柱痕あり				
SK587	136		I・Y-11			楕円	B		N88° E	106	70	34			SK586,SK588(隣接)		-	0			P1(ヒスイ)	大甕いくつも投入。楕円蓋にしてはやや小さい。甕のTよりヒスイ製垂飾出土。		
SK604	136		I・W-6,7			円	B3		-	108	92	32					有り	2						
SK666	136		I・X-9	中期後葉1	出土土器	隅丸方	B1		-	162	156	29					-	0				検出面で大甕1,人頭大甕3,釜形の土器1		
SK693		22-7	I・X-9	中期後葉1	出土土器	楕円	B		N88° E	92	(84)	27			SK694	SK695	調査記録	-	0				検出面で大甕1,人頭大甕3,釜形の土器1	
SK716	136		II・D-7			円	A2	平坦	-	85	80	65			SB92P9		有り	2		人為				
SK717	136		II・D-7			楕円	A2	平坦	N12° W	110	88	48			SB92P6,S K718		有り	2		礎含む				
SK718	136		II・D-7			楕円	B2	平坦	N2° E	118	96	23			SK717,SK1521		有り	1		礎含む				
SK719	136		II・D-7	中期後葉	出土土器	円	B2	平坦	-	100	86	22			SK1521		有り	1		礎含む				
SK720	136		II・D-7	中期後葉	出土土器	楕円	B2	平坦	N71° E	90	80	36					有り	3		礎含む		礎多,石挿入		
SK753	136		I・X-9	中期後葉5	出土土器	長楕円	A2	平坦	N20° W	86	62	33			SK1357		断面図	有り	1			検出面付近,中央よりやや北東辺りに半完土器1点,墓か。		
SK754	136		I・X-9			長楕円	A2	平坦	N2° W	136	(82)	39			SK755	SK1357	断面図	有り	1					
SK755	136		I・X-9			長楕円	A1		N20° W	122	90	39			SK754	SK756	断面図	有り	1			墓サイズ		
SK758	136		I・X-9,14			楕円	A2	平坦	N34° W	112	92	50			SK759,X-14-2		断面図	有り	1			人頭倍の大甕(回倉)4以上が入る。		
SK760	136		I・X-9,14			楕円	B2	平坦	N55° W	84	74	26			SK759,X-14-1		有り	1						
SK850	136		I・Y-21			楕円	B2		N78° W	80	60	43			SK851,STO8P5		調査記録	有り	1			検出面に角礎。		
SK851	136		I・Y-21			不整	E2		-	(38)	56	-			SK850	STO8P5	調査記録	有り	1			検出面に礎。		
SK885	136		I・X-25			隅丸長方	B		N60° E	130	78	32			SK886,SK890		-	0		ヒスイ2点		ヒスイ2点,東側底面やや上より出土。下位に赤色顔料(ベンガラ)散る。		
SK895	136		II・C-5			楕円	B2	平坦	N82° W	70	52	25					有り	1		礎入る		R1~3		
SK1354	136		II・D-3	後期前葉1	出土土器	楕円	B		N88° E	138	120	58			SK1888,D-03-42	SK1887	平面図より	-	0		礎含む			
SK1357	136		I・X-9			長楕円	A1		N35° W	106	74	60			SK753,SK754		断面図	有り	1					
SK1361	137		I・X-14			楕円	A2	平坦	N82° W	88	74	36			SK1362,SK1404		断面図	有り	1					
SK1362	137		I・X-14			楕円	A2		N61° W	84	74	43			SK1361	SK1405(隣接)	断面図	有り	1					
SK1404	137		I・X-14			楕円	B2	平坦	N53° W	90	74	17			SK1361	SK1402,S K1403	断面図	有り	1					
SK1405	137		I・X-9,14			楕円	A2		N20° W	76	72	52			SK1362(隣接)		有り	1						
SK1410	137		I・T-16	中期後葉	出土土器	楕円	D2		N35° W	140	122	83					有り	4				土器No.1~3	フラスコ状土坑。	
SK1444	137		I・X-18	後期前葉1	出土土器	楕円			N80° E	146	110	-			SK1458,SK1459,SK1460,SK1462,SK1463		平面図より	-	0				土器No.1,2,5~7,12,14~16,礎No.3,4,8~	土器,礎多く入る。
SK1458	137		I・X-18			楕円	B		N12° W	90	50	36			SK1444	SK1463	平面図上	-	0					
SK1459	137		I・X-18			長楕円			N49° W	70	38	-			SK1444	SK1460	平面図上	-	0					
SK1461	137		I・X-18			楕円	B		N81° E	46	38	14			SK1460	SK1459,S K1462,X-18-12	平面図より	-	0				土器No.1~3	
SK1464	137	22-8	I・X-17,18	中期後葉5	出土土器	長楕円	B		N68° E	122	66	21						-	0				土器No.1~3	後期の墓か,土器の大破片,東側にあり。
SK1471	137		I・X-18	中期後葉	出土土器	楕円	B2	平坦	N26° W	94	94	84			SK1756		平面図上	有り	0		柱痕あり			
SK1480	137		I・X-23	中期後葉	出土土器	楕円	C2	平坦	N83° E	70	48	108						有り	0		柱痕あり			
SK1486	137		I・X-22	中期後葉2	出土土器	楕円	B		N75° E	118	96	18						-	0				礎多敷入る。一括土器有り。	
SK1545	137		II・D-13	中期後葉6	出土土器	楕円	B		N33° E	100	90	25						-	0		礎含む		大甕多く入る。礎下に釣手痕跡。	
SK1547	137		II・D-13	中期後葉3	出土土器	隅丸方	B		N2° W	146	116	39			SK1546,S K1853			-	0				礎多敷入る。	
SK1562	137		II・D-14	中期後葉1	出土土器	楕円	A		N22° W	90	76	44			SK1863			-	0				土器片入る。	
SK1577	137		II・D-13	中期後葉4	出土土器	楕円	A		N69° E	50	46	29						-	0				土器(完形)1点埋置,断面なし。	
SK1710	137		I・X-13			楕円	B		N59° W	84	72	18						-	0				底部に斜めに掘り込む穴あり。同一土坑楕円か。	
SK1756	137		I・X-18			不整	B2	平坦	-	80	60	26			SK1471		平面図上	有り	0					
SK1887	136		II・D-3			円	B		-	126	96	30			SK1354		平面図上	-	0		礎含む			
SK1888	136		II・D-3			楕円	B		N76° W	118	106	47			SK1354,SK1889		平面図より	-	0					
SK1889	136		II・D-3			長楕円	B		N44° W	114	108	28			SK1888		平面図上	-	0		礎含む			
SK1925	137		II・D-6	後期前葉2	出土土器	円	A1		-	104	96	56			SB61		有り	3					IBSB61P7,後期の土坑。	



## 第3節 縄文時代の遺物

### 1 概要

縄文時代に比定される全遺物量は膨大な量にのぼる。その内訳は、遺構内出土土器が約1,223kg（遺構外と先行して復元した個体は未計測）、遺構外を含めた土製品の数量は36点（1,183g）である。また、石を素材とした遺物（遺構外含む）は、搬入礫・敷石を除いた石器・石器素材・屑の総数が13,231点（約980kg）に達した（表10）。

各遺物の時期は、縄文時代中期前葉（初頭）から後期前半にわたる。そのうち、集落が台地上に展開する中期後葉の遺物が圧倒的に多くなっている。ただし、隣接する長峯遺跡で集落が形成され、発展してゆく中期前葉4期～中葉4期（細別時期は第3節2参照）の遺物は皆無である。

中期の土器は堅穴住居跡からの出土が中心で、斜面地でのいわゆる土器捨て場の形成は確認できていない。これは、後世、台地縁辺部が自然の営力によって削剥されたため、元来の有無は不明である。また、後期の土器については包含層からの出土が主体である。当センターが調査した台地上の地点では、掘り込みの確認できなかった遺構（掘立柱建物・敷石住居跡）が中心であった。そのため、遺物の多くは包含層取り上げになっている。本来はいずれかの遺構に伴う場合もあろう。ちなみに、後期集落の掘り込みを有する遺構の密集地は隣接斜面部である（茅野市教育委員会2004）。

土製品のうち土偶は、大規模な集落としてはごく少量（4点）にとどまった。その他、中期後葉の耳飾、土器片製円板などが出土している。また、骨製品が1点出土した。

石器に関しては、黒曜石原産地群から至近距離にあるため、小形石器の99%が黒曜石という特徴を持つ。また、SB46やSK387に見られるように、原石・石核をストック、埋納した状況が認められる。

調査地点が、高燥な台地上でしかも火山性土壌であったため、動植物遺体はわずかであった。炭化物そのものが極端に少なく、炭化材（同定されたものはクリ）が少量？認められたにとどまる。

表10 聖石遺跡出土遺物の概要

	時代	種別	点数	重さ(g)	備考
土器	縄文時代	深鉢、浅鉢、有孔 鏝付、釣手ほか	—	—	遺構出土土器で 1,223,457g以上 (ごく一部計測落ち)
土製品		土偶ほか	6	667	土偶4、耳飾2
		土器片製円板	30	516	
石器		石鏃、打斧、磨斧、 磨石ほか	13,231	980,296	石柱・丸石・礫計測せず
骨製品		骨製品	1	1.31	
植物遺体		クリ炭化材ほか	39	3,116	
その他		赤色顔料	3	81	土付着状態
金属製品	近世以降	寛永通宝、鉄滓ほ か	3	21	
動物遺体	近世以降	ウマの歯	1	259	
合計	—	—	13,314	984,957	

2 土器

(1) 概要

聖石遺跡から出土した土器は、計測を行った遺構に限ってみても約1,223kgを越えている(表13)。これらの整理方法・本書への掲載方法については、第1章第2節(2)を参照していただきたい。聖石遺跡出土土器のデータは、表11掲載土器の一覧表、表14主要土器属性表であり、前者はCD所収である。併せて参照していただきたい。

表11 聖石遺跡図版掲載土器・土製品一覧 (SB冒頭部分)

図版番号	PL 番号	CD掲載 写真番号	14C・ 胎土分 析番号	赤 彩・ 漆番 号	復元 通番 号	遺 構 記 号	遺 構 番 号	地点・層位名 (ピット名変更 有 備考参 照)	主要接合注記 記号(ピット名 変更有 備考 参照)	接合片 (ピット名変更有 備考参照)	同一個体未接 合片(ピット名 変更有)	遺物 名称	重量 g	口径 cm	底径 cm	器高 cm	備 考
138	1	巻頭4	SB0002_001	132	132	SB	2		埋カ?	埋カ?P235		土器	3400	26		-34.5	
138	2		SB0002_002		172	SB	2		P02	P02P137		土器	1090	19.9		-7.3	-19.5
138	3				1665	SB	2		p1			土器					
138	4	23	SB0002_004		173	SB	2		P220	P131P152P63P122P201P202 P205P206P208P209P218P21 9P220Z1廣		土器	1780	24.5	-8.5	25.6	

(2) 時期区分

聖石・長峯・別田沢遺跡共通の時期区分を行い、特に出土量の多かった中期に関しては細別を行った。時期区分は、当遺跡の分析が進まなかったため、既存の研究を参考として行った(表12)。

表12 聖石・長峯・別田沢遺跡時期区分対照表

本報告		八ヶ岳西南麓	南関東	
中期	前葉	I	籠畑Ⅱ	五領ヶ台Ⅰ
		Ⅱ	九兵衛尾根Ⅰ	五領ヶ台Ⅱa
		Ⅲ		五領ヶ台Ⅱb
	中葉	Ⅳ	九兵衛尾根Ⅱ	五領ヶ台Ⅱc
		Ⅴ		五領ヶ台直後
		I		貉沢
後葉	Ⅱ	新道	勝坂Ⅱ	
	Ⅲ	藤内	勝坂Ⅲ	
	Ⅳ	井戸尻Ⅰ	勝坂Ⅳ	
	Ⅴ	井戸尻Ⅲ	勝坂Ⅴ	
	I	曾利Ⅰ	加曾利E1	
Ⅱ	曾利Ⅱ	加曾利E2		
Ⅲ	曾利Ⅲ	加曾利E3		
Ⅳ	曾利Ⅳ	加曾利E4		
Ⅴ	曾利Ⅴ	加曾利E4		
後期	初頭		称名寺	
	前葉	I	堀之内Ⅰ	
		Ⅱ	堀之内Ⅱ	

※八ヶ岳西南麓の時期区分については、藤森・武藤ほかの研究史をまとめた長崎1997・1998を主に参照し、南関東については今村1985、下総考古学研究会1985・2000ほかを参照した。

※型式間の平行関係については研究者ごとに差異があるため区分線をあえて入れなかった。

表13 聖石遺跡 出土遺物一覧(1)

※土器総量は復元個体に未計測があったため掲載しない

※土器総量には、石柱・丸石、敷石・礫は含んでいない。遺構外の土器は計測していない

遺構名	遺構所属時期					覆土出土土器の時間幅 (微量混入を除く)	掲載土器 重さ(g)	石器・石器素材総量		備考
	記号	番号	認定資料	大時期区分	中時期区分			小時期区分	点数	
SB	1	覆土出土土器	後期	前葉	1?	中期後葉4~後期初頭	407	29	453.74	混入多い
SB	2	埋壘	中期	後葉	2	中期後葉2~3	7,406	304	20,065.14	
SB	2.12	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	9	113.06	遺構別分離不可
SB	3	埋壘	中期	後葉	3	中期後葉1~4	16,200	61	16,469.25	4期の埋壘2個体、1期転用埋設土器有り
SB	4	伏壘?	中期	後葉	4	中期後葉	4,781	376	16,920.87	
SB	5	埋壘	後期	初頭		後期初頭	3,599	36	48.10	掲載土器包含層取り上げより抽出
SB	6	—	—	—	—	—	0	0	0.00	
SB	7	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉1~2	47,199	215	6,911.72	
SB	8	覆土出土土器	中期	後葉	1	中期後葉1~(2)	25,125	103	2,786.11	
SB	9	覆土出土土器	中期	後葉	1	中期後葉1	31,471	104	11,558.33	
SB	10	ヒット内	中期	後葉	5?	中期後葉~後期前葉	715	9	3,513.88	小片混在
SB	11	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉4~5	1,370	187	4,067.77	
SB	12	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉3~	5,393	299	3,515.82	
SB	12.27	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	3,917	9	165.95	遺構別分離不可。掲載土器は各住居へ振り分け
SB	13	炉内ほか	中期	後葉	3	中期後葉2~3	4,277	136	4,475.39	
SB	14	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉3~5	2,136	43	1,482.68	
SB	15	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	0	0	0.00	小片のみ
SB	16	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	22	2	100.24	小片のみ
SB	17	覆土出土土器	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	3,536	70	5,624.87	
SB	17.18	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	1	22.19	遺構別分離不可
SB	18	埋壘	中期	後葉	3	中期後葉1~5	8,724	95	1,614.81	1期転用埋設土器有り
SB	18.21	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉?	0	2	23.78	遺構別分離不可
SB	19	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	24,372	229	12,158.66	
SB	20	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4	2,114	17	128.90	
SB	21	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉2~3	1,090	62	711.46	
SB	22	覆土出土土器	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	1,287	9	50.71	
SB	23	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	1,600	126	14,538.20	
SB	24	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉2	10,386	109	4,927.86	
SB	25	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	2,204	96	13,190.96	
SB	26	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉1~2	11,202	50	63,861.38	
SB	27	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉4~5	3,612	39	11,339.26	SB12と分離不可遺物あり
SB	28	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉2~4	2,940	30	3,836.57	
SB	29	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉5	575	75	3,353.52	
SB	30	覆土出土土器	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~5	1,348	35	21,548.96	
SB	31	炉	中期	後葉	5	中期後葉2~5	232	8	1,687.35	
SB	32	埋壘	中期	後葉	2	中期後葉2~3	12,328	294	8,031.79	
SB	33	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉5	1,500	8	1,760.13	
SB	34	ヒット他	中期	後葉	?	中期後葉	5,773	8	2,566.16	
SB	35	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉1~2	5,773	8	755.73	
SB	36	埋壘	中期	後葉	3	中期後葉3~4	31,035	200	5,294.02	
SB	37	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4~5	10,490	79	47,875.78	
SB	38	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉4~5	2,375	4	1,615.00	
SB	39	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉3~4	25,884	224	12,869.16	
SB	40	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉3~4	11,669	155	9,150.73	
SB	41	炉内ほか	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~4	973	14	16,017.39	
SB	42	埋壘	後期	前葉	1	中期後葉~後期前葉	1,200	1	4.26	掲載土器包含層取り上げより抽出
SB	43	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉4~5	16,874	156	14,438.56	
SB	44	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4~5	6,365	83	35,418.97	
SB	45	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	0	10	1,022.68	大半の土器SB90へ
SB	46	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉2~3	631	34	852.50	上層に後期の土器
SB	47	埋壘	中期	後葉	3	中期後葉3	8,325	49	5,118.47	
SB	48	埋壘	中期	後葉	1	中期後葉1~2	8,690	23	1,095.33	
SB	48.49	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	2	20.30	遺構別分離不可
SB	49	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4	3,110	14	802.52	SB48-49取り上げから抽出
SB	50	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉2~3	5,562	50	5,261.31	
SB	51	覆土出土土器	中期	後葉	2?	中期後葉	143	2	14.49	小片のみ
SB	52	炉内	中期	後葉	4	中期後葉4	2,134	22	1,789.58	
SB	53	ヒット内	中期	後葉	3	中期後葉	2,490	5	237.12	小片のみ
SB	54	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉3~4	1,480	32	616.56	
SB	55	炉内	中期	後葉	4?	中期後葉3~5?	343	13	4,736.13	
SB	56	炉内	中期	後葉	3?	中期後葉	217	5	3,371.84	小片のみ
SB	57	埋壘	中期	後葉	4?	中期後葉4~5	4,170	5	16.73	
SB	58	埋壘	中期	後葉	3	中期後葉3~4	14,020	90	6,782.70	

表13 聖石遺跡 出土遺物一覧(2)

※土器総量は復元個体に未計測があったため掲載しない

※石器総量には、石柱・丸石、敷石・礫は含んでいない。遺構外の土器は計測していない

遺構名		遺構所属時期				覆土出土土器の時間幅 (微量混入を除く)	掲載土器		石器・石器素材総量		備考
記号	番号	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		重さ(g)	点数	重さ		
SB	59	炉内ほか	中期	後葉	3	中期後葉	1,077	9	146.08		
SB	60	炉内	中期	後葉	4	中期後葉1~4	1,344	58	2,224.89		
SB	61	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉3~5	5,268	24	195.80		
SB	62	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉5	2,668	41	3,676.26		
SB	63	覆土出土土器	中期	後葉	3	中期後葉3~	9,713	16	1,673.13		
SB	64	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉1~4	4,033	24	574.33		
SB	65	覆土出土土器	中期	後葉	1?	中期後葉1~	207	16	572.24	小片のみ	
SB	66	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉3~4	8,780	40	840.71		
SB	67	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4~5	9,028	104	3,483.31		
SB	67.68	覆土出土土器	中期	後葉		中期後葉	0	7	22.95	遺構別分離不可	
SB	68	覆土出土土器	中期	後葉	4?	中期後葉4前後	764	22	64.51		
SB	69	ピット	中期	後葉	2?	中期後葉2~5	654	17	10,924.63	新しい土器は最上層	
SB	70	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉2	540	17	1,170.54		
SB	71	覆土出土土器	中期	後葉	4	中期後葉2~4	6,326	15	1,638.21		
SB	72	覆土出土土器	中期	後葉	?	中期後葉	0	2	34.88	小片のみ	
SB	73	覆土出土土器	中期	後葉	2	中期後葉2~	8,162	24	1,434.69		
SB	74	炉内ほか	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~4	1,171	34	2,409.58		
SB	75	炉、ピット内	後期	前葉	1	中期後葉~後期前葉	4,936	44	10,638.34		
SB	75.85	覆土出土土器	-	-	-	中期後葉	0	4	4.84	遺構別分離不可	
SB	75.86	覆土出土土器	-	-	-	中期後葉	0	0	0.00	遺構別分離不可	
SB	76	炉内	中期	後葉	3	中期後葉3	720	0	0.00		
SB	77	炉内	中期	後葉	4	中期後葉4	1,140	0	0.00		
SB	78	覆土出土土器	中期	後葉	3?	中期後葉	77	2	35.77		
SB	79	埋壘	中期	後葉	5	中期後葉5	1,548	2	9.25		
SB	80	覆土出土土器	中期	後葉	5	中期後葉4~5	1,793	50	5,953.46		
SB	81	炉内	中期	後葉	3~4?	中期後葉3~5	277	3	15.43		
SB	82	埋壘	中期	後葉	3.4	中期後葉3~4	12,237	123	14,800.75		
SB	83	覆土出土土器	後期	初頭?		後期	127	2	5.12	小片混在	
SB	84	炉内	中期	後葉	?	中期後葉	227	-	-	小片のみ	
SB	85	埋壘	中期	後葉	4?	中期後葉4~5	2,587	7	475.04		
SB	86	ピット内	後期	前葉	?	後期前葉	532	2	380.00	小片混在	
SB	87	埋壘	中期	後葉	?	中期後葉5?	563	3	7,028.20	無文	
SB	88	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4	1,370	1	20.06		
SB	89	覆土出土土器	後期	前葉	1?	中期後葉~後期前葉	177	4	1,550.00	小片混在	
SB	90	埋壘	中期	後葉	3	中期後葉3~	1,826	0	0.00	SB45と分離不可遺物あり	
SB	91	埋設土器	後期	前葉	?	中期後葉~後期前葉	983	0	0.00	包含層取り上げより抽出	
SB	92	覆土出土土器	後期	?	?	中期後葉~?	671	20	931.15	小片混在	
SB	93	-	-	-	-	-	0	0	0.00		
SB	94	覆土出土土器	後期	初頭?	?	中期後葉~後期前葉	191	10	112.74	小片混在	
SB	95	ピット内	中期	後葉	1	729	1,629	1	420.00	SB60と分離不可遺物あり	
SB	96	埋壘	後期	初頭		中期後葉~後期初頭	649	0	0.00		
SB	97	-	-	-	-	-	1,587	0	0.00		
SB	98	覆土出土土器	後期	初頭?		後期	108	1	4.15	小片のみ	
SB	99	埋壘	中期	後葉	4	中期後葉4	1,500	0	0.00		
SB	100	埋設土器	後期	前葉?	2?	後期	1,254	0	0.00		
SB	101	覆土出土土器	後期	前葉	1	後期	43	4	4,046.68	小片のみ	
SB	102	埋設土器	後期	前葉	1	後期	1,186	3	10.76		
SB	103	覆土出土土器	後期	前葉?	1?	中期後葉~後期	173	3	3.79	小片混在	
SB	104	覆土出土土器	後期	初頭		中期後葉~後期	795	1	1.11	包含層取り上げより抽出	
SB	105	埋壘	中期	後葉	5	中期後葉4~5	2,879	7	59.43		
SB	106	埋設土器	後期?	?	?	?	580	0	0.00	無文	
SB	107	埋設土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	277	0	0.00	小片混在	
SB	108	埋設土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	1,285	0	0.00		
SB	109	埋設土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	3,699	6	338.76		
SB	110	覆土出土土器	後期	初頭	-	中期後葉~後期	242	8	5.76		
SB	111	覆土出土土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	476	57	6,589.74		
SB	112	埋設土器	後期	前葉	1	中期後葉~後期	4,236	0	0.00		
SB	合計						527,109	5403	523,330.50		
ST	合計	ピット	中期~後期			中期~後期	1,611	42	611.53		
SK	合計	覆土出土土器	中期~後期			中期~後期	48,783	458	163,323.39		
SX	合計	本体	中期~後期			中期~後期	64,013	44	1,701.33		
SF	合計	覆土出土土器	中期~後期			中期~後期	3,130	20	132.22	包含層取り上げより抽出	
SQ	合計	散布	中期			中期	8,501	12	129.22		
SD	合計	覆土出土土器	中期			中期	0	38	78.00		
LM	合計						0	11	1,398.37		
遺構外	合計						14,145	2371	351,390.19		
総計							667,292	8399	1,042,094.75		

聖石遺跡から出土した土器は、縄文時代中期後葉を中心に、後期初頭～前葉の土器がそれに次ぐ。さらに、中期前葉、中期中葉の土器が若干認められた。

**中期前葉** 土坑および包含層から、前葉3期の沈線文系土器が少量出土している。縄文系土器は極微量である。また、前後の段階の土器は認められず、調査地区内での継続性はない。

**中期中葉** 集落の成立期は後葉1期である。ただし、後葉1期の竪穴住居内から中葉に遡りうる土器が数点認められる。SB07（図版144-28）香炉形土器、SB09（図版149-16）把手を図示した。特殊器形で組成中に占める割合も少なく、加飾性の高いトロフィー型深鉢の把手部であり、伝世された可能性もある。

**中期後葉** 集落が成立する後葉1期から5期までの全時期を通して、竪穴住居跡の埋土を中心に出土している。

**後期** 中期との断絶はなく、後期初頭から前葉にかけての土器が住居跡や包含層から出土している。

### （3）個別土器の属性（図5・6）

図上復元可能な土器の内、主要なものに関してはその属性を観察し表（表14）を作成した。ここに示した属性を見ることによって、時期毎の特徴や変遷過程がある程度把握できるものと考えた。属性表に記載した観点は以下の通りである。

**ア 出土位置および出土状況** 掲載土器一覧表（CD表11）に出土位置を記載した。遺物分布図とともに参照したい。

**イ 器種・器形** 主として用途に関連する属性である器種、器形については以下の区分を行った。法量の記載は掲載土器一覧表（CD表11）に記した。

**a. 器種** 深鉢形、壺形、鉢形、浅鉢形、釣手土器、有孔鏝付土器などがある。深鉢には甕形、樽形、壺形、筒形などに区分すべき形態の土器も見られるが、その境界は漸移的である。そのため、ここでは一括して深鉢形とした。

**b. 深鉢形の器形** 深鉢形には、多様な形態変化が認められる。ここでは、実用的な機能部分を重視するため、器内面の形状によって分類した。そのため、把手や過剰な隆線系装飾によって変形を被る器外面の形状については「④装飾」の項で触れる。よって、装飾による区分である「口頸部文様帯」とここで言う「口頸部（器上半部）」は異なる範囲を指す場合がある（図5）。

分類基準は、口頸部と体部境の器形変換部（くびれ部）で上・下に2分し、上半部をⅠ～Ⅳ、下半部をA～Dに大分類した。また、器形変換部を持たない例をV類とした。さらに、各々算用数字によって細分した。表14への記載は、上下の分類記号の組合せによって示した（例えばⅠ2C3）。

#### <口頸部>（上半部）

##### Ⅰ…口縁部が内湾する例

- 1 上下幅狭で、湾曲度少ない口縁部を有するもの
- 2 1より幅広であるが、湾曲度が小さく、最大径が上部に偏るもの
- 3 1より幅広で、最大径が口縁部中位にあり、湾曲が明瞭なもの
- 4 1～3より幅広になり、口縁部から頸部へ緩やかに推移し、最大径が口縁部上方に偏るもの
- 5 器形変換部から大きく外反した後、口縁部で大きく内湾するもの
- 6 器形変換部から大きく外反した後、口縁部上端付近で急激に内湾するもの
- 7 6に類似するが、口縁部上端付近で鋭角に屈曲するもの

##### Ⅱ…口縁部と頸部境が屈曲する例

- 1 頸部が外反し、口縁部で直に立ち上がるもの



- 2 頸部が大きく外反し、口縁部が直に立ちあがるもの
- 3 口頸部が袋状に湾曲し、口縁部上端付近が垂直か外側へ屈曲するもの

Ⅲ…垂直および外反する例

- 1 頸部からほぼ垂直に立ち上がるもの、口縁部との境が不明瞭な例
- 2 頸部から口唇部まで外反するもの、口縁部との境が不明瞭な例

Ⅳ…口頸部が未発達な例。甕形、樽形土器のように、頸部に相当する無文帯が体部上にわずかにつく例をⅢ類から分離した。

- 1 幅狭の頸部が内傾するもの
- 2 幅狭の頸部がほぼ垂直に立ち上がるもの
- 3 幅狭の頸部が外反するもの

Ⅴ…口頸部がないもの。厳密には、体部分類のみで足りるが、一応体部上半部が直になる(1)、と外反する(2)に分けた。

<体部>

A…最大径が体部下半部にある例

- 1 口縁部よりも最大径が大きく張り出すもの
- 2 口縁部径とほぼ同程度か、やや小さい程度に膨らむもの
- 3 膨らむものの、径が口縁部径より小さいもの
- 4 体部上半・中位に比べほんのわずか膨らむもの

B…最大径が体部中位にある例

- 1 口縁部よりも最大径が大きく張り出すもの
- 2 口縁部径とほぼ同程度か、やや小さい程度に膨らむもの
- 3 膨らむものの、径が口縁部径より小さいもの
- 4 体部上半や下半部に比べほんのわずか膨らむもの

C…最大径が体部上半部にある例

- 1 底径との差が大きく、口縁部よりも最大径が張り出すもの
- 2 口縁部とほぼ同程度か、やや小さい程度膨らむもの
- 3 膨らむものの、径が口縁部径より小さいもの
- 4 ほぼ直線的に頸部へ向かって開くもの

<口縁部>

Y…山形口縁

- 1 山形の先端部が鋭角になるもの
- 2 山形の先端部が平ら、あるいは扇状把手になるもの
- 3 1と2の中間形態か、複雑な形状を示すもの

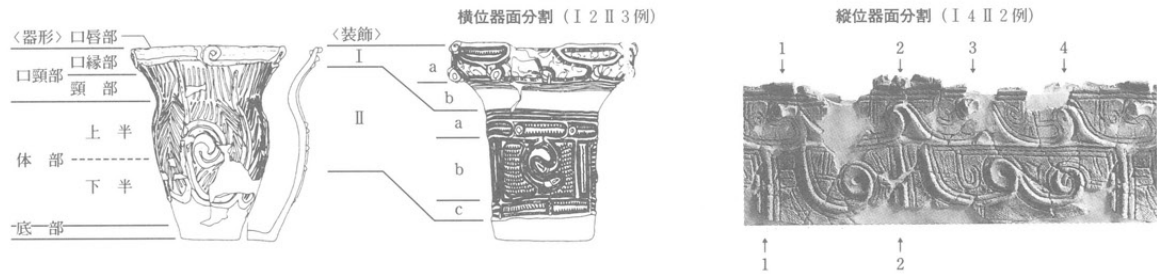
H…平縁

- 1 口唇部上端が平らなもの
- 2 口唇部上に口縁部文様帯の突起などがわずかに飛び出すもの
- 3 平らな口唇部に、大形把手や突起が付けられたもの

<口唇部>

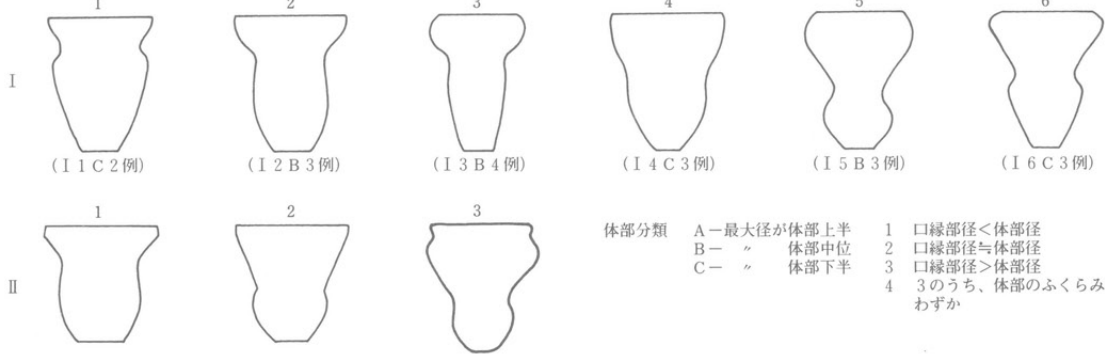
- A 口唇端部に膨らみや屈曲を持たないもの
- B 口唇端部にわずかな膨らみを持たせたもの

器形分類の呼称法と装飾分類の区分

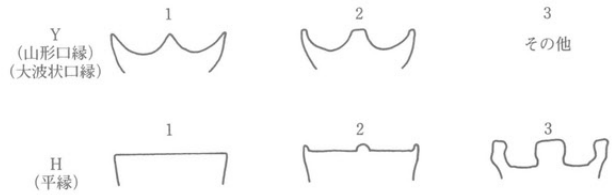


器形分類 (全体 側面形)

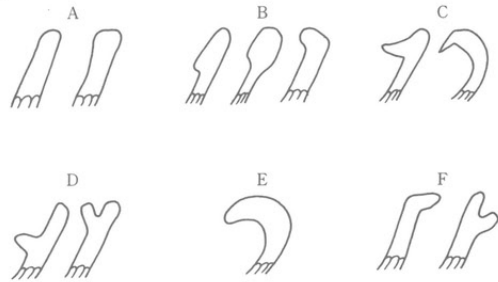
口頸部分類



口縁形態分類



口唇形態分類



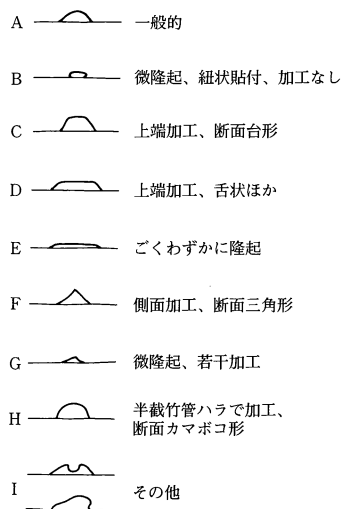
底部形態分類



図5 土器観察表 分類規準と記号 (1)

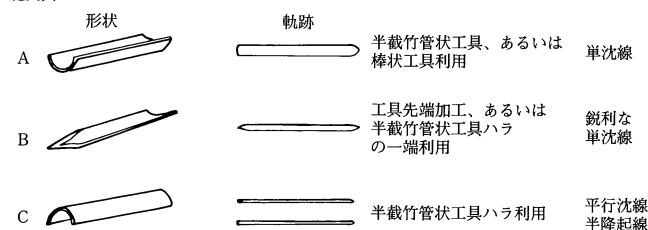
隆線系装飾の分類

断面形態

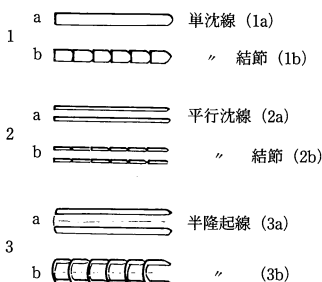


沈線系装飾の分類

施文具



沈線の形状



※属性表中 半截竹管状工具ハラを利用 (C) して、半径起線 (3) を単純に施文 (a) した場合 C3a と表示

図6 土器観察表 分類規準と記号 (2)

- C 口唇端部で、内側へ大きな張り出しを持つもの
- D 口唇端部やや下方で、内側へ張り出し部を有するもの
- E 口唇部を内側へ大きく折り曲げたもの
- F 口唇端部の外側に張り出し部を有するもの (装飾として隆線を貼り付ける例は除外する)

<底部>

- a 外側に張り出すもの
- b 底部の端部に大きな変形・加工が加えられないもの
- c 底端部が面取りされ、内側に屈曲するもの
- d 体部下方で大きく屈曲するもの (屈折底)
- e 底部が極端に狭まるもの
- f 台が付くもの

ウ 基本的な造形 装飾に関わる側面を除外し、容器そのものの製作に関連する属性として、以下の項目の記載を行った。胎土 (粘土の選択・混和材などの調整に関わる点)、底部圧痕 (製作台への設置方法などに関わる点)、色調 (焼成方法に関わる点) の3項目である。胎土・色調は系統や製作された地域の差が出る場合があり、底部圧痕では時期差や地域差が現れる。

a. 胎土 肉眼観察時の個人差が出にくい程度にとどめた。主な混和材の有無によって大雑把な傾向をとらえることにした。一つは雲母・石英の有無。もう一つは、白色粒子とした岩片中で、火砕流堆積物や軽石起源と想定されるつやのない岩片 (白1) と、深成岩や川砂起源と想定されるつやのある岩片 (白2) を目安にした。さらに川砂起源と想定される明瞭な円礫、あるいは赤色粒が認められた場合は、その旨を記載した。

b. 底部圧痕など 土器成形時の特徴を網羅的に観察することができなかつたため、底部の処理だけを

取り上げた。土器製作時（回転させるか否か）における台との接点をどうするか、あるいは、作業後底部に付いた製作痕跡を処理するのか、など製作の流儀を知るための項目として、網代痕・木葉痕、回転による擦痕の有無、などを観察した。上記の痕跡が認められない（消された）例については、「磨」と記した。焼成前に網代痕などを消すために磨く例、単に底部成形時の磨きが残存した例などさまざまであるが、今回は細別する時間がなかった。また、網代痕が部分的に残存する例については、底部と体部下半部との接合方法、あるいは、底部から敷物を取り除いた後の処置の仕方に関わってくると思われるが、今回は観察・分析を行えなかった。

**c. 色調** 胎土に含有される鉱物の差が現れるほか、土器製作上の重要な要素である焼成方法の違いによって差が生じると考えられる。『標準土色帳』を目安とした。明らかな黒斑による黒色や二次焼成による赤色の記述は除外した。

**オ 装飾** 容器としての実用的な機能以外で、縄文土器の重要な属性が装飾である。ここでは、地文(充填文)、装飾の割付方法、隆線系装飾、沈線系装飾の項目を設定し、各々の特徴を観察した。さらに、施文順序についても記した。時期差・地域差などが明瞭に表れる部分である。

**a. 地文および充填文ほか** 一般的に地文と呼ばれている縄文や条線文などについて記述する。しかし、そのほとんどは主要装飾施文後、空白部を埋めるために施されていたため、充填文と同じ項目とした。

使用した工具の差として、半截竹管のセを利用した単沈線、ハラを利用した半隆起線（平行沈線）、櫛歯状工具・簾状工具などによる条線、それに縄文の別を記した。条線は工具の幅、縄文は撚りの特徴、沈線は列点か「ハ」字状かなどを記した。また、区画文などが全面に施され、その内部を充填している例はこの項目から除外し、沈線系装飾の項目に記した。

**b. 装飾の割付** 縦方向の器面分割と、横方向での器面分割の方法について観察を行った。縦方向の分割では、残存率で全周する例に限られるため、大雑把な把握に止めた。

**縦位分割** 口縁部の把手・突起、体部の主要な単位装飾（懸垂文など）の数によって、器面が何分割されているかを見る。Ⅰ帯（器面上部）とⅡ帯（器面下部）で分割数に違いが認められる場合があるので、Ⅰ5Ⅱ4と2段の数値で表示した。

**横位分割** 口縁部から底部までを何分割して、各々に装飾を配しているのかを見る。上部をⅠ、下部をⅡとし、さらに各々を算用数字で細別した。器形変換点である口頸部・体部の区分とは必ずしも一致しない。また、頸部などに見られる無文帯も1としてカウントしてあるため、「紋様帯」とは異なる。文様の有無にかかわらずあくまで分割方法を観察した。一方、底部付近の無文帯は意図的な無文帯でない例があるためカウントしていない。

**c. 把手・突起類** 有無とその特徴のみを簡単に記した。

**d. 隆線系装飾** 粘土紐や粘土塊を整形し貼付して描出した装飾を隆線系装飾とした。

**隆線の類別** 隆線は断面の形状によって、A～Iに分類した（図6参照）。時期や地域による製作者集団のクセなどがあらわれやすい部分である。

**幅と高さ** 隆線には、多種多様の幅と高さを持った例が存在し、時期差や系統差を示す可能性がある。幅については計測が比較的簡易にできるため、粘土紐の末端や湾曲部分を避けて計測した。高さについては、計測値を示した。しかし、一個体の土器において一定の高さに保たれた例が少ないこと、大形土器と小形土器で同じ高さであっても隆線の性質が違っている場合があることなどから、参考程度に見てほしい。

**組（本）数** 特定の系統によっては、複数の隆線を平行させて使用する例や、一本の隆線を二分している例などが認められるため、この観察項目を設定した。二分している例は1本とし、隆線上装飾の項目で二分と記した。二本並列させて貼付し、その中間部分を工具で割り直している例は、2本とした。

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(1)

白1は不透明・つやなしの白色粒子(火山岩・軽石ほか)、白2はつや有りの白色粒子(深成岩?)  
石=石英、雲=雲母

図版番号	復元番号(通し)	住居番号	板土器番号	出土地点など		器種	器形				基本的な造形				装飾割付				
				層位・取上番号	接合関係		類別	口縁部	口唇部	底部	胎土	底部圧痕ほか	地文、(充填装飾)	色調	縦位分割	横位分割	分割方法		
138	1	132	SB	2	1	埋カメ	別表	深鉢	I 2C2	H2	D	-	白1多、雲母微	-	単沈充填	にぶい黄橙	I 4 II 4	I 2 II 1	
138	1	133	SB	3	1	埋カメ3	別表	深鉢	I 4C?	H1	B	-	白1	-	条線状半隆起線	黒褐	I 4 II?	I 1 II 1?	
138	2	172	SB	2	2	P02	別表	深鉢	III 2C3	H2	C	b	白1、2多	-	11mm条線	赤褐	I (3) II 4	I 2 II 1	
138	2	134	SB	3	2	埋カメ	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	-	白1、白2、黒粒	-	半隆起線	赤褐～褐	I 0 II 4	I 1 II 1?	
138	4	173	SB	2	3	P220	別表	深鉢	I 2C3	H2	B	b	白1、黒雲母	磨	単沈充填	にぶい橙	I 5 II 4	I 2 II 1	
139	1	179	SB	4	4	P35	別表	深鉢	V C3	H2	A	-	白2、雲母	-	条線状半隆起線	黒褐	I 8 II 8	I 1 II 1	
139	2	176	SB	4	1	P54	別表	深鉢	? B2	-	-	-	白1、白2、雲	-	条線状半隆起線	褐灰～にぶい黄褐	I ? II 3	I ? II 1	
139	3	135	SB	3	3	埋カメ1	別表	深鉢	I 4C2	H1	C	-	白2、雲、石	-	雨だれ状列点	明赤褐～褐灰	I 0 II 5	I 1 II 2	
139	3	181	SB	4	6	P25	別表	深鉢	III 2C3	Y1	A	b	白1、白2、雲	網代	幅13mm条線?	褐灰～にぶい黄褐	I 3 II 3	I 0 II 1	
139	4	136	SB	3	4	埋カメ2	別表	深鉢	V C3	H1	A	-	雲、白2	-	幅14mm条線?	黒褐～にぶい橙	I 0 II 6	I 0 II 1	
139	5	137	SB	3	5	P1	別表	深鉢	V C2	H3	C	-	白1、石、雲	-	単沈線	赤褐	-	I 2 II 1	
140	1	162	SB	7	24	P620	別表	深鉢	III 2D1	H1	A	-	白1、雲極微	-	条線状平行沈線	褐～にぶい橙	I 0 II 4	I 1 II 2	
140	2	146	SB	7	8	P658	別表	深鉢	I 4B2	H1	E	-	白1多	-	幅15mm条線	にぶい黄橙～橙	I 0 II 6	I 1 II 2	
140	3	155	SB	7	17	P652	別表	深鉢	III 2B2	H1	C	-	白2多、石、雲	-	条線状半隆起線	にぶい黄褐～赤褐	I 0 II 4	I 2 II 2	
140	4	153	SB	7	15	P613	別表	深鉢	I 6C3	H1	C	-	白1多	-	半隆起線	にぶい黄褐～赤褐	I 0 II (4)	I 1 II 1	
140	7	180	SB	4	5	P87	別表	深鉢	I 4B3	H2	B	b	白1	磨	単沈線	褐灰～明褐	I ? II 4?	I 1 II 1	
141	5	140	SB	7	2	P656	別表	深鉢	I 4B2	H3?	C	-	白1、2	-	列点	明赤褐～褐灰	I 4? II 4	I 1 II 1	
141	6	161	SB	7	23	P605	別表	深鉢	I 6B2?	H1	E	-	白1	-	条線状平行沈線ほか	にぶい赤褐	?	I 1 II 2	
141	7	142	SB	7	4	P601	別表	深鉢	I 6C3	H1	C	-	白1大多	-	半隆起線	灰黄褐～褐灰	I 6? II 6?	I 1 II 1	
141	9	283	SB	7	31	P651	別表	深鉢	I 6B2	H2	C	-	石、白1少	-	半隆起線	にぶい赤褐～灰褐	I 4 II 4	I 1 II 1	
141	10	171	SB	7	28	P-822	別表	深鉢	I 7B2	H1	C	-	白1、黒雲母微	-	磨き	にぶい赤褐～褐灰	I 5 II 5	I 1 II 1	
141	11	147	SB	7	9	P657	別表	深鉢	I 4C2	H1	C	b	白2大、雲	木葉	条線状半隆起線	褐灰～にぶい橙	I 4 II 4	I 1 II 1	
142	12	157	SB	7	19	P600	別表	深鉢	I 6C3	H1	E	b	白1	風化	RL縄文	にぶい赤褐～黒褐	I 0 II (8)	I 1 II (2)	
142	15	160	SB	7	22	P602	別表	深鉢	I 4B3	H1	C	-	白1	-	LR縄文	にぶい赤褐～褐灰	I 0 II 3.5	I 1 II 1	
142	16	163	SB	7	25	P653	別表	深鉢	I 4A2	H1	C	b	白1	ナデ	LR縄文	にぶい黄橙～赤褐	I 0 II 4	I 1 II 1	
142	18	148	SB	7	10	P162	別表	深鉢	I 4B3	H1	A	-	白1多、雲母微	-	LR縄文	赤褐～黒褐	-	I 1	
142	19	144	SB	7	6	P612	別表	深鉢	I 4B2	H1?	A	b	白1大多	なし	結束LR縄文	赤褐～暗赤褐	I ? II 7	I 2 II 1	
142	20	151	SB	7	13	P603	別表	深鉢	I 2C4	H3?	B	-	白1多	-	RL縄文	黄灰～にぶい赤褐	?	I 1 II 1	
142	21	141	SB	7	3	P310	別表	深鉢	I 5-	H1	C	-	白1多	-	RL縄文	黒褐～褐	?	I 1 II 1?	
143	22	145	SB	7	7	P650	別表	深鉢	? B2	-	-	b	白1、石、雲	粘土追加	単沈線	赤褐～褐灰	I ? II 4(8)	I ? II 2	
143	23	158	SB	7	20	P617	別表	深鉢	III 2B2	H2?	D	-	白1	-	単沈線	にぶい赤褐～褐灰	I 2 II 4	I 1 II 1	
143	24	139	SB	7	1	P619	別表	深鉢	II 1A2	H3	C	c	雲・石・白1	ナデ	単沈線	褐灰～橙	I 4 II 4	I 3 II 1	
144	25	143	SB	7	5	P604	別表	深鉢	III 2B1	Y2	D	-	雲多、石、白1	-	単沈線	黒褐～暗赤褐	I 4 II 4	I 1 II 1	
145	1	182	SB	8	1	P160	別表	深鉢	III 2B3	H3?	C	b	石、雲ほか	網代?	条線状単沈線	明赤褐～黒褐	I 1 II 2(8)	I 1 II 2	
145	2	185	SB	8	4	P183	別表	深鉢	I 5C2	H1	E	b	白1多	磨き	隆線	赤褐～黒褐	なし	I 1 II 2	
145	4	186	SB	8	5	P184	別表	深鉢	? B2	-	-	b	大粒白2多、石	回転痕?	半隆起線	明赤褐～灰褐	I ? II 5	I 1 II 2	
146	5	184	SB	8	3	P187 P187	別表	深鉢	I 2C2	H1	C	-	白1、雲、石	-	条線状単沈線	明赤褐～褐灰	I 0 II 4	I 1 II 2	
146	6	183	SB	8	2	P162	別表	深鉢	I 2C3	H3	C	b	各種砂粒	なし	条線状半隆起線	褐灰～明赤褐	I 4 II 4	I 1 II 2	
147	2	201	SB	9	15	P361	別表	深鉢	I 3C4	H2	E	b	白1多	磨?	半隆起線	黒褐～明赤褐	I 4? II 4?	I 1 II 1	
147	3	203	SB	9	17	P370	別表	深鉢	III 1C3	H3	C	b	白1、雲母他	磨	半隆起線	黒褐～にぶい橙	I 2 II 4	I 1 II 1	
147	4	190	SB	9	4	P359	別表	深鉢	I 2B3	H1?	C	-	白1多	-	条線状半隆起線	黒褐(灰)～暗赤褐	I ? II 4?		
147	6	195	SB	9	9	P360	別表	深鉢	I 3B3	H2	B	b	白2、雲微	磨き	半隆起線	明褐～褐灰	I 2 II 2	I 1 II 1	
148	7	204	SB	9	18	P373	別表	深鉢	III 2B3	H3	A	b	雲、白2	磨	条線状単沈線、RL縄文	赤褐～黒褐	I 2 II 4	I 2 II 2	
148	9	205	SB	9	19	P364	別表	深鉢	I 6C2	H2	C	b	白2多	擦痕	磨き・短沈線	褐灰～橙	I 4 II 4	I 2 II 1	
148	10	206	SB	9	20	P369	別表	深鉢	I 3C2	H2	E	b	白1、2、雲	磨、擦痕	単沈線	にぶい黄橙～褐灰	I 4? II 4	I 2 II 1	
149	13	202	SB	9	16	P372	別表	深鉢	I 2C2	H3	E	b	白2ほか	回転痕	磨き	にぶい黄橙～にぶい黄褐	I 4? II 4	I 1 II 2	
149	15	197	SB	9	11	P374	別表	深鉢	? A3	-	-	b	各種砂粒	木葉磨き	磨き	明赤褐～褐灰	I ? II 5	I ? II 2	
150	18	199	SB	9	13	P323	別表	深鉢	II 3A2	H1	A	-	雲、石、白1	-	LR縄文	赤褐～黒褐	?	I 2 II (1)	
151	1	243	SB	12	1	P283	別表	深鉢	I 2C2	H1	D	-	白1	-	単沈線	にぶい褐～褐灰	I 4 II 4	I 2 II 1	
151	2	244	SB	12	2	P288	別表	深鉢	V	H3	D	b	白2他	不明圧痕	単沈線	明赤褐～褐灰	(1) 2 II 4	I 0 II 3	
151	3	207	SB	11	1	P-264	別表	深鉢	I 4B2?	H1	A	-	白1多	-	RL縄文	黒褐～にぶい褐	?	(I・II) 1	
151	5	247	SB	12	5	P284	別表	深鉢	I 1C2	H1	D	-	白1、砂粒	-	綾杉状単沈線	明赤褐～黒褐	I 4 II ?	I 2 II 2	
151	7	246	SB	12	4	P292	別表	有孔鐙付土器		H1	A	-	白?	-	RL縄文・磨き	にぶい黄橙～褐灰	?	?	

底部圧痕=なしは網代なしで、磨きなどが不明確なもの

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾						施文順序	備考(赤彩ほか)	
	形状	幅(mm)	高さ	粗数	貼付方法	隆線上装飾	形状	幅(mm)	深さ	刺突・陰刻文、その他	用例				
なし	A	5.5	2	2	4	なし	渦巻き、分帯	A1a/B1a	4/1.5	0.5~	交互刺突	隆線わき/充填	隆線→充填沈線→隆線わき沈線		
X字状把手	D	5~14	0.5以下	2	浅4		渦巻ほか	A1a/C3a	5~7/2.5	0.5	なし	隆線脇/充填	隆線→条線状沈線→沈線		
小突起	B	4.5	2.5	1	1	なし	蛇行懸垂	C3a	4	1	なし	充填	充填→隆線		
なし	A	5	1	2/3	4/5		区画線	C3a	3	0.7	隆線上刻み	充填	隆線→沈線充填→隆線上刻み		
小突起	A	11~19	5	1(2分)	1		区画線	A1a	3/5	1	なし	II区画文、充填	隆線→主沈線→充填沈線→修正沈線		
小突起	A	10	7	1	1/4		区画線	C3a/3/4~	1	なし	充填、隆線脇	隆線→充填沈線→隆線脇・蛇行沈線			
-	B	6	0.5	2	1		主装飾	A1a/C3a	5/3	0.1	なし	条線状充填	隆線→条線状沈線		
X字状把手	A	5~14	2.5以下	2/3	1/4	三分隆線	渦巻、S字文ほか	A1a	6	1	なし	隆線三分、充填	隆線→列点		
山形把手	C	10	1.5	1	3/4		区画線	A1a	4~5	0.5以下	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇・蛇行沈線		
なし	なし	-	-	-	-		-	A1a	5	1	なし	区画と蛇行沈線	区画沈線→条線→蛇行・修正沈線		
X字状把手	A	7	1.2	2	1/4		主装飾	A1a	2.5/5	0.8	沈線内刺突	充填、隆線脇	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	B	3~4	1~2	1/2	1/3		籠目文、懸垂文	C2a	3	0.8	なし	充填	主隆線→充填沈線→貼付隆線		
X字把手	A	6	3	3	1/4		単位装飾	A1a	3	1	なし	隆線脇	分帯隆線→隆線→条線→隆線脇沈線		
X字条把手	A	4~6	3~5.5	2	1/4		区画文	A1a/C3a	4/3	0.5以下	隆線脇、把手上刺突	隆線脇、充填	充填沈線→隆線→隆線脇沈線	主隆線と充填沈線の新旧不明	
なし	B	4~5	1.2	1	1		懸垂文、棒状貼付	C3a	5	1.7	なし	充填	沈線→隆線	沈線は再彫り下げ?	
小突起	E	9~12	1.5	1/2	1/4		区画線	A1a	2/5	0.5		隆線脇、充填	隆線→充填沈線→蛇行沈線		
大型把手	A+H	7	2.5	3	1/6	なし	蛇行隆線ほか	C3a/C2b	5.5	1以下	C2bによる列点	隆線押え/充填	隆線→隆線押え→列点		
なし	A	6	1~3.5	2/3	1/4		区画文と懸垂文	C2a/B1a	6.5	1	隆線間で沈線内再刺突	充填	隆線→沈線		
なし	B	7	2	1	1		懸垂文、貼付文	C3a	4	1~2	なし	重弧文、充填	懸垂隆線→沈線→貼付・口唇部隆線		
口唇部小突起	A	5~8	3	1	1/4	刻み	波状文、楕形文	C3a	4.5	1.7	隆線脇連続刺突	充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	-	-	-	-	-		-	C3a,b	5	1.2	なし	重弧文、懸垂文	上一下		
なし	A	6~9	2.5~6	2	1		渦巻その他	C3a	3	0.5	隆線脇押引文	充填	隆線→充填沈線→押引文	隆線脇下に下書き線	
なし	B	6	1.5	1/2	1		分帯、蛇行隆線	-	-	-	-	-	縄文(分帯隆線)→蛇行隆線(刺突)		
なし	A+H	7	1.2	2	1/4		U字文	A1a	3	0.5以下	なし	隆線脇	隆線・分帯沈線→縄文→隆線脇沈線		
なし	A	6	4	2	1/4		U字文	C3a	7	1.5	なし	分帯	縄文→分帯沈線→隆線		
なし	なし	-	-	-	-		-	A1a/B1a	5/3	1以上	連続刺突	分帯	縄文→沈線		
なし?	A	8	2	1/2	4		区画文	B1a	2	1	なし	隆線脇、懸垂文	I:隆線→沈線→縄文、II:縄文→隆線→沈線		
?	A	6~11	2~5	1/2	2/4		クラシク文、分割線	A1a/C3a	5.5/4	0.8	なし	隆線二分/充填	隆線→縄文→沈線		
なし	B	4~5	2	2	1		蛇行隆線ほか	C3a	4.5	2	なし	籠目文	縄文・沈線→隆線(上→下)→口唇		
小X字状把手	A	5	1~2	3	1/4		分帯、懸垂文	A1a	2.5	1	なし	充填	隆線→充填沈線→縦文、隆線脇沈線		
X字条把手	A	5~6	1~3	2/3	1/4		分帯、懸垂文	A1a	2.5	1	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
把手、小突起	A	6~7	2~3	3	4		分帯、主装飾	A1a	2.5/3	5	普	隆線間刺突	隆線押え、充填	隆線→沈線充填→隆線脇沈線	
大把手1、小3	A	5~7	2~4	2~3	4		懸垂文	A1a	3	1	隆線間沈線内刺突	充填、隆線脇	隆線→充填沈線→沈線脇		
把手欠落	A	8	2~3.5	2	4	なし	主装飾、II帯に隆線塊貼付	B1a	1	1	II帯に刺突条連続短沈線	充填、隆線脇	隆線→沈線→隆線脇沈線		
なし	A(E)	4.5/6	3.5~4	3	1±4		分帯と主装飾	A1a	3		なし	隆線の押え	分帯隆線→装飾隆線→沈線		
X字状把手、突起	A+B	8~6/5	5以下	2/3	1/3	なし	区画文、懸垂ほか	A1a/C3a	5/6/5	1以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	A+B	8/3	1.5~3	2/3	1/4	一部で刻み	分帯と主装飾	B1a	2	0.8	なし	充填、隆線脇	隆線→沈線		
突起	A+B	10/3~7	2.5	1	1/4	粘土紐貼付	分帯と主装飾	A1a,b/C3a	4/4	1	なし	充填、隆線脇	隆線→沈線		
眼鏡状突起	A	5	3	2	1/4	なし	分帯、懸垂文	A1a/C3a	3/6±4	1.2	なし	隆線脇/充填、分帯	隆線→充填沈線→分帯・隆線脇沈線		
大突起1、小1	A+C	12/6	3.5/2.5	2	4.1		主装飾	C3a,b	5	1	三叉文	区画線、充填	分割隆線→沈線→貼付文→充填沈線		
?	B	5~6	2.5	2~5	1/3/5	ハラ刻み	分帯、懸垂文	A1a/C3a	3	0.5以下	なし	充填	隆線→充填沈線→隆線上刻み		
突起	A	8	2~5	2	2/4	刻み	蛇体状懸垂文	A1a/C3a	5/5	1以下	なし	分帯、充填、隆線脇	隆線→充填沈線→分帯・隆線脇沈線		
中空大把手、	A	6~7.5	3	1~3	1/4	中空丸々文	分帯、懸垂文ほか	A1a	4	0.5~2.5	三叉文	隆線脇、充填	縄文→隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
小山形突起	A+B	7.5/5	2~3.5	2	1	一部刻み	分帯、懸垂文ほか	C2-C3a	4	0.5以下	なし	II帯充填	隆線→沈線		
把手	A+B	9/5	11~1	1	4/1	刻み	分帯、懸垂、その他	A1a	2	1	三角押文	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
大把手	A+B	3~5/18	2.5以下/13	1~3	1	貼付文あり	全装飾、Bは把手基部	なし	-	-	-	-	隆線・口縁から体部の順→把手→把手部隆線		
なし	A+E	9/6	1/3	1	2±4	刻み	楕形文	A1a/B1a	3.5/1.5	0.5	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線		
なし	A	8	3	1	1/4	貼付文上沈線	曲隆線文	C3a	3.5	1.5	なし	隆線脇、横位集合	縄文→隆線→沈線		
なし	A	3~6	2~13	2	1/4	なし	分帯、懸垂文ほか	A1a/B1a	4/1.5	1.5以下	沈線内連続、交互刺突文	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線・交互刺突文		
突起	A	5~6	2	1	1/4	なし	区画文、大渦巻文	A1a	3以下	0.5	沈線内連続	隆線脇、充填	(隆線→充填沈線)→隆線脇沈線		
なし	なし	-	-	-	-		-	A1a	4.5~8	1.2	なし	H字状文など	縄文→磨消→沈線		
なし	A	5	4	1	1/4	なし	渦巻文、弧線文	B1a	1.5	0.5以下	連続刺突	区画文など、充填	隆線→沈線		
なし	なし	-	-	-	-		鍔部分の出張り有	A1a	4	5	なし	擦り消し縄文の区画	不明	赤彩	



表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(2)

白1は不透明・つやなしの白色粒子(火山岩・軽石ほか)、白2はつや有りの白色粒子(深成岩?)  
石=石英、雲=雲母

図版番号	復元番号(通し)	住居番号	仮土器番号	出土地点など	器種	器形			基本的な造形				装飾割付						
						種類	口縁部	口唇部	胎土	底部圧痕ほか	地文、(充填装飾)	色調	縦位分割	横位分割	分割方法				
152	1	208	SB	13		別表	深鉢	IV1C1	H2	D	-	雲母、石英	-	単沈線充填	赤褐	-	I1II1		
152	5	212	SB	13	5	P197	別表	深鉢	I2B3?	H1	A	-	白1、雲微	-	RL縄文	にぶい黄橙～褐灰	I2II6	I1II1	
152	6	211	SB	13	4	P190	別表	深鉢	?C3	-	-	b	白1多	網代	RL縄文	にぶい黄橙～黒褐	I?II8	I?II1	
153	1	23	SB	14	1	埋カメ	別表	深鉢	?	-	-	-	白1微	-	条線状平行沈線	灰黄褐～黒褐	I?II5	I?II1	
153	1	213	SB	17	1	P-a, P122	別表	深鉢	III2C1	H1	0	-	白1、白2、石、雲微	-	列点	褐灰～にぶい黄褐	?	I1II1	
153	8	209	SB	13	2	P182	別表	浅鉢	浅鉢V	H3	A	E	白1多	磨	磨き	暗褐～黒褐	(I・II)2	なし	
154	1	215	SB	18	1	炉カメ	別表	深鉢	III1-	H1?	A	-	白1・2	-	半隆起線	明赤褐	I・II4	I1II2	
154	2	214	SB	17	2	p119	別表	深鉢	I4C3	Y1	A	-	白1多	-	条線状単沈線	黒褐～明赤褐	?	I?II1	
154	2	217	SB	18	3	埋カメ	別表	深鉢	I4B4	H1	A	-	白1・2、細雲微	-	半隆起+鋭単沈線	明赤褐～黒褐	I0II8	I1II1	
154	4	216	SB	18	2	埋カメ2	別表	深鉢	?C2	-	-	-	白1	-	条線状単沈線	にぶい橙～褐灰	I?II4	I?II2	
155	1	166	SB	19	2	ウツメ	別表	深鉢	III2C2	H1	B	-	白1・2、雲微	-	鋭利単沈線?	にぶい黄橙～褐灰	I4II4	I1II1	
155	2	284	SB	19	8	炉	別表	深鉢	V	H1	A	b	白1、白2、石	磨?	綾杉状単沈線	にぶい黄橙～黒褐	I0II4	I1II1	
155	3	168	SB	19	4	P363・338	別表	深鉢	II1C3	H1	A	b	白2、雲	-	幅16mm条線	明赤褐～黒褐	I0II8	I1II1	
155	4	169	SB	19	5	P315?	別表	深鉢	III2 C2?	H1	A	-	白1多、雲	-	幅13mm条線	にぶい橙～褐灰	I0II4	I1II1?	
155	5	286	SB	19	10		別表	深鉢	I4C3(V)	H1	B	-	白2、雲、黒色	-	幅12mm条線	黒褐～橙	I・II6	I1II1	
155	7	285	SB	19	9		別表	深鉢	I4C3(V)	H1	A	-	白2、雲	-	幅11mm弱条線	橙～黒褐	なし	I1II1	
155	8	167	SB	19	3	P341/338	別表	深鉢	I1C4	H1	B	b	白1、雲微	磨?	条線状平行沈線	黒褐～明赤褐	I0II7	I1II1	
156	1	22	SB	20	1	埋カメ	別表	深鉢	I4-	H1	A	-	細白2、雲	-	幅5mm条線	にぶい黄橙～黒褐	(I・II)5	I1II1	
156	1	220	SB	21	1	炉	別表	深鉢	V	H3	D	-	白2、石、雲	-	単沈線	赤褐～灰黄褐	II4	II3	
156	10	219	SB	19	7	P307	別表	深鉢	I2-	H1	A	-	白1多	-	LR縄文	灰褐～褐灰	?	I1II1	
156	11	165	SB	19	1	P306・314・313他	別表	深鉢	I4C3	H2	B	b	白1、白2、雲	磨?	幅11mm条線	明褐～褐灰	I4II4	(I・II)1	
157	1	21	SB	22	1	P1	別表	深鉢	I4-	H3	B	-	白2、砂	-	綾杉状単沈線	赤褐～灰褐	I4II?	I2II?	検討
157	1	127	SB	23	1		別表	深鉢	I4C3(V)	H1	B	-	白1多	-	条線状半隆起線	赤褐～黒褐	?	I1II1	
157	1	222	SB	24	2	P503	別表	深鉢	I2B2	H1	C	-	白1多	-	綾杉状単沈線	にぶい黄橙～褐灰	I5?II4	I2II2	
157	2	128	SB	23	2		別表	深鉢	V	H1	A	-	白2、雲	-	RL縄文	灰黄～褐灰	?	II1	
157	2	223	SB	24	3	P508	別表	深鉢	I2B1	H1	C	-	白1多	-	平行・単沈線併用	明赤褐～黒褐	I4II4?	I2II1	
157	6	225	SB	24	5	P510	別表	深鉢	I7C2	H1?	C	-	細白1、石、雲微	-	半隆起線	橙～赤褐	?	I1II1?	
157	7	226	SB	24	6	P503	別表	深鉢	I3 B3?	H1	C	-	白1多	-	条線	にぶい黄橙～褐灰	I4II0	I1II1	
158	8	228	SB	24	8	P501	別表	深鉢	III2B2	H3	D	b	白1多、石、雲微	-	綾杉状単沈線	明褐～黒褐	I2II4	I1II1	
158	11	227	SB	24	7	P505	別表	深鉢	III2B2	Y2	B	-	石多、雲	-	綾杉状単沈線	橙～褐灰	I4II4	(I・II)1	
158	14	229	SB	24	9	P504	別表	深鉢	I4B3	H1?	C	E	白1	移動痕有	LR縄文	明褐～黒褐	なし	なし	
159	1	232	SB	25	3	P53	別表	深鉢	V2	H1	C	-	細白1、雲微	-	幅9mm条線	暗赤褐～黒褐	?	I1II1	
159	6	236	SB	25	7	P70	別表	深鉢	III2C2?	H2	A	-	白1他	-	LR縄文	にぶい橙	I2II2	I1II1	
159	7	234	SB	25	5	2南北東	別表	深鉢	I2-	H1	A	-	白1	-	RL縄文	明暗褐	I0II?	I1II?	
159	10	130	SB	25	1	P140	別表	釣手			b	-	白1多	網代→磨	磨き	赤褐～黒褐	2	2	
160	1	238	SB	26	2	P87	別表	深鉢	III2D1	H1	A	-	白1、白2	-	半隆起線	橙～褐灰	I0II4	I1II2	
160	2	242	SB	26	6	P88	別表	深鉢	I2-	H3?	F	-	雲、石	-	半隆起線	黒褐～褐灰	I4II?	I1II1	
160	5	240	SB	26	4	W5 12? 小	別表	深鉢	V	H1	A	-	白2、雲、石	-	LR縄文	暗赤褐	?	(I・II)1	
160	6	237	SB	26	1	P85	別表	深鉢	I2B2	H1	F	b	白2大、雲、石	磨?	結束縄文	にぶい赤褐	I4II0	I2II1	
160	8	239	SB	26	3	P89	別表	台付鉢	III2C1	H2	A	F	白2、雲	-	LR縄文	赤褐～黒褐	I2II2	I1II1	
162	2	122	SB	28	5	P70	別表	深鉢	V	H1	E	-	雲、石、白1	-	単沈線	明褐～黒褐	4?	I0II1	
162	3	119	SB	28	2	P48	別表	深鉢	I2 A2?	H2	D	-	白1、白2	-	綾杉状単沈線	赤褐～暗赤褐	I4II4	I1II1	
162	4	120	SB	28	3	P54	別表	台付鉢			-	-	白1、白2他	-	RL縄文	明赤褐～黒褐	?	?	
162	5	121	SB	28	4	P17	別表	深鉢	I4B2	H1?	A	-	白1多	-	LR縄文	赤褐～にぶい赤褐	? II8?	I1II2	
163	1	251	SB	30	1	P67	別表	深鉢	IV	H1	B	-	石多、白1	-	単沈線	明赤褐～灰褐	I0II4	I1II2	
163	1	281	SB	32	10	埋カメ	別表	深鉢	(0)C2	-	-	b	雲母、白1	磨?	単沈線	灰褐～にぶい橙	I0II4	I0II2	
163	3	260	SB	32	8	P104	別表	深鉢	I2	H2	D	-	白1、雲母微	-	条線状半隆起線	赤褐	?	I1II?	
163	4	256	SB	32	4	P72	別表	深鉢	I2-	H1	D	-	白1多	-	単沈線	明赤褐～褐灰	?	I2II?	
163	5	261	SB	32	9	P102	別表	深鉢	I1	H2	D	-	白1・2ほか	-	条線状平行沈線	にぶい黄褐	I4II4	I1II1	
163	6	259	SB	32	7	P3	別表	深鉢	I4B2	H2	C	-	細白1、雲微	-	単沈線	明赤褐～黒褐	I4II4?	I1II1	

第3節 縄文時代の遺物

底部圧痕=なしは網代なしで、磨きなどが不明確なもの

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾						施文順序	備考(赤彩ほか)
	形状	幅(mm)	高さ	組数	貼付方法	隆線上装飾	用例	形状	幅(mm)	深さ	刺突・陰刻文、その他	用例		
突起	A	6	2	2	4	なし	区画文、渦巻き文	A1a	3/2	1.5以下	交互刺突	隆線わき、充填	隆線→充填沈線→隆線わき沈線	
なし	E	4~13	1.5	1~2	1/3, 4	なし	区画文	A1a	3/5	0.5以下	なし	懸垂文、隆線脇	隆線→縄文→磨消→沈線	
-	-	-	-	-	-	-	-	A1a	4~5	0.7	なし	蛇行沈線	縄文→沈線	
?	D	6~13	1~2	1	4	なし	懸垂文	A1a/C2a	4.5/4	1	なし	充填、隆線脇	隆線→充填沈線→蛇行・隆線脇沈線	
X字状把手欠落	A	5.5	2.5	3	1/4	なし	唐草文	A1a	4	1以下	なし	隆線脇、雨だれ状列点	隆線→隆線脇沈線→雨だれ状列点	
突起、橋状把手	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	7	2	なし	突起上渦巻き分帯、U字文/充填	-	赤彩
なし	B	7	3	1	1/5	刻み、貼付	懸垂文	A1a/C3a	2.5/3	1以下	なし	体部下分帯沈線→充填沈線→隆線→体部上分帯沈線		
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2	0.8以下	なし	弧線文、充填	充填沈線→弧線文	
なし	E(D)	7~12	2.5以下	1	4	なし	分帯、懸垂、渦巻	A1a/C3a/b1a	5/2.5-2	1.5以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A(B)	4	2	1~2	4	捻り状貼付	区画文、唐草文	A1a	3	1	沈線内刺突	隆線脇、充填ほか	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
X字状把手剥落	E	7~14	2以下	1/2	2?	なし	唐草文	D/B1a	8.5/1.5	0.5以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a/B1a	4/1	0.8以下	なし	分帯、懸垂文、充填	不明	
なし	E	13	2.5	1	2	なし	分帯	A1a?	8	0.5	なし	隆線脇、蛇行沈線	(隆線・条線)→隆線脇、蛇行沈線	沈線は指の可能性あり
X字状把手	E	10~15	1.2	1~2	3/4	なし	唐草文	A1a	5	0.5以下	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線	
なし	C	7~13	2	2	3	なし	分帯、懸垂文	A1a	8	0.5以下	なし	隆線脇	(隆線・条線)→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	6	1	なし	口縁部横線	条線→沈線?	
なし	C	9~14	2	1	3	なし	分帯、懸垂文	C2, 3a	3.5	0.5	なし	充填	(隆線・充填沈線)→隆線脇沈線	
なし	E	7~16	1.5~4	1~2	2/3	なし	分帯、懸垂文	A1a/C2a	5	1	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線→蛇行沈線	
突起	A-I	6/12	1.5/3	1~2	4	Iは二分	区画文、唐草文	A1a	3/2	1.5以下	交互刺突、沈線内刺突	隆線脇、充填	隆線?→充填沈線→隆線脇沈線ほか	
なし	A	8	3.5	2	1/3	なし	区画文	A1a	4	0.5	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→縄文→沈線	
円孔突起	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5	1	なし	渦巻き文、蛇行沈線	主要沈線→条線→蛇行沈線	
橋状把手	A	7	3.5	1/2	1/4	刻み	弧線文、懸垂文	A1a	4/3	1/0.5	なし	隆線脇/充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線→刻み	
なし	A	5~10	2.5	2	1/3	なし	弧線区画	A1a/C3a	5	1以下	なし	充填、渦巻ほか	隆線→充填沈線→蛇行沈線	C3a沈線は多岐竹管
なし	A	4~8	1~12	2	1/4	一部で二分	区画文、懸垂文	A1a	3	1以下	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	1	なし	蛇行沈線ほか	縄文→沈線	
なし	A	6~8.5	1.5~4	2	1/4	なし	区画文	A1a/B1a/C2a	4/1/3	0.8以下	なし	隆線脇、主装飾/充填	隆線→充填沈線?→単沈線	
なし	B	3.5~5	1.5以下	1	A	貼付文	分帯、懸垂文	C3a	4/6	1	なし	充填	充填沈線→隆線・口唇部沈線	屈曲口縁部施文
なし	A-I	6/15	2~3.5	1	1/4	Iは二分	区画文	A1a/B1a	5.5/2	1/2	なし	隆線二分、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	施文順序で条線の前後は不明
大把手2	A	4~6	0.5~2	2/3	1/4	二分の可能性	分帯、懸垂文	A1a	1.5~3	0.5以下	なし	隆線脇、充填	(隆線→充填沈線)→隆線脇沈線	
大把手2	A-I	9/14	2~5	2	1	Iは二分	把手連結の懸垂文	A1a/B1a	5/4	1.5以下	なし	隆線二分、充填	隆線→充填沈線→縦位沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2	1.2以下	なし	口唇部1条	縄文→底部付近横ナテ(沈線)	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a=B1a	3~4	1.5以下	なし	分帯・蛇行沈線	肥厚口縁→条線→沈線	
山形突起	A	6	2.5以下	2	1/2	なし	懸垂文	なし	-	-	なし	-	不明	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2	0.5	なし	分帯	縄文→沈線	
顔面付釣手	A	4~6	3以下	1	1	なし	渦巻き文	B1a	2	1以下	目(顔面装飾)	充填	隆線→充填沈線	
なし	A	5~10	1~8	1	1/4	刻み	分帯、区画文、懸垂文	A1a/A1b/C3a	4/3	0.8以下	A1bは角押と三角押文	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
欠落	A	6~9	1~3.5	2	1/4	なし	区画文、懸垂文	A1a/C3a	4.5/4	0.5以下	隆線間連続刻み	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	B	5	3	1	1	なし	蛇行隆線文	なし	-	-	なし	-	縄文→隆線	
なし	A	3~8	2.5	2	1	縄文	区画文	B1a	1	0.3以下	なし	隆線脇、充填	隆線→縄文→体部下半横ナテ	
橋状把手	A	8	2.5	2	1/4	なし	懸垂文	A1a/B1a	3/3	0.5以下/5	なし	主装飾/把手上	隆線→縄文→沈線	
なし	A	6~7	1~7	1	4	なし	渦巻き文	A1a	4/2	1	なし	隆線脇、充填	(隆線→充填沈線)→隆線脇沈線	
渦巻き文付き突起	A-F	4~6	1~3.5	2	1/4	なし	分帯、懸垂文	A1a	2~3.5	1以下	交互刺突文	隆線脇、充填、渦巻き文	隆線→充填沈線→隆線脇・文様沈線	
?	B	3~6	1~3.5	1	1	なし	懸垂文	C3a	5	1.8	なし	分帯、頭部充填	縄文→沈線→隆線	
なし	B	3.5~6	1~2.5	1/2	1	なし	分帯、懸垂文	B1a	3.5	2	なし	II帯充填	縄文→沈線→隆線	
なし	A	5~7	1~3.5	1/2	1/4	なし	区画、懸垂など	B1a	2.5	0.5以下	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線(充填と隆線脇前後は種々)	
なし?	A	6	1.5	3	1	なし	腕骨文	A1a	2/3	1	交互刺突	分帯、蛇行沈線、充填	隆線→分帯沈線→充填沈線→蛇行沈線	
突起	E/I	7~12	11	1	1	なし	Iは文帯帯	A1a/C3a	4/3	0.5	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A	5~11	2.5~7	2	1/4	なし	分帯、渦巻き文	A1a/B1a	4/1	1.5/0.5	なし	隆線脇、充填ほか	隆線→充填沈線→隆線脇・蛇行沈線	施文注意
突起	A/I	12以下	7以下	1	1/4	なし	IIは二分隆線	A1a/C3a	5.5/2	2/0.5	なし	隆線脇、充填ほか	隆線→割付沈線→充填沈線	
山形小突起	A	6	4	2	1	なし	口縁部弧線文	A1a	3	1.5以下	なし	懸垂文、充填	隆線→割付沈線→充填沈線	

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(3)

白1は不透明・つやなしの白色粒子(火山岩・軽石ほか)、白2はつや有りの白色粒子(深成岩?)  
石=石英、雲=雲母

図版番号	復元番号(通し)	住居番号	版土器番号	出土地点など	層位・取上番号	接合関係	器種	器形			基本的な造形				装飾割付			
								類別	口縁部	口唇部	底部	胎土	底部圧痕ほか	地文、(充填装飾)	色調	縦位分割	横位分割	分割方法
163	7	257	SB 32	5	P105	別表	深鉢	I 4B2	H1	F	b	白1	磨?	綾杉状単沈線	赤褐~黒褐	I 7 II 4?	I 2 II 1	
164	12	255	SB 32	3	P103	別表	深鉢	I 2C2	H2	A	E	白1	網代一磨	LR縄文	赤褐~黒褐	I 4? II 0	I 1 II 1	
164	13	253	SB 32	1	P103	別表	深鉢	I 4B2	H1	A	E	白1、白2	磨	LR縄文	橙~黒褐	なし	なし	
164	16	254	SB 32	2	P101	別表	釣手					白1	-	磨き	明黄褐~褐灰	2	2	
165	1	262	SB 33	1	P14	別表	深鉢	I 4-	H1	A	-	白1、白2、雲、砂	-	幅20mm条線	橙~黒褐	(I・II)9	I 1 II 1	
165	1	290	SB 35	2	P17	別表	深鉢	III 2D1	H1	A	-	白1、雲、石	-	単沈線	明赤褐~黒褐	?	I 1 II 2?	
165	1	291	SB 36	18	埋方	別表	深鉢	III 1C4	H2?	A	-	細白1、微雲	-	単沈線	橙~褐灰	I 5 II 5	I 1 II 1	
165	3	263	SB 35	1	P13	別表	深鉢	I 4C3	H1	C	-	白1、白2、雲	-	RL縄文	明赤褐~黒褐	I 0 II 3.5	I 1 II 1	
165	3	265	SB 36	2	炉フ	別表	深鉢	V?	H1	A	-	白1、雲	-	条線状半隆起線	にぶい黄褐~褐灰	?	I 1 II 1	
166	6	277	SB 36	14	P49	別表	深鉢	(V近I 4)C3	Y1	B	-	白1、微雲・石	-	綾杉状単沈線	明赤褐~褐灰	I 2 II 2?	I 1 II 1	
166	8	271	SB 36	8	P10	別表	深鉢	I 4C2	H1	B	-	白1、白2、雲、微	-	幅7mm条線	明褐~褐灰	I 0 II 2?	I 1 II 1	
166	9	270	SB 36	7	P80	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	-	白1・2、雲、石	-	幅11mm条線	にぶい黄橙~黒褐	I 0 II 5	I 1 II 1	
166	10	266	SB 36	3	P65	別表	深鉢	I 4B3	Y1/2	A	b	白1、白2多	磨	条線状半隆起線	明褐~褐灰	I 1 II 4	(I・II)1	
166	11	273	SB 36	10	P65-1	別表	深鉢	I 4B2	H1	B	-	白1、微黒雲	-	幅14mm条線	にぶい橙~褐灰	?	I 1 II 1	
167	13	280	SB 36	17	P51・126	別表	深鉢	III 2C2?	-	-	-	白1・2、雲、微	-	条線状平行沈線	明赤褐~黒褐	?	I 1 II 1	
167	15	269	SB 36	6	P65-1	別表	深鉢	I 2-	H2	A	-	白1、雲・石微	-	幅9mm蛇行条線	明赤褐	I 5 II 2?	I 1 II 1	
167	17	276	SB 36	13	P-2	別表	大鉢	I 4C1	H	A	-	白1、白2、石英	-	なし	赤褐~にぶい橙	I 0 II 2?	I 0 II 2	
168	18	272	SB 36	9	P73	別表	深鉢	I 4-	H1	A	-	白1、砂	-	L縄文	褐~黒褐	?	I 1 II 2	
168	19	274	SB 36	11	P87-105 P87-105	別表	深鉢	I 4C3	H1	B	b	白1多、超微雲	磨	RL縄文	橙~褐灰	(I・II)6	I 1 II 1	
168	20	279	SB 36	16	P113	別表	深鉢	I 2B2	H2	F	b	白1・2、雲、微	網代	LR縄文	にぶい黄橙~褐灰	I 5 II 2?	I 1 II 1	
168	21	278	SB 36	15	SB36	別表	深鉢	I 2B2	H1	F	b	白1多	網代一磨	LR縄文	にぶい黄橙~褐灰	I 5 II 9	I 1 II 1	
168	22	267	SB 36	4	P5	別表	深鉢	I 2-	H2	D	-	白1、白2、雲	-	?	にぶい黄橙~褐灰	I 4 II 2?	I 2 II 2?	
169	1	20	SB 37	1	埋方	別表	深鉢	I 4C3	-	-	b	白1、砂	なし	幅14mm条線	黒褐~(赤褐)	I 2 II 4	I 2 II 1	
169	2	43	SB 37	4	P216 1層南、炉P	別表	深鉢	III 2C3	Y1	A	b	白1多、石微	磨?	磨き	赤褐~黒褐	I 4? II 8	I 1 II 1	
169	3	41	SB 37	2	1層南東	別表	深鉢	V	H1	A	-	白1微、黒粒	-	綾杉状単沈線	にぶい黄橙	?	I 1 II 1	
169	4	44	SB 37	5	1層南西	別表	深鉢	I 4C3 (V)	H3	A	(E)	白1多	網代	L縄文	赤褐~黒褐	?	(I・II)1	
169	5	42	SB 37	3	P121P203	別表	深鉢	I 6C3	H1	A	E	白1多、石・雲、極微	網代	LR縄文	黄褐~褐灰	I 2 II 2?	(I・II)1	
170	1	1	SB 39	1	埋方	別表	深鉢	I 4-	H1	A	-	白1・2多、雲、微	-	単沈線	明赤褐~黒褐	I 5 II 5	I 2 II 1	
170	2	124	SB 38	2	P13	別表	深鉢	III 1C4	H1	C	b	細白1	なし	綾杉状単沈線	明赤褐~にぶい褐	I 2 II 5	I 1 II 1	
170	2	3	SB 39	3	ピット3	別表	深鉢	I 2-	Y1	A	-	白2ほか	-	RL縄文	黒褐	I 4 II 6	I 1 II 1	
170	3	123	SB 38	1	P12	別表	深鉢	? C4	-	-	b	白1、雲	網代	単沈線	明赤褐~灰褐	I 2 II 4	?	
170	4	15	SB 39	15	P402 P45、1層南	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	E	白1・2、雲ほか、細黒粒、細雲、微	磨	幅12mm条線	赤褐~暗赤褐	I 3 II 3	I 1 II 1	
170	6	45	SB 37	6	1層南	別表	深鉢	V	H1	A	b	白2、雲、黒粒、他	網代	ハ字単沈線	にぶい黄橙~黒褐	?	I 2 II 1	
171	5	13	SB 39	13	P360	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	b	白2、雲、黒粒、他	磨	幅10mm条線	明赤褐~褐灰	I 5 II 5	I 2 II 1	
171	7	18	SB 39	18	P431	別表	深鉢	I 2B3	H2	B	-	白1多	-	綾杉状単沈線	にぶい褐~黒褐	I 2 II 0	I 1 II 1	
171	8	12	SB 39	12	7	別表	深鉢	I 4B3	Y1	A	b	白1・2、雲、微	磨?	幅12mm条線	明赤褐~黒褐	I 4 II 8	I 1 II 1	
171	9	4	SB 39	4	P399	別表	深鉢	V	H1	A	b	白1・2、雲、微、他	ナテ、磨	鋭利な単沈線	赤褐	I 0 II 7	I 1 II 1	
171	10	19	SB 39	19	P401	別表	深鉢	III 2C3	H2	A	b	細白1、極微雲	-	幅14mm横施文条線	明赤褐~褐灰	I 2 II 5	I 1 II 1	
171	12	7	SB 39	7	7	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	b	白2少、雲、微	磨?	幅10mm条線	にぶい橙~褐灰	I 0 II 7	I 1 II 1	
172	15	5	SB 39	5	P366	別表	深鉢	I 2-	H2	B	-	白2、雲、微、砂	-	RL縄文	にぶい黄橙~褐灰	I 4 II 2?	I 2 II 1	
172	16	8	SB 39	8	P134	別表	深鉢	I 2-	H2	B	-	大粒白1多	-	I帯にRLR縄文	暗赤褐	?	I 2 II 1	
172	18	14	SB 39	14	P362	別表	深鉢	I 4B3	Y2	B	-	白1・2、雲、微	-	ナテ	明赤褐	?	I 2 II 1	
172	19	2	SB 39	2	P436	別表	深鉢	I 4B3	Y3	A	-	白1多、雲、超微	-	綾杉状単沈線	明赤褐~黒褐	I 4? II 4?	I 1 II 1	
172	20	16	SB 39	16	P468	別表	深鉢	I 2A2	Y1	D	-	白1・2少、石・雲、微	-	RL縄文	にぶい黄橙~黒褐	I 2 II 8?	I 1 II 1	
173	4	72	SB 40	6	P145	別表	深鉢	I 4C3 (V)	Y1	A	-	白1・2、赤粒、雲、超微	-	幅13mm条線	にぶい黄橙~褐灰	I 4 II 0	I 1 II 1	
173	5	71	SB 40	5	P196	別表	深鉢	III 2C3	H2	A	-	白1、雲、微	-	幅11mm条線	明赤褐~褐灰	I 4 II 4	I 1 II 1	
173	6	74	SB 40	8	P145直下	別表	深鉢	I 4C3	H1	B	b	白1多	磨	条線状平行沈線	暗赤褐~黒褐	I 0 II 9	I 1 II 1	
173	7	67	SB 40	1	P142 143	別表	深鉢	I 4C3	H1	B	b	白1、雲	磨	条線	赤褐~褐灰	I 2 II 6	I 1 II 1	
173	8	70	SB 40	4	P133	別表	深鉢	I 4C3	H3	B	-	白1、雲、微	-	条線状鋭利単沈線	灰褐~黒褐	I 4 II 4	I 1 II 1	

第3節 縄文時代の遺物

底部丘痕=なしは網代なしで、磨きなどが不明なもの

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾						施文順序	備考(赤彩ほか)
	形状	幅(mm)	高さ	組数	貼付方法	隆線上装飾	用例	形状	幅(mm)	深さ	刺突・陰刻文、その他	用例		
なし	A	5~12	3~13	1	1/3	なし	区画文、懸垂文	A1a	2~2.5	1	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線	
渦巻突起	A・C	6~10	3~7	2	1/4	なし	区画文	A1a	5	1.5	なし	隆線脇、口唇部渦巻	隆線→縄文→隆線脇沈線、装飾沈線、縄文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-	-	-	
釣手	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5	1.5	橋状把手部に円孔	区画文		
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	7	0.8以下	なし	体部区画	条線→磨消→沈線	
IIa帯にX字状把手	A・B	5.5~10	2.5~6	2	1/4	なし	分帯、籠目文ほか	B1a	2.5	1以下	なし	隆線脇、充填	籠目文沈線→隆線→沈線	
なし	A・E	7~23	2.5~13	1	1/4	なし	区画文	A1a	3.5~7	0.5~2.5	なし	主装飾、隆線脇、充填	隆線→主装飾沈線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	B	3~5.5	1~3.5	1/3	1/6	なし	大波状・蛇行文	C3a	5	1.5	なし	隆線脇、分帯	分帯沈線・大波状隆線→縄文→蛇行隆線	
なし	A・E	7~11	1~2.5	1	2/4	なし	分帯、主装飾	A1a/C3a/D1a	3~6/2.5/7	1/0.5/0.2	なし	隆線脇、蛇行/充填/隆線脇	(隆線・充填沈線)→隆線脇沈線→蛇行沈線	
なし	A・E	11/15	2.5~4	1	1.4	なし	区画文	A1a	4~6	1以下	なし	隆線脇、懸垂文、充填	隆線→沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5.5	1	なし	分帯、蛇行沈線	条線→沈線	
なし	A・F	10	1~3.5	1	2	なし	懸垂文	D1a	8~11	0.2以下	なし	分帯、隆線脇	隆線→条線→凹線	
突起	E	6~18	2以下	1	2/4	なし	渦巻文ほか	A1a/C3a	6/2.5	0.5以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	C	8.5~14	0.5以下	1/2	2	なし	分帯、渦巻文	D1a	8	0.2以下	なし	隆線脇	(隆線・条線)→沈線	
頭部X字状把手	D	11~23	1.5以下	1	2	なし	主装飾	D1a/C2a	8/2.5	0.5以下	なし	隆線脇/充填	(隆線・充填条線)→把手→沈線・隆線脇凹線	
なし	A・F	7~15	1~1.7	1	3	なし	分帯、渦巻文	A1a/D1a?	4.5~6/10	1以下	なし	懸垂文、隆線脇	(隆線・条線)→隆線脇沈線→懸垂沈線	
橋状把手	D	12~18	0.1	2	浅4	なし	区画文	A1a/C2a	7/3.5	1	なし	隆線脇	隆線→沈線	
なし	A	6~9	4.5	1	1/4	なし	分帯、渦巻文	A1a/B1a	7/2	0.2/1.5	なし	懸垂文、隆線脇	隆線→縄文→隆線脇沈線→懸垂沈線	
なし	C・E	10~16	0.5~3	1/2	2	なし	分帯、懸垂文	A1a/D1a	5/8	0.7以下	なし	A蛇行沈線、D隆線脇	隆線→縄文→蛇行沈線→隆線脇凹線	
なし	A	7	5以下	1/2	1/3	なし	分帯、渦巻文	A1a	4~7	0.2~2	なし	隆線脇、懸垂文	(隆線・縄文)→隆線脇沈線→懸垂沈線	
なし	F	5~12	2~8	1/2	1/3	なし	分帯、渦巻文	A1a	6	0.5以下	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→縄文→磨消→沈線	
円孔把手	C	7~12	3.5以下	1	1/3	なし	口縁部区画	A1a	11	1.5	なし	隆線脇ほか	隆線→沈線	
不明	G	12	5~8	1	4	なし	分帯	A1a	4	1.2	なし	分割線と主装飾	隆線・分割沈線→条線→蛇行沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5~3	0.3以下	なし	分帯、懸垂文	口縁部→体部	
なし	A	15	3~5	1	1/2	なし	弧線文、懸垂文	A1a	4	0.5以下	なし	充填	隆線→単沈線	
大把手1	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	1以下	なし	体部U字文など	縄文→単沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	0.5	なし	懸垂文	沈線→縄文→仕上げ沈線ほか	
なし	A・E	10~17	4~12	1	1/4	なし	口縁部区画文	A1a	5.5~7	1.5	なし	懸垂文、充填	隆線→充填沈線→隆線脇	
なし	A	8.5	4	1	1/4	なし	区画文	A1a	2.5~4	0.8以下	円形刺突	隆線脇、充填	隆線→沈線	
なし	E	7以上	3以下	1	1/4	なし	口縁部区画文	A1a	6	0.5	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→縄文→磨消→沈線	
?	A	6	3	1	1	なし	-	A1a/B1a	4/1.5	1.5以下	なし	主装飾、分帯、充填	隆線?→充填沈線→主沈線→分帯沈線	
(E?)	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	10	3	なし	分帯、全装飾、弧線文、充填、懸垂他	主装飾沈線→条線→蛇行沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3~4	0.8以下	なし	-	-	
なし	C・E	8~13	2.5以下	1	2/3	なし	区画文、懸垂文他	A1a/D1a	6/10	0.2以下	なし	隆線脇、蛇行沈線	(隆線・条線)→沈線	
なし	A・D	7.5~12	2~4	2	1/3	なし	口縁部区画、渦巻文	A1a/B1a	6/2	0.5以下	なし	隆線脇/充填	(隆線・充填沈線)→隆線脇沈線	
なし	C	11~13	2.5以下	1	2/3	なし	区画文、懸垂文他	A1a/D1a	6/10	0.5以下	なし	隆線脇	隆線→沈線→条線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a/B1a	5/2.5	2以下	なし	分帯、全装飾	主沈線→蛇行沈線→充填沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	7	0.7	なし	分割線と主装飾	分帯、逆U字沈線→条線→蛇行沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5~6.5	1.2	なし	分帯、懸垂文	条線→沈線	
突起	E	5~12	2以下	1	3	なし	口縁部区画文	A1a	6	0.5以下	三角形連続刺突	懸垂文、隆線脇	隆線→縄文(磨消)→沈線	
小突起	A	8~10	2~6	1	2/3	なし	口縁部区画文	A1a	5~7	1.5以下	分帯部分に連続刺突	隆線脇、分帯、体部装飾	隆線→沈線→縄文→隆線脇沈線	
突起	B・E	11~15	0.4~3	1	1/2	なし	分帯、懸垂文	なし	-	-	-	-	-	
なし	A	6~10	2	2	1/4	なし	口縁部区画文	A1a	7/2	3/1	なし	隆線脇、主装飾、充填	隆線→主沈線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	E	7~17	2以下	1	なし	なし	口縁部区画文のみ	A1a	4~12	4以下	なし	隆線脇、逆U字文他	(隆線・縄文)→沈線	
なし	E	14	1.5以下	1(二分)	A	二分沈線	口縁部肥厚	B1a	3	1.5以下	円文の中央	隆線二分	隆線→(沈線・条線)	
なし	A	6~8	1.5以下	1	3	なし	懸垂文	A1a	4~8	0.5以下	なし	隆線脇、蛇行沈線	隆線→(隆線脇沈線・条線)→蛇行沈線	沈線と条線は前後両方あり
なし	なし	-	-	-	-	-	-	D1a/C2a	8~13.5/3.5	1以下	なし	分帯、蛇行沈線/充填	条線→分帯沈線→蛇行沈線	
なし	C	10	4.5	1	1/3	なし	口縁部区画文	A1a	6~8	1	なし	懸垂文、隆線脇	隆線→沈線(条線不明)	
円孔突起	A・E	6~12	1.5~4	1	3	なし	懸垂文	A1a/B1a	6~4/1	0.5以下	なし	隆線脇、蛇行沈線/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線→蛇行沈線	

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(4)

白1は不透明・つやなしの白色粒子(火山岩・軽石ほか)、白2はつや有りの白色粒子(深成岩?)  
石=石英、雲=雲母

図版番号	復元番号(通し)	住居番号	仮土器番号	出土地点など	取合関係	器種	器形				基本的な造形				装飾割付				
							類別	口縁部	口唇部	底部	胎土	底部圧痕ほか	地文(充填装飾)	色調	縦位分割	横位分割	分割方法		
173	9	77	SB	40	11	C10-NO2-1層	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	-	白1,2	-	条線状鋭利単沈線	灰褐~褐灰	I 0 II?	I 1 II 1	
173	10	75	SB	40	9	P128	別表	深鉢	I 4C3	H3	B	b	白2,雲	-	幅8mm条線	橙~褐灰	I 4 II 5?	I 2? II 1	
173	11	76	SB	40	10	P133	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	b	細白1,雲微他	網代→磨	幅9mm条線	橙~褐灰	I 8 II 8	I 2 II 1	
174	1	38	SB	43	15	P210	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	b	白2多,雲	網代浅く	幅15mm八字状条線	にぶい橙~褐灰	I 0 II 4	I 1 II 1	
174	2	33	SB	43	10	P121	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	E	白1多	-	幅28mm短条線	にぶい黄橙~橙	I 0 II?	I 1 II 1	
174	3	27	SB	43	4	P204	別表	深鉢	V	H1	A	-	大白1ほか	網代	幅10mm鋭利条線	にぶい黄橙~黒褐	I 0 II 8	I 1 II 1	
175	4	26	SB	43	3	P284	別表	深鉢	V	H1?	A	b	白1,2多,雲、石	-	幅16mm条線	にぶい黄橙	I 0 II 7	I 1 II 1	
175	5	37	SB	43	14	P202	別表	深鉢	V 2	H1	A	-	白1微,雲超微	-	幅13mm短条線	黒褐	(I・II) 0	I 1 II 1	
175	6	36	SB	43	13	P135	別表	深鉢	V	H1	A	-	白1微,雲微	付	幅24mm短条線	にぶい橙~黒褐	I 2 II?	I 1 II 1	
175	7	25	SB	43	2	P196	別表	深鉢	V	H1	A	E	白1微,雲微	付	幅16mm条線	にぶい橙~褐灰	I 2 II 0	I 1 II 1	
175	8	24	SB	43	1	P300	別表	浅鉢	V	H1	D	b	白1,2,雲、石	磨	幅16mm条線	にぶい橙~褐灰	I 2 II 0	I 1 II 1	
175	9	34	SB	43	11	P159P158	別表	深鉢	I 4B3	H1	A	-	白1微,雲超微	-	八字状単沈線	明赤褐	?	I 1 II 1	
175	10	31	SB	43	8	P122	別表	深鉢	III 2A1	Y?	D	b	白1多	周辺網代	RL縄文	明褐~褐灰	I 2 II 4	I 1 II 1	
175	11	30	SB	43	7	P299	別表	深鉢	I 7B3	H2	C	-	白1	-	RL縄文	にぶい黄橙~褐灰	I 4 II 4	(I・II) 1	
175	12	29	SB	43	6	P198	別表	台付深鉢	?	-	-	F	白1,雲超微	-	LR縄文	橙~にぶい褐	?	?	
175	13	28	SB	43	5	7	別表	深鉢	I 4C3	H2	B	b	白1,2,雲	-	RL縄文	にぶい橙~明赤褐	I 4 II 4	(I・II) 1	
176	1	287	SB	44	7		別表	深鉢	?C3?	-	-	b	砂	-	幅16mm条線	明赤褐~褐灰	I 2 II 4	I 2 II?	
176	2	47	SB	44	1	P4	別表	深鉢	V	H1	A	-	白2,石,雲微	-	幅12mm八字状条線	赤褐~黒褐	?	I 1 II 1	
176	3	48	SB	44	2	P2	別表	深鉢	V	H1	A	-	雲、黒粒、白1	-	綾杉状単沈線	褐~黒褐	?	I 1 II 1	
176	4	50	SB	44	4	P6	別表	深鉢	V	H2	A	-	白1微	-	八字状短沈線	明赤褐~灰褐	I 4? II 4?	I 1 II 1	
176	5	88	SB	44	6	P3	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	-	白1,2多,雲微	-	八字状短沈線	灰黄褐~褐灰	?	I 1 II 1	
176	6	49	SB	44	3	7	別表	深鉢	V	H1	A	-	白1,2,微雲	-	八字状短沈線	にぶい黄橙~黒褐	?	I 1 II 1	
176	8	51	SB	44	5	P11	別表	深鉢	?B2	-	-	b	雲、石、白微	不明圧痕	LR縄文	にぶい黄橙~黒褐	I 2 II 4	I 2 II 1?	
177	1	55	SB	47	4		別表	深鉢	?C2?	-	-	E	白1ほか	-	短沈線	にぶい黄橙~橙	I 2 II 8	I 2 II 1	
177	5	54	SB	47	3	7	別表	深鉢	I 2B3	H2	E	b	白1,砂多	圧痕→磨	LR縄文	にぶい黄橙	I 4? II 8	I 1 II 1	
178	1	87	SB	48	9	埋カP7	別表	深鉢	?B3	-	-	b	白1他	磨	縦位単沈線	にぶい橙~赤褐	I 2 II 4	I 2 II 1	
178	2	82	SB	48	4	C3-4?	別表	深鉢	I 4A3	Y2	D	-	白2,砂多	-	磨き,半隆起線	赤褐~灰赤	?	I 2 II 2	
178	3	83	SB	48	5	C04-5?	別表	深鉢	I 2C2	H1?	C	b	雲、白2	磨	半隆起線	褐~黒褐	I 2 II 4	I 1 II 1	
178	4	85	SB	48	7	C04-5?	別表	深鉢	I 6-	H2	C	-	細白1微	-	半隆起線	灰褐~にぶい橙	?	?	
178	7	79	SB	48	1	C04-?	別表	深鉢	III 1C4	H1	A	-	雲、石、細白2	-	半隆起線	暗赤褐	I 2 II 4	I 1 II 1	
178	8	81	SB	48	3	ト	別表	深鉢	III 2C2	H1?	A	-	白1,2,雲微	-	I 単沈線, II 磨き	にぶい橙~黒褐	I 2 II 5	I 1 II 2	
179	1	56	SB	50	1	P128	別表	深鉢	II 1C3?	H1?	F	-	白1,白2多	-	LR縄文	褐~黒褐	I 3 II 9	I 1 II 1	
179	2	126	SB	49	2	UM2	別表	深鉢	?B3	-	-	b	白1,赤粒	なし	幅16mm条線	黒褐~にぶい橙	I 2 II 3	I 2 II 1	
179	3	59	SB	50	4	7	別表	深鉢	IV 1C2	H2	C	-	白1,砂	-	単沈線	灰黄褐~褐	I 4 II 4	I 1 II 2	
180	1	60	SB	52	1	炉	別表	深鉢	I 4B3	H1?	A	-	砂	-	幅14mm条線	褐~黒褐	I 0 II 5	I 1 II 1	
180	1	62	SB	53	1	上外8	別表	深鉢	I 4C3	H2	A	e	白1多	木葉痕	LR縄文	褐~黒褐	I 5 II 5	I 1 II 1	
180	2	64	SB	54	2	P16	別表	深鉢	I 4 B3?	H1	A	-	白1多,細雲母	-	半隆起線	黒褐	-	I 1 II 1	
180	4	57	SB	50	2	P30	別表	深鉢	I 4B3	H2	B	-	白2多,雲母	-	幅11mm条線	赤褐~黒褐	-	I 1 II 1	
180	5	58	SB	50	3	7	別表	深鉢	I 3B3	H1?	D	-	白2,雲母	-	軽い磨き	褐~暗褐	-	I 1 II 1	
181	1	95	SB	58	3	埋カN 0.2	別表	深鉢	I 2C3	-	-	b	白1多	磨	単沈充填	にぶい橙~赤褐	I 2 II 8	I 1 II 1	
181	2	91	SB	57	3	P1	別表	深鉢	I 2B3	H2	B	-	白1,2多	-	0段多条LR縄文	にぶい黄橙~褐灰	I 4 II 10	I 1 II 1	
181	2	93	SB	58	1	埋カ?	別表	深鉢	I 2-	H2	A	-	白1多,雲極微	-	LR縄文	褐灰~黒褐	I 4 II 8	I 1 II 1	
181	3	89	SB	57	1	P2	別表	深鉢	I 4-	H1	A	-	白1,2,雲	-	RL縄文	にぶい黄橙	I 0 II 4	I 1 II 2	
181	4	92	SB	57	4	P3	別表	深鉢	I 4-	H1	A	-	白1,2,雲	-	八字単沈線	黒褐	?	I 1 II 1	
182	3	96	SB	58	4	P501-1	別表	深鉢	I 2C2	H1	A	e	白2多,雲	(縄)→磨	幅14mm条線	橙~褐灰	I 0 II 7	I 1 II 1	
182	4	94	SB	58	2	P503-1	別表	深鉢	V 2(I 4C4)	H1	A	e	白1,2,雲	網代→磨	幅15mm条線	明黄褐~灰黄褐	I 0 II 4	I 1 II 1	
182	5	98	SB	58	6	P502	別表	深鉢	I 4-	H2	A	-	白2,雲微	-	幅9mm条線	暗赤褐~黒褐	I 4 II 6	I 1 II 1	
182	6	97	SB	58	5	P37	別表	深鉢	I 2-	H1	A	-	白2,雲、石	-	幅18mm条線	褐灰	?	I 1 II 1	
182	7	100	SB	58	8	P501	別表	深鉢	I 2B3	H1	A	b	白1多	磨	RL縄文	暗赤褐~黒褐	I 6 II 12	I 1 II 1	
182	8	99	SB	58	7	P507	別表	深鉢	I 2B3	Y3	F	b	白2多,雲	磨	RL縄文	明黄褐~褐灰	I 2 II 4	I 2 II 1	
183	1	101	SB	59	1	下層	別表	深鉢	I 2C2	H2	B	e	白2多,雲	?	半隆起線?	明褐~にぶい赤褐	I 4 II 4	I 1 II 2	
183	1	103	SB	60	2	炉	別表	深鉢	I 4C2	H1	D	-	石、雲、白2少	-	平行沈線	にぶい赤褐	I 2 II 4	I 1 II 2	

第3節 縄文時代の遺物

底部圧痕=なしは網代なしで、磨きなどが不明確なもの

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾				施文順序	備考(赤彩ほか)		
	形状	幅(mm)	高さ	組数	貼付方法	隆線上装飾	形状	幅(mm)	深さ	刺突・陰刻文、その他			用例	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	なし	分帯、懸垂文	不明	
あり	A・E	6~13	1~4	1	3	なし	区画文、主装飾	A1a	5~7.5	0.5以下	なし	隆線脇	隆線→一条線→隆線脇沈線→追加条線	施文順注意
なし	E(D)	9~14	3.5	1/2	3	なし	区画、懸垂文	A1a	6	0.2以下	なし	隆線脇	隆線→隆線脇沈線→一条線	
なし	A	5~11	1~5	1	1/4	なし	体部区画	A1a	4.5	0.5	なし	隆線脇	隆線→一条線→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	1	なし	分帯、懸垂文	沈線→一条線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	1.5以下	なし	分帯、懸垂文	沈線→一条線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3~6.5	1.5以下	なし	分帯、懸垂文	沈線→一条線→仕上げ沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	1.2	なし	分帯	沈線→一条線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4	1	なし	分帯、懸垂文	沈線→一条線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	6	0.5	なし	分帯、口唇部	沈線→一条線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a/B1a	4.5/2	1.2以下	なし	全装飾	懸垂沈線→充填沈線	
?	A	7	4以下	1	1/4	なし	口縁部区画文	A1a	4/2.5	0.7以下	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→懸垂沈線→縄文→蛇行沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	0.5以下	なし	渦巻文、懸垂文	沈線→縄文	
?	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2	0.5	なし	懸垂文	沈線→縄文	
山形小突起	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4.5	2以下	なし	渦巻文、区画文	沈線→縄文→一部仕上げ沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4.5	1	なし	懸垂沈線	懸垂沈線→一条線→蛇行沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	2	なし	分帯、懸垂ほか	沈線→一条線→蛇行沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5~5.5	1.5以下	なし	全装飾	蛇行沈線が最後	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	2.5~4	1以下	なし	全装飾	蛇行沈線が最後	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3~5	1	なし	全装飾	重複部なく不明	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3~4.5	1以下	なし	全装飾	充填沈線が最後	
?	C・E	4~10	3以下	1/2	4	なし	体部区画	A1a	5	0.8以下	なし	隆線脇	隆線→縄文→隆線脇沈線(一部逆転)	
-	A・B	4~6	3以下	1/2	1/4	なし	腕骨文	A1a	3	1以下	なし	隆線脇、充填、渦巻他	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
山形突起	A・E	7~10	6以下	1	1/3	なし	口縁部区画文	A1a	5~10	1以下	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→隆線脇、懸垂沈線→縄文→蛇行沈線	
?	A	5~7	2.5	1/2	4	刻み	懸垂文他	A1a	2	0.5	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線→刻み	
眼鏡状突起	A	6.5~12	5以下	1/2	1/4	二分三角押文	分帯、区画文他	A1a・1b/C3a	4/5	1以下	三角押文	隆線間、脇、区画内充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
?	A・E	6~12	2.5以下	2	1/4	集合沈線(分帯線)	分帯、懸垂文他	A1a・C3a	4.5/3.5	0.5以下	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
剥落	A・B	8~11	4.5以下	1	4	粘土紐貼付	懸垂文他	A1b/C3a	4.5	2以下	角押文	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇角押文	
なし	A	7~9	3以下	1	6	ハツ刻み	分帯、抽象文?	C3a	5	0.5	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線	
なし	A	4~9	7以下	1	1	一部刻み	分帯、区画文他	B1a	2	1.5	なし	I帯、区画内充填	隆線→沈線	
なし	B	7/12	3	1/2	1	なし	口縁部区画と渦巻文	A1a	2.5	0.5以下	なし	体部蛇行懸垂文	縄文→隆線→沈線	
なし	D	10~16	1	1	2/浅4	なし	渦巻文ほか	A1a	8	0.5	なし	隆線脇	条線・隆線→沈線	
小突起	A	7以下	2~5	2/3	4	なし	区画文、唐草文	A1a	2.5~4	1以下	沈線内再刺突、交互刺突文	隆線脇、充填、渦巻他	隆線→一条線→沈線→刺突文	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	2.5	口縁部連続刺突	区画、蛇行懸垂文	条線→沈線	
小突起	I	19	3	1	1	三分	区画文	A1a	5	1.5	なし	懸垂文	縄文→二隆線→沈線文	
なし	E?	11~14	1以下	1	2	なし	渦巻文ほか	D/C3a	12/3	0.5以下	なし	隆線脇/充填	隆線→半隆起線→隆線脇指打	
小突起	A	7~12	2.5~6	1/2	1/4	二分沈線	口縁部区画と渦巻文	A1a/C3a	3.5/4	1以下	なし	A1aは体部装飾、C3aは口縁部充填	(条線・隆線)→単沈線	
-	A	6~7.5	3~5	1/2	3	なし	分帯、懸垂文	なし	-	-	-	-	隆線貼付	
不明	C	1~18	15	1	4	なし	I区画文	A1a	1.5~2.5	0.2	なし	全体部文様	隆線→沈線(左から右?)	施文順序再検討
なし	A	7~12	2~7	1	1/4	なし	口縁部区画文、渦巻	A1a	6	1	なし	隆線脇、体部懸垂文	隆線→縄文→沈線	
なし	C・D・F	7~10	3	1	1	なし	口縁部区画文、渦巻	A1a	4~6	1.5以下	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→縄文→沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a/D	5~7/8.5	2/0.1以下	口縁部連続刺突	全装飾	縄文→沈線文	
なし	E	10~13	2.5以下	1/2	3	なし	分帯、懸垂、渦巻	A1a	6/3	0.5以下	なし	隆線脇/充填	隆線→隆線脇沈線→ハツ字沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	6	0.3以下	なし	分帯、懸垂、渦巻	主沈線→一条線→蛇行沈線	
なし	E	7~11	4以下	1	4	なし	口縁部分帯	A1a	3.5~5	1	なし	隆線脇、懸垂文	(隆線→条線)→沈線	
なし	E	8~13	1.5	1	3	なし	分帯、懸垂	A1a/D	4/10	0.5以下	なし	隆線脇	隆線→一条線→沈線	
なし	E	7~14	2~3.5	1	2/3	なし	連続渦巻、懸垂文	A1a/D	4/8	0.5/0	なし	隆線脇、蛇行懸垂文	(隆線・条線)→沈線	
なし	A	6~9	3~4	1/2	1/4	なし	分帯、渦巻文	A1a	7	1以下	なし	隆線脇、懸垂文	隆線→縄文→スリ消し→沈線	
大突起	E	6前後	4以下	1	1/4	なし	区画文、渦巻の一部	A1a	5	1.5	頸部連続刺突	隆線脇、体部主装飾	(隆線・縄文)→沈線	隆線は添える程度で隆起部分はわずか
小突起	A・E	12/5	6/1以下	1(2)	1-7/4	二分	口縁部区画帯/体部主装飾	A1a/C3a	3.5/2.5	1以下	なし	隆線脇他/充填	隆線→充填→沈線	C3aは偏り施文
?	A	7	3以下	1/2	1/4	なし	分帯、体部渦巻	A1a/C2a	3.5/5	1.5以下	交互刺突文	隆線脇/充填	隆線・分帯沈線→充填沈線→隆線脇沈線	



表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(5)

白1は不透明・つやなしの白色粒子(火山岩・軽石ほか)、白2はつや有りの白色粒子(深成岩?)  
石=石英、雲=雲母

図版番号	復元番号(通し)	住居番号	仮土器番号	出土地点など	層位・取上番号	接合関係	器種	器形				基本的な造形				装飾割付		
								類別	口縁部	口唇部	底部	胎土	底部圧痕ほか	地文、(充填装飾)	色調	縦位分割	横位分割	分割方法
183	1	107	SB	61	2	埋ガメ	別表 深鉢	I 4C3	H1	A	b	白1・2、雲微	未調整	C3aほか条線状	黒褐～赤褐	I 0 II 6	I 1 II 1	
183	2	108	SB	61	3	P1	別表 深鉢	I 4B3	H1	A	b	白1・2、雲、石	磨	幅13mm条線	明褐～暗褐	I 0 II 3	I 1 II 1	
184	1	110	SB	62	2	P47	別表 台付き深鉢	III 2B3	Y1	A	-	白1多	-	幅20mm以下条線	にぶい黄橙～灰黄	I 4 II 4	I 1 II 1	
184	1	295	SB	64	2	埋ガメ	別表 深鉢	I ? II C3	-	-	-	白1多、砂粒	-	LR縄文	にぶい褐	I ? II 10	I 1 II 1	
184	4	106	SB	61	1	P4	別表 深鉢	I 4C1	H2	D	B	白1多	網代→磨	単沈線	にぶい橙～褐灰	I 4 II 4	I 2 II 3	
184	4	109	SB	62	1	P34	別表 深鉢	III 2C3	Y1	A	b	白2、雲	-	0段多条? LR縄文	にぶい黄褐～褐灰	I 4 ? II 4	I 1 II 1	
184	4	113	SB	63	3	P33	別表 深鉢	I 2C3	H2	D	b	白2多、雲	-	単沈線	赤褐～黒褐	I 4 ? II 4	I 2 II 1	
185	1	294	SB	66	1	NO.1	別表 深鉢	I 4B3	H1	B	-	白2、雲	-	半隆起線	赤褐～黒褐	I 0 II 4 ?	I 1 II 1	
185	5	111	SB	63	1		別表 深鉢	I 2C2	H1	E	-	白1多	-	平行沈線	灰褐～黒褐	-	-	
186	3	296	SB	66	3	埋ガメ	別表 深鉢	I 4B2	H1	A	-	雲母多	-	単沈線	赤褐	I 5 II 3	I 1 II 1	
186	5	308	SB	67	1	埋ガメ	別表 深鉢	I 4B3	H1	C	-	白2、雲、石	-	半隆起線	明褐～黒褐	I 0 II 4	I 0 II 2	
187	1	9	SB	69	1	C4 10'	別表 壺?、釣手付き?	?C3	-	-	b	白2多	磨	なし	黒褐	I ? II 1	I ? II 2	
187	1	116	SB	71	2	SB71	別表 深鉢	V 2	H1	B	-	白1、雲超微	-	幅15mm条線	にぶい黄橙	?	I 1 II 1	
187	2	115	SB	71	1	P4	別表 深鉢	I ?C3?	-	-	E	白1多	上げ底	幅16mm条線	明褐～褐灰	I ? II 4	I ? II 1	
187	3	297	SB	71	4	SB71	別表 深鉢	I 2C1?	H1	B	-	白1・2多	-	L縄文	赤褐	I 0 II 2 ?	I 1 II 1 ?	
188	5	300	SB	73	2	III 2層	別表 深鉢	I 4B3	H1	B	-	白2多、雲微	-	半隆起線、LR縄文	橙～黒褐	?	I 1 II 2	
188	8	117	SB	71	3	P14	別表 深鉢	III 1B4	H3	F	-	雲多、石	-	単沈線	橙～にぶい褐	I 2 II 6	I 1 II 1	
189	1	307	SB	76	1	炉P1	別表 深鉢	V 1	H3	C	-	白2、雲	-	単沈線	にぶい黄橙～褐灰	I 2 II 6	I 0 II 2	
189	8	395	SB	73		P6	別表 深鉢	I 6B2	H1	C	-	白1多	-	半隆起線	赤褐	I 0 II 8	I 1 II 1	
189	9	299	SB	73	1	P8	別表 深鉢	I 1 C1?	H1	C	-	各種細砂粒	-	半隆起線	にぶい橙～明褐	I 0 II 5 ?	I 1 II 2	
190	1	313	SB	82	4	UM1	別表 深鉢	IV 1	H1	D	e	雲多	網代	幅14mm条線	明赤褐～褐灰	I 0 II 6	I 1 II 1	
190	2	361	SB	79	1	埋蓋、旧SX16	別表 深鉢	I 2 ? II B3	H3	D	b	白1・2、雲微	磨	LR縄文	黒褐	I ? II 4	I ? II 1 ?	
190	3	309	SB	80	1	P16	別表 深鉢	I ?C3	-	-	b	白1他多	磨	八字単沈線	にぶい黄橙	I ? II 7	I ? II 1	
190	4	310	SB	82	1	UM2	別表 深鉢	I 4C3	H1	B	b	細白、雲微	-	幅18mm条線	にぶい黄橙～黒褐	I 0 II 6	I 1 II 1	
191	1	315	SB	85	1	埋ガメ	別表 深鉢	?	-	-	b	大粒白1	?	磨き	にぶい赤褐	I ? II 6 ?	?	
191	5	312	SB	82	3	UM-3	別表 深鉢	V 1 ?	-	-	b	白1多	磨、擦痕	単沈線	にぶい黄橙～黒褐	I ? II 4	I ? II 3	
191	6	372	SB	82	5	ヒット1 P2	別表 深鉢	I 2 (B3)	H1	A	-	灰色砂粒ほか	-	LR縄文	にぶい黄橙	I ? II 11	I 1 II 1	
191	8	311	SB	82	2	フ	別表 深鉢	I 4B3	H2	A	-	大粒白1・2多	-	雑な条線状単沈線	にぶい赤褐～暗赤褐	?	I 1 II 1	
192	1	318	SB	88	2	UM1	別表 深鉢	?	-	-	-	白1多	-	幅27mm青海波状条線	にぶい橙～暗褐	?	?	
192	1	78	SB	90	1	埋ガメA	別表 深鉢	II 1-	H1	F	-	白1	-	幅15mm条線	褐灰～にぶい黄橙	I 6 II ?	I 1 II 1 ?	
192	1	298	SB	99	1	埋ガメ	別表 深鉢	I ?B3	-	-	E	白1多	圧痕消	八字単沈線	赤褐～黒褐	I ? II 8	I ? II 1	
192	2	317	SB	88	1	UM2	別表 深鉢	I ?C2?	-	-	e	白1多	網代→磨	LR縄文	橙～にぶい橙	I ? II 11	I ? II 1 ?	
192	2	288	SB	95	旧SB6 0-5		別表 深鉢	I 3B4	H1	A	-	白1	-	半隆起線	褐	I 0 II 4	I 1 II 1	
193	1	138	SB	5	1	P38	別表 深鉢	I 4B3	H1	A	b	白2	-	磨き		I 0 II 10	I 1 II 1	
194	1	306	SB	75	4	ヒット2	別表 深鉢	II 2C2	H1	B	b	白多	磨	LR縄文	褐～黒	I 6 II 6	I 2 II 2	
194	5	305	SB	75	3	P2	別表 鉢?	II 2-	H1 ?	B	-	白1多、白2	-	LR縄文	灰褐～黒褐	?	I 2 II 1 ?	
194	6	303	SB	75	1		別表 鉢?	?	-	-	-	白1他、雲超微	-	LR縄文、磨き	にぶい褐～明赤褐	?	?	
194	7	304	SB	75	2	炉P1	別表 深鉢?	?C2	-	-	-	白1・2、雲	-	磨き	にぶい褐～明赤褐	?	I ? II 2	
195	2	349	SX	2	1	埋ガメ	別表 深鉢	I ?B2	-	-	e	白1・2他	風化(網代無)	磨き、LR縄文	橙～黒褐	I ? II 4 ?	I - II 1 ?	
197	3	332	SB	109	1	旧SK1409	別表 深鉢	?C1?	-	-	b	白1多	圧痕なし	体部上半LR縄文、下部磨き	橙～黒褐	?	?	
198	1	357	SX	12	1	SX12	別表 深鉢	I ?C2	-	-	b	白1多	中央圧痕	磨き	黒褐～明赤褐	?	I ? II 1	
199	1	350	SX	3	1	SX03埋ガメ	別表 深鉢	?	-	-	b	大粒白1多	網代→磨	単沈線	にぶい赤褐～褐灰	?	?	
199	3	352	SX	5	1	埋ガメ	別表 深鉢	I ? C2?	-	-	-	雲多	-	LR縄文	赤褐～黒褐	I - II 0	I - II 0	
200	8	351	SX	4	1		別表 深鉢	I 7C2	H1	C	b	白1・2多	網代	半隆起線	明赤褐～褐灰	I 0 II 7	I 2 II 1	
201	9	356	SX	11	1	SX11	別表 深鉢	?	-	-	b	白1多	周・網代残	八字半隆起短沈線	橙～にぶい黄橙	?	I ? II 1	
201	12	360	SX	15	1	SX15	別表 深鉢	?	-	-	b	白1	圧痕有	幅13mm以上の条線	橙～にぶい赤褐	I ? II 5	?	
202	18	364	SX	19	1	SX19	別表 深鉢	V 1	H1	A	-	白1・2	-	八字沈線	にぶい橙～灰褐	I 0 II 3	I 1 II 1	
203	22	369	SX	28	1	SX28 P1	別表 深鉢	I 4C2	H1	B	-	白1・2他	-	幅21mm? 条線	橙～褐灰	I - II 4 ?	I 1 II 1	
203	24	347	SQ	11	1		別表 深鉢	I 4C3	H1	E	b	白1多	筋状圧痕	LR縄文	黒褐～橙	?	I 1 II 1	
203	25	333	SX	31	1	旧SK1414埋ガメ	別表 深鉢	I ?C2	-	-	e	白1多	-	磨き、LR縄文	明赤褐～黒褐	I ? II 10	I ? II 1	

第3節 縄文時代の遺物

底部圧痕=なしは網代なしで、磨きなどが不明確なもの

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾				施文順序	備考(赤彩ほか)			
	形状	幅(mm)	高さ	組数	貼付方法	隆線上装飾	形状	幅(mm)	深さ	刺突・陰刻文、その他			用例		
なし	E(D)	8~18	3以下	1	3	なし	分帯、懸垂文	A1a/C3a=B1a	7/3.5	1以下	なし	隆線脇、蛇行沈線/充填	隆線→充填沈線→隆線脇・蛇行沈線		
なし	E	7~16	4以下	1	1,2,4	なし	渦巻、懸垂文	A1a/D	5.5/9	0.5以下	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線		
(E?)	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	0.8以下	なし	区画、懸垂、渦巻	沈線→条線		
-	A・F	9~12	6以下	1~2	1/4	なし	分帯、(口縁部渦巻?)	A1a	5	0.5以下	なし	懸垂文、隆線脇	(隆線・縄文)→スリ消し・沈線	口縁打欠き	
把手(脱落)	A	5.5	3	1/2	1/4	捻り粘土紐貼	分帯、区画、渦巻	A1a/B1a	3/1.7	1	沈線内再刺突、交互刺突	隆線脇、渦巻など/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	6	0.7以下	なし	口縁部区画内刺突	区画、懸垂、渦巻	縄文→スリ消し・沈線(口縁部不明)	
なし	A	4~7	2~7	1	1/4	なし	分帯、渦巻、懸垂	A1a	2.5	0.5以下	なし	隆線脇、充填	隆線→頸部充填→体部充填→隆線脇		
なし	E(A)	6~12	3	1	2/3	なし	分帯、懸垂、渦巻	A1a/d/C3a	9/7.5/3	0.2以下	なし	隆線脇//充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
-	B	7.5	4.5	1	1	刻み	分帯、懸垂	C2a	5.5	0.5	-	充填	充填沈線→隆線		
なし	A	8	6	1~3	1/3	なし	区画、懸垂文	A1a	3~5	0.5	なし	充填、隆線わき	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
X字状把手	E	10~17	3.5以下	1/2	1/3	なし	体部懸垂、渦巻文	A1a/C3a	7.5/3	0.5以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
剥落	造形	-	-	-	-	-	突起か把手	A1a	5	2	一部で充填刺突	体部全装飾	体部沈線→把手(突起)		
-	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	0.5以下	なし	充填以外の装飾	条線→沈線		
-	A	8~11	2以下	1	1/3	なし	懸垂文	A1a/D?	4.5/9	0.3以下	なし	蛇行沈線/隆線脇	隆線・条線→隆線脇沈線・蛇行沈線		
眼鏡状把手	造形	-	-	-	-	沈線	把手のみ	C3a	6.5	1.2	なし	分帯、把手上・脇	把手→沈線(縄文との新旧不明)		
なし	B	6	3.5	1	1	なし	棒状貼付文	C2・3a	6	8以下	なし	体部上半充填	縄文・半隆起充填→隆線		
把手	A	6.5~11	1~6	2	1	なし	分帯、懸垂	A1a	3	1	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線		
X字状把手	A	4	2	1/2	4	把手部沈線、刺突	区画、懸垂、渦巻ほか	A1a	1.5/2.5	1以下	沈線内再刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	B	4	2	1	1	なし	分帯、懸垂	C3a	3	0.9	なし	充填	充填沈線→隆線		
なし	B	5~9	1.5~7	1	1	なし	分帯細い、懸垂太い	C3a	4.5/3	0.7以下	なし	横位太、縦位細	横位沈線→縦位沈線→隆線		
なし	B/D	8~10	4.5以下	1	1/4	刻み	分帯、懸垂	A1a	3~4	1以下	なし	隆線脇、渦巻文	隆線→条線→沈線装飾		
大木系把手	なし	なし	なし	なし	なし	なし	分帯、渦巻き	A1a	7	0.5以下	単独刺突文	隆線脇	隆線・縄文→隆線脇沈線	裾面が微妙に盛り上がる程度の隆線(帯)	
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	-	A1a	7	1.5	なし	懸垂、充填	懸垂沈線→八字沈線?		
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	-	A1a	8.5	1	なし	蛇行沈線、分帯	条線→沈線		
?	B	5~11	2	1	1/3	なし	楕形文	A1a	3	0.4以下	なし	楕形文	隆線→沈線		
-	A	6	6以下	2/3	1/3/4	二分沈線、貼付文	区画、懸垂、渦巻ほか	A1a	3~5	1.5以下	交互刺突、沈線内再刺突	隆線脇、隆線二分、充填	隆線→装飾沈線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	A	6	2	1/2	1/4	なし	区画	A1a	4.5	1	なし	懸垂、充填脇	隆線→縄文→沈線		
なし	E(B)	7~14	2	1	1/2	なし	分帯、懸垂、渦巻	B1a	1	0.2以下	なし	充填	隆線→充填沈線		
-	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	6	1以下	なし	懸垂文	条線→スリ消し→沈線		
なし	A	4~8	7以下	1/2	1/4	なし	区画文、渦巻文他	A1a	7	2以下	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線		
-	A	6~9	3以下	1	4	なし	分帯、懸垂	A1a	4/3	0.5	なし	隆線脇/充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線		
-	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	5	0.5	なし	懸垂文	縄文→スリ消し→沈線		
なし	B	6~10	2~4	1/2	1/4	刻み	分帯、懸垂文	A1a/C3a	3.5/3.5	1以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線・隆線刻み	刻み隆線のみ施文順位異なる可能性有り	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.8	0.7以下	区画内LR縄文充填	分帯、懸垂文	沈線→縄文		
なし	A	5.5以下	2	1	2	なし	頸部懸垂文	A1a	4	2以下	体部上部連続刺突	体部分帯、主装飾	縄文→沈線→隆線		
-	不明	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5	0.5	口縁部連続刻み	体部装飾	不明		
?	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4	1	-	体部装飾	沈線→縄文		
8字突起	造形	-	-	-	-	-	8字突起	A1a	4	0.5以下	8字突起内	体部装飾	沈線→突起		
-	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	1	なし	渦巻ほか	沈線→縄文		
-	体部なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3.5	0.7	なし	区画文、渦巻文	沈線→縄文	底部穿孔	
なし	なし	3	2.5	1	1	なし	小円形貼付文のみ	A1a	4	1以下	分帯部に連続刺突	体部装飾、分帯	装飾沈線→分帯沈線→貼付文→刺突		
-	なし	12	6.5以下	3	4	なし	懸垂文	A1a	4	1	なし	隆線脇、充填	隆線→充填→隆線脇		
-	A	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-	-	縄文のみ		
小突起	なし	3.5/6	3以下	1/2	1	貼付文	分帯、懸垂ほか	C3a	6.5	1以下	なし	充填	充填沈線→隆線		
-	なし	板帯状43	3以下	複?	6	半載竹管で分線	懸垂文ほか	C3a	7	0.5以下	なし	懸垂、充填	隆線→隆線整形→充填沈線		
-	なし	12~18	3以下	1/2	2/3	なし	渦巻、分帯	D?	11	0.2以下	なし	隆線脇	隆線・条線→隆線脇沈線		
なし	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4.5	0.7以下	なし	分帯、懸垂、充填	分帯・懸垂沈線→充填沈線		
X字状把手	なし	7.5~14	4以下	1/2	2/3	なし	全装飾	A1a	7.5	0.2以下	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線		
なし	A・B	-	-	-	-	-	-	A1a	5	2以下	なし	分帯、懸垂文	縄文→沈線		
-	体部なし	-	-	-	-	-	-	A1a	4	1.5以下	なし	弧線、懸垂文	沈線→縄文		

表14 聖石遺跡出土主要土器の属性(6)

白1は不透明・つやなしの白色粒子(火山岩・軽石ほか)、白2はつや有りの白色粒子(深成岩?)  
石=石英、雲=雲母

図版番号	復元番号(通し)	住居番号	仮土器番	出土地点など		器種	器形			基本的な造形				装飾割付				
				層位・取上番号	接合関係		類別	口縁部	口唇部	底部	胎土	底部圧痕ほか	地文、(充填装飾)	色調	縦位分割	横位分割	分割方法	
204	4	341	SQ	4	1	SQ4	別表	深鉢	I 4C2	H1	F	-	白2多	-	単沈線	明赤褐～褐灰	?	I 2 II 1
204	7	345	SQ	6	3	P1	別表	深鉢	III 2B4	H2	A	-	白1・2多、雲微	-	平行沈線	にぶい黄橙～明赤褐	I 4 II 4	I 1 II 1
204	8	344	SQ	6	2	P2	別表	深鉢	III 2B4	H1	C	-	白1・2多	-	平行沈線	赤褐	I 0 II 5	I 0 II 2
206	19	353	SX	7	1	P6 P67	別表	深鉢	I 4 C2?	H2	A	-	白1・2多	-	LR縄文	黄橙～にぶい褐	?	I 1 II 1
208	56	320	SK	78	2	P2	別表	深鉢	I 2C3	H1	A	-	白2、雲	-	半隆起線など条線状	にぶい褐	I 0 II 6	I 1 II 1
208	57	321	SK	74	1	SK74 P-1	別表	深鉢	IV 2?	-	-	e	白1多	木葉痕	RL縄文	明褐～褐灰	?	I 1 II 2
208	60	319	SK	78	1	P2	別表	深鉢	I ?C1	H3?	-	b	白1多	磨き	LR縄文	にぶい橙～褐灰	?	I・II 1
209	68	322	SK	94	1	71層	別表	深鉢	I 4B3	H1	A、 B	-	白1多	-	単沈線	赤褐～灰褐	?	I 2 II 1
209	75	323	SK	105	1	P1	別表	深鉢	I 4B2	H1?	A	-	白2、雲	-	横半隆起線	赤褐～褐灰	?	I 1 II 1
209	93	324	SK	125	1	SK125	別表	深鉢	I 2B3	H1	B	-	雲多、白1・2	-	半隆起線	にぶい褐～黒褐	I 0 II ?	I 1 II 2
210	133	325	SK	402	1	SK402	別表	鉢	IV 1	Y2	A	e	砂	網代	LR縄文	赤褐～黒褐	I 4 II 0	I 1 II 1
210	137	326	SK	448	1	SK448	別表	深鉢	I 7B2	Y1	A	-	白1、赤粒	-	LR縄文	にぶい黄橙～褐灰	I 4 ? II 8	I 1 II 1
211	166	328	SK	666	1	SK666	別表	深鉢	III 2D1	H1	C?	-	白1多	-	半隆起線	にぶい赤褐～にぶい褐	I 0 II 3	I 1 II 2
211	171	330	SK	693	2	西側	別表	深鉢	III 2D1	H1	C?	-	雲多、石、白1	-	単沈線	黒褐～暗赤褐	I 0 II 5	I 1 II 2
211	172	329	SK	693	1	東側	別表	深鉢	III 2B2	H3	B	-	白1・2、微雲	-	単沈線	赤褐～黒褐	I 4 ? II 4?	I 2 II 1
215	284	336	SK	1486	1	SK1486	別表	深鉢	V 1	H3	F	b	白1・2多	磨	単沈線	橙～にぶい赤褐	I 4 II 4	I 1 II 1
215	300	337	SK	1510	1	SK1510	別表	深鉢	III 2A1	H1	B	a	白1	網代明瞭	磨き	にぶい橙～褐灰	I 5 II 5	I 2 II 0
216	304	338	SK	1514	1	SK1514	別表	深鉢	I ?B3	-	-	e	大粒白1・2多	網代明瞭	LR縄文	にぶい褐	I ? II 4	I ? II 1
216	323	339	SK	1545	1	SK1545	別表	釣手付鉢	IV 1	H3	A	e	白1、砂	磨?	LR縄文	橙～にぶい橙	I 2 II ?	I 1 II 1
218	367	340	SK	1577	1	1577	別表	深鉢	I 4'-	H1	B	-	細白1、雲	-	鋭単沈線	褐灰～黒褐	?	I 1 II 1

底部圧痕=なしは網代なしで、磨きなどが不明確なもの

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾						施文順序	備考(赤彩ほか)
	形状	幅(mm)	高さ	組数	貼付方法	隆線上装飾	用例	形状	幅(mm)	深さ	刺突・陰刻文、その他	用例		
なし	A/F	7~11	11以下	2	1/4	なし	口縁部区画文	A1a/B1a	3.5/1.2	2以下	なし	懸垂文/充填	隆線→懸垂沈線→充填沈線→隆線	
なし	A・B	5~9.5	5以下	1	1/5	刻み、貼付文	分帯、懸垂ほか	C2a?	2.5	0.2以下	なし	充填	隆線→充填沈線	
なし	A・B	8/3	2.5以下	1/3	1/5	C竹管押圧	分帯、懸垂文	C2a	2.5/7	-	7mm竹管隆線上押圧	充填/隆線上押圧	隆線→充填沈線→隆線上押圧	
小突起	B	-	-	-	-	-	-	A1a	3	0.5以下	なし	全装飾	縄文→スリ消し→沈線	
なし	E	3.5~10	2	1	1/4	なし	懸垂文	A1a/C3a~B1a	4/3	1.2以下	なし	隆線脇/充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
-	G	6	2以下	1	1	なし	分帯のみ	A1a	3.5	0.4以下	なし	体部装飾	隆線→沈線→縄文	
あり	なし	-	-	-	-	-	-	A1a	3	0.2以下	なし	懸垂文	縄文→沈線	
なし	A	8~12	8以下	1	1/4	なし	区画文	A1a	2.5	0.5以下	なし	懸垂文、充填	隆線→充填沈線→隆線脇・懸垂沈線	
-	B	5	2	1	1	なし	棒状貼付文	C3a	6	2.2	なし	充填	充填→貼付隆線	
なし	A(B)	5・6	1.2以下	1/3	1/2	なし	分帯、懸垂文	A1a/C3a	4/5.5	0.1/1.2以下	なし	隆線脇/充填	分帯・懸垂隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
橋状把手	F	11	5以下	1	1	なし	分帯	なし	-	-	-	-	隆線→縄文	
なし	?	10以下	3.5以下	1	1	縄文かぶる	分帯	A1a	2	0.1	なし	体部全装飾	隆線→沈線→縄文	
なし	A・B	4/3	2以下	1~4	4/1	C竹管連続押圧	分帯/懸垂、頭部充填	A1a/C3a	2/3	1以下	なし	隆線脇/充填	分帯隆線→充填沈線→貼付隆線→隆線脇上沈線	
なし	A	5~9	6.5以下	1	4	隆線横刺突	区画文	A1a	2	0.5以下	沈線内再刺突ほか	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
X字状把手	A	6~10	4.5以下	3	1/4	なし	懸垂文	A1a	2	0.8以下	隆線間ほか連続刺突	隆線脇、充填、懸垂文	隆線・分帯・懸垂沈線→充填沈線→隆線脇	
大把手	A	5.5~8	3以下	1/2	4	なし	分帯、懸垂文	A1a	3	1以下	交互刺突、沈線内再刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	B	5	0.8	1	1/5	刻み、貼付文	分帯	B1a	1.2	0.3以下	沈線間にLR縄文	全装飾	隆線→沈線→縄文?	
-	G	8	0.5以下	1	2	なし	懸垂文	D?	5	0.1以下	なし	隆線脇	隆線・縄文→隆線脇凹線	
釣手	G	5.5	1以下	1	1	なし	分帯	A1a	2.5	0.3以下	口縁~釣手に連続刺突	体部装飾	隆線→沈線→縄文	
なし	E(D)	18	3	1	1/4	二分沈線	口縁部区画文	A1a/B1a	4/0.8	1以下	なし	隆線脇、隆線二分、懸垂/充填	隆線→懸垂沈線→充填沈線→隆線脇・蛇行沈線	

**貼付方法** ここでは、1～7に区分した。部分的に1であったり、4であったりする例がある。その場合は、1/4と記した。

- 1 粘土紐を直接貼り付けたのみで、両脇を押さえるなどの手法が認められない例。
- 2 粘土紐の脇を指で押さえつける例、浅い凹線が認められる。
- 3 何らかの工具で粘土紐の脇を浅くナデつけて、隆線装飾を固定した例。
- 4 粘土紐の脇を工具を使った押さえ（沈線）、隆線装飾を固定した例。
- 5 隆線上を小刻みに刻むことで隆線を固定する例。単なる装飾との区分は難しい。
- 6 粘土紐そのものに半截竹管をかぶせ、粘土紐の形状を整形すると同時に、器面に押さえつけた例
- 7 隆線を二分することで、固定させる例。単なる装飾との区分は難しい。

**隆線上装飾** 隆線を刻んだり、粘土紐を貼付することによって、隆線を加工した例を記した。1本の隆線を2本に見せるために割った例は、二分とした。

**用例** 主に、装飾の軸となる割付に係わる分帯線（横位器面分割）や懸垂文（縦位器面分割）、さらに主要な個別装飾（区画文、渦巻き文など）について記した。

**d. 沈線系装飾** 器面を彫り込んだり、棒状工具で凹線を引き、あるいは刺突したりして描出した装飾を沈線系装飾とした。

**沈線の類別** 工具によって次のA～Dに分けた。これも時期や地域によって差異が表れやすい部分である。

- A 棒状工具や半截竹管のセ部分を利用して、単沈線（1）を施した例
- B ヘラ状工具や先端を鋭利に加工した工具、あるいは半截竹管の片端を利用して、鋭利な単沈線を施した例
- C 半截竹管のハラ部分を利用して、平行沈線（2）や半隆起線（3）を描出した例
- D 指などを使って、ほとんど窪みが付かない凹線を描く例

さらに、工具の器面への接地面の差によって1と2・3に分け、さらに器面への深さ・あるいは工具の形状の差によって2と3を分離した。

- 1 単沈線 一条の沈線
- 2 平行沈線 二条の沈線
- 3 半隆起線 二条の沈線間が、半截竹管のハラが接触することによって断面カマボコ状になるもの

また、施文手法によりaとbに分けた。器面に対する施文具の角度が急となる例は刻みとして分離した。

- a 単純に引いたもの
- b 押し引きや連続押圧したもの。工具の角度によってさらに区分すべき時期もあるが、今回は行っていない。

上記の3項目に従って、沈線による装飾は**A1b**（半截竹管セ利用・単沈線・押し引き）などと記した。

**幅と深さ** 工具の太さを知る要素である幅は、末端や湾曲部を除いた部分で計測した。深さは、聖石遺跡では計測値を示したが、誤差が大きいため長峯遺跡では、特に浅いものと深いものについてのみを記した。

**刺突・陰刻文** 沈線系装飾の内、上記以外のものを記した。主には刺突文と陰刻文である。

**用例** 沈線による装飾の使い方を簡単に記した。

**e. 装飾の順序** 装飾を施すにあたって、どのような手順で行われたかを、装飾の切り合い関係から観察した。

**f. その他** 赤彩・漆、おこげの有無などを記した。

(4) 特記される土器資料

**ア 赤彩・漆関係資料** 酸化第二鉄を使用した赤彩が施された土器および漆附着土器84点が、本格整理開始前に抽出されていた。これらについて観察を行った(表15)。赤彩は、器面への定着度が弱く、剥落によって肉眼で確認しづらい例が多いことから、定着材として漆を使用していない場合も想定される。中期後葉から後期の資料であるため、赤彩の対象は浅鉢形土器や小形の鉢・壺類になっている。また、酸化第二鉄を粉砕したと見られる敲石・台石がみつかり(第3分冊巻頭図版8)、集落内で原料からの加工が行われたと考えられる。

土器面への漆使用は判然としないが、漆使用のための容器が出土している。そのため、漆塗布の対象は、すでに失われてしまった植物質の材料を使用した容器・籠類であった可能性が高い。

**イ ミニチュア土器** ミニチュア土器は少なく、後期の蓋が1点出土している。

**ウ 穿孔土器** 埋甕・埋甕などに転用された土器には通常、底部、口縁部、把手部に打ち欠きがある。この他、体部に穿孔が認められた例(SB49-図版179-2)がある。

**エ その他** SB02(図版138-7)出土資料は、文様施文面を下にして掲載したが、器形・位置などまったく不明である。大形の土製品の可能性も含めて検討が必要な資料である。

表15 聖石遺跡 赤彩・漆関係資料(1)

※附着状況の分類は、A=全面に残存、B=筋状(文様でないものも含む)、C=文様がわかる、D=部分的に残存、E=沈線や凹部のみ残存、F=点在。1=肉眼ではっきりわかる、2=肉眼でようやくわかる程度

赤彩 漆番 号	図版番号	復元 番号	遺構・地区名 記号 番号	層位・出土 地点	取上 番号	接合・同 一 個体 番号	器 種	残存部位	時 期	文 様	外面 塗彩 色	外面 附着 状況	内面 塗彩 色	内面 附着 状況	水島正春先生のご教示 肉眼観察	コメント	備 考
5	144	26	374 SB	7	P615		有孔鑄付土器	ほぼ完形	中期・後葉		赤		赤		未		未洗浄
9	150	25	200 SB	9 東	P362		浅鉢	ほぼ完形	中期・後葉	隆線+沈線 半隆起線+ 低隆線	赤	E1	なし	なし	未		復元済み
14	152	17	439 SB	27	P229		鉢?	体部	中期・後葉	隆線+沈線 半隆起線+ 低隆線	赤・黒	D1	なし	なし	未		注記はSB12
11	152	18	438 SB	12	P256 P17		?	底部	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	D1	済		注記はSB12
17	156	15	440 SB	19	5		有孔鑄付き土器?	孔・鑄	中期・後葉	鑄と孔	赤	D1	赤	D1	済		鑄部上下方向に穿孔
34	161	10	SB	26 フ		34.35接 合 34.35接 合	釣手土器?	突起	中期・後葉	貼付隆線	赤	A1	なし	なし	済		外赤塗り 内面は、外との境 部のみ
35	161	10	SB	26 フ			釣手土器?	突起	中期・後葉	角押文 条線+単沈 線	赤	A1	赤	A1	済		
40	162	17	444 SB	27 フ			浅鉢	口縁直下	中期・後葉	条線+低隆 線	赤	D1	赤	D1	済		
43	164	14	1840 SB	32	P36		浅鉢	口縁	中期・後葉	条線+低隆 線	なし	なし	赤	F2	未		
44	168	23	418 SB	36	P61		有孔鑄付き土器	口縁~体	中期・後葉	単沈線 縄文+単沈 線	赤	F2	赤	F2	未		
46	184	3	1932 SB	63	P15		有孔鑄付き土器	口縁	中期・後葉	線	なし	なし	赤	F2	未		拓本932
49	189	11	446 SB	73 フ北西			浅鉢?	口縁	中期・後葉	無文	赤	F1	赤	D1	未		
53	191	10	1437 SB	82 フ			有孔鑄付き土器	口縁	中期	鑄と孔	なし	なし	赤	D1	未		
83	217	337	1410 SK	1553			鉢	口縁	不明	沈線	赤	D1	赤	D1	未		拓本410
84	217	351	1424 SK	1563			浅鉢	口縁	不明	沈線	赤	D1	なし	なし	未		拓本424
82	217	354	1425 SK	1564			浅鉢	口縁	中期	三角押文	赤	A2	赤	A2	未		拓本425、SK764と同一
68			0 I R	20 12グリット			鉢	体	中期・後葉	隆線+単沈 線	赤	F1	なし	なし	未		
75		388	1 W	4 ケ			有孔鑄付き土器	口縁	中期・後葉	単沈線+半 隆起線	なし	なし	赤	D1	未		
70		0	1 X	4 2グ-1			不明	体	中期?	隆線	赤	D1	赤	F2	未		
71		0	1 X	4 2グ-4			不明	体	不明	沈線	赤	D1	なし	なし	未		
72		0	1 X	4 3グ-3			深鉢?	体	中期・後葉	縄文+単沈 線	なし	なし	赤	F1	未		
57		0	1 X	16	D49		深鉢	口~体	中期・後葉	縄文+隆線	赤	C1	なし	なし	未		
73		0	1 X	17			深鉢?	体	中期	無文	なし	なし	赤	D2	未		
74		0	1 X	22			鉢?	体	中期	低隆線	赤・黒	A1	赤	F2	未		
67		0	1 D	2 8グリット			不明	体	不明	無文	赤	D1	赤	D1	未		
1		0	1 B	3 東西トレ			鉢?	口縁	中期・後葉	単沈線	赤	F2	赤	A2	未		内外にあり 偶然か? 赤色塗 布ではないか?
2			SB	3 1層			?	体部	中期・後葉	無文	赤	D1	赤	F2	済		
3			SB	4 フ			鉢か無形 甕?	体部	中期・後葉	低隆線	赤	D2	赤	D1	済		
4			SB	4 フ			?	体	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	D1	済		
6			SB	7	P85		有孔鑄付き土器?	鑄?	中期・後葉	隆線	赤	F1	赤	F2	済		
7			SB	7	P654		香炉形	ほぼ完形	中期・後葉						未		



表15 聖石遺跡 赤彩・漆関係資料(2)

※付着状況の分類は、A=全面に残存、B=筋状(文様でないものも含む)、C=文様がわかる、D=部分的に残存、E=沈線や凹部のみ残存、F=点在。1=肉眼ではっきりわかる、2=肉眼でようやくわかる程度

赤彩・漆番号	図版番号	復元番号	遺構・地区名		層位・出土地点	取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面付着状況	内面塗彩色	内面付着状況	水島正春先生のご教示		備考
			記号	番号												肉眼観察	コメント	
56			SB	7		P621	P200.P201	浅鉢	口～底	中期・後葉	なし	赤	D2	赤	D2	未		
8			SB	8	フ			不明	口縁付近	中期・後葉	なし	なし	なし	赤	D1	未		
10			SB	9		P178		浅鉢?	体部	中期・後葉	なし	なし	なし	赤	F2	済	内面全体	
58			SB	9	西			浅鉢?	口縁	中期・後葉	なし	なし	なし	赤	A1	未		黒は怪しい
12			SB	12	フ上			浅鉢?	体部	中期・後葉	なし	なし	なし	赤	A2	未		
13			SB	12		P362		浅鉢?	口縁	中期・後葉	なし	なし	なし	赤		未		
15			SB	13	南北トレ			鉢?	口縁	中期・後葉	沈線あり	赤	D2	赤		未		口唇部裏面のみ
							P127~129、180~183、201ほか											
55			SB	13		P182		浅鉢	口～底	中期・後葉?	なし	赤	D2	赤	D2	未		
16			SB	19		P19		鉢?	体部	?	沈線あり	赤	D2	赤	F2	済		
18			SB	19		P22		?	口縁	?	単沈線	赤	F1	赤	F2	済		外面は口唇部のみ
19			SB	21		P36		?	底部直上	?	無文	なし	なし	赤	A2	済		残存内面のみ
20			SB	21		P38		浅鉢?	体部	中期・後葉	条線	赤	D1	赤	A2	済		文様避け、平坦部のみ赤
21			SB	21	フ			不明	口縁	?	無文	なし	なし	赤	D1	済		
22			SB	21		P18		浅鉢?	口縁	?	無文	なし	荒れて不明	赤	A1	済		
23			SB	24		P15		浅鉢?	口縁～体部	?	無文	なし	不明	赤	A1	済		内面は口唇部裏面のみ
24			SB	24	フ南			浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F2	済		
25			SB	24	トレ			浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	A2	赤	D2	済		
26			SB	24	ベ			不明	体部	?	無文	赤	F2	赤	D2	済		内外面あり
27			SB	24	フ西			不明	体部	?	無文	赤	F1	赤	F1	済		
28			SB	24	フ			浅鉢	口縁	中期	無文	赤	F1	赤	F2	済		
29			SB	24	フ			浅鉢?	体部	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	D1	済		内面の黒はくすべているもの
30			SB	25	トレ			深鉢	体部	中期・後葉	条線+沈線	なし	なし	赤	F1	済		
31			SB	25		P97		深鉢	体部	中期・後葉	半座起線	なし	なし	赤	F1	済		
32			SB	25		P85		?	口縁	中期・後葉	無文	赤	D2	赤	A2	済		
33			SB	25	2層			有孔鑄付き土器?	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F1	済		両面にあり
59			SB	25	フ南			不明	口縁	中期	なし	赤	F2	赤	A2	未		
77			SB	25		p11		小形鉢?	口縁	中期・後葉	線	赤	F1	なし	なし	未		口唇部のみ
36			SB	26		P60		?	体部	?	無文	赤	D1	なし	なし	未		
37			SB	26		P34		?	体部	中期・後葉	無文	赤	D1	赤	D1	済		外のみ
38			SB	26	フ			不明	体部	不明	無文	赤	F1	なし	なし	済		両面赤
39			SB	26	フ			不明	突起	中期・後葉	無文	赤	D1	なし	なし	済		赤彩
41			SB	27	フ	P29		有孔鑄付き土器	口縁	中期・後葉	縄文+列清し+単沈線	赤	F1	赤	D1	済		漆ではなさそう。瀾文部を避けて塗る
78	246		SB	27		p292		有孔鑄付き土器	口縁	中期・後葉	線	赤	D1	赤	A2	未		接合済み
42			SB	32		P91		浅鉢	底部	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	F2	未		SB12に変更台付か?
							南北ベ1層、南西フ											
60			SB	32	フクド	P4		鉢	口縁	中期・後葉	低隆線+沈線	なし	なし	赤	D2	未		
61			SB	36	東西ベ1層			不明	口縁	中期	無文	赤	D2	赤	D2	未		
62			SB	36	南西フ			不明	口縁	中期	無文	赤	F2	赤	F2	未		
63			SB	36		P121		不明	口縁	中期	無文	赤	D1	赤	D1	未		
64			SB	36	東西ベ			不明	口縁	中期	無文	赤	E1	赤	F2	未		
							SB48.49、SB50p1											
45			SB	39		P372		有孔鑄付き土器	口縁～体部	中期・後葉	単沈線	なし	なし	赤	F2	未		
65			SB	54	フクド			不明	口縁	中期・後葉	無文	赤	A1	赤	A1	未		
66			SB	63	フクド			不明	体部	中期?	無文	なし	なし	赤	A1	未		
							D7区Ⅲ2層											
47			SB	73	フ			浅鉢	口縁～体部	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	D1	済		外は汚れ状の赤、内面は、黒色付着により円形に赤が残っているように見えるが、本来は全面赤
48			SB	73	南西フ			浅鉢?	口縁	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	D1	済		黒は油煙などの付着か
50			SB	73	南西フ			?	口縁	中期・後葉	無文	赤	D1	赤	D1	済		内外全面
51			SB	73	南西フ			?	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	D1	済		内外全面赤
52			SB	75	フ			深鉢	口縁	後期	条線+単沈線	赤	A1	赤	なし	未		油煙か漆か?
69			SB	82	埴大			不明	口縁	中期	無文	赤	D1	赤	D1	未		
54			SB	87	埋葬	UM1		深鉢?か有	底部	中期・後葉	なし	赤	F2	なし	なし	未		底部裏面に僅かに
79			SB	89		P		不明	口縁	後期?	無文	赤	F1	赤	F2	未		拓本656
80			SF	29				不明	体部	中期・後葉?	隆線	赤	D1	なし	なし	未		拓本SX26より変更
81			SK	764				浅鉢	口縁	中期・後葉	三角押文	赤	A2	赤	A2	未		拓本425、SK1564と同一
76			SK	1453				不明	体部	中期・後葉	微隆起線	赤	F1	赤	F1	未		拓本318

### 3 土製品

祭祀に関わる製品として土偶4点のほか、用途不明の土器片製円板30点が出土した。遺跡の規模に比して土製品の数量は少ない。

#### (1) 土 偶 (図225・表16)

出尻形をはじめとする立像土偶が3点、板状の例が1点で、いずれも中期後葉である。

表16 聖石遺跡出土土製品一覧表

図版 番号	復元 通番 号	器種	遺構・地区		層位	取上 番号	残存部位	重さ (g)	胎土	色調	製作 痕跡	装飾	分類		時期	備 考
			記号	番号									全体	部分		
225	159	土偶	SK	159		P1	胸部～脚部	530	白色粒ほか	にぶい赤褐		脚部から臀部中心に、鋭利単沈線による渦巻き文ほか	立像	出尻	中期後葉	
225	462	土偶	SK	211		P1	右腕か脚部	40	雲母、白色粒	にぶい赤褐	軸穴	数条の単沈線	立像?		中期後葉	貼付粘土粒が乳房とすれば腕、形状的には脚、調べ
	476	土偶	I S-X	25・5	II層		脚部	40	雲母、白色粒微量	にぶい赤褐	軸穴	単沈線	立像?		中期後葉	
	—	把手か土偶	I X	2	I・II層		体部以下?	26	白色粒ほか	にぶい赤褐		単沈線	把手の可能性大		中期後葉	
225	463	土偶	I X	12	10グリット		胸～胴	10	白色粒多	黒褐		なし	立たないやつ	板状	?	
225	469	ミナコア土器蓋	I X	12	8グリット		ほぼ完形	21								

#### (2) 土器片製円板 (図225・表17)

土器片を小割にし、側縁を研磨して円形などに加工した土製品をまとめた。総数30点で、加工の程度によりA～Eに分類した。

- A 円形あるいは隅丸方形などに整えられ、側縁の全周に磨きがかかったもの
- B 平面形は円形などに整っているが、側縁に磨かれていない部分が残るもの
- C 側縁の全周に磨きが行き届いているが、形が不整形を呈するもの
- D 平面形はほぼ円形や隅丸方形に近く、側面には部分的に磨きがかかったもの
- E 平面形は不整形で、ごく一部に磨きがかかっているもの
- F 土器片を小割にしただけのもので、側面に磨き認められないもの

A段階まで加工した製品は1点に止まり、小割してももの一部を磨く程度で終わっている。形状は、最終的には円形を目指したらしく、隅丸長方形や楕円形は見つかっていない。大きさは、径38.4cm、重さ17.2g平均を測る。時期は、中期後葉が中心で、確実に後期に下る資料は(図版225-10)ほか3点である。土器片製円板が多く作成される中期前葉の資料は皆無であった。前葉～中葉が中心となる長峯遺跡と比較して、大ぶりの例が多くなっている。

### 4 石 器

#### (1) 概 要

採取した石器・石器素材～製作屑の合計は5574点(約1080kg)、うち黒曜石が4331点(35.97kg)を占める。石器製作時に出土した屑の採取は、発掘時に肉眼によって確認できたものの内一部のみを取り上げたにすぎず、碎片の大半は統計資料から漏れている。そのため、点数では黒曜石が占める割合が増える可能性が高い。また、礫は石器としての使用痕が明瞭な例(磨石・敲石・礫器類)だけを持ち帰り、石柱・丸石表

表17 聖石遺跡出土土器片製円板一覧

※加工分類は、A=円形・隅丸方形に整えられ、側縁全周に磨かれたもの、B=形は整っているが側面に磨かれていない部分あり、C=形は整っていないが側縁全周に磨きあり、D=形状はやや整えられ、側縁部分に磨きあり、E=不整形でごく一部に磨きあり、F=土器を小割にしているが明確な磨き痕なし

図版番号	土器片製円板番号	遺構・地区名		層位	取上番号	平面形分類	加工状況分類	利用部位	欠損状況	長軸長(mm)	短軸長(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	遺構時期		土器片時期と主装飾	備考	
		記号	番号											大区分	中区分			
225	5	1	SB	8		フクド	不整楕円形	F	深鉢体部		54	50	11	37.4	中期	後葉	不明・縄文	
225	6	4	SB	26	P90		円形	B	深鉢体部		40	39	12	24.26	中期	後葉	中期後葉	
225	7	6	SK	346			不整形	F	深鉢体部		35	30	10	12.88			不明・無文	
225	8	7	SF	1			不整六角形	B	深鉢体部		42	40	9	21.35			不明・平行沈線	
225	9	17	I X	3		Ⅲ層	円形	A	深鉢体部		25	25	9	7.66			不明・無文	
225	10	28	ST	5		IBSK1530	不整形	E	注口体部		43	40	5	13.1	後期	後半	後期	IBSK1530/拓376から変更
		2	SB	9		フクド上層	不整五角形	E	深鉢体部		52	49	9	25.64	中期	後葉	中期後葉	
		3	SB	24			不整楕円形	E	深鉢体部		50	40	11	22.68	中期	後葉	不明・無文	
		5	SB	50		フクド	不整円形	F	深鉢体部		63	56	13	58.32	中期	後葉	不明・無文	
		8	SF	9			不整形	B	深鉢体部		37	36	9	15.21			不明・無文	
		9	I S	24		Ⅲ層	不整形	B	深鉢体部		28	27	8	7.94			中期後葉	
		10	I T	21の15G			不整形	F	深鉢体部		35	34	8	11.78			不明・無文	
		11	I W	20		ケ	不整形	F	深鉢体部		25	24	7	4.42			不明・無文	
		12	I W	20		ケ	不整形	F	深鉢体部		29	28	7	6.59			不明・縄文	
		13	I W	20		ケ	不整形	E	深鉢体部		30	27	9	8.74			不明・縄文	
		14	I X			Ⅲ-1層	不整形	F	深鉢体部		33	32	7	8.46			中期後葉	
		15	I X	1		Ⅲ層内	不整形	F	深鉢体部		33	32	11	14.69			不明・無文	
		16	I X	3	P35		不整形	B	深鉢体部		36	34	8	10.9			中期後葉?	表面風化
		18	I X	3	P1085		不整形	B	深鉢体部		41	40	9	14.76			中期後葉?	
		19	I X	6		ケ	不整形	E	深鉢体部		44	42	12	29.13			不明・無文	
		20	I X	8		炉フ、カ、ケ	不整形	B	深鉢体部		33	31	10	10.75			不明・無文	
		21	I X	9		Ⅳ層上	不整形	C	深鉢体部		37	35	12	20.76			中期後葉	
		22	I X	11の3G			不整形	D	深鉢体部		37	33	12	14.94			中期後葉	
		23	I X	12の7G			円形	C	深鉢体部		43	41	5	12.48			中期後葉	
		24	I X	12の3G			円形	B	深鉢体部		41	39	10	18.26			中期後葉	
		25	I X	17		ケ	不整形	B	深鉢体部		32	28	7	8.51			不明・無文	
		26	I X	21		ワカツ、ケ	不整形	F	深鉢体部		32	31	9	10.79			中期後葉	
		27	I X	12		ワカツ、ケ	不整形	F	深鉢体部		27	26	8	6.8			不明・無文	
		29	SK	115			不整形	F	深鉢体部		64	55	9	49.2			後期	拓88から変更
		30	SB	96		C09-5ク'リット	不整形	E	深鉢体部		31	24	5	7.3			後期	拓1048から変更/ SB47上

については形状の整った例のみを参考資料として取り上げた。

(2) 分類方法

まず、剥片を素材とした剥片石器とその素材・製作屑、転石などを利用した礫石器に区分した。剥片石器は、小形剥片石器と大形剥片石器に区分した。磨製石斧に関しては、礫・石核使用の例も認められるが、一応、大形剥片石器に含めてある。その上で、石鏃から装身具までの器種に分類した。分類基準は、以下「各種石器の特徴」に示す内容で行った。大量の石器を観察する中で、分類に対する幾つかの問題点や、改善点も出てきたが、統計処理をおこなうため当初の基準のまま進めた。見直し作業を行えなかったため、小形RFとMFの間、くさび形石器と石核の一部の間など、聖石遺跡の整理当初段階と長峯遺跡の整理最終段階で、多少の「ゆらぎ」が生じた可能性もある。

分類された各種石器の遺構毎の組成は、表18に示す通りである。

石材鑑定は、搬入品が限定しやすいヒスイ～蛇紋岩の鑑定に重点をおき、磨製石斧および装身具類を対象とした場合、黒曜石の原産地推定に主眼をおいた場合、の2つに限定した。第5章を参照していただきたい。それ以外については割愛せざるを得なかった。

(3) 各種石器の特徴

ア 小形剥片石器

黒曜石・チャートなどの剥片を素材とし、鋭利な刃部を作出し、比較的小型な製品を小形剥片石器とし



表18 聖石遺跡竪穴住居出土石器組成表（2）

遺構名		小形剥片石器								素材・屑			大形剥片石器						屑	礫石器											搬入
記号	番号	石鏃	石槍	小形両面調整石器(石鏃未製品)	石鏃	小形刃器	小形RF	小形MF	楔形石器	原石・石核	剥片	碎片	打製石斧	大形刃器	石匙	大形RF	大形MF	磨製石斧	大形剥片	磨石・敲石類	石皿	台石	砥石	多孔石	石錘	石棒	みがき石	その他	装身具類	搬入	
SB	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	92	0	0	0	0	1	1	2	2	2	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	94	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	98	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	101	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	102	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	103	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	104	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	105	0	0	0	0	0	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	109	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	110	0	0	0	0	0	1	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SB	111	0	0	0	0	0	2	5	3	2	17	22	0	0	0	1	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		87	0	24	21	117	147	551	344	417	1948	1150	81	42	4	2	3	30	32	343	9	24	2	5	2	5	4	1	1	540	

た。くさび形石器のように、まれに石核を利用した例があっても同一の器種と認めた場合はここに含めた。

①石鏃・②石槍（図版226・227-1～64）弓矢の先端に使用されたと見られる尖頭部を作出した形状を呈し、比較的薄身の剥片を素材とし、押圧剥離による調整を施したものを石鏃とした。尖頭部を持つもののうち、肉厚な剥片、あるいは石核を素材とし比較的法量の大きいものを石槍とした。

石鏃239点（171.7g）、石槍破片1点（2.21g）のみである。ただし、石槍とした例（64）は石鏃未製品の可能性がある。石材は石鏃・石槍236点が黒曜石で、わずかに4点がチャートや頁岩製である。形態では、有茎石鏃がわずかに2点（うち1点は欠損部の状況から判断）のみで、大半の基部形態は凹基で、若干、平基が加わる。法量では、最小はNo50の長さ1.0cm（0.12g脚部欠損あり）、最大はNo.27で長さ5.0cm（2.4g）である。形態と法量は漸移的に変化し、明確な型式区分はできない。

③石鏃未製品（図版227-65～69）小形剥片を利用し両面調整剥離が認められる例のうち、石鏃製作時に欠損したと見られる例を石鏃未製品とした。また最終的な製作の目的が石鏃であるかないか判断がつかなかった例については、二次加工のある剥片（小形RF）に含めた。56点（96.96g）のすべてが黒曜石である。

小形RFに含めた中にも、石鏃製作を目指した可能性がわずかながら看取れる例が34点ある。

未製品のまま放棄された要因では、剥片中央部の厚みが取れなかった例（15点、）が多く、この他、調整加工中に欠けた例などが認められた。また、チャート製石鏃が数多く出土する地域に見られ、石鏃未製品の可能性が指摘されている小形両面調整石器は、ほとんど存在しない。

④石錐（図版227-70～79）尖鋭な錐部を作出した石器。不定形であっても回転によると見られる摩耗痕が認められる例も含めた。63点（109.15g）すべてが黒曜石製である。この他、小形RFとした中に、欠損品が製作途上で欠損した可能性を持つ例が40点ある。

形態では、錐部に柄が付く例で、側縁の加工がほぼ全面にある例が10点。錐部が棒状で、つまみ部が作出されず、調整加工が側縁のほぼ全面に認められる例が12点。錐部平面形が三角形を呈し、側縁の調整加工はほぼ全面に認められる例が21点。その他、不定形で錐部の一部のみに加工が施されている例がある。回転によると見られる摩耗痕は、不明瞭なものも含め、ほぼ全点で観察された。

表19 各種石器一覧表（冒頭石鏃部分）

（－）表示は欠損品

図版番号	器種番号	器種	番号	大々-大地区	中地区	遺構記号	遺構番号①	遺構番号②	施設名・位置	層位名	取上げ番号	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	点数	色調	石材	備考
226	1	石鏃	1			SB	2		－	7	OB08	20	16	3	0.72			黒曜石	
			2			SB	2		－	7	OB09	-19.5	-15	2.5	0.58			黒曜石	
			3			SB	2		－	7	OB10	-21	-13	4	0.77			黒曜石	
226	2	石鏃	4			SB	2		－	7	－	20	14	3	0.64			黒曜石	
			5			SB	2		西側 南北ト	7	S24	-16	-16	3	0.68			黒曜石	
226	3	石鏃	6			SB	3		埋がり	7	－	15	13	2	0.26			黒曜石	

⑤小形刃器（図版228・229-80~106）小形剥片の縁辺部に連続的な二次加工（調整・整形）を施し、意図的に刃部もしくは背部を作出したもの。形態・機能的には、二次加工のある剥片（RF）や微細な剥離のある剥片（MF）の中にも、小形刃器との区別が難しい資料が多く存在する。そのため、縁辺部の剥離が2mmを越えるものを便宜的に二次加工と見なし、これが一側縁のほぼ全体に規則的・連続的に認められた例を小形刃器とした。ただし、2mm以下であっても、1側縁の両面から規則的な連続剥離が観察された場合は小形刃器に含めた。逆に、2mmを越える剥離が認められても、不連続なものは二次加工のある剥片（RF）とした。また、2mm以下の剥離が片面にしか認められなかった例は、微細な剥離のある剥片（MF）に区分した。

総数184点（1402.15g）である。石材は180点（1345.04g）が黒曜石、チャートなどが4点（57.11g）である。比較的定形的な形態としては、①縦長剥片や板状の転石（石核）を利用して細長い形状を示し、長辺に刃部を持つ例（89、90ほか）。②手のひらサイズで扁平な形状を呈し、長辺側に刃部を持つ例（87、98ほか）。が認められる。この他、不定形な例（82~85ほか）や、小形の搔器あるいは小形両面調整石器と考えられるもの（102、104ほか）がある。

特殊な例としては鈎状石器（80）が1例。三脚石器？（81）1例が認められる。

⑥くさび形石器（図版230-107~130）剥片あるいは石核を素材とし、向かい合った二辺か四辺に両極剥離による階段状剥離やツブレが顕著に認められるもの。このうち、両辺が面状を呈する例は両極石核の可能性が高いと考え、石核に含めた。一辺のみが面状を呈するものについては、石核とくさび形石器の両方の可能性を持つが、剥離面の詳細な観察を行っていないため、今回はくさび形石器に含めてある。また、両極剥離面がその石器の最終剥離面とならず、両極剥離面以外を刃部として使用したり、調整剥離が施されていた場合は、微細な剥離のある剥片（小形MF）に含めた。

928点（1700.72g）。石材は黒曜石924点（1693.42g）、チャート4点（7.3g）である。

形態は、端部が面状をなすもの、線状をなすもの、点に近いものがあり、それぞれの組合せが認められる。このうち両端が面をなす例は両極石核として石核に含めた。基本的には下端面が線状を呈するものが大半を占める。下端線状部の厚さは分厚いものから剃刀刃に近いものまであり、幅も1cmを越えるものから5mm程度のものでバラエティがある。また、上下方向の加撃により縦割れした欠損品が認められる。

⑦二次加工のある剥片（RF）（図版230-131~135）二次的な調整剥離が認められる剥片をまとめた。石鏃や石錐などの未製品や欠損品のうち本来の器種が不明確な例。小形刃器の可能性を持つが、連続的な調整剥離が認められない例。その他が含まれる。

総数は310点（1133.97g）を数える。強いて器種を推定すると石鏃34点、石錐40点、小形刃器120点、その他となる。石材は黒曜石が308点（1121.61g）で、その他は2点（12.36g）のみである。

⑧微細な剥離のある剥片（MF）（図版231-136~155）微細な調整剥離や使用によって生じた2mm以下の微細な剥離を有する資料をまとめた。ただし、石核などに見られる打割前加工？のために生じた微細な剥離、あるいは各種石器や二次加工のある剥片の一部に見られる微細な剥離については、各々の石核や石器の分



類に含めた。

総数1,169点 (3129.94 g) で、うち1,165点 (3058.66 g) が黒曜石、4点 (71.28 g) がその他である。

剥片の形状に規則性は認められない。ただし、長方形に近い縦長剥片では横側縁に剥離の見られる剃刀タイプが比較的多く見られる (137、154ほか)。その他、不整形な剥片については、各側縁の形状をそのまま利用したタイプが多い。剥離の認められる位置は、機能部と見られる鋭利な部分に認められる例、機能部とは反対側の背部にのみ認められる例、その他がある。機能部と見られる面の形状も、直線的、外湾、内湾、えぐりなどが認められる。その場合、1個体に複数の形状を示す機能部がセットとして存在する例が多い (136、148ほか)。法量は、指先でつまめる剃刀刃程度の例が最も多い傾向を示す。

#### イ 小形剥片石器の素材および屑

⑨原石・石核 (図版232～236-156～171) 原石は、一度も剥離作業が実施されていない礫のうち、剥片剥離作業を目的として搬入されたと考えられる資料である。石核には、扁平な原石 (風化剥離面を持つ) を半割した状態のもの。あるいは、さらに剥離作業が進み、最終剥離痕がネガティブ面となった例がある。剥片剥離時に最終的に残された残核と考えられる。本遺跡では、剥離面の風化が進んだ例が多く認められる。風化した時期を特定できないため、風化剥離面のある原石なのか、石核が風化したのか判断が難しい例が多い。そのため、今回は原石と石核を分けずに報告する。この他、石器製作のためには使用できそうもない極小形の原石・石核 (屑石) が認められた。こうした原石・石核のあり方は、聖石・長峯遺跡における黒曜石の採取場所や方法を解明する上で興味深い点ある。

総数874点 (15.87kg)。石材は黒曜石が864点 (14.95kg) (99%) を占め他を圧倒する。その他は10点 (924 g) (1%) である。

形態は、角礫状を呈する例が圧倒的に多く、露頭での採取や採掘によって得られた資料の可能性が高い。これに対し、角の摩耗した円礫が少数存在する。さらに、使用に耐えない屑石や、風化の進んだ角礫も存在することと考えあわせると、露頭下などでの一括採取 (選別不十分の状態) も行われていたのであろう。

剥離作業面は、1面のみしか認められなかった例が60例余りあり、その他は複数面を作業面にしていた。一つ一つの剥離面の大きさは、微細な剥離のある剥片 (主に不定形の刃器) に対応する例が最も多い。

打割方法を推定できる資料では、一端にのみ打点が明瞭に残り、対端が抜ける? 手持ちによる剥離方法が認められる。また、台石上に石核を置き上から敲いたために生じる両極剥離 (つぶれ) が認められる例がある。

⑩小形剥片・⑪碎片 二次加工や微細な剥離が認められないもので、石器製作に伴って排出された屑片である。便宜的に1g以上を剥片とし、それ以下を碎片とした。剥片は341点 (11.66kg)、この内黒曜石は299点 (11.22kg)、その他が42点 (438 g) である。碎片は255点 (2.24kg)、この内、黒曜石は238点 (2.23kg)、その他が17点 (12 g) である。黒曜石が全体の90%を占めている。

#### ウ 大形剥片石器

凝灰岩や粘板岩などの剥片を素材とし、やや鈍い刃部を持ち、比較的大型の製品を大形剥片石器とした。

⑫大形刃器・⑬石匙 (図版237・238-172～196) 大形剥片を素材とし、縁辺に規則的に連続する二次加工を施し、刃部や背部を作出した石器。摘み部のないいわゆる横刃形石器 (181、184、194ほか)、摘み部のある石匙 (172～176)、厚手の礫器 (196) ほかを含めた。ただし、横刃形石器には打製石斧との区別が難しい資料がある。明瞭な石匙は6点 (280.28 g)、刃器64点 (4287.16 g) が出土した。

特徴的な大形刃器としては、いわゆる横刃形石器 (181～184、194) と、撥形を呈する刃器 (179、190、192) が存在する。前者は、手で握れる程度の大きさを示し、背部および指のかかる位置に加工が施される例が認められる。

⑭**打製石斧**（図版239・240-197～228）大形剥片を素材とし、器面両面に二次加工を施し、片側の短側縁に鈍い刃部を持つ石器。145点（133969.21g）が出土した。磨製石斧を転用したもの（209）、局部的に磨きが施されたもの（202）が存在する。また、厚さの薄い例には大形刃器と区分しづらい例が存在する。

形態は、刃部と基部の幅が近似し、側辺が直線的なもの（短冊形）（206ほか）、基部幅が狭くなり、側辺が直線的なもの（撥形）（203ほか）、基部が極端に細くなるもの（227）、側辺の基部近くにわずかなくびれがあるもの（198ほか）、側辺が内湾するもの（204ほか）、側辺が大きくくびれるもの（分銅形）（202ほか）がある。ただし、左右非対称となる例が大半を占めている。その中には、主に片側の側辺を中心に加工した例と、両側辺を加工しているが非対称となる例がある。

また、刃部の残存していた資料については、ほとんどに摩耗痕が認められた。

⑮**二次加工のある剥片（大形RF）** 大形剥片を素材とし、二次加工による剥離が認められたもののうち、器種が限定できなかった例をまとめた。打製石斧や大形刃器の欠損破片、あるいは未製品が含まれていると見られる。5点（645.35g）。

⑯**微細な剥離のある剥片（大形MF）** 大形剥片を素材とし、二次加工や使用によって生じた微細な剥離が認められたもののうち、器種が限定できなかった例をまとめた。7点（394.86g）。

⑰**磨製石斧**（図版241～243-229～253）大形剥片・石核・礫を素材として器面全体に研磨加工を施し、1側縁部に研磨による刃部を作出した石器。54点（5749.39g）が出土した。欠損品が比較的多く、打製石斧や敲石に転用した例4点が認められる（図版239-209、図244-270ほか）。

## Ⅰ 礫石器

主に大形自然礫の形状や重量を活用し、剥離による刃部を作出しない石器をまとめた。

⑱**磨石・凹石・敲石類**（図版243～245-256～275）扁平礫や円礫に使用痕が認められるもの。使用痕には、研磨痕と敲打痕、敲打による局部的な窪みを残す例がある。一個体に2種以上の使用痕が認められる場合が多いため、凹石・敲石・磨石を区分せずにとまとめた。そのため、食料加工用・石器加工用などあらゆる用途の想定できる資料が混在している。また、簡単な肉眼観察のみで磨石を認定したため、敲打痕や研磨痕が不明瞭な資料は礫として除外した。さらに、手持ちでの連続使用に不都合と思われるほど大きな例は、便宜的に台石とした。

合計690点（345.69kg）が出土した。大半は、円礫・楕円礫に凹状の敲打痕が付く例が占める。

敲石には、磨製石斧の欠損品などを転用した例が存在する。

⑲**石皿**・⑳**台石**（図版245・246-276～283）大形扁平な礫を利用し、中央部に磨石幅ほどの窪みが存在するもの。または、窪まない場合は平坦面に研磨痕が認められたものを石皿とした。台石は、大形扁平な礫の平坦面に敲打痕や微細な凹部が認められたものとした。石皿は24点（179.5kg）、台石は50点（205.28kg）を数える。

石皿には、使用面（皿部）がほぼ平坦なもの、片面に窪みが認められるもの、両面に窪みが認められる例がある。脚部を作り出した例（281）が1点、用途の異なる深い窪みを有する283などが特異な例である。

㉑**多孔石**（図版247-284～289）大形礫を使用し、平坦面に多数の凹状敲打痕が認められる例。扁平礫の平坦面にごく少数の凹状敲打痕が見られる例は台石に含めた。

19点（95.5kg）が出土した。屋外に設置されるような大形の例は存在しない。

㉒**砥石**（図版247・248-290～294）礫を素材とし、明瞭な研磨痕が認められるもの。磨製石斧の製作・手入れのために使用された可能性のある大形の例（290ほか）と、手持ち使用が基本となる小形の例（292ほか）に区分できる。総数9点（23.84kg）、置き砥石と手持ち砥石がある。

㉓**みがき石**（図版248-296・297）小形の円礫・扁平礫を使用し、土器製作において器面を磨くのに使用し

た可能性が考えられるもの。加工が施されず、使用痕も不明瞭であるため、「可能性がありそう」な例も含めて集計した。29点（1748.61g）

㊸石 錘（図版243-254・255）主に扁平な円礫を素材として、対称となる側辺に簡単な打ち欠きが認められたもので、網漁などに使用された錘と考えられる石器である。

湖沼や大河川のない地区にもかかわらず3点（343.76g）が出土した。

㊹石棒・㊺丸石・㊻石柱（図版248・249-298-304）石棒は、大形の棒状礫を素材として、有頭部を作出したもの。16点（65.36kg）が出土した。破断面を観察すると、多くの例が割られた可能性を示している。しかし、有頭部以外では認定が難しいため、可能性があるものも含めて礫とした。299は2段の加工が認められる。

丸石は、大形の礫を利用し、竪穴住居床面に設置されたものである。球状を呈するもののほか、不整形の例もあるため、出土状況がはっきりしないと認定が不可能である。そのため、参考資料として持ち帰った例は3点（65.8kg）である。

石柱は、大形の角柱状や棒状礫を利用し、竪穴住居床面に設置されたものである。丸石と同様、加工がほとんどなされていないため、単独では認定が不可能である。そのため、参考資料として持ち帰った資料は5点（34.21kg）である。

#### オ 装身具類（図版249・305-310）

ヒスイや滑石などの精選された礫を素材として研磨し、穿孔部を持つものなど。総数6点（192.76g）ヒスイ製の垂飾4点はすべて土坑から出土したものである。この他、滑石製垂飾が1点、ヒスイの小片（306）が出土した。

### 5 その他の遺物

火山性土壌の影響で、動・植物遺体やそれを利用した製品はほとんど見つかっていない。その中で、焼成を受けて白色化した骨製品が1点見つまっている（図版225-1）。また、焼失家屋？で炭化材が見つかっており、樹種同定した例はすべてクリ材（第5章2節参照）であった。

## 第4節 縄文時代以後の遺構

広大な調査面積であるが、縄文時代以後の遺構はほとんどない。台地北西部に東西方向に伸びる細い溝SD01-2（図版2,4,6,8,11）とピット群SA01（図版2）、I・S-22付近のSD03-04（図版25）と、馬の墓と考えられるSK112（表9に併載）程度である。いずれも覆土はしまりのない黒色土である。時期は不明であるが、明らかに縄文時代の遺構とは区別できている。

## 第5節 縄文時代以後の遺物

寛永通宝2点、鉄製品1点が採取されているが遺構は不明である。また、近代以降に埋葬された可能性の高い馬の歯が土坑内（SK112）から出土した。

## 第4章 長峯遺跡

### 第1節 遺跡と調査の概要

#### 1 遺跡の概要

長峯遺跡は、茅野市北山7664-1ほか一帯に所在する。八ヶ岳の裾野、角名川に沿う東西に長い細尾根状の台地上とその南側の沢に面する斜面に立地し、標高は1,054～1,073mを計る。細尾根状の台地は、瓢箪型を呈し、括れ部を境に西側に展開する聖石遺跡に接している。台地の最大幅は160mで、遺構が確認された範囲は、東西方向に250mと長大である。

本遺跡一帯は、畑地であったが、昭和34年に開田工事が行われ水田となった。当時は、行政上の保護措置として発掘調査が実施されることはなく、工事により失われた遺跡としては最も早い時期に属するとされた。何ヶ所かの住居址が確認されたが、12月の降雪期に入ったため2ヶ所の炉跡を検出するに止まった。1つの炉跡は90cm四方の大形の石囲炉で、四隅の1ヶ所に有頭石棒が炉縁とほぼ同じ高さに埋められており、祭祀色の強い、集落の中でも特殊な住居であろうと推測され注目された。また、採集された土器の中には、阿玉台式の深鉢や馬高式の影響を色濃く受けているとみられている文様構成の土器や「べにがら」で塗彩された大きな有孔鏝付土器などがあり、中期最盛期の遺跡で、尖石遺跡に次ぐような集落遺跡と推定され、十分な調査ができなかったことに対して惜しまれる声が大きかった。

#### 2 調査の概要

今回の圃場整備事業に伴い、平成10年茅野市教育委員会によって遺跡の状況を確認するため、試掘調査が実施された。その結果、昭和34年の開田工事では、聖石遺跡と同様水平な田面を造成する際、山側を基盤層まで削って谷側に盛り付ける工法が採用されており、基盤層まで削平された部分では遺構は消滅している状況にあったが、盛土部分では遺構が良好な状態で保護されていることが判明した。そのため、発掘調査範囲は切土工事にかかる32,000㎡となり、平成11・12年度の2ヶ年当センターが調査することとなった。

平成11年度は、遺跡の西半分の約21,000㎡について平成11年4月1日から12月28日まで発掘調査を実施し、その全域から縄文時代中期・後期の集落跡を発見した。

平成12年度は、遺跡の東半分の約15,000㎡について発掘調査を行った。遺構密度の高いことが予想できたため、平成12年3月10日から調査を開始し平成13年1月12日までかかって対象範囲すべての発掘調査が終了した。2年間で検出した遺構数は第2節に記す。

これらの遺構及び包含層から出土した遺物は、土器・石器・土製品・石製品など多量であった。

#### 3 宮坂英弉氏の調査報告とその痕跡

前述した昭和34年の緊急調査について、当時の尖石考古館の宮坂英弉館長による報告が「日本考古学年報12（昭和34年度）」（1964年・日本考古学協会編纂）に掲載されている。そこには調査の概要とともに、石囲炉址の実測図、赤く塗彩された有孔鏝付土器（口絵）、阿玉台式土器や加曾利E式土器、石棒の写真が紹介されている。

今回の調査と資料整理から、宮坂氏調査の痕跡と考えられる部分が2ヶ所認められたため、ここに報告したい。なお個々の遺構や遺物の詳細記録は第2節以後に記載しているため、ここでは前回調査との関連

性に的を絞って記す。

**SB200の炉跡** (図7上)「…この1カ所は炉址の三方を扁平石で取囲む南側は据石にある。そして北西隅に小有頭石棒を樹立する。石棒のこのような遺存状態は、当地域よりの新資料である。炉址は径90cm、深さ60cmの巨大なもので、石棒は高さ19cm軸部の断面は径9cmの円形で、頭部を茸の笠状に研磨成形してあった。(略)…石囲炉址の竪穴住居址は加曾利E式に編年される。(宮坂英式)」(年報13より)

台地南側の標高1,069m付近にある縄文時代中期後葉3期のSB200住居跡では、検出段階から川砂が分布していて、他の場所との差異性に富んでいた。砂を掘り進めると壁面が一回調査したかのような状態で掘りあがり、床面もきれいに検出された。その床面中央に東西1.6×南北1.5mほどの略方形の落ち込みがあり、そこにも一面砂が入っていて、10cmほど掘り下げると内側に0.9×0.9mの方形で深さ0.3mの底に被熱部がある炉の掘り方が見つかった。完掘してみると、まるで丁寧な調査後に石囲炉の炉石だけ掘り取ったような状況になる。

この調査例を現尖石縄文考古館の鶴飼館長へ報告すると、宮坂氏の調査メモに長峯遺跡の調査位置を示す記載がある旨の回答をいただいた。その位置を今回の調査区へ当てはめるとSB200のすぐ西隣あたりになりそうである。また別の遺跡で宮坂氏が調査した住居址に麦ワラを入れて保護した例もあることのご報告いただいた。茅野市史に再録された宮坂氏調査の炉図とSB200炉図を並べると、ほぼ当てはまる。状況証拠ばかりであるが、砂で保護されていたことも考えると、SB200は宮坂氏が前回調査した炉址をもつ住居跡ではないだろうか。

**再会を果たした有孔鏝付土器** (図7下) 整理業務を行っていた平成14年秋、勉強会をかねて茅野市尖石縄文考古館を訪ねた際、同行した土器接合を担当する補助員から「今接合している土器片が、展示されている長峯遺跡の有孔鏝付土器によく似ている」という指摘があった。

早速、土器片と実物大にした展示品の実測図を比較すると、器形や大きさ、文様のモチーフと割付の位置の全てにおいて一致することが確認された。その後、別件でセンターを訪問された茅野市文化財課の守矢昌文、小林深志両氏に実見していただいたところ、展示品と「同一個体」であるという結論が出た。宮坂氏が取り上げた有孔鏝付土器は胴下半部と実測面の裏側が欠損していて、現在その部分は復元されている。今回出土した破片は、実測面の裏側に当たると考えてよいだろう。また出土地点のSB225住居跡の覆土には、土器片が出土した層まで到達する攪乱部分が認められ、ここが前回調査時の掘削範囲ではなかろうか。

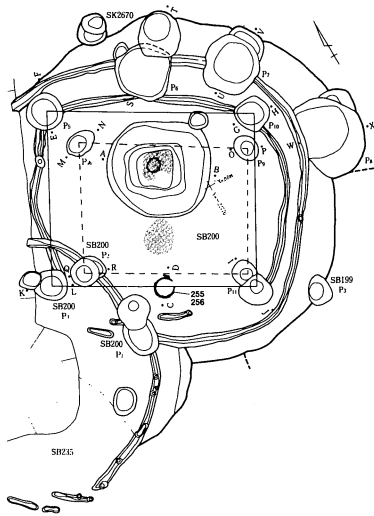
この2例とは別に、前回出土の「阿玉台式土器」と匹敵する「阿玉台式土器」の別個体1点が今回も出土していることにも何らかの縁を感じずにはいられない(第3分冊巻頭図版)。

縄文時代から幾千年、同じ遺跡における二つの緊急調査が予期しない状態で結び付きを持つこととなった。前回の開発行為では遺構が検出される表層が破壊されている。今回の開発行為では台地ごと消失している。42年という時を隔てた出土土器の再会というドラマティックな場面を目の当たりにしたと同時に、遺跡の保護と調査、そして記録保存の重要性を再認識した事例である。以下に今回の調査報告を記す。

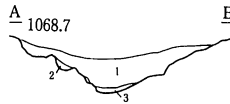
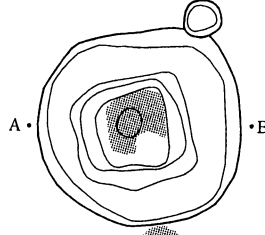
#### 引用・参考文献

- 宮坂英式1964「長野県茅野市長峯遺跡」『日本考古学年報』12(昭和34年度)日本考古学会編纂  
宮坂虎次ほか1986『茅野市史』上巻 原始古代 茅野市

SB200

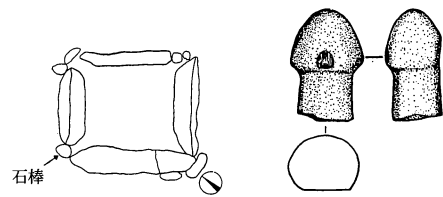


今回調査した炉跡



※炉石が抜かれ、砂が入れられていた

宮坂英弐氏が調査した石囲炉

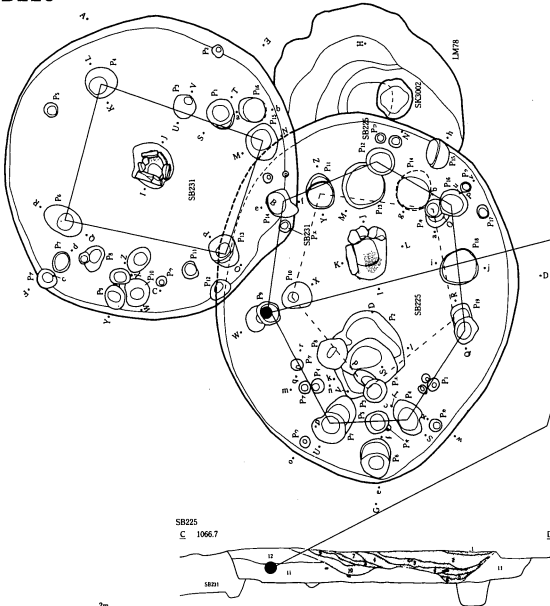


0 10m

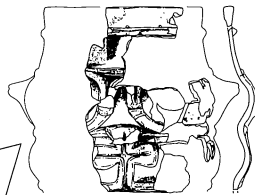
(1986 宮坂虎二ほか「茅野市史」上巻より)

0 (1:60) 2m

SB225

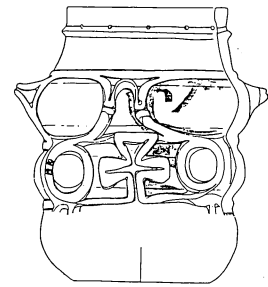


今回の調査で出土した破片



図版560-9

宮坂英弐氏が取り上げた有孔付土器



0 10cm

※左図スクリーン部分  
前回調査時の攪乱部分か？

図7 宮坂英弐氏緊急調査時の痕跡と同一個体土器

## 第2節 縄文時代の遺構

### 1 概要

今回見つかった遺構の大半は、縄文時代中期から後期に該当する。遺構としては竪穴住居跡239軒（縄文時代中期228軒、縄文時代後期11軒）、掘立柱建物跡12棟、屋外埋設土器10基、遺物集中19箇所、炉跡・焼土跡13箇所、土坑3436基、礫・石器集中4箇所である。

各遺構の掲載方法および記述項目は第3章第2節の聖石遺跡の事実記載に準じる。また以下の掲載表は添付したCDへも所収されている。



2 縄文時代中期の住居跡

表20 長峯遺跡縄文時代中期住居跡

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB1新	265 269	324	36-5 6 7	③	Ⅲ・H-14	新炉体土器	中期	中葉	1	中葉1	IV層上面	円	N12° W	3.90	3.90	0.25	
SB1旧	265 269	324		③	Ⅲ・H-14	旧炉体土器	中期	前葉	4		IV層上面セクションからSB01新と区分した	円	N23° W	?	?	0.10	軟弱
SB2	269	324	36-8 37-1	③	Ⅲ・H-9・10	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4～中葉1	IV層上面	楕円	N64° E	6.00	5.20	0.45	堅固
SB3	268	325	37-2	③	Ⅲ・C-25	覆土中土器	中期	中葉	1	中葉1・2	IV層上面	円	N84° W	3.50	3.70	0.20	軟弱
SB4	268	325	37-3 4 5	③C	Ⅲ・C-15・20	覆土中土器	中期	中葉	1～2	前葉5～中葉2	IV層上面	長楕円	N25° W	6.20	(5.90)	0.50	
SB5	268	326	37-6 7	③	Ⅲ・C-15・20 Ⅲ・D-11・16	炉体土器	中期	中葉	1～2	前葉4～中葉1(2)	IV層上面	長楕円	N	5.85	4.95	0.30	間仕切状溝の内側及びその北東側堅固
SB6	268	326	37-8	③	Ⅲ・C-20・25, D-16・21	炉体土器	中期	中葉	1	(前葉4)～中葉1	IV層上面	隅丸方	N25° E	2.85	2.80	0.35	
SB7	263	327	-	③	Ⅲ・C-23・24	覆土中土器	中期	中葉	1～(2)	中葉1・2	IV層上面	楕円	N17° E	2.40	1.90	0.20	西側削平
SB8	266 267	327	38-1	②	I・X-16・17・21・22	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	円	N15° E	5.60	5.60	0.25	炉周辺及び壁際を除く南東側堅固
SB9	263 268	328	38-2	③	Ⅲ・C-14・15・19・20	覆土中土器	中期	前葉	3.4	前葉3.4	IV層上面	楕円	N46° W	5.00	4.45	0.30	
SB10	263	328	38-3 4 5	③	Ⅲ・C-18・19・23・24	炉体土器	中期	中葉	1	(前葉4)～中葉2	IV層上面	不整形	N3° E	2.95	2.70	0.15	
SB11	263	328	-	③	Ⅲ・C-14・18・19	覆土中土器	中期	前葉	3	前葉3～(4)	Ⅲ層中。	プラン不明。	?	?	?	?	不明確
SB12	273	329	38-6	②	I・X-19	-	-	-	-	-	IV層中	隅丸方	N33° E	3.00	2.90	0.10	軟弱
SB13	264	329	-	③	Ⅲ・H-6・7	覆土中土器	中期	前葉～中葉	4～1	前葉4～中葉1	IV層上面	円形か、削平顕著。不明	?	?	?	0.10	部分的に堅固
SB14	259	329	38-7 8 39-1 2	③	Ⅲ・G-9・10	炉体土器	中期	中葉	2	(前葉4)～中葉2	IV層上面	楕円	N34° E	?	5.45	0.38	堅固で明確

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	P1 8 15 21	主柱穴は4基。P16 17貯蔵穴	中央	埋甕炉		無	-	-		床上20cm辺りから土器片や石器出土。やや多い。	自然埋没	SB01旧を切る。		H 11(1999)
	P3 6 11	主柱穴は4基	ほぼ中央	埋甕炉	南側一部欠損	無	-	-		覆土中から少量の土器石器	埋土が残っており不明	SB01新に切られる		H 11(1999)
	P1 2 4 5 7 8	P12 13は入ロピットか。	中央	埋甕炉		無	-	-		上層に遺物集中(中葉1)	本来の住居埋没中にもう1軒存在か。	2軒と一緒に調査している。床面の被熱は新炉か。		H 11(1999)
	P 2 7 12	主柱穴は4基 P4 5貯蔵穴	中央	石囲炉	小形	無	-	-		覆土中から少量の土器石器	自然埋没	SK233と重複		H 11(1999)
	P2 3 4 7 9	主柱穴は5基以上 P6貯蔵穴	中央	埋甕炉の抜き取りか。		無	-	-	間仕切状溝及び周溝	北東壁P3際の平石下から黒曜石の原石24点一括出土	自然埋没	LMに切られる。SK170を切る。		H 11(1999)
	P2 3 4 5 6 10	P8 9 12貯蔵穴	中央北寄	埋甕炉		無	-	-	間仕切状溝及び周溝	上、中層から多量に土器・石器投棄された。	自然埋没	SK141に切られる。		H 11(1999)
	P1 2	2本柱	中央	埋甕炉		無	-	-	無し	覆土に礫は入る。遺物は少ない	自然埋没	SK234を切る。		H 11(1999)
	P1 2 3 4		無し	-		無	-	-	無し	ほとんどなし。	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 5 10 12 15 18 21 29		中央	埋甕炉	旧炉が東にあり。炉体抜き取りか。被熱部有り。	無	-	-		覆土中から少量の土器石器	自然埋没		旧炉があり、柱穴的なピットも多数あることから、建替えの可能性高い。	H 11(1999)
	P1 4 5 8		中央	地床炉	浅い掘り込み	無	-	-	無し	覆土中から多量の遺物	自然埋没	SK198に切られる。SB04と接する。		H 11(1999)
2	?		ほぼ中央	埋甕炉		無	-	-		床面から土器や石器出土。	自然埋没	SK235 236に切られる。		H 11(1999)
?	?	ピット未検出	(中央)	埋甕炉		無	-	-				SK173 254と重複	遺物と埋甕炉検出。プランなど不明確。	H 11(1999)
	P2 3 4 6		無し	-		無	-	-		なし。	自然埋没			H 11(1999)
	P1 2 5 8		中央か	破壊されている。	縄文期の破壊か削平か不明	無	-	-		覆土中から少量の土器石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P4 7 10 12 14		中央やや北より	埋甕炉		有口	入	ほぼ完形土器。遺構間接合	間仕切状溝及び周溝	覆土中から少量の土器石器。ピットよりミニチュア土器	自然埋没	なし		H 11(1999)

表20-2

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB15	257	330	39-3	①	I・W-21,III C-1	覆土中土器	中期	前葉	3~4	前葉3~4	IV層上面	円	N22° W	4.10	3.70	0.08	炉周辺が堅固
SB16	277 278	330	-	④	III・I-19	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉3~4	IV層上面。上記面より上で遺物まつまって出土	隅丸方	N29° W	3.90	3.60	0.30	炉周辺が堅固
SB17	280 284	330	-	④・⑧	III・E-18・23	覆土中土器	中期	中葉	3	前葉4~中葉3	III層中柱穴の配列で	楕円	N16° E	?	?	0.25	堅固で明確
SB18	270 271 278	331	39-4 5	④	III・I-11・16	炉体土器	中期	中葉	2	中葉1~2	IV層上面	円	N5° E	4.70	4.65	0.50	西半分壁際以外堅固
SB19	270 278	331	-	④	III・I-6・7・11・12	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4~中葉2	IV層上面	(円)	?	?	?	?	不明瞭
SB20	270 278	332	39-6	④	III・I-7・8・12・13	覆土中土器	中期	前葉	(4)~5	前葉4~5	III層中	略円	N34° E	3.65	3.40	0.40	堅固
SB21	275 276	332	-	④	III・D-24	覆土中土器	中期	前葉	4?	前葉4	IV層上面床・炉が露出	(円)	N14° W	?	?	0.10	壁際除く西半分、炉周辺堅固
SB22	274 275 276	333	39-7 8	④	III・D-18・19・23・24	炉覆土	中期	後葉	5	後葉5	IV層上面で炉検出。	?	N46° E	?	?	?	軟弱
SB23	274	-	-	④	III・D-15, E-11	-	-	-	-	-	ピット群	不明	不明	不明	不明	不明	不明
SB24	321 322	333	40-1	⑦	IV・Q-25, R-21, W-1	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3	IV層上面	ほぼ方	N32° W	4.20	(4.00)	0.30	炉周辺が堅固
SB25	321 322	-	-	⑦	IV・R-17・21・22	-	-	-	-	-	IV層上面炉及び柱穴の底部露出	?	?	?	?	-	床面削平されている
SB26	321 322	-	-	⑦	IV・R-16・21	埋壘	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面炉及び柱穴の底部露出	?	?	?	?	-	床面削平されている
SB27	321 322	334	40-2	⑦	IV・Q-20	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉5	IV層上面検出面上部より多くの遺物	略円	N33° E	3.95	4.20	0.35	北側が堅固
SB28	321 322	335	40-3	⑦	IV・R-16	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面床と周溝で確認	円	N46° W	5.60	5.60	0.05	堅固で明確

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	P1 6 9 12		中央	地床炉	新旧2基が重複か。	無	—	—			自然埋没と考えるが床近くまで削平され不明	なし	柱穴的なピットが多数あり、炉も2基重複している。建替えあり。	H 11(1999)
	P1 2 4 7 9		中央	地床炉		無	—	—	北西壁部に周溝	上層から多くの土器投棄された	自然埋没	なし	南側の張り出し部も住居の一部と把握	H 11(1999)
	P2 3 5 8 9 10 19		(中央)	〃	削平されて炉底のみ残る	無	—	—	間仕切り溝の一部 東壁部に周溝	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 4 7 12		中央	埋甕炉	南東に切られるピットは旧炉か。	無	—	—		中層から多くの土器・石器投棄された	自然埋没	SK431を切る	柱穴的なピットが多数あり、炉も2基重複している。建替えあり。	H 11(1999)
	?		中央やや奥	不明瞭	土器が一括出土	無	—	—		土器集中有り。		SK485 332と重複		H 11(1999)
	P1 4 5 9		中央	地床炉か。		無	—	—		床上から土器片				H 11(1999)
	P1 7 10 15		中央	地床炉	浅い掘り込み	無	—	—		覆土中から少量の土器石器	埋土がほとんどなく不明	なし	SB22と接する。	H 11(1999)
	P3 8 11 13		北壁寄か	石囲炉	浅い掘り込み。火床全面。	無	—	—		床面に土器片多。	自然埋没か	LM21 SB21に接する。		H 11(1999)
小ピット巡る	不明		無し			無			無し	なし。	不明	無		H 11(1999)
	P1 4 9 13	左記の新炉の主柱穴 旧炉主柱穴	北西壁寄	石組炉	新炉、旧炉共に炉石抜かれる	無	—	—	床面被熱	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	なし	中央部が道路工事で攪乱を受けている。	H 11(1999)
		主柱穴4基	地床炉か	?	炉底のみ残る	無	—	—		覆土中の遺物なし	不明	なし		H 11(1999)
		主柱穴4基	地床炉か	?	炉底のみ残る	有口	1	正	土器と同規模の掘り方で底部のみ	覆土中の遺物なし	不明	なし		H 11(1999)
	P1 3 4 5		北東壁寄	石組炉	完存している焚口側床面被熱。	無	—	—		上層から多量の土器・石器投棄された	自然埋没	SB29を切る		H 11(1999)
	P1 2 3 4 5 6		南西壁寄	石組炉	西一角のみ炉石残る	無	—	—	床下ピット6基 周溝一周	覆土中から少量の土器石器	埋土がほとんどなく不明	SB33に切られる	ピットが同心円に2周ある。建替えか。	H 11(1999)

表20-3

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB29	321 322	-	-	⑦	IV・Q-20,R-16	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2~	IV層上面 炉及び柱穴 の底部露出	?	?	?	?	-	床面削平 されている
SB30	319 320 321 322	334	40-4 5	⑦	IV・Q-15-20,R-11・ 16	覆土中 土器	中期	後葉	2	後葉2~	IV層上面	隅丸五 角	N48° E	5.80	5.70	0.30	北西一部 を除いて ほぼ全面 堅固
SB31	321 322	-	-	⑦	IV・R-17	覆土中 土器	中期	-	-	-	IV層上面 炉及び柱穴 底部残存	?	?	?	?	-	床面削平 されている
SB32	319 320 321	336	40-6 7	⑦	IV・Q-10・14・15	埋甕、 炉覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	IV層上面	隅丸五 角	N45° E	5.60	5.50	0.35	炉周辺と 北東半分 堅固
SB33	319 320 321 322	335	-	⑦	IV・R-11・16	埋甕、 炉覆土	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層上面 床、炉が露 出	?	N51° E	?	?	-	部分的に 堅固な貼 床あり
SB34	319 320	337	40-8	⑦	IV・Q-14・15	覆土中 土器	中期	後葉	5	後葉4~5	IV層上面	楕円	N68° E	?	4.10	0.40	
SB35	321 322	337	41-1	⑦	IV・R-11・12	埋甕	中期	後葉	3	後葉3~4	IV層上面 炉が露出	?	N50° E	?	?	-	床面削平 される
SB36	319 320 321	338	41-2	⑦	IV・R-6・11	覆土中 土器	中期	後葉	2	後葉	IV層上面 炉露出	円	N52° E	5.90	5.80	-	床面削平 される
SB37	319	339	41-3	⑦	IV・Q-9・10	覆土中 土器	中期	後葉	-	後葉	Ⅲ層中 炉 露出	?	?	?	?	-	不明
SB38	319	339	41-4	⑦	IV・Q-9	埋甕	中期	後葉	4	後葉	Ⅲ層中 炉 露出	?	?	?	?	-	不明
SB39	319 320 321	340	41-5 6	⑦	IV・Q-4・5・9・10	埋甕	中期	後葉	3	後葉2~(4)	IV層上面	隅丸五 角	N46° E	5.00	?	0.15	堅固
SB40	319 320 321	341	41-7	⑦	IV・Q-5・10,R-1・6	ピット1 内	中期	後葉	3	後葉	IV層上面	楕円	N41° E	4.10	3.50	0.28	堅固
SB41	319 320 321	341	41-8	⑦	IV・Q-10	覆土	中期	後葉	3	後葉	IV層上面	略隅丸 方	N38° E	5.00	5.20	0.35	堅固
SB42	319 320 321	342	42-1 2 3	⑦	IV・Q-9・10	埋甕、 炉覆土	中期	後葉	3~4	後葉3~4	IV層上面	五角	N8° E	5.90	6.20	0.30	堅固

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
		主柱穴3基	?	(石組炉)か	埋土より少量の遺物	無	-	-		覆土中の遺物なし	不明	SB27に切られる		H 11(1999)
	P1 2 3 4 8	P12に石皿出土	北東壁寄	石組炉	南西炉石以外抜かれる	無	-	-	間仕切溝 周溝がほぼ一周	覆土から少量の土器石器	自然埋没			H 11(1999)
		主柱穴4基	?	?	炉底のみ残る	無	-	-		覆土中の遺物なし	不明	なし		H 11(1999)
	P1 2 5 11		北東壁寄	石組炉	炉石抜かれる	有 入口1	正	礫が落ち込む	周溝一周	上層から多くの土器・石器投棄された	自然埋没	SB52を切る	主柱穴が切り合っており改築されたようだ	H 11(1999)
	P1 2 3	主柱穴は4基であろう	北東壁寄	(石組炉)	炉石抜かれる	有 入口2	正	1基に石蓋有		覆土からの遺物なし	不明	SB28、SKに切られる		H 11(1999)
	P1 3 4 5		北東壁寄	(石組炉)	南東炉石残る。火床中央	無	-	-					南西削平	H 11(1999)
	P1 4 6 8		北東壁寄	(石組炉)		有 入口2	正	埋甕2を壊して1を入れ子状に埋める		覆土からの遺物なし	不明	なし		H 11(1999)
	P1 2 3 5 6		北東壁寄	石組炉	焚口以外炉石なし。	無	-	-						H 11(1999)
	?		?	石組炉	小形	無	-	-				SB42上にある。		H 11(1999)
	?		?	石組炉		有 炉南西1	正	炉に近い位置にあり。				SB45上にある。		H 11(1999)
	P1 3 4 5		北東壁寄	石組炉	北東以外除去	有 入口1	逆					SB92 重複		H 11(1999)
	P1 2 5 6		北東壁寄	石組炉	焚口部残る。	無	-	-		P1より一括土器	自然埋没	SB47切る SB50重複 SB41接する		H 11(1999)
	P1 3 5 8		北東壁寄	石組炉	西の炉石なし	無	-	-			自然埋没	SB42と重複 SB40と接する		H 11(1999)
	P1 2 3 4		北東壁寄	石組炉	炉破壊、土器集中投棄	有 入口2	正 逆		周溝一周	石棒がP1に樹立 覆土に礫など投棄	自然埋没	上部にSB59あり SB45に切られる SB92 SB42と重複		H 11(1999)



表20-4

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB43	319 320	343	42-4	⑦	IV・Q-5,R-1	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	IV層上面	円	?	?	?	-	堅固
SB44	319 320	343	42-4 5 6	⑦	IV・Q-5	埋甕	中期	後葉	3	後葉	IV層上面	方	N31° E	3.80	?	-	堅固
SB45	319 320	344	-	⑦	IV・Q-9	埋甕	中期	後葉	4	後葉2~4	IV層上面	?	?	?	?	0.20	堅固
SB46	319 320	344	-	⑦	IV・Q-9	覆土中土器	中期	後葉	1~2	後葉1~2	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB47	319 320 321	343 344	-	⑦	IV・Q-05,R-1	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	IV層上面	(円)	N86° E	(5.80)	?	0.08	?
SB49	319 320	-	-	⑦	IV・Q-4	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉	IV層上面	?	?	?	?	?	一部堅固
SB50	319 320 321	338	-	⑦	IV・R-6	炉覆土	中期	後葉	4	後葉	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB52	319 320 321	336	-	⑦	IV・Q-14・15	覆土中土器	中期	後葉	2?	中葉~後葉	IV層上面 S B32調査時に炉を検出	?	N72° W	?	?	-	軟弱
SB53	317 318 319 320	-	-	⑦	IV・M-21	-	-	-	-	-	IV層上面 削平される が周溝検出	?	?	?	?	-	不明
SB54	285	345	42-7	⑧	III・J-19・20・24・25	覆土中土器	中期	後葉	3~	中葉~後葉	III層中 III層中に遺 物がましま り、炉を検出	?	?	?	?	-	不明
SB55	285	345	42-8 43-1	⑧	III・J-19・24	炉体土器	中期	中葉	3	中葉(2)~ (4)、後葉	IV層上面 検出面より上 に遺物集中	円	?	(5.20)	?	0.60	堅固
SB56	259	-	-	⑤道	III・G-8・9・14	覆土中土器	不明			不明	IV層上面	円?	?	?	?	0.30	一部堅固
SB60	285	-	-	⑧	III・O-4・5	炉体土器	中期	中葉	1	中葉1	IV層上面 炉、柱穴を 検出	?	?	?	?	?	削平され ていて不 明
SB61	287	346	43-2 3	⑧	IV・F-1・2	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	やや楕 円	N22° E	6.25	6.00	0.90	堅固、南 壁際やや 軟弱

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	P1 3 5	主柱穴は4基であろう	北壁寄	石組炉	炉石ない	無	—	—	周溝2/3周			SB44に切られるSB47と重複	西側床まで削平	H 11(1999)
	P1 2 3 4		北東壁寄	石組炉	炉石ない	有入口1	逆	石蓋あり	周溝2/3周			SB43切る	西側床まで削平	H 11(1999)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝と間仕切溝	間仕切溝上に土器片一括	自然埋没か	SB42 46を切る。	西側床まで削平	H 11(1999)
	?		?	石開炉	炉石1と浅い掘り方	?	—	—			不明	SB45切る		SB45に統一
	P1 4 5 6 10 11		東壁寄	石開炉	炉石原位置になし	無	—	—	周溝半周			SB43と重複		H 11(1999)
3	?		?			?			南東に周溝		不明		大半削平	H 11(1999)
	?		東壁寄か	石組炉	炉石なし。中央から完形土器出土	無	—	—				SB40 SB36を切っていたか		H 11(1999)
	P1 2 3 4		東壁寄	?	炉底のみ残存	無	—	—		覆土中に少量の土器・石器	不明	SB32,34に切られる		H 11(1999)
	?	1基のみ検出	?	?	—	無	—	—	周溝の一部残存	遺物なし	#	なし		H 11(1999)
	?		?	石開炉	北東側の炉石なし	無	—	—			#	SB55を切る		H 11(1999)
	P1 2 3 4 5	主柱穴は5基以上	(中央)	埋甕炉	南西側に石組がある	無	—	—	周溝全周	確認面より上層に多く覆土中は少ない	自然埋没	SB54に切られる	北西部に削平される	H 11(1999)
4	?		?			?							削平著しい	H 11(1999)
		4基確認	?	埋甕炉	炉底部分が残存	無	—	—		覆土中の遺物なし	不明	なし		H 11(1999)
	P2 5 8 10 14 29	柱穴かどうか不明のピットが多いP1貯蔵穴	中央	石開炉	西南に土器片と石が残る	無	—	—	東側に周溝	上、中層から多くの土器・石器。焼土も分布。床面からは少ない	自然埋没	#	拡張と思われる	H 11(1999)

表20-5

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB62	287	345	-	⑧	Ⅲ・J-5・10,Ⅳ・F-1・6	炉体土器	中期	前葉	3	前葉4～中葉1	Ⅳ層上面 検出面。上層よりややまとまって遺物出土	(楕円)	N72° W	?	(4.80)	0.20	炉周辺と主柱穴より内側堅固
SB63	287 292	347	-	⑧南	Ⅳ・A-22,F-2	炉体土器	中期	中葉	3	中葉3～5	Ⅳ層上面	略円	N77° W	5.20	5.10	0.30	軟弱
SB64	286 287	348	-	⑧	Ⅳ・A-21,F-1	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1～2、後葉	Ⅳ層上面	楕円	N47° E	5.90	(5.10)	0.60	堅固で明確
SB65	260	-	-	⑤道下	Ⅲ・H-21・22	-	-	-	-	-	Ⅳ層上面	?	?	?	?	?	不明
SB66	281 288	349	43-4	⑧	Ⅲ・J-18・23	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2～3	Ⅳ層上面 一段低い部分残る	楕円	N22° E	?	?	-	堅固で明確
SB67	281 282	349	-	⑧	Ⅲ・J-13・18	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉2～3	Ⅳ層上面 床、炉が検出	楕円?	?	?	?	-	炉周辺がわずかに堅固
SB68	281 282	350	43-5	⑧	Ⅲ・J-17	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2～3	Ⅳ層上面 上層で遺物集中	楕円	N37° W	5.00	4.50	0.30	炉の南東側堅固
SB69a	281 282	351	-	⑧	Ⅲ・J-12・17	炉体土器	中期	中葉	2	中葉2～3	Ⅲ層上面 bcと一緒に調査、後で判断	円	N11° E	4.50	4.30	-	堅固
SB69b	281 282	351	43-6	⑧	Ⅲ・J-12・17						Ⅳ層上面	楕円	N11° E	(6.80)	5.80	0.35	部分的に堅固
SB69c	281 281	351	-	⑧	Ⅲ・J-11・12・16・17						Ⅲ層中に、a bと一緒に調査し、後で判断	?	?	?	?	-	軟弱
SB70	281 281	-	-	⑧	Ⅲ・J-11・16	ピット内ほか	中期	中葉	1	中葉1～2	Ⅲ層中 土手に断面が見えた	(円)	?	?	?	-	堅固
SB71	280 284	350	43-7	⑧南	Ⅲ・E-18・19・23・24	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3～5	Ⅳ層上面	円	N3° W	5.15	(5.40)	0.40	
SB72	265 269	352	-	⑤道下	Ⅲ・H-19・20	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	Ⅳ層上面	略円	?	3.40	?	0.15	堅固
SB73	271	352	-	⑤道下	Ⅲ・I-21	炉体土器	中期	中葉	1	前葉5～中葉1	Ⅳ層上面	(方)	?	?	?	0.20	堅固

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	P2 3 4 9 1519	主柱穴は6基以上	(中央)	埋甕炉	ほぼ完存	無	—	—		検出面より上層で多いが覆土中は少ない		〃		H 11(1999)
	P1 4 8 10		ほぼ中央	埋甕炉	ほぼ完存	無	—	—	間仕切溝?	中層南よりに遺物集中			埴町土器が炉体を利用。	H 11(1999)
	P2 3 6 8 1013		中央	石囲炉		無	—	—	間仕切り溝と周溝	中層から土器破片出土 P1内に石皿	自然埋没	SX01に切られる		H 11(1999)
3			?	石囲炉?	掘り方のみ。火床残る。	無	—	—	?	?	?			H 11(1999)
	P1 6 7 9 11 15 16		中央	石囲炉		無	—	—	間仕切り溝	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	SK801重複		H 11(1999)
	P2 4 9 10 12 15 16	P16 3 20貯蔵穴	(中央)	石囲炉	南側の炉石なし	無	—	—		覆土中の遺物なし P20から石皿出土	不明	無		H 11(1999)
	P1 2 3 4 5 6 8	P4 7 10貯蔵穴	ほぼ中央	地床炉	炉石はなかったが石囲炉かもしれない	無	—	—		中層より少量の土器・石器 P4内石器集中出土	自然埋没	無		H 11(1999)
	P2 6 1216 20		中央	石囲炉		無	—	—	周溝全周	中層に土器・石器多い。投棄された遺構間接合多		〃	SB69bcを切る	H 11(1999)
	P4 7 14 17 18 25		〃	埋甕炉	SB69aの炉に破壊される	無	—	—		覆土中から少量の土器石器	自然埋没か		SB69cを切る	H 11(1999)
	P1 3 CP1 CP2		?	〃	SB69bによって北側破壊	無	—	—		〃	不明		SBab1に切られる	H 11(1999)
		4基確認 P3貯蔵穴	中央		掘り方のみ	無	—	—		中層に土器多い。投棄された	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P2 6 7 8 9 10 11	P1貯蔵穴	中央	石囲炉		無	—	—	南東壁下周溝	覆土に礫や土器片が入る。	自然埋没			H 11(1999)
	P2 3	主柱穴は2基以上	〃	埋甕炉		〃	—	—		遺物は少ない	自然埋没			H 11(1999)
	?		?	?	—	有1	正	性格不明。炉か?						H 11(1999)

表20-6

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB74	271	-	-	⑤道下	Ⅲ・H-20,I-16	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	0.1	一部堅固
SB75	280 284	352	-	⑧南	Ⅲ・J-2・3	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3~4	IV層上面	(円)	?	?	?	-	一部堅固
SB76	283	353	-	④	I・Y-24・25,Ⅲ・E-4・5	覆土中土器	中期	中葉	1?	前葉4~中葉3	IV層上面 床面近くまで削平	隅丸方	N	3.80	3.80	0.10	軟弱
SB77	283	353	43-8	④	Ⅲ・E-3・4	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1・2	IV層上面 西側の一部が不明確	円	N24° E	3.90	4.00	0.40	堅固
SB78	280 284	353	-	⑧南	Ⅲ・E-22・23,J-3	ピット 内ほか	中期	中葉	3	中葉1?~3	IV層上面	?	?	?	?	0.20	
SB79	279	353	-	④	Ⅲ・E-7・12	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1~2	IV層上面 南東一部でプラン確認	略楕円	N56° W	(3.10)	2.70	0.10	軟弱
SB80	279	354	44-1	④	Ⅲ・E-1・2・6・7	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	円	N56° W	3.10	2.90	0.25	軟弱
SB81	279	354	-	②・④	I・Y-17	ピット 内	中期	前葉	4	前葉	IV層上面	?	?	?	?	0.15	
SB82	279	354	44-2 3	④	I・Y-22・23	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	方	N57° W	3.60	3.55	0.20	堅固
SB83	279	354	-	④	I・Y-22・23,Ⅲ・E-2・3	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	略楕円	N15° W	3.50	3.10	0.30	堅固
SB84	279	355	-	④	Ⅲ・E-2	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	(楕円)	?	?	?	0.20	堅固
SB85	265	355	-	⑤	Ⅲ・H-24	覆土中土器	中期	中葉	1	中葉1~2	IV層上面	楕円	N80° W	3.35	2.85	0.50	北側が堅固
SB86	275 276 277	-	-		Ⅲ・I-3・4	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?		床面下まで削平
SB87	270 276 277 278	-	-	④	Ⅲ・I-13	覆土中土器	中期	後葉?	?	後葉?	IV層上面	?	?	?	?		床面下まで削平

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
?	?	?	?	?	?	?	?	?					一部床が残るのみ	H 11(1999)
	?		?	?	—	?	—	—		床上から一括土器	自然埋没	LM33に切られる		H 11(1999)
	P2 4 6 8		?	?	—	無	—	—		覆土中から少量の土器・石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 2 4 7		中央	石囲炉	南側に石、北側に土器片残る	無	—	—		覆土中から少量の土器・石器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P2プラスコ ?	?	?	?	—	?	—	—		極少	自然埋没	SK914に切られる		H 11(1999)
	P1 4 6 7		中央	埋甕炉	北側の一部残る	無	—	—		炉横及び床面から一括土器	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 2 4	主柱穴は4基	?	?	中央ピットが炉かもしれない	無	—	—		少	自然埋没	なし		H 11(1999)
	?		?	地床炉		無	—	—	?	?	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 4 5 6		北西壁寄	埋甕炉		無	—	—		覆土中層に遺物やや多い	自然埋没	なし		H 11(1999)
	P1 4 6 7	柱穴細く深い	中央	地床炉		無	—	—		極少	自然埋没	SK937に切られる		H 11(1999)
	P1 3 5 6		(中央)	埋甕炉		無	—	—		極少	自然埋没か		削平著しい	H 11(1999)
	P 1 2	主柱穴が2基かどうかは不明	無し			無	—	—		覆土中層に多い	自然埋没	なし	SK602として、調査。	H 11(1999)
4	P1 2 3 4	細く深い	?	?	?	?	?	?	?	?	?	SK359と重複	SK456・457・458・459で調査。	H 11(1999)
6	P1 2 3 4 5 6		?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	SK333・334・335・336・337・338で調査。	H 11(1999)

表20-7

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB88	280	-	-	④	Ⅲ・E-22・J-2	ピット	中期	中葉～後葉	?	中葉～後葉	IV層上面にピット露出	?	?	?	?	?	床面下まで削平
SB89	287 288	-	-	-	IV・F-11・12・16・17	ピット	中期	後葉?	?	中葉～後葉混在	IV層上面にピット露出	?	?	?	?	?	床面下まで削平
SB91	269 270	355	-	-	Ⅲ・H-5・10, I-1・6	旧SQ1取上げ	中期	前葉	3	前葉3	Ⅲ層中に、蹠分布。	?	?	?	?	-	
SB92	320	340	-	⑦	IV・Q-4・5・9・10	旧SB39・42ピットの一部分	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	0.30	
SB93	320	344	-	⑦	IV・Q-8・9	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	-	一部残る
SB94～100欠番																	
SB101	297	356	44-45	⑩	Ⅱ・W-16	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1～2	VII層上面	隅丸方～円	N31° E	3.95	3.80	0.15	柱穴間より内側堅固
SB102	297 308	356	-	⑩	Ⅱ・W-13・14	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2?	VII層上面	隅丸方	N53° E	4.50	?	0.15	部分的に堅固
SB103	289	-	-	⑧道	Ⅲ・O-10	覆土中土器	中期	後葉	3～	後葉	IV層上面表土下で炉、周溝検出	?	?	?	?	-	削平されていて不明
SB104	278	-	-	④道	Ⅲ・I-23	-	-	-	-	-	北壁の一部確認	?	?	?	?	0.16	詳細不明
SB109新	289 290	357	-	⑩南	IV・K-2・6・7	炉覆土	中期	後葉	3	後葉3～4	IV層上面床、炉が露出	?	N7° E	?	?	-	部分的に堅固
SB109旧	289 290	357	-	⑩南	IV・K-2・6・7						IV層上面109新調査中に炉を検出	?	N14° W	?	?	-	
SB110	289 290	-	-	⑩南	IV・K-2	覆土中土器	中期	後葉?		後葉?	IV層上面表土下で炉柱穴検出	?	?	?	?	-	削平されている
SB111	288	-	-	⑩南	IV・F-17	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉2	IV層上面西側削平される	?	?	?	?	0.30	壁際以外堅固
SB112	288 293	357	-	⑩南	IV・F-13・14・18・19	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面北側削平される	?	N34° E	?	?	-	部分的に堅固



第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
4	(SK321 320)貯蔵穴	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	SK310・311・312・313・314・315・316・317・318・319・320・321・322・323・357・524・525・526で調査。	H 11(1999)	
5	(SK321 321)貯蔵穴	?	?	?	?	?	?	?	?	?	なし	SK569・570・571・572・573・574・575・576・577・578・579・580・581・582・583・584・585・735で調査。	H 11(1999)	
?		中央	埋甕炉	浮いている。掘り下げ間違ひ。	?	—	—	?	細かな土器片が覆土から出土	?	?	旧SQ01、ST01 (SK263,264,265,266,267,268)	H 12(2000)	
?		?	石囲炉		?	—	—					SB39古として、調査。SB39新のピットにが切られている状況。	H 11(1999)	
?		?	—	—	有1	正						SB45南西で検出。削平部分が大半で、埋甕と周溝の一部、柱穴のピットが1基残るのみ。	H 11(1999)	
P13	P8→7、P4→P3への建て替	中央	石囲炉周囲床低くなる	完存、出土遺物なし	無	—	—	P11は貯蔵穴	中央部2層より投棄された多くの土器片出土	2層は廃棄物層	なし		H12 (2000)	
P12	89	北東壁寄	石組炉	炉石抜かれる。遺物なし	無	—	—	東壁部に周溝	覆土中の遺物少ない	自然埋没	LM56 Bに切られる。		H12 (2000)	
—	詳細不明	?	?	炉底が残る	?	—	—	周溝あり		不明	不明		H12 (2000)	
	2基のピットは検出	?	?	—	?	—	—			不明	不明	削平著しい	H12 (2000)	
P35	主柱穴は4基であろう	北壁寄	石組炉	埋土中に少量の遺物	有入口1	逆	上部は削平される			不明	SB109旧を切る	新旧2軒あり	H12 (2000)	
P16	〃	?	石組炉		無	—	—			不明	SB109新に切られる	新旧2軒あり	H12 (2000)	
	主柱穴は5基	?	?	炉底が残る	無	—	—			不明	なし		H12 (2000)	
	主柱穴と思われる2基を検出	?	?	—	?	—	—		覆土中から少量の土器石器	自然埋没	なし		H12 (2000)	
P49	10 14 16 24	北東壁寄	?	削平され炉底が残る	有入口1	正			覆土中から少量の土器石器	自然埋没	LM64を切る		H12 (2000)	

表20-8

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB114	306 307 312 313 314 315 316	358	-	⑩南	IV・L-5・10,M-1	覆土中土器	中期	中葉	4	中期後葉と混在(SB117と分離不可)	Ⅲ層で遺物分布。Ⅳ層上面で確認。	?	?	?	?	-	
SB115	315 316 317 318	360 361	44-6	⑩南	IV・M-6・11	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉3~4	Ⅳ層上面	五角形	N2° W	3.95	?	0.35	壁際以外堅固
SB116	315 316 317 318	359 360 361	44-7	⑩南	IV・M-6	覆土中土器	中期	後葉?		中葉~後葉	Ⅳ層上面	?	?	?	?	0.10	堅固、床の貼り替えあり
SB117	307 314 316	358	-	⑩南	IV・L-5・10,M-1	覆土中土器	中期	後葉		中葉~後葉		?	?	?	?	0.05	
SB118	314 315 316	359 361 362	44-8	⑩南	IV・M-1・2・6・7	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	Ⅲ層下部	隅丸方	N13° E	5.60	(6.90)	0.10	堅固、旧ビット上部に貼り替え有
SB119	314 315 316	359 361 362	45-1	⑩南	IV・M-1・2	炉覆土	中期	後葉	3	後葉3	Ⅲ層中~下面 他遺構の調査中	五角形	N27° E	(4.10)	4.60	-	堅固で明確
SB120	SB121に吸収																
SB121	312 313 314 315 316	361 362	45-2	⑩南	IV・H-21・22,M-1・2	埋甕	中期	後葉	4	後葉3~4	Ⅲ層下面	隅丸六角形	N55° E	5.70	5.25	-	明確
SB122	314 315 316	361 362	-	⑩南	IV・H-22,M-2	炉覆土	中期	後葉	3?	後葉2~3	Ⅲ層下面	(方)	?	?	?	-	かく乱により不明確
SB123	314 315 316	359 361 363	-	⑩南	IV・M-1・2・6・7	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉4~5	Ⅲ層下面	(五角)	N41° E	(3.00)	?	-	
SB124	314 315 316	359 361 363	45-3	⑩南	IV・M-1・2・6・7	埋甕	中期	後葉	3	後葉3~4	Ⅲ層下面	(方)	N16° E	?	?	-	
SB125	312 313 314 315 316	364	-	⑩南	IV・H-21・22,M-1	炉覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	Ⅲ層下面 炉検出	?	N48° E	?	?	-	攪乱され不明
SB126	304 305 306 307 308 309 312 313 315 316	365	-	⑩南	IV・G-24,L-4	炉体土器	中期	中葉	3	中期後葉と混在(SB193と分離不可)	Ⅲ層下面	?	?	?	?	0.15	
SB127	312 313 314 315 316	364	45-4	⑩南	IV・H-21	埋甕	中期	後葉	4	後葉3~4	Ⅲ層中~下面 北側削平される	?	?	?	?	-	堅固で明確

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
		SB117のピットと混在し、主柱穴を特定できない	北東壁寄	石囲炉		無	—	—		土器小片出土	?			H12 (2000)
	P1 2 3	主柱穴は4基であろう	北壁寄	石組炉	東側の炉石抜かれる。遺物わずか	無	—	—	柱穴わきに数石。西壁周溝巡る	炉の上層一帯から少量の土器、石器	自然埋没	SB116を切る	柱穴に倒れ込んだように完形土器出土	H12 (2000)
	P1 2 3 4 5 6	主柱穴は8基であろう	ほぼ中央	石囲炉	小破片出土	?	—	—	西壁下周溝巡る	床面上覆土から少量の土器、石器	#	SB115,118に切られる		H12 (2000)
		SB114のピットと混在し、主柱穴を特定できない	北壁寄	石囲炉		無	—	—						H12 (2000)
	P1 3 5 7 9 11	左記とP2.4.6.8.10.12が対になる建て替え	#	石組炉	完存 北東隅に複炉	#	—	—	西壁下周溝巡る。貯蔵穴入口に丸石	床面に多くの土器、石器投棄された	焼失後、自然埋没	SB116.141を切り、SB119.123.124に切られる	焼失家屋で遺物も付属していたもの	H12 (2000)
	P1 2 3 4 5		北東壁寄	#	完存	#	—	—	周溝巡る	中層より土器片多く出土。投棄された	一部人為埋没か	SB118.124.141を切る。SB121に切られる。SB122とは新旧不明		H12 (2000)
	P1 3 4 5		北東壁寄	石組炉	北東側炉石のみ残存	有入口1	正	石蓋あり	周溝1周	中層から少量の土器、石器投棄された	自然埋没	SB119.122.125を切る	炉の南西の焼土を当初SB120地床炉ととらえたが、SB121の施設ととらえ直した。	H12 (2000)
	P1 2 3	主柱穴は4基であろう	#	#	炉石抜かれる	無	—	—	#	覆土中から少量の土器石器	不明	SB121を切る SB119とは新旧不明		H12 (2000)
	P1 2	#	中央	#		無	—	—	周溝巡る					H12 (2000)
	P1 2 6	#	北壁寄	#		有入口2	2とも逆	接するが前後関係不明						H12 (2000)
	P1 3 5	主柱穴は4基であろう	北東壁寄	#	炉石抜かれる	有入口1	正	SB128の貼床あり		覆土中遺物なし	不明	SB121.128に切られる		H12 (2000)
	?	SB142.193のピットSKが混在し主柱穴を特定できない	#	石囲炉		無	—	—	北壁下周溝貯蔵穴P11	P11より小形土器と磨製石斧など出土	自然埋没		埋甕炉→SB193	H12 (2000)
	P1 2	主柱穴は4基であろう	?	?	—	有2	新:逆	旧埋甕は破壊され破片のみ上面に貼床	周溝巡る	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	SK1260に切られる		H12 (2000)

表20-9

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB128	312 313 314 315 316	364	45-5	⑩南	IV・H-21,M-1	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~5	Ⅲ層中~下面	円	N76° E	5.10	5.10	0.40	〃
SB129	310	366	-	⑩南	IV・L-17・18・22	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉3~4	Ⅳ層上面 炉、柱穴露出	?	?	?	?	-	不明確
SB130	310	367 368	-	⑩南	IV・Q-2・3・8	炉覆土	中期	後葉	4?	中葉~後葉	Ⅳ層上面 表土下で炉露出	(隅丸方)	N38° E	?	?	-	削平され不明確
SB131	322	-	-	⑦道	IV・V-5・W-1	覆土中土器	中期	後葉		中葉~後葉	Ⅳ層上面	(円)	?	?	?	0.20	軟弱
SB132	310	367 368	-	⑩南道	IV・Q-3・8	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2~4	Ⅳ層上面 炉が露出	(円)	N61° W	?	?	-	部分的に堅固
SB133	310	367 368	-	⑩南	IV・Q-2・3	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2~3	Ⅳ層上面	円	N31° E	5.20	5.60	-	炉の周辺件固
SB134	301 310	369 370	-	⑩南	IV・L-22,Q-2	覆土中土器	中期	後葉	1	後葉1~2	Ⅳ層上面 検出面より上で遺物ま とまって出土	(楕円)	?	?	?	-	軟弱
SB135	301 310	369 370	45-6	⑩南道	IV・L-21・22,Q-1・2	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3~5	Ⅳ層上面	隅丸方形	N18° E	5.40	5.70	0.25	南西壁際以外堅固
SB136	301 310	369 370	-	⑩南	IV・L-21	覆土中土器	中期	後葉		後葉3~4	Ⅳ層上面	?	?	?	?	-	堅固で明確
SB137	301 310	371 372	-	⑩道	IV・K-25,L-21,Q-1	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉3~5	Ⅳ層上面	(方)	?	?	?	-	炉の東側堅固
SB138	295 301	371 372	-	⑩道	IV・K-25,L-21,P-5,Q-1	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	Ⅳ層上面	(円)	?	?	?	0.45	堅固で明確
SB139	295 301	371 372	45-7	⑩道	IV・K-25	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉3~5	Ⅳ層上面	(円)	?	?	?	0.25	〃
SB140	295 301	371 372	-	⑩道	IV・K-25	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉1?	〃	?	?	?	?	-	不明確
SB141	314 315 316	361	-	⑩南	IV・M-1・2	ピット	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	Ⅲ層下面 床面露出	?	N15° E	?	?	-	軟弱

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	P1 2 3 4 5 7		東壁寄	石組炉	炉石抜かれる	無	—	南西壁際に抜き取りと思われるピット	周溝巡る 北西壁下 石柱 丸石	上層から投棄遺物、床直上から遺棄遺物	ルームブロックが多く人為的埋没	SB125を切りSK1260に切られる		H12 (2000)
	P2 7 12 13 20 32 33		?	地床炉		無	—			覆土中からの遺物わずか	不明			H12 (2000)
	P1 3 5 6		北東壁寄	石組炉	炉石抜かれる	無	—			覆土中からの遺物なし	不明	SB165を切る。SB132とは新旧不明		H12 (2000)
		3基の主柱穴は検出できた	?	?	—	?	—		東壁下 周溝	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	なし		H12 (2000)
	P1 3 5 8		西壁寄	石組炉	炉石抜かれる	無	—		南壁下 周溝	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	SB130との新旧関係不明		H12 (2000)
	P1 2 3 4 10		北東壁寄	石組炉	西側の炉石以外は抜かれる	無	—		周溝巡る	覆土中から少量の土器石器	自然埋没	SB165を切る		H12 (2000)
	P5 15	主柱穴は4基であろう	(中央)	地床炉		無	—			中央よりやや多くの土器出土。投棄された	自然埋没	SB135.153に切られる		H12 (2000)
	P6 7 9 11 12		北壁寄	石組炉	東側の炉石以外は抜かれる	無	—		周溝2/3巡る	覆土中からやや多くの土器出土	自然埋没	SB134.149.154を切る	住居中央部、大きく攪乱される	H12 (2000)
	P5 6	2基以外の主柱穴は削平される	?	?	—	?	—		周溝巡る	覆土中から少量の土器石器	自然埋没			H12 (2000)
	P6 8	主柱穴は4基であろう	北西壁寄	石組炉	炉石抜かれる	無	—			覆土中から少量の土器石器	自然埋没	SB138.154を切る		H12 (2000)
	P1 2 3 6	主柱穴は8基であろう	〃	石囲炉	北側の炉石以外抜かれる	無	—		間仕切状溝 周溝巡る	中層から土器多く出土投棄された	自然埋没	SB137に切られる		H12 (2000)
	P5 7 9	主柱穴は4基か	北壁寄	石組炉	完存	無	—		間仕切状溝 周溝巡る	上層から多くの土器出土投棄された	自然埋没	SB140を切る。SB145cとは新旧不明		H12 (2000)
	P5 11 12	主柱穴は4基であろう	北西壁寄	石囲炉	南東側の炉石以外抜かれる	無	—			覆土中から少量の土器石器	不明	SB139に切られる		H12 (2000)
	P1 2 3 4 5 6 7		?	?	—	無	—		貯蔵穴	覆土中から少量の土器石器	不明	SB118.119に切られる		H12 (2000)

表20-10

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB142	304 305 306 307 308 309 312 313	365	-	⑩南	IV・G-24,L-4	ピット	後期	初頭	1	後葉5～後期初頭							
SB143	306 307 312 313 314	373		⑩南	IV・G-20・25	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5～後葉1	Ⅲ層下面 Ⅲ層中に多くの遺物 (楕円)	?	?	?	?	-	堅固で明確
SB144	306 307 312 313 314 315 316	373	45-8	⑩南	IV・G-25,H-21	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉1～2	Ⅲ層下面	円	N28° W	(4.20)	4.20	0.35	堅固で明確
SB145	295 301	366	-	⑩道	IV・K-19・20・24・25	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2～3	IV層上面	?	?	?	?	-	不明確
SB146	295	366	-	⑩道	IV・K-24	埋甕	中期	後葉	4	後葉3～4	IV層上面	(円)	?	?	?		堅固で明確
SB147	295	366	-	⑩道	IV・K-19・24	覆土中土器	中期	後葉		後葉2～4	IV層上面	(円)	N39° W	(4.00)	?	0.10	ほとんど残っており不明確
SB148	301 310	369 370	46-1	⑩道	IV・Q-1・2	覆土中土器	中期	後葉	3.4	後葉3～4	IV層上面	(円)	N28° E	?	?	-	ほとんど残っており不明確
SB149	301 310	369 370	-	⑩南	IV・Q-1・2	埋甕	中期	後葉	3	後葉3～4	IV層上面	?	?	?	?	-	ほとんど残っており不明確
SB150	312 313 314	373	-	⑩南	IV・G-20・25	覆土中土器	不明	不明		不明	Ⅲ層下面 炉が露出	?	?	?	?	-	ほとんど残っており不明確
SB151	312 313 314	374	-	⑩北	IV・G-20,H-16	埋甕	中期	後葉	2	後葉2～3	IV層中	円	N37° E	6.40	6.10	-	削平され不明確
SB152	312 313 314	375	46-2	⑩北	IV・H-11・12・16・17	埋甕	中期	後葉	3?	後葉3～4	IV層上面	?	N22° E	?	?	-	削平され不明確
SB153	301 310	369 370	46-3	⑩南	IV・L-22	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉4～5	IV層上面 西側床面まで削平	(円)	N22° E	?	?	0.10	東側は堅固で明確
SB154	301 310	369 370 371 372	-	⑩道	IV・L-21・Q-01	覆土中土器	中期	後葉	3.4	後葉3～4	IV層上面 炉が露出	?	?	?	?	-	不明確
SB155	312 313 314	374	-	⑩北	IV・G-20	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉4?	IV層上面 床が露出	隅丸方形	N44° E	(3.00)	3.10	-	堅固で明確

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度	
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見							
		SB126.193のピットSKが混在し、主柱穴を特定できない?	(中央)	石組炉		無	-	-					SB126に切られる	H12 (2000)	
		SB150のピットと混在し、主柱穴を特定できない?	中央	石囲炉	完存	無	-	-		上層から投棄遺物、床面から遺棄的遺物	自然埋没		SB150を切りSB144に切られる	H12 (2000)	
	P1 2 4 5		中央	石囲炉	完存	無	-	-	周溝巡る	覆土から土器、石器、礫が廃棄的様相で出土	自然埋没か		SB143を切る	H12 (2000)	
	P1 7	主柱穴は4基であろう?	?	?	P2が炉の可能性あり	無	-	-	南壁下に周溝	少量	不明		SB139.140.146との新旧不明	北側削平	H12 (2000)
	P1	P1以外の主柱穴は不明?	?	?	-	無	-	-		少量	自然埋没		SB145.147との新旧不明	南側削平	H12 (2000)
	P1 3	主柱穴は4基であろう?	北西壁寄	?		有 入 口 1	正	石蓋有	周溝巡る	覆土から少量の土器、石器	不明		SB146との新旧不明		H12 (2000)
	P2 4 5 8		北東壁寄	石組炉	北側の炉石は使用時のまま。南側は不明	無	-	-		覆土から少量の土器、石器	不明		SB149との新旧不明		H12 (2000)
	P5	P5以外の主柱穴は不明?	?	?	-	有 1	正	小形の土器が入り二重になっている		覆土から少量の土器、石器	不明		SB135に切られる。SB148との新旧不明		H12 (2000)
		SB144のピットと混在し、主柱穴を特定できない?	?	(地床炉)	SB143の炉に破壊され詳細不明	無	-	-		SB143との重複で不明	不明		SB143に切られる		H12 (2000)
	P3 9 19 22 25 28		北東壁寄	石組炉	炉石抜かれる	有 入 口 1	正		貯蔵穴 周溝巡る	覆土がほとんど残っておらず不明	不明		SB155を切る		H12 (2000)
	P1 7 8 11 12		北東壁寄	石組炉	炉石抜かれる	有 入 口 1	逆	掘り方 下面に黒曜石(石核1273)あり		削平されて覆土がない	不明		SB162との新旧不明	建て替えあり	H12 (2000)
		主柱穴は平面図に示した5基	中央やや北寄り	石組炉	南西側炉石は残るが破壊される	無	-	-		覆土中から少量の土器石器	自然埋没		SB134を切るST12に切られる		H12 (2000)
			?	(石組炉)	詳細不明	?	-	-		覆土中から少量の土器石器	不明		SB135.137に切られる		H12 (2000)
	P1 2 3 5 5 7	主柱穴は後1~2基存在した可能性有	〃	石組炉	炉石抜かれる	?	-	-	周溝巡る	覆土中から少量の土器石器	不明		SB159を切りSB151に切られる		H12 (2000)



表20-11

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB156	304 305 312 313	375	46-4	⑩北	IV・G-19	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉(1)~(3)、上層に中葉5	Ⅲ層下面 Ⅲ層中に多くの遺物	円	N8° W	5.50	5.40	0.55	堅固で明確
SB157	304 305 312 313	376	46-4 5	⑩北	IV・G-19・20	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3	Ⅲ層中~下面	五角	N14° E	4.30	4.10	0.35	堅固で明確
SB158	304 305 312 313	376	46-4 6	⑩北	IV・G-14・15・19・20	覆土中土器	中期	後葉	3?	後葉3	"	円	N11° E	4.70	4.80	0.30	堅固で明確
SB159	313 314	374	-	⑩北	IV・G-20	覆土中土器	中期	後葉		不明	IV層上面 炉が露出	?	N34° E	?	?	-	床まで削平される
SB160	欠番																
SB161a	303 311 312 313	377 378	46-7	⑩北	IV・H-6・11	ピットほか	中期	後葉	1	後葉1~3	IV層上面	円	N31° E	4.50	(4.90)	0.15	炉の周辺が堅固
SB161b	303 311 312 313	377 378	46-7	⑩北	IV・H-6・11						IV層上面	円	(N31° E)	(5.90)	(5.80)	0.10	不明確
SB162a	303 311 312 313 314	377 378	-	⑩北	IV・G-15,H-11	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~	IV層上面	?	N34° E	?	?	-	炉の南側が堅固
SB162b	303 311 312 313 314	377 378	-	⑩北	IV・G-15,H-11						IV層上面	?	?	?	?	-	不明確
SB162c	303 311 312 313 314	377 378	-	⑩北	IV・G-15,H-11						IV層上面	?	?	?	?	-	"
SB163	303 304 305 312 313	379	-	⑩北	IV・G-9・14	覆土中土器	中期	後葉	2~4	後葉2~4	IV層上面	円	?	?	?	0.30	堅固で明確
SB164	303 304 305 312 313	379	-	⑩北	IV・G-14	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉1~2	IV層上面	円	?	?	?	0.40	"
SB165	310	367 368	-	⑩南	IV・Q-2・3・8	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉3	SB130を調査中に検出	?	N57° E	?	?	-	不明確
SB166	312 313 314	376	-	⑩南	IV・G-14・15・19・20	覆土中土器	中期	中葉	2?	前葉~中葉2	Ⅲ層中~下面	(円)	?	?	?	0.30	堅固で明確
SB167	304 305 312 313	380 381	46-4 8	⑩南	IV・G-14・18・19	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉1~5	Ⅲ層下面	(円)	?	?	?	0.50	堅固で明確

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	6	主柱穴は平面図に示した6基	中央	石囲炉	完存	無	—	—	周溝巡る 貯蔵穴 間 仕切状溝	上・中層から多くの土器、石器投棄された	自然埋没	SB192を切りSB167SK1774に切られる		H12 (2000)
	5	主柱穴は平面図に示した5基	北壁寄	石組炉	完存	無	—	—	貯蔵穴2基 周溝巡る	上層から多くの石器出土投棄された	自然埋没と人為的埋没の両方	SB158.166.178を切る		H12 (2000)
	P1 2 4 6 7		中央	石組炉	完存	無	—	—	周溝巡る	上層から土器と多くの礫が出土	〃	SB166を切りSB157に切られる		H12 (2000)
	?	主柱穴は平面図に示した6基と後2基の存在が推定される	(中央)	石組炉	掘り方の状況から石組炉	?	—	—		削平されほとんど遺物なし	不明	SB155に切られる		H12 (2000)
													土坑だった	欠番
	P2 4 7 11		北東壁寄	石組炉		無	—	—	周溝巡る	上、中層から土器がやや多く出土。投棄された	自然埋没	SB161b.169を切る	土偶出土	H12 (2000)
	P2 3 4 6 14 16 18		?	?	—	無	—	—	周溝巡る		不明	SB161aに切られる		H12 (2000)
	P14 20 22 28		北東壁寄	石組炉	完存	無	—	—	貯蔵穴	覆土中より少量の土器石器	自然埋没	SB162b、cを切る。SB161aと新旧不明	床面より約手土器	H12 (2000)
	P1 6 17 21 24 31 35		(中央)	地床炉		無	—	—	南壁下周溝	覆土中の遺物ほとんどなし	不明	SB162aに切られる。SB161a、162cとの新旧不明		H12 (2000)
	P10 1828 3234 1019		?	?	—	無	—	—	東壁下周溝	覆土中の遺物ほとんどなし	不明	SB162aに切られ、SB152.161a.161bとの新旧不明	平面図主柱穴写真に校正ミスあり	H12 (2000)
	P2 3	左記以外は削平され不明	?	?	—	?	—	—	周溝巡る	覆土中より少量の土器石器	自然埋没	SB164を切る	埋土より顔面把手出土	H12 (2000)
	P1 3 8	P2.5.7が主柱穴の可能性もある	?	?	—	?	—	—	周溝巡る	中層より土器が多く出土投棄された	自然埋没	SB168を切りSB163に切られる		H12 (2000)
	P1 3 5 8		(中央)	石囲土器埋設炉?	破壊され西側の石と土器片残存	無	—	—		覆土中の遺物ほとんどなし	不明	SB130.133に切られる		H12 (2000)
	6	主柱穴は図示した6基	?	?	—	〃	—	—	貯蔵穴 周溝巡る	覆土中より少量の土器石器	焼失後一部埋められる	SB157.158に切られる	焼失家屋か	H12 (2000)
	P1 3 6 9	主柱穴は5基であろう	東壁寄	石組炉	完存	?	—	—	周溝巡る	上層から投棄された多くの土器、石器	焼失後自然埋没	SB156.168.192を切る	炉内には上から落ちた焼土や炭化物がなく、使用後直ぐに焼却した可能性	H12 (2000)

表20-12

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB168	304 305 312 313	380 381	47-1	⑩南	IV・G-13・14・18・19	埋甕ほか	中期	後葉	2	後葉1~2	Ⅲ層中~下面	(円)	?	?	?	0.20	堅固で明確
SB169	311 312 313	382 383	47-2	⑩北	IV・H-6・7	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	(五角)	N44° E	(6.00)	5.60	0.10	
SB170	311	382 383	-	⑩北	IV・G-5・10,H-1・6	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	?	?	?	?	0.20	
SB171	303 311	382 383	-	⑩北	IV・G-5・10,H-1・6	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	(円)	?	?	?	0.40	
SB172	303 311	382 383	47-3 4	⑩北	IV・G-5・10,H-1・6	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	IV層上面	円	N40° E	4.30	4.60	0.40	
SB173	302 303	-	-	⑩北	IV・G-4・9	ピット	中期	後葉?		中葉5~後葉1	IV層上面	円か方	?	(5.00)	?	0.41	西側削片。一部堅固。
SB174	302 303	-	-	⑩北	IV・G-4・9	覆土中土器	中期	後葉	1?	中葉5~後葉1	IV層上面	?	?	?	?	0.23	大半削平、SB173に切られる。
SB175	311	384 385	47-5	⑩北	IV・C-21・22,H-1・2	埋甕	中期	後葉	5?	後葉4~5	IV層上面	円から五角	N46° E	5.25	5.60	0.35	
SB176	303 311	384 385	47-6 7 8	⑩北	IV・H-1・2	ピットほか	中期	中葉	3~4	中葉3~4	IV層上面	楕円	N26° E	6.50	6.00	0.55	
SB177	欠番																
SB178	304 305 312 313	376	-	⑩北	IV・G-19・20	覆土中土器	中期	葉~後	-	混在	IV層上面	?	?	?	?	0.05	
SB179	欠番																
SB180	311	384 385	48-1 2	⑩北	IV・C-21・22	炉ほか	中期	中葉	2	中葉2	IV層上面	(円)	?	?	?	0.55	
SB181	303 311	386	48-3	⑩北	IV・B-25,C-21	覆土中土器	中期	中葉	3.4	中葉3~4	IV層上面	円	N38° E	(5.10)	5.00	0.45	
SB182	303 311	386	48-3	⑩北	IV・B-25,C-21	覆土中土器	中期	後葉	2.3	後葉2~3	IV層上面	円	N43° E	3.30	3.20	0.20	
SB183	欠番																
SB184	311	384 385	-	⑩北	IV・C-21・22	-	中期	-	-	-	IV層上面	楕円か	?	?	?	-	

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	P2 4 5 12	主柱穴は6基であろう	北壁寄	石囲炉掘り方北側に小形土器埋設	南側の炉石以外抜かれる	有 北 1	正		周溝巡る	中層から投棄された多くの土器、石器	自然埋没	SB192を切りSB167に切られる	炉北東側床面に伏甕	H12 (2000)
	P1 2 6 18 21 22		北東壁寄	石組炉		無	—	—	周溝巡る	P18よりクワの割材出土。	自然埋没		単独	H12 (2000)
		SB171のピットと混在し、特定できず	?	?	—	?	—	—	周溝巡る		自然埋没	170<171<172		H12 (2000)
		SB170のピットと混在し、特定できず	?	?	—	?	—	—	周溝巡る		自然埋没	170<171<172		H12 (2000)
	P3 6 9 14		中央	石囲炉		無	—	—	周溝巡る	覆土内に多量の礫の投げ込みあり。	自然埋没	170<171<172		H12 (2000)
	?	?	中央北東寄	火床のみ		無	—	—	周溝巡る	覆土に礫入る。	自然埋没	SB174を切る		H12 (2000)
	?	?	?	?		無	—	—	周溝巡る	?	?	SB173に切られる		H12 (2000)
	5		北東壁寄	石組炉		有 口 1	正	石蓋が南側に直立している。	周溝巡る		自然埋没か	SB176 184を切る		H12 (2000)
	9		北東壁寄	石囲炉		無	—	—	間仕切溝、周溝巡る貯蔵穴	覆土に多量の土器や石器。P23,24から一括土器	自然埋没か			H12 (2000)
	(8)		?	?	—	無	—	—			自然埋没か		SB157・158平面から付けたし	H12 (2000)
	?		(中央)	埋甕炉	新旧2基あり。南側が新	?	—	—	周溝巡る		自然埋没か	覆土に土器小片出土	北側削平	H12 (2000)
	7		北壁寄	石囲炉	旧炉は掘り方のみ	無	—	—	南東壁下周溝	覆土中の遺物少ない	自然埋没か	SB182に切られる		H12 (2000)
	4		北東壁寄	石組炉		無	—	—	北壁下周溝	覆土中の遺物少ない	層位は乱れている。	SB181を切る		H12 (2000)
	6		?	?	—	無	—	—				SB180 175に切られる		H12 (2000)

表20-13

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB185	299 300	387	48-4	②南	IV・G-21・22	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	楕円	N1° E	6.80	(6.40)	0.40	
SB186	293 294 299	388	48-5	②南	IV・F-20・25,G-21	埋壘	中期	後葉	4	後葉3~4	IV層上面	方	N32° E	5.00	4.90	0.30	
SB187	299 300 304 305 306 307	389	-	②南	IV・G-17・18・22・23	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3	IV層上面	楕円	N10° W	(5.60)	5.00	0.25	
SB188	299 300 304 305	390	-	②南	IV・G-16・17	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉	IV層上面	(円)	?	?	?	0.35	
SB189	299 300 304 305	390	-	②南	IV・G-17	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.50	
SB190	299 300 304 305 306 307	389	48-6	②南	IV・G-22・23	ピット	中期	中葉	3	中葉	IV層上面	(楕円)	N38° E	?	?	0.20	
SB191	304 305	-	-	①北	IV・G-13・14・18・19	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面	?	?	?	?	?	
SB192	304 305 312 313	380	-	①北	IV・G-14・19	覆土中土器	中期	中葉		中葉2~3?	IV層上面	?	?	?	?	0.10	
SB193	304 305 306 307 308 309 312 313	365	-	①南	IV・G-24,L-4	ピット	中期	後葉	1	後葉	IV層上面	?	?	?	?	0.20	
SB194	311	-	-	①北	IV・H-2・7	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面でピットの集合で住居とした	?	?	?	?	?	
SB195	298 299 302	391	-	②北	IV・G-2・3・7・8	ピット	中期	中葉	5	中葉4~後葉1	IV層上面	円	N9° E	6.20	6.50	0.18	
SB196	299	387	48-7 8	②南	IV・G-16	埋壘	中期	後葉	3	後葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.10	
SB197	293 393 394	49-1	-	②南	IV・F-14・15・19・20	覆土中土器	中期	中葉	5	中葉5	IV層上面	(円)	N8° E	7.80	?	0.40	
SB198	295	-	-	②南	IV・K-19	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面ピットと炉、周溝検出	?	?	?	?	?	削平

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	8		北壁寄	石囲炉		無	—	—	間仕切溝、周溝巡る貯蔵穴	P3から石製装身具出土	自然埋没	覆土中に礫が入る。		H12 (2000)
	4		北東壁寄	石組炉		有入口1	逆	石蓋	周溝2周巡る	北壁際に伏甕。	自然埋没	SB220に切られる	建替か。	H12 (2000)
	7		中央	石囲炉		無	—	—	間仕切溝、周溝巡る貯蔵穴		自然埋没	SB190に切られる		H12 (2000)
	?		?	?	—	〃	—	—		床面に黒曜石石核出土。	自然埋没	SB188に切られる		H12 (2000)
	?		(中央)	石囲炉		?	—	—		覆土上層に礫多い。	自然埋没	SB189を切る		H12 (2000)
	5		中央	石囲炉		無	—	—	間仕切溝、周溝巡る貯蔵穴	貯蔵穴P3から小形土器96出土	自然埋没	SB187を切る		H12 (2000)
									周溝、東側に巡る				大半が削平。東側の周溝とピットのみ。SB168の床下で検出。SB191取り上げの遺物はSB168へ。	H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—				SB167 168に切られる		H12 (2000)
	?	SB142.193のピットSKが混在し主柱穴を特定できない	(中央)	石組炉		無	—	—						H12 (2000)
12	6	?	?	?	?	無	—	—	貯蔵穴				SB171西側にありピットのみ。	H12 (2000)
	7		中央	地床炉		無	—	—	貯蔵穴	覆土下層に土器や石器が散在 P4 5に磨製石斧一括出土。			重複有りか。	H12 (2000)
	?		?	?	—	有3	正逆逆		周溝巡る					H12 (2000)
	9		北壁寄	石囲炉		有炉北1	正		周溝巡る	床上で釣手土器。炭化材と出土。	覆土中層に堅固面あり。床面は焼失している。炭化材の上に被熱したロームあり。		SB221に切られる。	H12 (2000)
6	?		北壁寄か	?	炉底のみ	無	—	—	周溝巡る	無	不明			H12 (2000)

表20-14

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期				検出面	形態・規模					床面	
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)	平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m		壁高m
SB199	290 295	-	-	②南	IV・K-14・18・19	覆土中土器	中期	後葉		後葉	IV層上面 ピットと炉、 周溝検出	?	?	?	?	?	削平
SB200	290 295	395	49-2	②南	IV・K-13・14・18・19	埋壘	中期	後葉	3	後葉3	IV層上面	隅丸方	N28° E	(5.50)	?	-	
SB201	290 294 295	-	-	②南	IV・K-8・13	覆土中土器	中期	後葉		中葉5～後葉	IV層上面	(円)	?	?	?	?	一部残る
SB202	294 295	396	-	②南	IV・K-9・10・14・15	ピット	中期	中葉	5	中葉4～後葉	IV層上面	円	N3° E	(6.10)	(6.00)	-	
SB203	293 294	395	49-3	②南	IV・F-19・20	炉体土器	中期	中葉	1	中葉1	IV層上面	円	N28° W	?	?	0.25	
SB204	294	397 398 399	-	②南	IV・F-24	覆土中土器	中期	後葉	1	後葉1～2	IV層上面	(円)	?	?	?	0.30	
SB205	294	396	49-4	②南	IV・F-25,K-5	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉3～4	IV層上面	楕円	N50° E	4.10	2.50		
SB206	294	397 398 399	-	②南	IV・F-24,K-04	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉2～3	IV層上面	(方)	?	?	?	-	
SB207	290 294	397 398 399	-	②南	IV・K-4	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5～後葉1	IV層上面	(五角)	?	?	?	-	
SB208	290 294	397 398 399	-	②南	IV・K-4・9	覆土中土器	中期	後葉	3～5	後葉3～5	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB209	294	397 398 399	-	②南	IV・K-4・9	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5～後葉1	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB210	294 300	400	-	②南	IV・K-5・10	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉3～5	IV層上面	楕円	N8° E	5.40	4.70	0.40	
SB211	294	397 398 399	-	②南	IV・K-4・9	覆土中土器	中期	後葉	4?	中葉3～後葉4	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB212	290 294 295	397	-	②南	IV・K-8・9	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉	IV層上面	(円)?	?	?	?	0.36	



第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	支柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
9	5		北壁寄	石囲炉	北側のみ炉石残る。	無	—	—	周溝巡る	無	不明			H12 (2000)
	4		北東壁寄	石組炉		有入口1	正		周溝巡る		砂で埋め戻されている。	SB235と重複	宮坂氏調査の可能性あり。	H12 (2000)
2									周溝巡る		自然埋没		大半が削平されている。	H12 (2000)
	9		北壁寄	石囲炉		無	—	—	間仕切溝、周溝巡る		自然埋没			H12 (2000)
	(4)		北西壁寄	埋甕炉		無	—	—		床面から小形土器出土	自然埋没			H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝巡る貯蔵穴		自然埋没			H12 (2000)
	?		中央	石組炉		無	—	—	西壁下溝	周溝中到大礫入る。	自然埋没		小形の楕円形、炉は大きく性格不明	H12 (2000)
	?		北壁寄	石組炉		?	—	—	東壁下溝	周溝中に少ない	自然埋没	SB204を切るSB209に切られる。	西側の重複が著しく、形状など抽出困難	H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝巡る		自然埋没	SB208に切られる。	西側の重複が著しく、形状など抽出困難	H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝巡る		自然埋没		西側の重複が著しく、形状など抽出困難	H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝巡る	床面から完形土器出土している。	自然埋没		西側の重複が著しく、形状など抽出困難	H12 (2000)
	7		北壁寄	地床炉?	石囲炉の抜き取りか	無	—	—		床面に礫があり。	自然埋没			H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	間仕切溝周溝		自然埋没		西側の重複が著しく、形状など抽出困難	H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝東側に巡る	少ない	自然埋没		大半が削平されている	H12 (2000)

表20-15

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB213	298 299	400	-	②北	IV・G-1	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	隅丸方	N25° E	4.85	5.25	0.30	堅固
SB214	298 302	401	-	②北	IV・B-17・18・22	ピットほか	中期	中葉	4	中葉4~5	IV層上面	円	N14° E	5.80	5.65	0.70	堅固
SB215	302	402	49-5 6	②北	IV・B-18・19	炉覆土	中期	後葉	4	後葉4~5	IV層上面	円	N11° E	?	4.20	0.30	堅固
SB216	298 302	402	-	②北	IV・B-12・13	ピットほか	中期	中葉	4	中葉3~5	IV層上面	(円)	?	?	?	0.35	堅固
SB217	298 302	402	-	②北	IV・B-13・18	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉3~5	IV層上面	隅丸方	N47° E	?	?	0.30	堅固
SB218	298 302	403	-	②北	IV・B-16・17	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3	IV層上面	楕円	N11° E	5.90	5.10	0.50	
SB219	294	397 398 399	-	②南	IV・K-4・9	覆土中土器	中期	中葉	5	中葉3~後葉	IV層上面	(五角)	?	?	?	-	
SB220	-	388	-	②南	IV・F-25	-	-	-	-	-	IV層上面	?	?	?	?	?	?
SB221	293 299	404	-	②南・北	IV・F-15	炉覆土	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	隅丸方	N44° E	(1.60)	4.90	-	
SB222	302 303	405	-	②北	IV・B-19	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉5	IV層上面	(円)	?	?	?	0.30	
SB223	288 293	406	49-7	②南	IV・F-8・9・13・14	ピットほか	中期	後葉	1	中葉5~後葉2	IV層上面	楕円	N70° E	6.20	6.00	0.40	
SB224	293 298	404	-	②南・北	IV・F-10・15	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB225	298 407 408	-	-	②北	IV・B-21・22	ピットほか	中期	中葉	4	中葉3~5	IV層上面	楕円	N25° E	5.90	4.80	0.60	
SB226	295 301	405	-	②南	IV・K-19・20	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面	?	?	?	?	-	

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
	4		北東壁寄	石組炉		無	—	—	周溝3/4巡る		自然埋没		床下にロームマウンドあり	H12 (2000)
	7		北壁寄	石囲炉		有 炉北1	正		間仕切溝 周溝巡る 貯蔵穴		自然埋没			H12 (2000)
	4		北壁寄	石組炉		無	—	—	周溝巡る				北側が削平されている。	H12 (2000)
	?		東壁寄	地床炉		?	—	—			自然埋没か	SB217を切る		H12 (2000)
	(4)		?	石囲炉		?	—	—		炉周辺の覆土に礫多く入る	自然埋没か	SB216に切られる		H12 (2000)
	7		中央	地床炉		無	—	—	間仕切溝巡る 貯蔵穴	P11内に石器一括出土 覆土上層に礫など	自然埋没か			H12 (2000)
	?		?	?	—	?	—	—	周溝巡る		自然埋没か			H12 (2000)
?	?	?	炉底のみ	?	?	?	?	?	?	?	?	SB186に切られる。		H12 (2000)
	5		北東壁寄	石組炉		無	—	—	周溝巡る	入口左丸石あり。	自然埋没か	SB197 224を切る。		H12 (2000)
	?		?	?		?	—	—	〃		自然埋没か	LM76に切られる		H12 (2000)
	2組あり。建替えか。		北壁寄	地床炉		無	—	—		覆土上層から多量の土器・石器出土	自然埋没か			H12 (2000)
	?	3本は確認	?	地床炉		?	—	—			自然埋没か		SB197と切り合う。プラン不明。	H12 (2000)
	7		北東壁寄	石囲炉		無	—	—		覆土上層から中層に土器や石器多量に出土	上部に攪乱穴の痕跡あり。	SB231を切る。	宮坂氏調査の有孔罎付土器と接合する破片出土	H12 (2000)
	?		?	石囲炉		?	—	—			自然埋没か			H12 (2000)

表20-16

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB227 SB228	300 304 305	-	-	⑩南	IV・G-22	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	IV層上面						
		登録抹消									IV層上面						
SB229	292 293 299	409	-	⑧北	IV・F-3・4・8	ピットほか	中期	中葉	3	中葉3~4	IV層上面	(円)	N29° E	6.00	(5.50)	0.30	
SB230	299	387	-	⑩南	IV・G-16	覆土中土器	中期	後葉	2.3	後葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.15	
SB231	298	407 408	-	⑩北	IV・B-16・21	ピットほか	中期	中葉	3	中葉2~4	IV層上面	円	N38° E	4.80	4.70	0.40	
SB232	292	410 411	49-8	⑧北	IV・A-18・23	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	隅丸方	N28° E	(4.60)	4.25	0.30	
SB233	292	410 411	49-8	⑧北	IV・A-18・23	覆土中土器	中期	中葉	4?	中葉3~5	IV層上面	円	N	5.70	(5.50)	0.40	
SB234	298	409	-	⑩北	IV・B-11・12	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	IV層上面	(円)	?	?	?	0.50	
SB235	290 295	395	-	⑩南	IV・K-13・18	-	-	-	-	-	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB236	295 301	-	-	⑩南	IV・K-15・20	覆土中土器	不明	不明	-	不明	IV層上面					削平されている	
SB237	293 299	412	-	⑩北	IV・G-6・11	ピットほか	中期	中葉	4	中葉3~4	IV層上面	円	N14° E	6.00	(6.00)	-	
SB238	286	411	-	⑧北	IV・A-11・12・16・17	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	円	N47° W	(3.30)	3.40	0.20	
SB239	286	412	-	⑧北	IV・A-6・7	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	IV層上面	?	?	?	?	-	
SB240	299 302	413	-	⑩北	IV・G-6・7	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉3~後葉1	III層上面	円	N12° E	(7.00)	(7.30)	-	
SB241	288 292	413	-	⑩南	IV・F-8	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉4	IV層上面	(円)	N62° W	?	?	0.30	

第2節 縄文時代の遺構

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	支柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
											自然埋没か		SB185に切られる。	H12 (2000)
	7		北東壁寄	石囲炉		無	-	-		覆土中層に 完形土器あり	自然埋没か		楕円形	H12 (2000)
	?		?	?	-	?	-	-			不明		SB196の下	H12 (2000)
	4		中央	石囲炉		無	-	-		覆土中層に 完形土器あり	自然埋没か			H12 (2000)
	5		〃	石囲炉		無	-	-		遺物は少ない	自然埋没		SB233に切られる	H12 (2000)
	7		北壁寄	地床炉		無	-	-	貯蔵穴	炉周辺の床 に完形土器あり	自然埋没 SB232近辺 攪乱?		SB232を切る	H12 (2000)
	?		(中央)	埋甕炉		?	-	-	貯蔵穴	覆土中層に 完形土器あり			北側削平	H12 (2000)
	?		?	?	-	?	-	-	周溝巡る				SB200と重複	H12 (2000)
				火床のみ 残る									火床のみ。周囲 にピット	H12 (2000)
	8		北壁寄	石囲炉		無	-	-	周溝巡る	P24より土器 一括出土				H12 (2000)
	42組あり		中央	地床炉		無	-	-	西壁下 溝	覆土中に大 きな土器片 出土				H12 (2000)
	?		?	地床炉		無	-	-					床面不明確。	H12 (2000)
	6		北壁寄	地床炉		無	-	-	東壁下 溝	遺物は少な い				H12 (2000)
	4		(中央)	地床炉		無	-	-					半分削平。	H12 (2000)

表20-17

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB242	305	-	-	①南	IV・G-24	炉	中期	後葉	4	後葉4	IV層上面	炉のみ					
SB243	288 293	-	-	②南	IV・F-14・19	覆土中土器	-	-	-	-	IV層上面	ピットのみ					
SB244	295 301	371 372	-	②南	IV・K-25	覆土中土器	中期	後葉	1?	後葉	IV層上面	?	?	?	?	0.25	
SB245	301	371 372	-	②南	IV・K-25,L-21	覆土中土器	中期	後葉	3.4	後葉3~4	IV層上面	(円)	?	?	?	-	
SB246	312 313 314 315 316	-	-	②南	IV・H-21・22	-	-	-	-	-	IV層上面	ピットのみ					

3 縄文時代後期住居跡

個別の事実記載は縄文時代中期の住居跡と同一である。

表21 長峯遺跡縄文時代後期住居跡

遺構番号	掲載図版			位置		所属時期					検出面	形態・規模					床面
	割付図版No.	個別図版No.	PL No.	地区	グリッド	認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分	埋土出土土器の時間幅(微量混入を除く)		平面形	主軸方向	主軸長m	副軸長m	壁高m	
SB48	319 320 321	414	-	⑦	IV・Q-10,R-6	覆土中土器	後期	初頭		中期後葉5~後期初頭	Ⅲ層中	?	?	?	?	-	不明
SB51	253 254 255 256	415	50-2 3 4 5	⑤	Ⅲ・G-17・22	覆土中土器	後期	前葉	2	前葉	現水田下に敷石確認	円か柄鏡か	N16° E	(4.90)	(4.00)	-	敷居
SB57	253 254	416	50-7	⑤	Ⅲ・F-20	覆土中土器	後期	前葉	2	後期前葉	現水田下に礫確認	円?	?	?	?	-	敷石の残骸。周礫が巡る
SB58	255 256	416	50-6	⑤	Ⅲ・G-22・23	覆土中土器	後期?			不明	水田下でピット確認	?	?	?	?	-	削平
SB59	319 320 321	336	-	⑦	IV・Q-10・15	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉(5)~後葉(1)	IV層上面でピット分布	?	N38° E	?	?	-	
SB90	315 316 317 318	417	-	①南	IV・L-10・15,M-11	ピット	後期	?	?	後期	IV層上面でピット分布	柄鏡形か	?	?	?	-	床下まで削平
SB105	271 278	417	-	④道	Ⅲ・I-16・21	覆土中土器	後期?	?	?	?		?	?	?	?	-	
SB106	306 307 315 316 317 318	418 419	-	①南	IV・L-9・10・14・15	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉	Ⅲ層中	柄鏡形か	?	?	?	-	礫が分布
SB107	306 308 315 317	420	50-8	①南	IV・L-9・14	覆土中土器	後期	初頭		中期後葉~後期初頭	Ⅲ層中	柄鏡形か	?	?	?	-	平石が分布
SB108	306 315 317	418	-	①南	IV・L-9・10	-	-	-	-	-		?	?	?	?	-	
SB113	314 315 316 317 318	421	-	①南	IV・L-5,M-1・6	炉体土器	後期	初頭		初頭	Ⅲ層下面表土下で炉検出	?	?	?	?	-	堅固な部分なし

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
			不明	石囲炉									整理作業で登録。S H02、SK1587改め	H12 (2000)
													整理作業で登録。SB112・SB197と重複	H12 (2000)
	?		?	?	-	無	-	-					整理作業で登録。SB140炉、ピット2・4、SK1685を変更	H12 (2000)
	?		北寄寄 壁	地床炉		無	-	-					整理作業で登録。SB137ピット11・14を炉として、ピット7・8・12・10・9、SK1684を柱穴とする。	H12 (2000)
													整理作業で登録。SB121周溝の北西隅とSB125P1をそのプランから新規SB246として分離した。	H12 (2000)

ピット			炉			埋甕			付属施設	遺物の出土状況	埋没過程	重複関係	備考	調査年度
数	主柱穴	所見	位置	形態	所見	有無・位置・数	埋設位	所見						
8			中央?	地床		無し	-	-				SB50 36 41の上		H 11(1999)
		敷石の周囲に巡るか。検出困難	中央北より	石囲埋甕	方形の石囲、内部に炉体土器	無し	-	-	炉の南北に敷石		不明		敷石下位の被熱範囲。炭化材も分布	H 11(1999)
10	?	周礫下位に小ピット巡る	(中央)	埋甕炉		?	-	-					小形の敷石住居跡	H 11(1999)
6			?	?		?	-	-	P7より石棒頭部出土		?	SK617に切られる	敷石住居跡の柱穴だろう。	H 11(1999)
	P1 2.3 4.6 7.8 9			北東壁寄	地床	無	-	-						H 11(1999)
15			?	?	-	無	-	-				SB106と重複	SB106-14・18・20・39・41・46・47、SK1053・1054・1056・1057・1058・1059・1060・1068・1069・1072・1663、Noなし1基	H 12(2000)
?			?	石囲		?	-	-					床面下位に焼土が広く分布。大半が削平	H12 (2000)
?			?	石組	内部に礫の投げ込み	?	-	-			周囲には周礫があったようである。	SB107に切られる。	敷石住居	H12 (2000)
10			(中央)	石囲		無	-	-				SB106を切る	敷石住居	H12 (2000)
?			?	?	-	?	-	-	敷石			SB106 107と重複	ピット配列など、要検討、SB107北東隣接。	H12 (2000)
	P1.2 3.4 5.6 7.8		中央	埋甕	周辺に炉石と考えられる礫あり	無	-	-				SB114、117 118を切る	SK・SB114のピットから抽出	H12 (2000)

4 掘立柱建物跡

表22 長峯遺跡掘立柱建物跡

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PL.No.	位置	旧遺構名	所属時期	認定資料	検出面	構造・規模					重複関係
									柱配置	主軸方向	主軸長m	副軸長m		
									ピット個別所見					
平面形	断面形	平面規模	深さ	柱痕										
ST01	SB92に変更													
ST02	256	422		III G23		後期	位置	IV層上面	1間×1間	N25W	3.7	2.3		
P1				SB58 Pit3					円	方形	0.45×0.40	0.33		なし
P2				SK635					円	半円形	0.4×0.38	0.37		なし
P3				SK636					円	長方形	0.47×0.54	0.51		SK618と接する
P4				SB58 Pit5					楕円	方形	0.36×0.30	0.31		なし
ST03	256	422		III L03		後期	位置	IV層上面	1間×1間	N15W	2.7	2.1		
P1				SK656					円	台形	0.55×0.55	0.31		SK655に切られる
P2				SK645					円	〃	0.6×0.55	0.45		なし
P3				SK648					円	長方形	0.6×0.61	0.27		なし
P4				SK652					円	台形	0.45×0.45	0.35		なし
ST04	275・276・277	423	51-1	III D-23, I-3・4		中期初葉～後葉	位置では前葉が当てはまる	IV層上面	2間×1間	N19E	6.3	3.45		
P1				SK361					円	長方形	1.05×0.91	0.86	あり	SK417とSK362に接している
P2				SK360					円	長方形	0.85×0.78	0.8	あり	なし
P3				SK359					楕円	台形	0.65×0.55	0.7	あり	
P4				SK358	中期後葉	土器			円	方形	0.65×0.60	0.52	あり	
P5				SK367	中期前葉	土器			円	台形	0.73×0.68	0.7	あり	
P6				SK363					楕円	長方形	0.75×0.65	0.72	あり	
ST05	276	424	51-1	III I-14・15・9・10		中期前葉	ピット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N11E	6	3.1		
P1				SK291					円	台形	0.55×0.5	0.4		なし
P2				SK286					円	台形	0.59×0.55	0.5	あり	なし
P3				SK280	中期前葉	土器			方形	台形	0.5×0.54	0.4	あり	SK281とSK282と接する
P4				SK283					円	長方形	0.53×0.52	0.15		なし
P5				SK324					円	台形	0.55×0.5	0.31		なし
ST06	277	425	51-1	III I-14・15		中期前葉～中葉	ピット遺物、位置	IV層上面	1間×1間	N3E	3.6 2.8	2.9		ST07, ST08と重複し、ST08を切る。
ST6P1				SK278	中期中葉	土器			円	台形	0.8×0.75	0.55	あり	なし
ST6P2				SK277					円	台形	0.72×0.68	0.4	あり	なし
ST6P3				SK275	4	土器			楕円	台形	0.85×0.7	0.3		なし
ST6P4				SK273	前～中				円	階段状	0.7×0.65	0.55		ST08P1を切る
ST07	277	425	51-1	III I-14・15・19・20		中期前葉～中葉?	位置	IV層上面	1間×1間	N2E	3.3 3.65	2.1 1.85		ST06, ST08と重複するが新旧は不明
ST7P1				SK274					円	台形	0.95×0.9	0.55		
ST7P2				SK276					楕円	台形	1.0×0.8	0.59		
ST7P3				SK270					円	方形	0.66×0.62	0.55	あり	
ST7P4				SK271	前?				楕円	台形	0.8×0.65	0.47	あり	
ST08	277	425	51-1	III I-14・15・19・20		中期前葉～中葉?	ピット遺物、位置	IV層上面	1間×1間	N12E	3.45 3.7	3.0 4.1		ST06, ST07と重複し、ST06に切られる
ST8P1				SK273	前～中				円	台形	1.0×0.95	0.34		ST06P4に切られる
ST8P2				SK272					不整形円形	台形	0.75×0.65	0.35		なし
ST8P3				SK289					円	台形	0.6×0.55	0.55		なし
ST8P4				SK269					円	台形	0.75×0.75	0.6	あり	なし
ST09	289 290	424		IV K-2		中期中葉2・3	ピット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N85E	4.07	2.45		
P1				SK1042	中2・3				円	楕円形	0.4×0.36	0.31		なし
P2				SB110 P3					円	半円形	0.3×0.3	0.13		なし
P3				SB110 P4					不整形円形	半円形	0.3×0.3	0.15		なし
P4				SK1046	中2				円	長方形	0.46×0.41	0.41		なし
P5				SK1192					不整形方形	半円形	0.45×0.35	0.15		なし
P6				SK1043					円	楕円形	0.45×0.41	0.35		なし



表22-2 (建物のつづき)

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	旧遺構名	所属時期	認定資料	検出面	構造・規模					重複関係
									柱配置	主軸方向	主軸長m	副軸長m		
									平面形	断面形	平面規模	深さ	柱痕	
ST10	313・314.316	426		IVL-05		中期後葉	ビット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N17W	5.85 5.7	2.4 2.35		
P1					1428	後			楕円	長方形	0.82×0.5	0.6	SK1148に切られる	
P2					1159				円	台形	0.65×0.55	0.7	SK1146に切られる	
P3									楕円	不整台形	0.85×0.65	0.53	SB114.117のビットと切りあう	
P4									(円)	(台形)	(0.7)×0.6	0.4	SB114.117のビットと切りあう	
P5									円	台形	0.7×0.7	0.7	なし	
P6					1446	後			円	台形	0.7×0.7	0.75	なし	
ST11	313・314.316	427		IVG-25,H-01,L-05,M-01		中期後葉	ビット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N23W	5.15 4.7	2.17 2.2		
P1					1149	後葉			円	台形	0.65×0.61	0.6	なし	
P2					1589				円	長方形	0.7×0.7	0.6	なし	
P3									不整円形	台形	0.8×0.7	0.7	SB128ビットを切る	
P4									円	台形	0.62×0.6	0.7	SK1761を切る	
P5									楕円	台形	0.66×0.55	0.55	なし	
P6					1143	後葉			円	台形	0.75×0.75	0.65	なし	
ST12	301 310	428		IVL-22,23		中期後葉	ビット遺物、位置	IV層上面	2間×1間	N78W	6.15 5.9	2.1 2.1	SB153と切りあう	
P1									円	長方形	0.65×0.61	0.75	SB153のビットを切る	
P2									円	方形	0.74×0.85	0.8	SB153のビットを切る	
P3					1369	後葉			円	長方形	0.65×0.6	1.15	SK3019をきる	
P4					1318				円	長方形	0.62×0.6	0.82	SK1317を切る	
P5					1310				円	長方形	0.61×0.64	0.78	なし	
P6					1682				不整円形	台形	0.68×0.65	1	SK1681に切られる	
ST13	301 310	429		IVL-22,23		中期後葉	位置	IV層上面	2間×1間	N84W	4.9	2	SB133.134.149と切りあう	
P1									(円)	不明	不明	0.43	なし	
P2									円	台形	0.52×(0.65)	0.55	SB134のビットを切る	
P3					1350				円	長方形	0.58×0.55	0.62	なし	
P4									円	台形	0.68×0.64	0.52	SB133のビットに切られる	
P6									円	長方形	0.6×0.55	0.6	SB133ビット5を切る	

5 屋外埋設土器

表23 長峯遺跡屋外埋設土器

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期	検出面	所見		規模		重複関係
							遺構の様相	内容	平面規模	掘り方深さ	
SX01	287	430	51-2	IVA21	中期中葉3期	SB64覆土	屋外埋設土器	SB64覆土に正位で埋設された底部を欠く深鉢を検出。	0.32×0.3	0.31	SB64を切る
SX03	282	430	51-3	IIIJ12	中期中葉3期	SB69覆土	屋外埋設土器	SB69を掘り下げ中に検出。正位に埋設された底部を欠く深鉢と理解。	0.42×0.4	(0.42)	SB69を切る
UM01	307	430	51-4,5,52-1	IVL09	中期後葉4~5	III層中	屋外埋設土器	III層下位にて土器を検出。底部まである完形土器を正位に埋設。中期後葉の環状集落の中央空間と土坑群との境界に位置。	0.62×0.58	0.58	なし
UM02	307	430	52-2	IVL13	中期後葉5	III層中	屋外埋設土器	III層下位にて土器を検出。崩れているが土器を正位に埋設した状態と理解。中期環状集落の土坑群の内側寄り。	0.56×0.48	0.18	SK1494を切る
UM03	306	431	52-3	IVG23	中期後葉4	III層中	屋外埋設土器	扁平礫の分布とともに、底部を欠く小形深鉢が正位で出土。下位も礫が重積。土坑内上面の土器埋設の可能性あり。	0.23×0.2	0.14	
UM04	306	431	52-4,5	IVG24	中期後葉4	III層中	屋外埋設土器	扁平礫の分布とともに、土器の口縁部を検出。調査を進め、正位で完形土器を埋設した遺構と理解。	0.46×0.4	0.32	番号を付けていないSKに切られる。
UM05	307	430	52-6	IVL03・08	中期後葉4~5	III層中	屋外埋設土器	III層下位にて土器を検出。底部を穿孔した深鉢土器を正位に埋設。中期後葉の環状集落の中央空間と土坑群との境界に位置。	0.5×0.42	0.30	なし
UM06	303	430		IVG10	中期	III層中	屋外埋設土器	III層掘り下げで土器を検出。正位に埋設した土器底部と理解。	0.18×0.18	(0.20)	UM06下位のIV層上面でSK2243検出。
UM07	303	431		IVG10	中期	III層中	屋外埋設土器	III層掘り下げで土器を検出。正位に埋設した土器と理解。	0.24×0.2	0.18	なし
UM08	303	431		IVG09	中期後葉1期	III層中	屋外埋設土器	III層掘り下げで土器を検出。正位に埋設した土器と理解。	0.32×0.3	0.28	下位にSK2186検出したが、関係は不明確。

6 遺物集中

表24 長峯遺跡遺物集中

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置	所属時期	検出面	所見	平面規模		重複関係	備考
SQ02	269	432	52-7	ⅢH05	中期中葉1~2期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。3個体分の土器出土。掘り方など不明	0.6×0.4		無し	
SQ03	269	432	-	ⅢH09	中期中葉	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中と礫を確認。掘り方など不明	0.5×0.4		無し	
SQ04	269	432	-	ⅢH04		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。掘り方など不明	0.6×0.4		無し	
SQ05	268	-	-	ⅢD21		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。掘り方など不明			無し	
SQ06	270	-	-	ⅢI06		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。掘り方など不明			無し	
SQ07	263	432	52-8	ⅢC18	中期前葉4期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器が正位で出土。掘り方など不明。	0.22×0.23		無し	
SQ08	270	432	53-1	ⅢI08	中期中葉1期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が倒位で出土。掘り方不明	0.45×0.38		無し	
SQ09	270	432	-	ⅢI03・08	中期前葉4期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に底部を欠く1個体分の土器が倒位で出土。掘り方不明	0.24×0.24		無し	
SQ10	275	432	53-2	ⅢD23	中期中葉1期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が倒位で出土。掘り方不明	0.42×0.28		無し	
SQ11	270	432	-	ⅢI07		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。1個体分の土器片が出土	0.82×0.6		無し	
SQ12	275	432	-	ⅢD23	中期中葉1期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に土器集中として確認。2個体分の土器片が出土	0.24×0.25		無し	
SQ13	275	432	-	ⅢD23	中期中葉1~2期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が正位の状態で出土したが、掘り方など不明。	0.3×0.22		無し	
SQ14	275	-	-	ⅢD18		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が正位の状態で出土したが、掘り方など不明。			無し	
SQ15~SQ17欠番											
SQ18	287	-	-	ⅣA22		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に1個体分の土器が正位の状態で出土したが、掘り方など不明。			無し	
SQ19~SQ20番											
SQ21	288	-	-	ⅣF18		Ⅲ層下位	土器片と礫の分布。掘り方不明	1.5/1.1		無し	
SQ22	288	432	-	ⅢF17・18	中期中葉4期	Ⅲ層下位	Ⅲ層下位で遺構検出中に小礫と土器片が集中して出土。掘り方不明。	0.96×0.54		無し	
SQ23~SQ32欠番											
SQ33	311	-	-	ⅣH05		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位の一括性の高い土器集中	1.1×0.75		無し	
SQ34	311	-	-	ⅣH01		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位の一括性の高い土器集中	0.5×0.35		無し	
SQ35	298	-	-	ⅣF05		Ⅲ層下位	Ⅲ層下位の一括性の高い土器集中	0.5×0.3		無し	

7 炉跡、焼土跡

表25 長峯遺跡炉跡、焼土跡

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期	検出面	所見	規模		備考
				地区	グリッド				平面規模	掘り方深さ	
SF01	258	-	-	③	Ⅲ・C-21・22	中期	Ⅲ層中	平面的に被熱範囲分布	0.8×0.6	0.1	
SF02	270	-	-	④	Ⅲ・I-8	中期前葉~中葉	Ⅲ層中	平面的に被熱範囲分布	0.84×0.48		
SF03	-	-	-	位置不明							
SF04	254	-	-	⑤	Ⅲ・G-16	後期か	Ⅲ層中	礫と被熱範囲の分布	0.8×0.7	0.2	
SF05	254	-	-	⑤	Ⅲ・G-16	後期か	Ⅲ層中	土器小片(G16P-58)と焼土分布	1.2×0.5	0.1	
SF06	254	-	-	⑤	Ⅲ・F-20	後期か	Ⅲ層中	被熱範囲の分布	1.2×1.0	0.12	
SF07	264	-	-	⑤	Ⅲ・H-11	?	Ⅲ層中	被熱範囲の分布	0.4×0.3	0.2	
SF08	254	-	-	⑤	Ⅲ・G-16	中期後葉~後期	Ⅲ層中	被熱範囲の分布	0.65×0.6	0.2	
SF09	-	-	-	位置不明							
SF10 欠番											
SF11	288	-	-	⑫南	Ⅳ・F-22	中期後葉1期	Ⅲ層中	焼土と土器の分布	0.9×0.6	0.1	
SF12	315	-	-	⑪南	Ⅳ・L-10	?	Ⅲ層中	2ヵ所火床あり。	1.68×0.5		
SF13	299	-	-	⑫北	Ⅳ・G-6	中期中葉2~3	Ⅳ層上面	焼土と土器の分布	2.5×1.5	0.2	
Ⅳ・G-17 SF No.1	299	-	-	⑫南	Ⅳ・G-17	?	Ⅲ層中	被熱範囲の分布(SB188覆土上)	0.9×0.24		
Ⅳ・G-17 SF No.2	299	-	-	⑫南	Ⅳ・G-17	?	Ⅲ層中	被熱範囲の分布(SB189覆土上)	0.36×0.37		
No.なし	311	-	-	⑪北	Ⅳ・H-6	?	Ⅲ層中	SB161,169境界上の被熱範囲	0.72×0.48		

## 8 土坑

表26 長峯遺跡土坑

遺構番号	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期		形状・規模						重複関係	土層堆積	遺物出土状況	備考	
			地区	グリッド	時期	根拠	平面形	断面形	底面形状	主軸方向	縦cm	横cm					深さcm
SK01	433		③	Ⅲ-I-15			隅丸方	B2	平坦	—	84	76	28	なし	レンズ状		たらい状の土坑。
SK13	433		③	Ⅲ-I-2	中前4	出土土器	円	B2	平坦	—	96	96	28	なし	レンズ状	浅鉢出土	たらい状の土坑。
SK23	433	53-4	③	Ⅲ-D-22	中前4	出土土器	円	B2	平坦	—	96	92	24	なし	レンズ状	一括土器	たらい状の土坑。
SK27	433		③	Ⅲ-D-21	中前4	出土土器	円	B2	平坦	—	96	96	32	なし	レンズ状	浅鉢出土	たらい状の土坑。
SK38	433		③	Ⅲ-D-21J-1			円	B1	不定形	—	100	96	24	なし		礫出土	
SK51	433	53-5	③	Ⅲ-D-17	中前4(中1)	出土土器	円	B2	平坦	—	100	92	36	なし	レンズ状	完形土器出土	たらい状の土坑。
SK65	433		③	Ⅲ-H-14・15	中中1	出土土器	楕円	B2	平坦	—	116	84	36	SK70を切る。	不明	土器出土	
SK70	433		③	Ⅲ-H-14・15			楕円	楕円状	平坦		100	92	84	SK65に切られる。	水平		横穴状の土坑。
SK97	433		③	Ⅲ-H-4・5			円	B1	平坦	—	84	64	20	SK98に切られる。	レンズ状		
SK98	433		③	Ⅲ-H-4・5	中前4	出土土器	楕円	B2	平坦	—	100	80	20	SK97切る。SK99に切られる。	単層		
SK99	433		③	Ⅲ-H-4	中前5~中中	出土土器	楕円	E2	平坦	—	84	64	28	SK98切る。	単層		
SK103	433		③	Ⅲ-D-16	中前4	出土土器	円	B2	平坦	—	116	112	48	なし	レンズ状		
SK106	433		③	Ⅲ-D-16	中前~中	出土土器	楕円	B2	平坦	N33E	124	96	32	SK307に切られる	単層	土器、磨製石斧出土	
SK113	433		③	Ⅲ-H-4			円	B2	平坦		96	96	20	なし	単層	小礫出土	
SK114		53-6	③	Ⅲ-C-25	中前~中	出土土器											
SK126	433		③	Ⅲ-D-16	中前	出土土器	楕円	B2	不定形		124	116	32				
SK127	433		③	Ⅲ-C-15	中前	出土土器	円	B2	平坦		144	124	24	なし	単層	礫出土	
SK151	433		③	Ⅲ-H-3・8	中前4	出土土器	楕円	D1	平坦		84	76	24	なし	単層		
SK164	433		③	Ⅲ-C-19・20	中前4~中中	出土土器	楕円	B2	平坦		128	128	44	なし	レンズ状		
SK174	433		③	Ⅲ-C-19	中前4	出土土器	楕円	B2	平坦		116	100	24	SB09と重複	レンズ状	装身具1	
SK175	433		③	Ⅲ-C-19・20	中前4	出土土器	円	A2	平坦		102	92	76	なし	単層		
SK177	433		③	Ⅲ-C-15			円	B2	平坦		116	96	48	SK178を切る	単層		
SK178	433		③	Ⅲ-C-15			円?	B1	やや傾斜		108	48	28	SK177に切られる	単層		
SK180	433	53-7 8 54-1	③	Ⅲ-C-10	中後	出土土器	楕円	F2	小ピットあり	N45E	184	124	124	SK247,149と重複	レンズ状		落とし穴
SK194	433		①・②	I-X-2			楕円	E2	不定形	N89W	148	108	32	なし	やや乱れる		
SK200	433	54-2	③	Ⅲ-D-21	中前4	出土土器	円	D2	平坦		100	96	28	なし	単層	黒曜石など	
SK201	434	54-3 4 5	③	Ⅲ-H-1			長楕円	B2	逆茂木痕	N70E	264	130	80	なし	レンズ状	なし	逆茂木は打ち込み
SK213	434		①	Ⅲ-B-25	中前4	出土土器	円	D2	平坦		200	176	88	なし	埋め戻し		
SK214	434		①・③	Ⅲ-B-20, C-16	中~中後	出土土器	円	D2	平坦		180	164	84	なし	レンズ状		
SK215	434	54-7	③	Ⅲ-C-16	中前4~中中1	出土土器	円	B2	平坦		244	220	88	なし	レンズ状		
SK222	434		③	Ⅲ-C-12			円	B2	平坦		168	168	32	SK223を切る	レンズ状		
SK231	434		③	Ⅲ-D-21			円	A3	不定形		104	100	52	なし	不連続		
SK235	434		③	Ⅲ-C-18・19	中前4~中中1	出土土器	円	B2	平坦		112	104	36	SB10を切る	レンズ状		
SK237	434		③	Ⅲ-C-6・11			楕円?	?	?		84	40	44	SK238に切られる	不連続		
SK238	434		③	Ⅲ-C-6・11			円	B2	平坦		148	124	44	SK237,239を切る	レンズ状		
SK239	434		③	Ⅲ-C-6			円	B2	平坦		92	72	48	SK239に切られる	レンズ状		
SK241		54-8	①	I-W-19													
SK242	434		①	I-W-9・14			円	B2	平坦		112	104	32	なし	レンズ状		
SK284	434		④	Ⅲ-I-10	中前4~中中1	出土土器	円	B2	平坦		100	96	28	なし	単層	礫出土	
SK287	434		④	Ⅲ-I-5	前3・4~中中1	出土土器	円	B2	平坦		112	108	28	SK288に切られる	単層		
SK288	434		④	Ⅲ-I-5	中中1	出土土器	円	A2	平坦		48	48	32	SK287を切る	レンズ状	完形土器出土	
SK347	434		④	Ⅲ-I-8	中後	出土土器	円	A2	平坦		128	124	68	なし	レンズ状	中層に礫	
SK351	434		④	Ⅲ-I-8	中中1・2	出土土器	略円	B2	平坦		104	96	32	なし	単層	礫出土	
SK352	434	55-1	④	Ⅲ-I-3・8	中前4	出土土器	円	B2	平坦		84	72	12	なし	単層	扁平礫下に土器一器一器	
SK395	434		④	Ⅲ-I-3	中前4~中中2	出土土器	楕円	B1	不定形		100	76	28	SK368を切る	単層	浅鉢出土	
SK399	435		④	Ⅲ-I-3			円	C1	丸底		40	32	76	なし	単層		
SK417	435		④	Ⅲ-D-23J-3	中前~中	出土土器	円	B1	平坦		104	100	24	ST04P1と重複	レンズ状	一括土器	
SK423	435	55-2	④	Ⅲ-I-7	中前3・4	出土土器	楕円	B1	平坦	N69E	124	100	24	SK424に切られる	単層	一括土器	
SK450	435		④	Ⅲ-D-23・24	中前3・4	出土土器	円	B2	平坦		120	112	16	SK451を切る	単層		
SK451	435		④	Ⅲ-D-23・24	中前4	出土土器	円	B1	平坦		88	72	8	SK450に切られる	単層		
SK478	435		④	Ⅲ-E-13	中中4・5	出土土器	円	A2	平坦		92	84	76	なし	自然埋没		
SK516	435		⑦	Ⅳ-R-11	中後	出土土器	楕円	F2	平坦		124	100	64	小ピットと重複	自然埋没		落とし穴か
SK517	435	55-3	⑦	Ⅳ-R-11	中後	出土土器	円	B2	平坦		160	152	36	なし	レンズ状		
SK541	435		⑦	Ⅳ-Q-4,09			楕円	B1	平坦	N75E	140	96	16	なし	レンズ状		
SK542	435		⑦	Ⅳ-Q-5	中4	出土土器	円	D1	平坦		76	68	52		単層	一括土器と礫	



表26-3

遺構番号	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期		形状・規模						重複関係	土層堆積	遺物出土状況	備考	
			地区	グリッド	時期	根拠	平面形	断面形	底面形状	主軸方向	縦cm	横cm					深さcm
SK1094		57-2															
SK1147	438	57-3	①南	IV・H-21	中後～	出土土器	円	F2	平坦		142	125	110	なし	レンズ状		小ピットあり
SK1148	438		①南	IV・L-4・5	後期	出土土器	円	B2	平坦		195	160	57	ピットと重複	やや不連続		
SK1161	438		②南下	IV・F-13			不整楕円	E2	不定形		100	45	38	小ピットが重複か	不連続		
SK1200	448 449		①南	IV・L-13			楕円	B2	平坦		105	78	40	なし	埋め戻し		
SK1201	438		①南	IV・G-25			円	A2	平坦		62	55	68	なし	不連続	礫	
SK1260	438		①南	IV・H-21	後期	出土土器	円	D2	平坦		138	135	108	住居を切る	不連続		
SK1281	448 449		①南	IV・L-13	中後	出土土器	楕円	B2	平坦		122	95	28	土坑ときりあう	埋め戻し		
SK1321	439		①南	IV・L-23			円	D2	平坦		85	80	68	SK1322を切る	不連続	礫	
SK1323	439		①南	IV・L-23	中後	出土土器	円	?	?		73	68	30	SK1321に切られる	単層		
SK1354	439		①南	IV・L-22			円	D2	平坦		115	110	55	SK1353と接する	埋め戻し		
SK1410	448 449		①南	IV・L-13			長方	B2	平坦		103	70	52	なし	埋め戻し		
SK1420	448 449		①南	IV・L-12・13・17・18	中後	出土土器	隅丸方	B2	平坦		87	80	45	SK1782に切られる	埋め戻し		
SK1481	448 449	57-4	①南	IV・L-13	中後	出土土器	隅丸方	B2	平坦		108	100	35	SK1482を切る	埋め戻し	ヒスイ1	
SK1482	448 449	57-4・5	①南	IV・L-13			楕円	B2	平坦		85	70	45	SK1481を切る	埋め戻し		
SK1492	438	57-6	①南	IV・L-7・8	中後	出土土器	円	A2	丸		50	50	68	なし	レンズ状	完形土器2個	
SK1493		52-2	①南	IV・L-13													
SK1506	446 447		①南	IV・L-4			長方	B2	平坦	N57W	142	80	72	なし	?		
SK1510	446 447		①南	IV・L-4	中3	出土土器	長方	B2	平坦		122	82	30	SK1807に切られる	埋め戻し		
SK1511	446 447		①南	IV・L-4	中後	出土土器	楕円	B2	平坦	N89E	118	80	66	SK1530を切る	埋め戻し		
SK1524	446 447		①南	IV・L-3・4	中後	出土土器	やや長方	B2	平坦	N90E	128	82	31	土坑に切られる	埋め戻し		
SK1525	446 447		①南	IV・L-4	中後	出土土器	長方	B2	平坦	N72W	123	89	50	LM63と重複	埋め戻し		
SK1526	446 447		①南	IV・L-4			長楕円	B2	平坦	N89W	122	76	48	LM63と重複	埋め戻し		
SK1530	446 447		①南	IV・L-4			楕円	?	?		70	40	23	SK1511に切られる。	?		
SK1533	439		①南	IV・G-24・25			方	B2	平坦		60	52	14	SK1534を切る	単層		
SK1534	439		①南	IV・G-25			円	A2	平坦		76	60	63	SK1533,1535に切られる	レンズ状		
SK1535	439		①南	IV・G-25			円	A2	平坦		76	60	63	SK1534を切る	埋め戻し		
SK1548	438		①南	IV・G-25, H-21	中後	出土土器	円	F2	平坦		118	110	85	住居を切る	レンズ状		
SK1610	446 447		①南	IV・L-10			楕円	B2		N01W	110	70	40	SK1611に切られる。 SK1613を切る。	埋め戻し		
SK1611	446 447		①南	IV・L-10	中後?	出土土器	楕円	B2	平坦		120	98	32	SK1610, 1612を切る	埋め戻し		
SK1612	446 447		①南	IV・L-10	中?中後?	出土土器	長方	B2			120	100	24	SK1611に切られる。	?		
SK1613	446 447		①南	IV・L-10			楕円	A1			55	48	24	SK1610に切られる	単層		
SK1614	439		①南	IV・L-8・13	中後	出土土器	不整楕円	B2	平坦	N43W	128	94	46	なし	埋め戻し		
SK1615	439		①南	IV・L-8	中後	出土土器	長楕円	B2	平坦	N30W	110	82	33	なし	埋め戻し		
SK1616	439		①南	IV・L-8・9・13・14	中後	出土土器	長方	B2	平坦	N30W	90	60	60	なし	埋め戻し	黒曜石原石	
SK1625	446 447		①南	IV・L-8・9			長方	B2	平坦	N60W	95	55	50	なし	埋め戻し		
SK1629	439		①南	IV・L-13			長方	B2	平坦	N23W	108	74	54	なし	埋め戻し		
SK1631	446 447		①南	IV・L-8・9			楕円	B3		N90W	93	90	40	SK1632に切られる	埋め戻し		
SK1632	446 447		①南	IV・L-8			楕円	A1			30	28	24	SK1631を切る	単層		
SK1633	446 447		①南	IV・L-3			円	A2			80	80	65	なし	人為的		
SK1664	448 449		①南	IV・L-12			楕円	B2	平坦		123	64	42	SK1675と接する	埋め戻し		
SK1666	446 447		①南	IV・L-8・9			隅丸長方	B2	平坦	N59E	140	90	45	小ピットと接する	埋め戻し		
SK1669	448 449		①南	IV・L-13			不整楕円	B2	平坦		98	79	26	SK1670に切られる	埋め戻し		
SK1670	448 449		①南	IV・L-13			長楕円	B2	平坦		135	82	40	SK1669を切る	埋め戻し		
SK1671	448 449		①南	IV・L-13			楕円	B2	平坦		112	80	40	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1675	448 449		①南	IV・L-12	中中2～4	出土土器	隅丸長方	B2	平坦		145	113	43	SK1664に接する	埋め戻し		
SK1676	448 449		①南	IV・L-12			楕円	B2	平坦		105	63	49	LM73と重複	埋め戻し		
SK1717	448 449		①南	IV・L-13			長楕円	B2	平坦		130	70	34	SK1718と接する	埋め戻し		
SK1718	448 449		①南	IV・L-13	中後	出土土器	長楕円	B2	平坦		135	85	40	SK1717,1719と接する	埋め戻し		
SK1719	448 449		①南	IV・L-13・14			方	A1			65	60	69	SK1720を切る	?		
SK1728	444 445		①南	IV・L-3	中後	出土土器	方	A2	平坦		83	80	75	SK1810に切られる	埋め戻し		
SK1734		57-7	①南	IV・G-23	中後	出土土器											
SK1748	440	57-8	①南	IV・G-20	中後	出土土器	円	B2	平坦		160	152	48	住居を切る	?	小礫	
SK1751	439		①南	IV・G-20			楕円	A2	平坦		73	56	55	なし	埋め戻し		
SK1753	439		①南	IV・G-19	中後	出土土器	円	A2	平坦		73	72	65	SK1754に切られる	埋め戻し		

表26-4

遺構番号	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期		形状・規模						重複関係	土層堆積	遺物出土状況	備考		
			地区	グリッド	時期	根拠	平面形	断面形	底面形状	主軸方向	縦cm	横cm					深さcm	
SK1754	439		①南	IV・G-19				長方	B1	平坦		112	82	24	SK1753を切る	単層		
SK1782	448 449		①南	IV・L-12-13-17-18				楕円	D2	平坦		90	81	76	SK1420を切る	?		
SK1789	448 449		①南	IV・L-17				楕円	B3	不定形		120	73	43	土坑ときりあう	埋め戻し		
SK1790	448 449		①南	IV・L-17				長方	B2	平坦		150	76	25	SK1791,1792に切られる	?		
SK1791	448 449		①南	IV・L-17	中後	出土土器		略円	B2	平坦		115	92	18	SK1790を切る	?	土器一括出土	
SK1792	448 449		①南	IV・L-17				長方?	B2	平坦		82	30	25	SK1790を切る	?		
SK1793	448 449		①南	IV・L-13	中後	出土土器		楕円	B2			113	83	70	なし	埋め戻し		
SK1798	448 449		①南	IV・L-17				不整楕円	B2	平坦		106	65	40	なし	?		
SK1807	446 447		①南	IV・L-4	中～中後	出土土器		隅丸長方	B2	平坦	N60E	124	90	40	SK1510を切る。	埋め戻しか		
SK1809	444 445		①南	IV・L-3				長方	B2	平坦	N76W	100	76	55	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1810	444 445		①南	IV・L-3・4				長楕円	B2	平坦	N69W	148	80	53	SK1728を切る	埋め戻し		
SK1811	444 445		①南	IV・L-3				不整楕円?	B2	平坦		220	126	51	小ピットに切られる。	埋め戻しか		
SK1817	446 447		①南	IV・L-9				楕円	B2	平坦	N48E	105	82	20	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1841	444 445		①南	IV・L-3	中4・5	出土土器		長方	B2	平坦	N64W	120	68	38	SK1842を切る	埋め戻し		
SK1842	444 445		①南	IV・L-3				不整長方	B2	平坦	N32W	105	70	28	SK1841に切られる	埋め戻し		
SK1845	444 445		①南	IV・L-3				長方	B2	平坦		85	75	36	小ピットに切られる	埋め戻し		
SK1851	444 445		①南	IV・L-3				円	A1			40	36	30	SK1852を切る	不連続		
SK1852	444 445		①南	IV・L-3				楕円	B2	平坦	N79W	95	67	16	SK1851に切られる	埋め戻し		
SK1860	444 445		①南	IV・G-23	中後	出土土器		楕円	B2	平坦		103	72	43	SK1861に切られる	埋め戻し		
SK1861	444 445		①南	IV・G-23L-3				略円	B2	平坦		100	92	10	SK1860を切る	単層		
SK1863	444 445		①南	IV・G-23L-3・4	中中4・5	出土土器		方	B2	平坦		142	140	35	SK2019,2020に切られる	?	土器出土	形状不明
SK1930	440		①南	IV・G-24				楕円	A2			70	68	40	SK1931を切る	レンズ状		
SK1931	440		①南	IV・G-24				円	A1			47	42	47	SK1930に切られる	不連続		
SK1998	440		①南	IV・G-18-23	中後	出土土器		円	B2	平坦		98	95	27	SK1999に切られる	レンズ状	土器片	
SK1999	440		①南	IV・G-18-23				円?	A1			48	32	38	SK1998を切る	埋め戻し		
SK2005	440 444 445		①南	IV・G-22	中中3・4	出土土器		略長方	B2	平坦		118	92	34	小ピットに切られる	埋め戻しか		
SK2006	440 444 445		①南	IV・G-22				楕円	B2	平坦	N67W	124	85	20	SK2007に切られる	埋め戻し		
SK2007	440 444 445		①南	IV・G-22				円	A2	平坦		43	42	32	SK2006を切る	単層		
SK2019	444 445		①南	IV・L-3				円	A1			35	20	30	SK1863を切る	?		
SK2020	444 445		①南	IV・L-3				円	A1			40	35	42	SK1863を切る	単層		
SK2021	444 445		①南	IV・L-3				略長方	B2	平坦		90	85	22	SK1863に切られる	不連続		
SK2025	450 451	58-1 2	①南	IV・L-6				長方	B2	平坦		122	84	15	SK2615を切る。	埋め戻し	ヒスイ1	
SK2141	450 451		②南	IV・L-1				楕円	B2	平坦		80	62	20	SK2142を切る。	単層		
SK2142	450 451		②南	IV・L-1				略楕円	B2	平坦		123	100	25	SK2141に切られる。 SK2143を切る。	単層		
SK2143	450 451		②南	IV・L-1				略楕円	B2	平坦	(120)	94	25	SK2142に切られる。	単層			
SK2182	440		①北	IV・G-9				円	B2	平坦		50	48	20	SK2183を切る			
SK2183	440		①北	IV・G-9-10				楕円	A2	平坦		121	100	74	SK2182に切られる	水平		
SK2213	440		①北	IV・G-10	中中2・3	出土土器		楕円	B2	平坦		134	115	23	小ピットに切られる	単層	土器一括出土	
SK2218	440		①北	IV・G-10	中中3	出土土器		円	B2	平坦		95	90	25	小ピットに切られる	単層	礫	
SK2352	440		①北	IV・G-5	中中2～4	出土土器		円	D2	平坦		115	115	62	小ピットに切られる	不連続		
SK2364	450 451		②南	IV・L-6	中後	出土土器		円	A2	平坦		105	95	82	SK2365を切る。	埋め戻し		
SK2365	450 451		②南	IV・K-10L-6				楕円	B2	平坦		130	96	30	SK2364に切られる。	?		
SK2366	450 451		②南	IV・L-6	中後	出土土器		楕円	B2	平坦		140	98	34	SK2367を切る。	埋め戻し?		
SK2367	450 451		②南	IV・L-6				略円	B2	平坦		88	80	38	SK2366に切られる。 SK2388を切る。	単層		
SK2368	450 451		②南	IV・L-6	中後	出土土器		略楕円	B2	平坦		130	110	65	SK2367に切られる。	埋め戻し?		
SK2369	450 451		②南	IV・L-6				楕円	B2	平坦		80	69	23	SK2370を切る。	単層		
SK2370	450 451	58-3 4	②南	IV・L-6				楕円	B2	平坦		108	85	24	SK2369に切られる。	単層		
SK2381	440		①北	IV・G-5				楕円	B2	平坦		118	90	42	小ピットに切られる	やや乱れる	大礫入る	
SK2382	441		①南	IV・G-18-19				楕円	B2	平坦		80	43	18	SK2383に切られる	レンズ状		
SK2383	441		①南	IV・G-18-19	中後	出土土器		円	B2	平坦		74	63	10	SK2382,2384を切る	レンズ状	土器	
SK2384	441		①南	IV・G-19				長方	A2	平坦		73	66	42	SK2383に切られる	レンズ状		
SK2411	441		②南	IV・K-14	中後	出土土器		方	B2	平坦		68	66	26	なし	不連続	大礫入る	
SK2464	441		②南	IV・K-14				円	A2	平坦		98	93	68	SK2465と重複	レンズ状		

表26-5

遺構番号	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期		形状・規模						重複関係	土層堆積	遺物出土状況	備考	
			地区	グリッド	時期	根拠	平面形	断面形	底面形状	主軸方向	縦cm	横cm					深さcm
SK2524	450 451		⑫南	IV・L-6	中後	出土土器	長方	B1	平坦		108	75	12	SK2525を切る。	単層		
SK2525	450 451		⑫南	IV・L-6			円	A2	平坦		90	80	62	SK2524に切られる。	埋め戻し		
SK2538	441		⑫南	IV・K-10	中後	出土土器	長楕円	B2	平坦	N78W	120	52	24		単層		
SK2552	440		⑫南	IV・G-22,L-2	中4・5	出土土器	楕円	B2	平坦		132	105	30	小ビットに切られる	やや乱れる		
SK2579		58-5	⑫南	IV・G-21						N80W	113	55	28				
SK2597	441		⑫南	IV・L-1	中後	出土土器	楕円	B2	平坦		100	98	32	なし	埋め戻し	釜身具1	
SK2615	450 451		⑪北	IV・L-6	中後?	出土土器	長楕円	B2	平坦		142	83	50	SK2025,2616に切られる。	埋め戻し		
SK2616	450 451		⑫南	IV・L-6			長方	B2	平坦		105	70	25	SK2615を切る。	埋め戻し		
SK2617	450 451		⑫南	IV・L-6			長方	B2	平坦		100	76	28	SK2661を切る。SK2616に切られる。	埋め戻し		
SK2618	450 451		⑫南	IV・L-6			楕円	B2	平坦		132	72	25	SK2661,2617に切られる。	埋め戻し	ヒスイ1	
SK2619	450 451		⑫南	IV・L-6			略方	B2	平坦		82	80	30	SK2620に切られる。	?		
SK2620	450 451		⑫南	IV・L-6			略円	B2	平坦		100	93	62	SK2662に切られる。SK2619を切る。	埋め戻し		
SK2630	441		⑫南	IV・F-25	中後	出土土器	円	A2	平坦		98	65	35	SK2630に切られる	単層	土器片	
SK2651	444 445		⑫南	IV・G-23			長楕円	B2	平坦	N26E	128	68	10	なし	単層		
SK2654	441		⑫南	IV・G-16	中後	出土土器	円	A1			63	60	60	SK2655と重複	不連続		
SK2655	441		⑫南	IV・G-16	中後	出土土器	円	A1			75	72	38	SK2654と重複	レンズ状		
SK2661	450 451			IV・L-6	中後	出土土器	楕円	B2	平坦		90	61	30	SK2617に切られる。SK2619を切る。	埋め戻し		
SK2662	450 451			IV・L-6	中後	出土土器	長方	B2	平坦		172	72	35	SK2620を切る。SK2368と重複	埋め戻し		
SK2666	441			IV・K-10	中後	出土土器	略三角	?	?		105	86	70	SK2667に切られる	不連続		
SK2667	441			IV・K-10	中後	出土土器	楕円	A1	不定形		128	95	66	SK2666を切る	不連続		
SK2668	441			IV・K-15	中後	出土土器	楕円	A1	平坦		75	52	50	なし	不連続	燻あり	
SK2669	441			IV・K-10?			円	A1			43	35	45	小ビットと重複	単層		
SK2673	441			IV・K-14			円	B2	平坦		116	113	65	なし	不連続		
SK2674	441			IV・K-9-14	中後	出土土器	円	B1			78	75	15	SK2675を切る	レンズ状		
SK2675	441			IV・K-9-14			円	A2	平坦		93	86	48	SK2674に切られる	レンズ状		
SK2703	441		⑫南	IV・G-16			楕円	B1		N40W	93	51	36	SK2704に切られる	レンズ状		
SK2704	441		⑫南	IV・G-16			長方	B1		N42W	75	53	10	SK2703を切る	単層		
SK2705	441		⑫南	IV・G-16			円	A1			43	35	30	SK2706を切る。SK2745に切られる	2層		
SK2706	441		⑫南	IV・G-16			円	B2	平坦		56	55	14	SK2705,2745に切られる	レンズ状		
SK2718	441		⑫南	IV・G-16			不整楕円	B2	平坦		55	55	20	SK2719に切られる	不連続		
SK2719	441		⑫南	IV・G-16			円	A2			48	45	36	SK2720に切られる。SK2718を切る。	レンズ状		
SK2720	441		⑫南	IV・G-16			楕円	?			68	58	35	SK2719を切る	不連続		
SK2782b	442		⑫南	IV・K-5	中3・4	出土土器	楕円	B2	平坦		100	74	50	住居を切る	埋め戻し		
SK2866	441		⑫南	IV・K-14			円	B2	平坦		78	76	20	なし	レンズ状		
SK2867	441		⑫南	IV・K-14-19			楕円	A2	平坦		65	45	42	なし	不連続		
SK2873	442		⑫南	IV・K-10			楕円	B2			72	58	52	SK2874に切られる	不連続		
SK2874	442		⑫南	IV・K-10	中～中後	出土土器	円	A2	平坦		100	90	84	SK2873を切る	埋め戻し		
SK2877	450 451		⑫南	IV・L-1			不整楕円	B1	不定形		80	55	22	SK2878を切る。	?		
SK2878	450 451		⑫南	IV・L-1-6			略円	A2	平坦		90	85	76	SK2877,2879に切られる。	埋め戻し		
SK2879	450 451		⑫南	IV・L-6			略円	A1			40	30	55	SK2878を切る。	?		
SK2901	442		⑫南	IV・K-9			楕円	A2	平坦		75	55	73	SK2892に切られる。住居を切る	?		
SK2902	442		⑫南	IV・K-9	中中3・4	出土土器	略楕円	A1			98	72	65	住居を切る	?	土器一括出土	
SK2921	442		⑫南	IV・K-9-10	中後～	出土土器	円	A2	平坦		50	45	63	SK2922に切られる	不連続		
SK2922	442		⑫南	IV・K-10			楕円	B2	平坦		40	35	14	SK2921を切る	単層		
SK2994	442		⑫南	Ⅲ・E-20	中前4	出土土器	円	?			55	52	3	なし	?	土器一括出土	
SK3032	442		⑫北	IV・G-4			楕円	B2	平坦		118	104	20	なし	レンズ状		
SK3044		58-6	⑫北	IV・G-3													
SK3113	442		⑫北	IV・B-18			不整楕円	B2	平坦		103	88	20	なし	やや乱れる	燻	
SK3123	442		⑧北	IV・A-1-6			方	B2	平坦		80	74	30	なし	単層	炭	
SK3257	442	58-7	⑫北	IV・G-2	中3・4	出土土器	円	A2	平坦		45	42	60	なし	単層	土器や石器埋納	
SK3261	442		⑧北	IV・F-5	中中2	出土土器	楕円	B3	不定形		150	138	23	なし	単層		底面に小ビット2基
SK3405	440			IV・G-20			円	B2	平坦		108	98	50	小ビットに切られる	やや乱れる		

9 礫・石器集中

表27 長峯遺跡礫・石器集中

遺構番号	割付図版No.	個別図版No.	PLNo.	位置		所属時期	検出面	所見	規模		備考
				地区	グリッド				平面規模	掘り方深さ	
SH01	308	—	—	⑪	IVL07.12	中期後葉か。	Ⅲ層中	礫の分布、集中。土器もあり。	2.5/2.0	0.2	
SH02	SB242炉へ変更										
SH03	—	—	—	⑫	位置不明			礫と黒曜石の原石の分布	0.7/0.7	0.1	
SH04	298	—	—	⑫	IV G01.F05	中期中葉～後葉	Ⅲ層中	小円礫の分布。未検出の土坑か。	1.5/1.2	0.1	
SH05	298	—	—	⑫	IVA20.25 B16.21	中期中葉～後葉	Ⅲ層中	黒曜石の石核やチップの分布。	6.0/6.0	0.1	

10 その他

上述した個別遺構のほかに、調査時に認められた遺構（あるいは構造物）について記す。第1節で紹介した通り、長峯遺跡の台地の表層部は昭和34年の大掛かりな開田工事による掘削を受けている。傾斜する台地に広い面積の水田を確保するために、等高線に沿う長大な区画を設定し、その筆ごとに山側を切土して、谷側へ盛土する。その結果、遺構検出面や遺構の残存範囲は、筆ごとに破壊（切土）と保護（盛土）が繰り返される。長峯遺跡全体図（付図2）を見ると、密集する遺構が一段水田面を下がると、途端に空白地域になることがわかる。この開発行為がなかったならば、どれだけ保存状態の良好な遺跡であったか想像できない。

実際に盛り土されている範囲には、当時の生活面と考えられる面を見つけることができる。その最たる部分は⑪区南地区の西側である（図版250）。同じ地区の東側は、ローム層下位の火砕流堆積物まで露出させられていて見る影もないが、西側の旧農道下には黒褐色の遺物包含層（Ⅲ層）が良好に存在していた。特に筆境（⑫区との境界）付近では多くの遺物とともに、扁平な安山岩が見つまっている。

礫の大きさは持ち抱えられるサイズ（20～50kg）が大半をしめるが、なかには104kgもある巨大な安山岩も見つかった。出来る限りこれらの礫を残して遺構検出を続けると、中期後葉の住居跡群の内側に環状に配置する土坑群と、中央の遺構がすくない空間（広場？）との境界に50～60cm程もある扁平礫が平らに置かれるように点在していて、それらを概観してみると、環状を呈していることがわかる（図版306）。さらにその礫群は北側へ直線状に続き、屋外埋設土器（UM03）などと融合していく。残念ながら、北側も東側も切土部分になるため、当時の分布範囲を検証できないが、明らかに当時の生活面に近い高さで並べている状況と認められた。

礫の下の土層は、ロームブロックと黒褐色土ブロックが混在していて、ある程度の整地作業を終えて並べているようである。また環状に分布する礫群の下位（Ⅳ層上面）には、楕円形や長方形をした墓坑の環状分布の最内縁部、あるいは大形深鉢の埋設土器（UM05、UM01）が分布している。

残念ながら礫群の正確な時期ははっきりしていない。しかし礫群周辺の包含層では中期後葉の土器片が圧倒的に多く、東上にある後期初頭の敷石住居跡（SB106、107）より前の段階の構造物であると理解している。

また、故河内晋平氏に現地指導を受けたところ、礫群に利用されている安山岩はいずれも角のとれた川原礫であること、またその起源は数万年前に八ヶ岳から押し出された糸萱溶岩や一の坂溶岩にあり、いずれも崩落して渋川や角名川を流れ下りてきた産物であることがわかった。当然長峯の台地には川原礫は存在しないため、最も近くとも角名川の岸边までいかなければ獲得できない。

あわせて後期初頭の敷石住居跡の石材には、板状節理の発達した安山岩も使われている。これらは節理面が明瞭であり、露頭や、露頭により近い地域から採取した可能性が高いこと、現在の露頭では遺跡から東に3kmほど上がった、横谷溪谷辺りが最も近いという説明も受けた。



## 第3節 縄文時代の遺物

### 1 概要

縄文時代に比定される全遺物量は膨大な量（表28）にのぼる。その内訳は、出土土器が5,686,579g、土製品114点（3,560g）である。また、石を素材とした遺物は、搬入礫・敷石などを除いた石器・石器素材・屑の総数が12,887点（2,578,189g）に達した。遺構毎の土器・石器総量は表31に示した。この他、炭化材・炭化種実、赤色顔料（土壌とともに）などを採取した。各遺物の時期は、縄文時代早期から後期中葉にわたる。このうち、集落が台地上に展開する中期前葉～後期初頭の遺物が圧倒的に多くなっている。

土器は、竪穴住居跡からの出土が中心で、斜面地でのいわゆる土器捨て場の形成は確認されていない。これは、台地縁辺が後の時代に、自然の営力によって削剥されていたことが一因と考えられる。また、後期の竪穴住居は、主に削剥された傾斜地に占地していた可能性が高い（一部のみで確認）。そのため、後期前葉から中葉の遺物は、台地上の包含層や土坑からの少量に止まっている。早期・前期の資料についても遺構からの出土はなく、包含層からの出土である。

土製品のうち土偶は、聖石遺跡と同様、長期存続した大規模集落としては少量（14点）に止まった。その他、中期後葉の土鈴、耳飾、中期前葉を中心とする土器片製円板などが出土している。

石器に関しては、黒曜石原産地群から至近距離にあるため、小形石器の石材は90%以上が黒曜石である。また、SB4やSK65に見られるように、原石・石核をストック、埋納した状況が認められる。

調査地点が、高燥な台地上で、しかも火山性土壌であったため、動植物遺体の残存はわずかであった。炉や埋甕内土壌の水洗選別を行ったにもかかわらず、動物遺体では、種不明の焼成を受けた骨片が2点採取できただけである。また、植物遺体については炭化物そのものが少なく（炉内で皆無）、焼失家屋？から少量の炭化材（同定されたものはクリ）が採取できたにすぎない。

表28 長峯遺跡出土遺物の概要

	時代	種別	点数	重さ(g)	備考
土器	縄文時代	深鉢、浅鉢、有孔 鏝付、釣手ほか	103,621	3,078,107	
土製品		土偶	14	1,760	
		土鈴	1	40	
		耳飾	3	20.5	
		土器片製円板	96	1,739	
石器		石鏃、打斧、磨 斧、磨石ほか	12,887	2,578,189	石柱・丸石・礫 計測せず
動物遺体		不明	2	2.06	
植物遺体		クリ炭化材・種実	150	23,931.69	
その他		赤色顔料	3	1,757.11	土付着状態
須恵器		古代？	小破片器形不明	2	—
陶磁器	近世以降	碗ほか	72	493.14	
金属製品	近世以降	寛永通宝、煙管 ほか	15	524.938	
動物遺体	近世以降	不明	1	14.65	
合計	—	—	116,867	5,686,579	

## 2 土器

### (1) 概要

総数は103,621点 (3,078kg) を数えた。昭和30年代に開田工事がなされており、削平された住居や包含層が多かった。そのため、縄文時代中期・後期の大規模遺跡としては比較的少ない土器量である。長峯遺跡に関しては、全土器資料について一覧表を作成した。

表31には、各遺構で主体となる土器の時期と遺物量を示した。また、各遺構出土土器に対する掲載土器量の比率 (重量比) も示した。図版に掲載した土器に関してはCD表29に示した。

CD表29 掲載土器・土製品一覧 (冒頭部分)

※計測値の(-)表示は欠損部ありの意味

図版番号	PL番号	CD掲載写真番号	14C・胎土分析番号	赤彩漆番号	復元台帳通番号	遺構記号	遺構番号	地点・層位名 (ピット名変更有 備考参照)	主要接合注記記号 (ピット名変更有 備考参照)	接合片 (ピット名変更有 備考参照)	同一個体・未接合片 (ピット名変更有 備考参照)	遺物名称	重量g	口径cm	底径cm	器高cm	備考
452	1	67			300002	包含	0	SB103 p2混				早期土器					
452	2	67			300003	包含	0	SB229北東側				早期土器					
452	3	67			300001	包含	0	5区e1~4フナ				早期土器					
452	4	67			300005	包含	0	SK287混入				早期土器					
452	5	67			300006	包含	0	SB214南へ混				早期土器					
452	6	67			300014	包含	0	SB238フ北東側混入				早期土器					
452	9	67			300007	包含	0	SQ18混入				早期土器					
452	10	67			300004	包含	0	SB1674区(南東)混入				早期土器					
452	11				300012	包含	0	5区東シ715a層				早期土器					

CD表30は、出土位置・部位・簡単な分類毎に点数・重量を計測し、中期前葉と中期中葉に関しては細別時期を記した概要表である。ただし、細別時期に関しては整理期間との関係上、瞬時に判断を下したもので不正確な面がある。参考程度に考えていただきたい。また、中期後葉や後期については細別時期を判断する時間がなかった。

この表によって、まず、遺構毎の土器量の多少を知ることができる。

器種分類については、破片が大半であったため、明らかに浅鉢、有孔鏝付土器、釣手土器と解るもの以外は、深鉢になっている。また、中期後葉など器種・器形が変化に富んでくる時期について、そのほとんどが深鉢のみの記述となっている。そのため、器種組成の検討には耐えられない面がある。破片から器種を判断することに関しては、今後の課題としたい。

分類はごく大雑把なものであるが、中期前葉 (五領ヶ台式段階) の縄文系と沈線文系土器の比率を知ることが可能である。また、中期中葉では、「角押文」(勝坂式=貉沢式) と「浅い平行沈線」(平出3 Aか東海系)、「斜行沈線」(後沖式) といった異系統土器の抽出や比率を見ることが大雑把には可能である。その一端については、第6章を参照していただきたい。また、中期後葉については、縄文、条線、沈線といった地文の区別や、地文の有無の量比を知ることが可能である。

また、長峯遺跡に関しては、竪穴住居跡内の遺物出土状況図を提示することができていない。そのため、この表によって、個別の遺構内にどの程度の時期差を持つ土器が含まれているのか、あるいは炉内やピット内出土土器と覆土中との時期差があるのかなど、初歩的な再検討が可能となっている。例えば、中期中

CD表30 長峯遺跡全出土土器一覧 (SB冒頭部分)

※ 土器への注記は備考にある旧番号になっているので注意

遺構記号	遺構番号	出土位置	取上番号	点数	重さ(g)	部位	器種	分類	時期	復元通し番号	備考	
SB	1	炉1		1	15	3400	口縁~体	深鉢	角押文	中1	22	
SB	1	炉1		2	16	300	体	深鉢	浅い平行沈線	不明		覆土、ベルト同一個体と思われるものも含む
SB	1	炉2		1	14	590	体	深鉢	単沈線+縄文	前4	23	

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量 (1)

※石器総量には、石柱・丸石、敷石・礎は含まれていない。

遺構記号	遺構番号	遺構所属時期				覆土出土土器の時間幅 (微量混入を除く)	土器/土製品総量		掲載土器		土器掲載割合(重さ%)	石器・石器素材総量		備考
		認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		点数	重さ(g)	点数	重さ(g)		点数	重さ(g)	
SB	1	旧炉体土器	中期	前葉	4	中葉1	459	12,591	91	6,078	48%	333	16,924.30	
SB	2	新炉体土器	中期	前葉	1	前葉4~中葉1	702	30,906	350	22,063	71%	314	16,246.56	
SB	3	炉体土器	中期	中葉	4	中葉1.2	34	1,217	6	412	34%	65	1,438.18	
SB	4	覆土中土器	中期	中葉	1~2	前葉5~中葉2	1,619	65,479	512	27,561	42%	831	61,225.33	
SB	5	炉体土器	中期	中葉	2	前葉4~中葉1(2)	973	27,188	124	7,882	29%	507	33,171.72	
SB	6	炉体土器	中期	中葉	1	(前葉4)~中葉1	125	3,446	24	999	29%	198	3,206.76	
SB	7	覆土中土器	中期	中葉	1~(2)	中葉1.2	19	614	5	134	22%	42	882.90	
SB	8	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	142	3,200	62	1,454	45%	43	7,895.35	
SB	9	覆土中土器	中期	前葉	3.4	前葉3.4	2,043	48,152	391	15,734	33%	491	20,958.86	
SB	10	炉体土器	中期	中葉	1	(前葉4)~中葉2	423	13,770	150	7,353	53%	159	8,140.06	
SB	11	覆土中土器	中期	前葉	3	前葉3~(4)	402	11,120	122	5,317	48%	169	1,350.31	
SB	12	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	12	28.69	
SB	13	覆土中土器	中期	前葉~中葉	4~1	前葉4~中葉1	38	1,243	7	652	52%	19	154.65	
SB	14	炉体土器	中期	中葉	2	(前葉4)~中葉2	268	15,731	117	11,170	71%	213	20,825.06	
SB	15	覆土中土器	中期	前葉	3~4	前葉3~4	25	547	8	206	38%	67	738.03	
SB	16	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉3~4	1,115	27,773	203	9,462	34%	225	10,719.53	
SB	17	覆土中土器	中期	中葉	3	前葉4~中葉3	65	1,600	8	279	17%	28	7,953.55	
SB	18	炉体土器	中期	中葉	2	中葉1~2	709	31,346	431	24,734	79%	105	23,910.56	
SB	19	炉体?土器	中期	前葉	4	前葉4~中葉2	566	14,053	194	7,411	53%	99	2,112.38	
SB	20	覆土中土器	中期	前葉	(4)~5	前葉4~5	172	4,867	70	3,101	64%	35	1,297.99	
SB	21	覆土中土器	中期	前葉	4?	前葉4	17	146	—	—	—	23	163.09	
SB	22	炉覆土	中期	後葉	5	後葉5	602	15,144	174	7,410	49%	173	2,589.66	
SB	23	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	24	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3	96	2,320	29	1,134	49%	65	9,045.75	
SB	25	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	26	埋壘	中期	後葉	2	後葉2	60	472	31	350	74%	1	0.92	
SB	27	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉5	527	15,270	98	5,220	34%	184	6,581.17	
SB	28	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2	159	3,511	88	2,371	68%	39	4,745.42	
SB	29	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2~	49	1,386	15	714	52%	10	2,226.79	
SB	30	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~	332	8,822	52	3,380	38%	106	15,304.59	
SB	31	覆土中土器	中期	後葉	—	—	1	18	—	—	—	0	0.00	
SB	32	埋壘、炉覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	633	27,143	201	17,490	64%	171	6,108.20	
SB	32.34	覆土中土器	中期	後葉	—	—	0	0	—	—	—	14	22.03	分離不可
SB	33	埋壘、炉覆土	中期	後葉	4	後葉3~4	208	35,041	165	3,559	10%	13	2,279.17	
SB	34	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉4~5	125	3,420	20	895	26%	47	4,992.61	
SB	35	埋壘	中期	後葉	3	後葉3~4	89	3,154	69	3,000	95%	15	443.78	
SB	36	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	62	1,085	11	340	31%	20	723.76	
SB	37	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	270	7,994	27	1,740	22%	186	1,304.59	
SB	37.41.42	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	51	1,156	—	—	—	37	3,141.75	分離不可
SB	37.42	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	57	1,192	—	—	—	25	32.59	分離不可
SB	38	埋壘	中期	後葉	4	後葉	82	2,236	21	1,200	54%	25	1,317.89	
SB	39	埋壘	中期	後葉	3	後葉2~(4)	613	17,419	130	6,820	39%	171	2,821.17	
SB	40	ビット1内	中期	後葉	3	後葉	94	3,224	30	1,610	50%	43	899.39	
SB	41	覆土	中期	後葉	3	後葉	521	11,299	51	2,080	18%	242	8,534.29	
SB	41.42	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	0	0	—	—	—	14	7.18	分離不可
SB	42	埋壘、炉覆土	中期	後葉	3~4	後葉3~4	423	18,613	186	13,320	72%	129	10,004.93	
SB	43	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	129	2,967	29	5,000	169%	38	71.31	SB43・44、SB47から掲載 分離不可
SB	43.44	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	116	3,946	—	—	—	40	2,519.29	
SB	44	埋壘	中期	後葉	3	後葉	152	3,845	133	3,440	89%	7	5,952.45	
SB	45	埋壘	中期	後葉	4	後葉2~4	197	7,840	73	4,550	58%	55	4,799.14	
SB	45.46	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	0	0	—	—	—	5	610.88	分離不可
SB	46	覆土中土器	中期	後葉	1~2	後葉1~2	19	1,157	—	—	—	5	933.78	
SB	47	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉	348	8,603	91	3,730	43%	42	341.11	
SB	48	覆土中土器	後期	初頭	—	中期後葉6~後期初頭	223	5,659	10	720	13%	66	16,14.78	
SB	49	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉	4	210	—	—	—	14	1,113.60	
SB	50	炉覆土	中期	後葉	4	後葉	108	3,248	51	1,800	55%	10	17.66	
SB	51	覆土中土器	後期	前葉	2	前葉	676	9,628	193	6,350	66%	194	60,686.34	
SB	52	覆土中土器	中期	後葉	2?	中葉~後葉	21	656	—	—	—	8	25.56	
SB	53	—	—	—	—	—	0	0	0	0%	0	0.00		
SB	54	覆土中土器	中期	後葉	3~	中葉~後葉	527	14,020	0	0	0%	71	5,858.46	SB55と重複 SB54は炉のみに修正 分離不可
SB	54.55	覆土中土器	中期	後葉	—	中葉~後葉	19	505	—	—	—	0	0.00	
SB	55	炉体土器	中期	中葉	3	中葉(2)~(4)、後葉	337	16,613	87	11,085	—	78	8,299.23	
SB	56	覆土中土器	不明	不明	—	不明	1	12	—	—	—	3	16.73	
SB	57	覆土中土器	後期	前葉	2	後期前葉	344	4,860	70	1,851	38%	30	14,791.92	
SB	58	覆土中土器	後期?	不明	—	不明	8	163	5	132	81%	2	6,870.00	
SB	59	覆土中土器	後期	後葉	1	中葉(5)~後葉(1)	11	240	4	91	38%	6	651.53	
SB	60	炉体土器	中期	中葉	1	中葉1	12	128	6	101	79%	1	8.76	
SB	61	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	1,220	42,636	267	18,536	43%	461	29,580.26	
SB	62	炉体土器	中期	前葉	3	前葉4~中葉1	398	11,822	64	3,831	32%	78	8,249.44	
SB	63	炉体土器	中期	中葉	3	中葉3~5	593	24,519	304	16,475	67%	54	3,657.08	
SB	64	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1~2、後葉	907	38,001	439	26,606	70%	367	24,303.08	
SB	65	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	1	12.41	
SB	66	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	157	5,266	59	2,915	55%	97	11,105.23	
SB	67	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉2~3	11	182	5	139	76%	40	3,542.72	
SB	68	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	444	13,191	120	6,621	50%	79	9,555.36	
SB	69	炉体土器	中期	中葉	2	中葉2~3	732	31,507	428	24,549	78%	376	14,762.79	
SB	70	ビット内ほか	中期	中葉	1	中葉1~2	636	17,539	159	7,166	41%	177	40,213.32	
SB	71	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3~5	411	13,861	74	6,619	48%	107	17,897.86	
SB	72	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	287	7,048	71	2,170	31%	50	1,612.61	
SB	73	炉体土器	中期	中葉	1	前葉5~中葉1	90	1,844	34	1,196	65%	11	350.42	
SB	74	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	75	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3~4	163	2,916	39	1,923	66%	17	1,416.10	
SB	76	覆土中土器	中期	中葉	1?	前葉4~中葉3	88	2,403	17	864	36%	18	506.31	
SB	77	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1.2	201	5,404	42	1,542	29%	44	2,183.78	
SB	78	ビット内ほか	中期	中葉	3	中葉1?~3	27	510	7	196	38%	12	160.72	
SB	79	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1~2	509	7,143	399	6,787	95%	9	1,111.23	
SB	80	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	115	3,439	47	2,370	69%	20	1,358.82	
SB	81	ビット内												

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量 (2)

※石器総量には、石柱・丸石、敷石・礎は含まれていない。

遺構記号	遺構番号	遺構所属時期				覆土出土土器の時間幅 (微量混入を除く)	土器/土製品総量		掲載土器		土器掲載割合(重さ%)	石器・石器素材総量		備考
		認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		点数	重さ(g)	点数	重さ(g)		点数	重さ(g)	
SB	84	炉体土器	中期	前葉	4	前葉4	18	2,307	7	1,979	86%	7	121.42	
SB	85	覆土中土器	中期	中葉	1	中葉1~2	191	5,403	100	4,028	75%	20	2,244.37	
SB	86	—	—	—	—	—	0	0	—	—	0%	0	0.00	
SB	87	覆土中土器	中期	後葉?	?	後葉?	2	18	2	18	100%	2	95.50	
SB	88	ピット	中期	中葉~後葉	?	中葉~後葉	16	567	6	320	56%	34	139.97	
SB	89	ピット	中期	後葉?	?	中葉~後葉混在	11	151	4	61	40%	8	102.68	
SB	90	ピット	後期	?	?	後期	1	84	—	—	0%	0	0.00	
SB	91	旧SQ1取上げ	中期	前葉	3	前葉3	424	11,096	40	2,160	19%	33	1,499.55	
SB	92	旧SB39・42ピットの一部	—	—	—	—	17	336	—	—	—	2	17.11	
SB	93	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	1	430.00	
SB	94	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	95	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	96	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	97	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	98	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	99	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	100	欠番	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	101	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉1~2	351	9,644	193	6,750	70%	74	36,180.78	
SB	102	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2?	109	2,910	53	2,130	73%	19	4,152.76	
SB	103	覆土中土器	中期	後葉	3~	後葉	37	1,419	24	1,140	80%	0	0.00	
SB	104	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	0	0.00	
SB	105	覆土中土器	後期?	?	?	?	61	2,259	38	1,970	87%	9	4,916.61	
SB	106	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉	335	8,423	16	1,060	16%	107	4,947.09	
SB	106.107	覆土中土器	—	—	—	—	18	308	—	—	0%	2	31.08	分離不可
SB	106.108	—	—	—	—	—	0	0	—	—	0%	1	3.06	分離不可
SB	107	覆土中土器	後期	初頭	—	中期後葉~後期初	72	1,204	9	290	24%	28	2,746.02	
SB	108	—	—	—	—	—	0	0	—	—	—	5	300.32	
SB	109	炉覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	62	1,482	29	1,139	77%	19	826.13	
SB	110	覆土中土器	中期	後葉?	—	後葉?	1	8	1	8	100%	0	0.00	
SB	111	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉2	21	501	4	293	58%	16	1,709.74	
SB	112	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	114	5,428	67	5,190	96%	41	4,746.13	
SB	113	炉体土器	後期	初頭	—	初頭	75	1,643	18	400	24%	13	974.05	
SB	114	覆土中土器	中期	中葉	4	中期後葉と混在 (SB117と分離不可)	618	21,973	226	12,246	56%	117	23,768.46	
SB	114.117	—	—	—	—	—	0	0	—	—	0%	57	14,310.40	分離不可
SB	115	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉3~4	117	5,657	32	2,500	44%	76	12,880.19	
SB	116	覆土中土器	中期	後葉?	—	中葉~後葉	151	4,421	73	2,700	61%	26	2,510.12	
SB	117	覆土中土器	中期	後葉	—	中葉~後葉	89	2,618	12	920	35%	6	1,649.34	
SB	118	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	772	25,369	343	16,260	64%	90	25,458.94	
SB	118.119	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	35	878	—	—	0%	6	8.74	分離不可
SB	118.123	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	1	26	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	118.124	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	9	400	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	119	炉覆土	中期	後葉	3	後葉3	156	3,984	29	1,310	33%	73	6,025.32	
SB	120	炉覆土	中期	後葉	3?	後葉	5	52	2	24	46%	4	11.80	
SB	120.121	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	0	0	—	—	0%	4	13.66	分離不可
SB	120~122	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	0	0	—	—	0%	3	15.39	分離不可
SB	121	埋壘	中期	後葉	4	後葉3~4	296	7,608	62	1,850	24%	58	3,021.15	
SB	122	炉覆土	中期	後葉	3?	後葉2~3	68	1,830	6	501	27%	3	78.78	
SB	123	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉4~5	285	8,073	5	810	10%	84	10,201.25	
SB	123.124	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	124	3,105	—	—	0%	35	68.17	分離不可
SB	124	埋壘	中期	後葉	3	後葉3~4	389	14,416	199	10,880	75%	66	7,349.25	
SB	125	炉覆土	中期	後葉	3	後葉3~4	40	1,464	9	164	11%	25	280.02	
SB	126	炉体土器	中期	中葉	3	中期後葉と混在 (SB193と分離不可)	119	3,438	35	2,558	74%	114	15,476.47	
SB	127	埋壘	中期	後葉	4	後葉3~4	106	5,793	28	4,529	78%	34	2,498.75	
SB	128	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~5	553	15,670	137	4,710	30%	187	7,732.92	
SB	129	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉3~4	61	1,792	16	258	14%	24	2,061.86	
SB	130	炉覆土	中期	後葉	4?	中葉~後葉	77	1,890	20	677	36%	43	712.89	
SB	130.132	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	42	527	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	130.133	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	18	199	—	—	0%	6	9.12	分離不可
SB	131	覆土中土器	中期	後葉	—	中葉~後葉	35	840	5	203	24%	3	4.28	
SB	132	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2~4	362	7,148	24	1,280	18%	32	1,546.28	
SB	133	炉覆土	中期	後葉	2	後葉2~3	327	9,524	69	4,087	43%	86	1,045.17	
SB	134	覆土中土器	中期	後葉	1	後葉1~2	397	9,031	162	5,590	62%	27	1,237.09	
SB	134.135	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	38	992	—	—	0%	11	24.73	分離不可
SB	134.149	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	8	143	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	135	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3~5	358	10,124	37	3,120	31%	205	45,256.83	
SB	135.136	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	6	93	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	135.149	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	1	24	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	136	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉3~4	65	2,348	9	830	35%	32	864.87	
SB	137	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉3~5	137	3,140	21	530	17%	48	1,162.82	
SB	137.141	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	51	1,151	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	138	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	489	16,622	114	5,650	34%	49	6,709.65	
SB	139	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉3~5	767	19,223	234	7,437	39%	196	5,553.90	
SB	139.140	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	7	98	—	—	0%	0	0.00	分離不可
SB	140	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉1?	215	6,798	128	3,968	58%	12	669.54	
SB	141	ピット	中期	中葉~後葉	—	中葉~後葉	9	35	4	24	69%	4	41.20	
SB	142	ピット	後期	初頭	1	後葉3~後期初頭	12	280	22	934	336%	2	5.37	SB126から掲載
SB	143	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5~後葉1	508	15,285	75	3,790	25%	154	44,808.20	
SB	143.144	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉	41	1,047	—	—	0%	11	136.38	分離不可
SB	144	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉1~2	473	21,614	157	14,430	67%	56	6,116.64	
SB	145	覆土中土器	中期	後葉	2?	後葉2~3	278	8,231	88	4,060	49%	15	45.89	
SB	146	埋壘	中期	後葉	4	後葉3~4	128	2,539	67	920	36%	12	283.70	
SB	147	覆土中土器	中期	後葉	—	後葉2~4	23	505	4	184	36%	5	187.85	
SB	148	埋壘	中期	後葉	3	後葉3~4	139	3,932	12	460	12%	17	1,548.26	
SB	149	覆土中土器	中期	後葉	3.4	後葉3~4	74	3,554	71	3,500	98%	2	516.93	
SB	150	覆土中土器	不明	不明	—	不明	7	157	4	128	75%	0	0.00	
SB	151	埋壘	中期	後葉	2	後葉2~3	114	4,699	49	3,530	82%	36	690.98	
SB	152	埋壘	中期	後葉	3?	後葉3~4	117	5,737	115	5,450	95%	28	769.66	
SB	153	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉4~5	147	3,754	13	662	18%	71	2,775.34	
SB	154	覆土中土器	中期	後葉	3.4	後葉3~4	6	66	5	64	97%	4	5.40	
SB	155	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉4?	84	1,342	33	730	54%	30	2,386.71	
SB	1													

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量 (3)

※石器総量には、石柱・丸石、数石・礫は含まれていない。

遺構記号	遺構番号	遺構所屬時期			覆土出土土器の時 間幅 (微量混入を除く)	土器/土製品総量		掲載土器		土器掲載 割合(重 さ%)	石器・石器素材総量		備 考	
		認定資料	大時期区分	中時期区分		小時期 区分	点数	重さ(g)	点数		重さ(g)	点数		重さ(g)
SB	156	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉(1)~(3)、上層に 中葉5	938	33,229	357	19,063	57%	288	39,320.03	
SB	157	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉3	484	12,077	57	2,070	17%	168	29,883.23	
SB	157.158	覆土中土器	中期	後葉	3?	後葉3	0	0	0	0	0%	3	5.90	分離不可
SB	158	覆土中土器	中期	後葉	3?	後葉3	620	17,511	40	1,240	7%	96	46,503.53	
SB	159	覆土中土器	中期	後葉	1	不明	1	16			0%	3	7.05	
SB	160	欠番・覆土中土器	中期	後葉		後葉3~4	6	244			0%	5	751.68	SKIに変更
SB	161	ピットほか	中期	後葉	1	後葉1~3	577	16,529	50	3,581	22%	121	20,746.14	
SB	161.162	覆土中土器	中期	後葉		後葉	41	1,107			0%	16	56.57	分離不可
SB	162	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~	487	15,003	139	8,565	57%	118	34,128.58	
SB	163	覆土中土器	中期	後葉	2~4	後葉2~4	187	4,441	1	250	6%	21	14,483.84	
SB	163.164	覆土中土器	中期	後葉		後葉	73	1,542			0%	1	3.06	分離不可
SB	163.168	覆土中土器	中期	後葉		後葉	49	1,170			0%	0	0.00	分離不可
SB	164	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉1~2	827	27,721	123	8,995	32%	101	25,238.78	
SB	164.168	覆土中土器	中期	後葉		後葉	4	46			0%	0	0.00	分離不可
SB	165	覆土中土器	中期	中葉	2	中葉3	11	233	5	158	68%	0	0.00	
SB	166	覆土中土器	中期	中葉	2?	前葉~中葉2	20	559	14	520	93%	10	844.57	
SB	167	覆土中土器	中期	後葉	4	後葉1~5	843	24,285	62	3,870	16%	216	27,584.25	
SB	167.168	覆土中土器	中期	後葉		後葉	55	2,173			0%	11	15.28	分離不可
SB	168	埋壘ほか	中期	後葉	2	後葉1~2	644	27,372	190	15,098	55%	70	26,849.42	
SB	168.191	覆土中土器	中期	後葉		後葉	18	315			0%	10	10.21	分離不可
SB	169	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	162	3,504	39	720	20%	99	2,918.11	
SB	169.170	覆土中土器	中期	後葉		後葉	7	101			0%	20	36.12	分離不可
SB	170	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	12	376			0%	11	41.19	
SB	171	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	82	2,077	11	408	20%	28	987.50	
SB	172	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2	479	21,578	121	11,770	55%	87	12,402.74	
SB	173	ピット	中期	後葉?		中葉5~後葉1	45	1,034	10	337	36%	26	858.93	
SB	174	覆土中土器	中期	後葉	1?	中葉5~後葉1	15	374	4	216	58%	5	627.92	
SB	175	埋壘	中期	後葉	5?	後葉4~5	285	10,179	49	4,220	41%	37	3,767.36	
SB	176	ピットほか	中期	中葉	3~4	中葉3~4	1,837	71,393	724	47,727	67%	399	28,896.11	
SB	177	欠番	中期	—	—	—	0	0			0%	0	0.00	
SB	178	覆土中土器	中期	中葉~後葉	—	混在	14	197			0%	12	4,304.15	
SB	179	欠番	中期	—	—	—	0	0			0%	3	165.26	
SB	180	炉ほか	中期	中葉	2	中葉2	285	10,721	132	7,577	71%	87	7,346.57	
SB	181	覆土中土器	中期	中葉	3.4	中葉3~4	70	2,275	31	1,580	69%	36	4,189.39	
SB	181.182	覆土中土器	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	48	957			0%	8	402.28	分離不可
SB	181.182.183	覆土中土器	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	18	822			0%	2	780.65	分離不可
SB	181.183	覆土中土器	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	29	752			0%	17	235.11	分離不可
SB	182	覆土中土器	中期	後葉	2.3	後葉2~3	143	3,380			0%	39	2,880.54	
SB	183	欠番	中期	—	—	—	0	0			0%	0	0.00	
SB	184	欠番	中期	—	—	—	0	0			0%	3	176.79	
SB	185	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	568	16,268	49	3,081	19%	204	14,969.77	
SB	185.187	—	中期	—	—	—	0	0			0%	3	667.77	分離不可
SB	186	埋壘	中期	後葉	4	後葉3~4	569	19,347	88	8,800	45%	120	5,111.60	
SB	187	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3	112	2,878	28	1,245	43%	73	2,490.80	
SB	187.188	覆土中土器	中期	中葉		中葉	14	322			0%	4	114.15	分離不可
SB	187.190	覆土中土器	中期	中葉		中葉	47	1,463			0%	6	147.86	分離不可
SB	188	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉	294	7,008	40	2,288	32%	126	12,926.34	
SB	188.189	覆土中土器	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	22	393			0%	4	4.65	分離不可
SB	189	覆土中土器	中期	後葉	2	後葉2~3	485	12,384	51	2,520	20%	146	43,439.72	
SB	190	ピット	中期	中葉	3	中葉	124	2,634	15	671	25%	73	16,535.14	
SB	191	覆土中土器	中期	後葉		後葉	98	1,685			0%	8	112.63	SB168含み混在
SB	192	覆土中土器	中期	中葉		中葉2~3?	14	235	4	71	30%	9	941.04	
SB	193	ピット	中期	後葉	1	後葉	171	5,899	65	2,340	40%	0	0.00	SB126と混在
SB	194	覆土中土器	中期	後葉		後葉	1	32	1	32	100%	2	82.69	
SB	195	ピット	中期	中葉	5	中葉4~後葉1	582	14,980	94	5,006	34%	151	15,077.80	
SB	196	埋壘	中期	後葉	3	後葉2~3	248	11,006	138	9,513	86%	84	45,693.25	
SB	197	覆土中土器	中期	中葉	5	中葉5	1,020	29,575	119	8,939	30%	219	29,764.80	
SB	197.221	覆土中土器	中期	中葉~後葉		中葉~後葉	11	192			0%	5	12.95	分離不可
SB	198	覆土中土器	中期	後葉		後葉	8	78			0%	3	5.16	
SB	198.199	覆土中土器	中期	後葉		後葉	25	507			0%	5	8.58	分離不可
SB	199	覆土中土器	中期	後葉		後葉	19	193			0%	11	3,386.22	
SB	200	埋壘	中期	後葉	3	後葉3	45	5,966	25	5,495	92%	13	259.79	
SB	201	覆土中土器	中期	後葉		中葉5~後葉	23	595	6	213	36%	3	4.79	
SB	202	ピット	中期	中葉	5	中葉4~後葉	161	4,346	35	1,646	38%	55	996.58	
SB	203	炉体土器	中期	中葉	1	中葉1	45	1,861	44	1,855	99%	9	134.94	
SB	204	覆土中土器	中期	後葉	1	後葉1~2	192	5,501	14	1,430	26%	21	1,964.68	
SB	205	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉3~4	40	1,021	8	320	31%	10	2,120.52	
SB	206	覆土中土器	中期	後葉	3	後葉2~3	48	1,372	18	610	44%	17	199.30	
SB	207	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5~後葉1	125	2,646	6	179	7%	12	124.36	
SB	207.209	覆土中土器	中期	後葉		後葉	4	106			0%	1	0.82	分離不可
SB	208	覆土中土器	中期	後葉	3~5	後葉3~5	126	3,521			0%	38	11,779.25	
SB	209.211	覆土中土器	中期	後葉		後葉	11	256			0%	0	0.00	分離不可
SB	209	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉5~後葉1	127	4,591	34	2,546	5%	26	2,471.76	
SB	209.211	覆土中土器	中期	後葉		後葉	62	1,026			0%	7	25.43	分離不可
SB	210	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉3~5	144	2,495	16	494	20%	49	3,460.08	
SB	211	覆土中土器	中期	後葉	4?	中葉3~後葉4	84	2,453	30	1,443	59%	26	28,536.82	
SB	212	覆土中土器	中期	後葉	4?	後葉	32	922			0%	11	129.92	
SB	213	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	1,115	25,137	5	660	3%	115	8,582.92	
SB	214	ピットほか	中期	中葉	4	中葉4~5	547	17,216	141	6,783	39%	130	5,616.07	
SB	215	炉ほか	中期	後葉	4	後葉4~5	302	8,019	84	3,590	45%	24	3,450.97	
SB	216	ピットほか	中期	中葉	4	中葉3~5	110	2,982	12	579	19%	43	1,795.64	SB217との混在有り
SB	216.217	覆土中土器	中期	中葉		中葉	0	0			0%	11	15,184.53	分離不可
SB	217	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉3~5	62	1,403	9	376	27%	8	139.05	
SB	218	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉3	332	18,181	107	4,865	27%	163	9,901.24	
SB	219	覆土中土器	中期	中葉	5	中葉3~後葉	48	933	11	330	35%	9	7,695.32	
SB	220	—	—	—	—	—	0	0			0%	0	0.00	
SB	221	炉覆土	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	97	2,028	7	253	12%	40	2,943.19	
SB	222	覆土中土器	中期	後葉	5	後葉5	49	1,245			0%	8	520.34	
SB	223	ピットほか	中期	後葉	1	中葉5~後葉2	2,786	70,578	399	17,645	25%	253	69,915.05	
SB	224	覆土中土器	中期	後葉	2									

表31 長峯遺跡遺構時期と出土遺物量（4）

※石器総量には、石柱・丸石、敷石・礫は含まれていない。

遺構記号	遺構番号	遺構所属時期				覆土出土土器の時間幅（微量混入を除く）	土器/土製品総量		掲載土器		土器掲載割合(重さ%)	石器・石器素材総量		備考
		認定資料	大時期区分	中時期区分	小時期区分		点数	重さ(g)	点数	重さ(g)		点数	重さ(g)	
SB	226	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	13	281			0%	3	5.56	
SB	227	覆土中土器	中期	後葉	3.4?	後葉3~4	13	218	7	110	50%	2	1,391.76	
SB	228	覆土中土器	中期	後葉		後葉	2	33			0%	0	0.00	
SB	229	ピットほか	中期	中葉	3	中葉3~4	614	24,566	109	9,100	37%	104	9,802.76	
SB	230	覆土中土器	中期	後葉	2.3	後葉2~3	16	432	3	158	37%	3	660.09	
SB	231	ピットほか	中期	中葉	3	中葉2~4	643	20,626	227	11,312	55%	124	15,041.20	
SB	232	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	245	10,188	126	8,474	83%	102	3,114.08	
SB	232,233	覆土中土器	中期	中葉		中葉	420	10,395			0%	112	2,190.43	分離不可
SB	233	覆土中土器	中期	中葉	4?	中葉3~5	613	15,425	72	4,126	27%	123	36,891.83	
SB	234	覆土中土器	中期	中葉	3	中葉2~3	576	24,146	297	17,644	73%	112	8,701.12	
SB	235	—	—	—	—	—	0	0			0%	0	0.00	
SB	236	覆土中土器	不明	不明	—	不明	3	31			0%	0	0.00	
SB	237	ピットほか	中期	中葉	4	中葉3~4	199	4,019	60	1,979	47%	44	3,987.00	
SB	238	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	224	6,762	127	4,971	74%	19	892.31	
SB	239	覆土中土器	中期	前葉	4	前葉4	86	1,926	26	1,304	68%	87	6,158.73	
SB	240	覆土中土器	中期	後葉	1	中葉3~後葉1	162	4,167	33	2,077	50%	44	3,253.79	
SB	241	覆土中土器	中期	中葉	4	中葉4	46	2,108	17	943	45%	8	233.88	
SB	242	炉	中期	後葉	4	後葉4	16	692			0%	7	2,119.57	
SB	243	覆土中土器	—	—	—	—	2	92			0%	0	0.00	
SB	244	覆土中土器	中期	後葉	1?	後葉	0	0			0%	3	8.24	土器はSB140から分離不可
SB	245	覆土中土器	中期	後葉	3.4	後葉3~4	3	109			0%	4	3.82	土器SB137から分離不可
SB	合計						63,875	1,979,428	16,414	874,640	44%	16,852	1,748,130.78	SB218に土器点数数え忘れあり
ST	合計	ピット覆土中土	中期~後期			中期~後期	89	2,315	12	465	20%	11	う	
SK	合計	覆土中土器	中期~後期			中期~後期	5,765	151,247	2,255	89,675	59%	1,712	374,410.67	
SX	合計	本体の土器	中期			中期	100	9,040	88	9,040	100%	2	35.39	
UM	合計	本体の土器	中期			中期	370	31,242	285	30,115	96%	57	1,967.52	
SF	合計	覆土中土器	中期			中期	123	1,691	61	618	38%	23	251.98	
SQ	合計	散布の土器	中期			中期	1,187	35,494	770	32,503	92%	136	13,165.65	
SH	合計	散布の土器	中期			中期	189	2,306	51	582	25%	216	5,131.52	
LM	合計					中期	652	16,363	41	2,190	13%	242	41,360.52	
遺構外	合計						31,407	867,805	301	9,678	1%	5,949	428,587.02	
総	計						103,757	3,096,931	20,278	1,049,506	34%	25,200	2,613,041.05	

葉2期（勝坂Ⅱ式＝新道～藤内Ⅰ式段階）のSB156では、取り上げ番号の若いもの（比較的上層）や上層と記した中に中期後葉や後期の土器が入っていることがわかる。これは、同堅穴住居跡の最上層凹地に大型礫（一部列石か）を伴う黒色土層が入っており、そちらに帰属する資料と考えることが可能となろう。また、1層中に中葉3～5期の資料が比較的多く認められ、下層との時期差をうかがうことができよう。復元された個体の主要なものについては、聖石同様属性表（表32）を作成した。その観察項目や記号に関しては聖石遺跡の項を参照していただきたい。

（2）時期

土器量が最も多いのは集落が盛行する中期後葉である。これについて集落の発展期にあたる中期中葉、集落の成立期にあたる中期前葉（初頭）、台地斜面部に集落が存在したと思われる後期前半の順に、出土量が減少してゆく。この他、遺構はとらえられなかったが早・前期の資料、中期前葉のうちごく初期の資料が存在している。

**早期**（図版452）山形・楕円形押型文土器が極少量採取された。また、鶯ヶ島台式並行期と見られる条痕文土器、および早期末の条痕文土器と縄文施文土器が少量採取された。

**前期**（図版452）前期末の晴ヶ峯式期の細片が1点出土した。

**中期前葉**（図版452～）1期（五領ヶ台Ⅰ式並行期）の資料は、包含層から極少量出土したにすぎない。土器量が急増するのは、集落が成立する3期（五領ヶ台Ⅱb式並行期）あたりからである。

縄文系を主体に沈線文系土器が加わる。これに、東信地域の斜行沈線を多用する類型、北信地域の深沢遺跡2類土器、伊那谷地域を中心とする平出3A土器の先行型式、東海系土器などが見られる。

**中期中葉**（図版452～）1期～5期（勝坂Ⅰ・貉沢式～勝坂Ⅴ・井戸尻Ⅲ式）までの全時期の資料が出土し



ている。勝坂式土器が主体を占め、これに東信地域の後沖式土器や焼町土器と、伊那谷地域を中心とする平出3A土器や櫛形文土器が次いでいる(第6章参照)。また、北信地域の越後系土器、東海系土器、北陸系土器が少量認められる。さらに遠隔地の土器が1～数点ずつ見ついている。

**中期後葉**(図版474～)1期～5期(曾利I～V式)までの全時期の資料が出土している。曾利式土器に唐草文系土器が加わる。さらに、東信地域の郷土式など、周辺地域の土器が認められる。

**後期**(図版570～)初頭の称名寺式並行期、および前葉の堀之内式期の土器が出土している。また、わずかではあるが、加曾利B式段階の土器が認められる。

**土器の諸属性について** 聖石遺跡に準じて、完形に近い復元個体を対象として属性観察を行った。その内容については表32に示した。

### (3) 特記される遺物

**ア 阿玉台式土器** 長峯遺跡では、今回出土したほぼ完形のSB4図版459-67、昭和34年宮坂英弐氏の調査時に出土し、研究史上でも著名な阿玉台式土器(巻頭図版7)が存在している。いずれも中葉1期(阿玉台式Ib)である。今回の調査では、出土遺物のほぼ全点を検証したが、前述の2個体以外、数cm以下の破片を含めても、阿玉台式土器の破片は7点しか確認できなかった。この2個体は、遠隔地の優品として丁重にあつかわれていた可能性がある。使用された粘土は、利根川下流域ではないものの、在地の粘土とは異なっており、搬入元の探索、搬入された意義などについて注目される資料である。詳しくは、第5章、第6章を参照していただきたい。

**イ 赤彩・漆関連遺物** 赤彩および黒彩が認められた土器片は412点を数える(表32)。時期別では中期中葉が最も多くなっている。器種別では有孔鏝付土器の内外面に塗布された例が最も多く、大小・器形のバラエティにかかわらず赤彩が施されている。SB225図版560-9は、宮坂英弐氏の調査時に出土した資料と同一個体と考えられる。この他、浅鉢形土器の一部にも赤彩が認められ、深鉢形土器への赤彩はごく希である。中期後葉に入ると、彩色された土器が減少する。また、漆容器と考えられるSB14図版468-25(中葉)、SB119図516-2(後葉)などが出土した。

赤彩の定着材として漆を使用しているか否かについて、観察を行った永嶋正春氏(国立歴史民俗博物館)は懐疑的であった。いずれの土器についても赤彩の定着が悪く、漆特有の光沢が認められないからである。そのため、有孔鏝付土器への赤彩は、恒常的ではない可能性(塗り直しを前提)も指摘された。詳細は第6章を参照していただきたい。

**ウ ミニチュア土器** 椀状の例(SB77図版505-28)のほか、破片資料が数点認められる。また、漆容器として使用されたSB14図版468-25やSB66図版488-82、SB186図版544-1など、および、それらとほぼ同じ大きさの小形筒形土器SB66図版495-8、SB190図版547-5、SB195図版548-33(S=1/3)ほかがある。SB78図版505-7は土鈴の可能性もすてきれない。

**エ 顔面把手・突起** 顔面把手・突起のうち、明確に顔面装飾と認定できる例は8点である。深鉢形土器の口縁部外面に貼付された初期のタイプ(SB2図版454-20ほか)から、口唇部から上部とせり出し器内面を向くタイプ(SB64図版493-30、SB181図版543-7ほか)、有孔鏝付土器の体部に人体文の一部を構成している例(SB234図版568-43ほか)がある。また、明確に人体表現と認定できる例には、有孔鏝付土器と見られる(SB214図版554-29)、深鉢形土器ではSX3図版573-2がある。

**オ 土器転用に伴う加工** 有孔鏝付土器の顔面部分周辺に打ち割り痕跡があり、何らかの目的で顔面部を割り取った可能性がある例にSB234図版543-43があり、同住居からは、人体文の掌部分のみの破片(同44)も出土している。埋甕・炉埋設土器では、一般的に体部下半部や口縁部、把手部分を打ち欠いている。豎

表32 長峯遺跡出土土器属性表(1)

図版番号	掲載土器番号	通し(復元)番号	遺構記号	遺構番号	主要出土位置	接合関係	形態の特徴					胎土	底部圧痕ほか	地文・充填装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部形態	口唇形態	底部形態					縦位分割	横位分割	分割方法
452	7	700	5区 P1		P1	別表	深鉢	Ⅲ2C3	H1(不安定)	A	—	繊維、白1、雲母	—	なし	にぶい褐～黒褐	?	I 2 II 1	器形変換
452	8	600	II-W	12	II-W-12ヶ	別表	深鉢	V1	H1	A	—	繊維、白1、赤色粒、砂粒	—	縦RL縄文	明赤褐～褐灰	1	1	なし
452	11	23	SB	1	炉NO2	別表	深鉢	—C3?	—	—	—	白1、雲母	—	縦RL縄文	赤褐～黒褐	I ? II 4	?	隆線
452	12	22	SB	1	炉NO1	別表	深鉢	Ⅲ1C3	H2	B	—	白1、黒色粒ほか	—	なし	赤褐～黒褐	I 4 II 4	I・II 4以上	隆線
452	15	115	SB	1	へ	別表	深鉢	Ⅱ1C3	Y1	A	—	白2岩屑、雲母	—	なし	明赤褐～褐灰	?	I 2 II 2	沈線、隆線
453	16	356	SB	2		別表	深鉢	I 2C2	H2	B	—	石英、雲母多	—	なし	暗赤褐～黒褐	?	I 2 II 2	隆線
454	20	7	SB	2		別表	深鉢	I 1C4	H2	B	a	白1、雲母多	磨き	なし	暗赤褐～黒褐	I 4 ? II 4	I 2 II 2	沈線、突起
455	34	160	SB	2	H-9NO.12 II層・H-9NO.16 I層	別表	深鉢	Ⅱ1C2	H2	A	b	白2岩屑多	—	なし	褐～褐灰	?	I 2 II 2	沈線
456	4	182	SB	4		別表	深鉢	?	—	—	—	精選、白1少	ナデ	なし	にぶい赤褐	?	?	隆線
456	5	165	SB	4	P5	184	深鉢	Ⅲ2A3	H1	A	—	白1多	—	斜めRL縄文	黒褐	?	I 1 II 1	隆線
456	6	36	SB	4	SB4 P11	別表	深鉢	I 4C4	H2	B	—	白1多	—	指頭圧痕	にぶい黄褐	?	I 2 II 4	隆線
456	7	50	SB	4	P4	別表	深鉢	I 2C4	Y2	B	b	白1・2	—	なし	明赤褐	I 4 II 3	I 2 II 1	隆線、突起
458	41	164	SB	4		別表	深鉢	? C3	—	—	—	白1・2、雲母微	磨き	指頭圧痕	にぶい黄褐	I ? II 0	?	隆線
458	60	166	SB	4	P9	別表	深鉢	Ⅱ1B3	H2	A	—	白2岩屑多、雲母微	—	横RL縄文	にぶい褐	I 4 ? II 4 ?	I 2 II 2	隆線、沈線
459	66	35	SB	4	P3	別表	深鉢	I 2C3	H1	A	b	白1多	磨き	なし	明赤褐～にぶい黄褐	なし	I 1 II 1	隆線
459	67	19	SB	4	P12	別表	深鉢	I 4C4	Y2	B	b	白2岩屑、石英、雲母	ナデ	なし(一部指頭圧痕)	褐灰～黒褐	I 4 II 4	I 3 II 1	隆線
460	1	168	SB	5		別表	深鉢	?	—	—	—	白1多	—	なし	にぶい黄褐	I 0 II 2	?	隆線
461	41	167	SB	5	P109	別表	深鉢	Ⅲ2C3	H2	A	—	白1、石英、雲母	—	なし	暗赤褐～黒褐	I 4 ? II 4 ?	I 2 II 2 ?	隆線
461	1	169	SB	6		別表	深鉢	? C3 ?	—	—	—	精選、石英、雲母	—	刺突	暗赤褐	I ? II 3	I ? II 1	隆線
461	1	25	SB	8	炉P1	別表	深鉢	—	—	—	—	白1・2、雲母微	—	縦RL縄文	暗赤褐	I ? II 4	?	隆線
462	1	29	SB	9		別表	深鉢	Ⅱ1C3	H2	B	a	石英、雲母多	磨き	I帯横RL縄文	黒褐	I ? II 4	I 1 II 2	沈線、器形変換
462	25	30	SB	9		別表	深鉢	I 2C3	H1 ?	B	—	白1・2、雲母	—	縦結束RL縄文	暗赤褐～黒褐	?	I 1 II 2	隆線、沈線
463	25	27	SB	9	P4	別表	深鉢	I 1C3	H2	B	a	石英、雲母	—	なし	暗赤褐～黒褐	I 4 II 4	I 4 II 1	隆線、沈線
463	27	28	SB	9		別表	深鉢	I 1C2	H2	A	—	白1、白2多	—	なし	暗赤褐	?	I 1 II 1	隆線
464	1	71	SB	10	炉タイ埋カメ	別表	深鉢	V2	H2	B	—	白1多	—	なし	明赤褐～褐灰	I 4 II 4	I 2 II 1	隆線
465	14	70	SB	10	P5埋カメ	別表	深鉢	Ⅱ1C3	H2	B	—	白1多、石英	—	なし	にぶい黄褐～褐灰	?	I 2 II 1	隆線
466	1	170	SB	11	埋カメ	別表	深鉢	—	—	—	—	石英、白1多	—	B1a沈線	暗赤褐	I ? II 2	?	隆線
466	9	171	SB	11		別表	深鉢	I 2C3	H2	B	—	白1・2、雲母	—	I縄文	暗赤褐	I ? II 4	I 2 II 2	隆線、沈線
466	29	393	SB	11		別表	深鉢	?	—	—	—	白1・2	—	なし	明赤褐～黒褐	?	?	隆線、沈線
466	30	181	SB	11	P2	別表	深鉢	V2	H2	A	—	石英、雲母	—	なし	にぶい赤褐～黒褐	?	I 1 II 1	隆線
467	1	73	SB	14	炉	別表	深鉢	I 2C3	H2	B	—	白1多ほか	—	縦RL縄文	赤褐～黒褐	I 4 II 5	I 2 II 2 ?	隆線、突起
467	2	12	SB	14	埋カメ	別表	深鉢	I 2A3	H2	B	b	精選、白1、黒粒	縄目状圧痕あり	なし	にぶい橙～褐灰	I ? II 3	I 2 II 3	隆線
467	17	72	SB	14	P25	別表	深鉢	IV3B1	H2	A	—	石英、雲母多	—	指頭圧痕	褐～黒褐	?	I 2 ? II 3 ?	隆線
468	1	32	SB	16	P1	別表	深鉢	V2	H1	A	—	白1・2、雲母多	—	縦RL縄文	暗赤褐～黒褐	I ? II 4	I 2 II 1	隆線
468	9	186	SB	16		別表	深鉢	Ⅲ2C3	H2	A	—	白1・2	—	縦RL縄文	暗赤褐	I 1 II 3	I 1 II 1	隆線
469	25	132	SB	16		別表	深鉢	I 2C3 ?	H2	B	a	白2、雲母多	磨き	横RL縄文	暗赤褐～黒褐	?	I 2 II 1	隆線
469	29	107	SB	16	P12	別表	深鉢	Ⅲ1C1	H1	—	—	白1、雲母	—	B1a沈線	赤褐～黒褐	I 0 II 4	I 1 II 1	隆線
470	1	11	SB	18	炉	別表	深鉢	Ⅲ2C3	H2	B	—	白1多、雲母微	—	なし	赤褐～暗赤褐	I 4 II 10	I 2 II 3 ?	隆線、把手
471	10	17	SB	18	P19	別表	深鉢	Ⅲ2A3	H1	B	b	白1・2多	磨き	なし	赤褐～褐灰	I 2 II 4	I 2 II 3	突起、隆線
471	11	377	SB	18		別表	深鉢	I 4C3 ?	H2	B	—	白1多	—	なし	黒褐	?	I 2 II 2 ?	隆線
471	12	18	SB	18	P17	別表	深鉢	I 2A3	H2	B	d	白1、白2	網代若干残	なし	赤褐	I ? II 3	I 2 II 2	隆線
471	18	14	SB	18	P13	別表	深鉢	Ⅲ2C3	H1	B	—	白1多	—	指頭圧痕	赤褐～黒褐	I 5 II 0	I 1 II 1	隆線
471	21	9	SB	18	P2 P6	別表	深鉢	Ⅲ2C3	H1	B	—	白1多	—	なし	にぶい黄橙	?	I 3 II 2	隆線
472	24	10	SB	18		別表	深鉢	Ⅱ1C3	H2	A	—	白2岩屑多	—	縦RL縄文	橙～褐灰	I ? II 9	I 2 II 2	隆線、沈線
472	25	8	SB	18	P18	別表	深鉢	Ⅲ2C3	H2	A	b	白1ほか	磨き	縦RL縄文	橙～褐灰	I 4 II 0	I 1 II 1	器形変換
472	1	69	SB	19	P-B	別表	深鉢	Ⅲ2B2	H1	A	—	白1・2、雲母	—	I帯横、II帯縦RL縄文	暗赤褐～黒褐	I 0 II 4	I 3 II 3	隆線、沈線
473	16	395	SB	19	P-A	別表	深鉢	—	—	—	—	石英、雲母多	—	無節縄文?(風化)	暗赤褐	?	?	隆線
474	21	396	SB	20	P7	別表	深鉢	I 2C2	H2	B	—	白1・2、雲母微	—	なし	暗赤褐～黒褐	?	I 2 II 1	隆線、器形変換
474	1	203	SB	22	炉	別表	深鉢	V1	Y1	B	a	精選、白1ほか	—	縦LR縄文	にぶい黄橙	I ? II 4	1	沈線
474	3	201	SB	22	P-4	別表	深鉢	V1	H1	A	a	白1多	網代若干残	幅23mm条線	にぶい黄橙～黒褐	?	I 1 II 1	沈線
474	4	204	SB	22		別表	深鉢	V2	H1	A	—	白1	—	幅22mm以上条線	にぶい黄褐	I 0 II 7 ?	I 1 II 1	沈線
474	5	712	SB	22		別表	深鉢	Ⅲ2 ?	H2	A	—	白1多、雲母微	—	複筋LR縄文	黒褐	?	I 1 II 1	沈線
474	6	202	SB	22	P2	別表	深鉢	V2	H1	A	—	白1多	—	B1a八字沈線	にぶい黄橙	?	I 1 II 1	沈線
475	7	200	SB	22	P1	別表	深鉢	I 2B3	H2	B	b	白1	ケズリ	縦RL縄文	明赤褐～黒褐	?	I 1 II 1	隆線
475	1	273	SB	27		別表	鉢	I 4C2	H1	B	—	白1多、雲母微	—	なし	暗褐	なし	I 2 II 1	隆線
475	2	274	SB	27	P27	別表	深鉢	I 4C2	H1	B	b	白1、石英、雲母微	磨き	幅17mm条線	灰黄褐	なし	1	なし
475	3	207	SB	27		別表	深鉢	V1	H1	A	—	白1、雲母微	—	縦LR縄文	にぶい橙	I ? II 4	I 1 II 1	沈線



隆線系裝飾								沈線系裝飾				施文順位	備考	
把手・突起類	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・粗数	隆線・貼付方法	隆線上裝飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ	刺突・陰刻文、その他			沈線の用例
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	2	浅め	沈線筋連続	4本束条線で菱形区画、頭部充填	沈線→充填	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
	H	7.5	2	1	4	なし	懸垂文のみ	A1a	2	浅い	なし	隆線筋、縦区画	隆線→沈線→縄文	
	A	7	2	1	貼付	なし	分帯、区画、人体状裝飾	A1b/B1b	6/4	—	三角形陰刻	隆線筋、区画内充填	隆線→沈線	
	A	7	5	1	1	C3刺突	懸垂文のみ	C2a	2	浅い	なし	分帯、充填	隆線→充填沈線→分帯沈線→I帯波状沈線	
	F	8	2	1	1/2	貼付	分帯、区画、棒状貼付文ほか	A1b	4.5	—	なし	隆線筋、I帯充填	隆線→沈線	
	A, D	10	2	1	2	刻み	渦巻文ほか	A1a・b/B1a	8/3.5/1	B1深い	交互刺突	充填、区画、懸垂	隆線→沈線	
	A	12	5.5	1	2	刻み	棒状貼付文のみ	C2a	5	浅い	なし	分帯、充填	隆線→I帯充填→I帯区画、頭部充填→II帯区画→II帯充填	
	A	4	1.5	1	1/4	なし	分帯、区画	A1b/B1a	2/0.5	浅め	三叉文	隆線筋角押、充填三角押ほか	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
	A	7	2	1	1/4	貼付	区画文	A1b	3	—	なし	隆線筋、粗な充填	隆線→沈線	
突起	A	6	4.5	1	1/4	なし	分帯、区画	B1a	3	—	なし	隆線筋、粗な充填	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
	A, D	7	2.5	1	1/4	刻み、貼付	分帯、区画	A1b	4.5/3	—	なし	隆線筋、充填	隆線→沈線	ひだの深い指頭充填
	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
	A	7~8.5	2~5	1	2/4	刻み	分帯、棒状貼付文	C3a	3.5	浅い	なし	分帯、懸垂、区画文ほか	隆線・縄文→分帯・隆線筋沈線→垂下・区画沈線→隆線上刻み	
	A	10	2	1	2	連続状押圧	分帯	C3a	8.5	深い	—	口縁部刺突に近い充填	—	
扇状把手	F	7	1	1	2/4	刻み	分帯、区画、懸垂文	B1b	2	深い	なし	隆線筋、波状	隆線→沈線	
	F	14	6	1	1	なし	懸垂文	なし	—	—	—	—	—	
4単位	A	8	4	1	4	なし	分帯、区画	A1a	4.5	浅い	沈線内再刺突、円刺突	隆線筋、区画内充填	隆線→充填沈線→隆線筋沈線	
	F	6	1.5	1	1/2	なし	懸垂文	なし	—	—	刺突充填	充填	隆線→刺突	
	A	7	2	1	1/4	縄文	懸垂文	A1a	4	—	三角形陰刻	隆線筋、弧線文ほか	隆線→縄文→沈線	
なし	D	8	3	1	1	なし	貼付文のみ	C2a	4	浅い	なし	横帯、懸垂	縄文→横帯沈線→縦帯沈線	
	A	7	2	1	2/4	縄文、貼付	分帯、懸垂、区画	A1a	3.5	浅め	玉抱き三叉文	隆線筋、頭部横帯	隆線→縄文→沈線	
眼鏡状突起ほか	A	7	3	1	4	刻み	分帯、突起	A1a/b	2	—	交互刺突、沈線内再刺突	隆線筋、格子目充填ほか	隆線→分帯沈線→充填沈線	
円形突起他疑似扇状突起	H	8	2	1	6	貼付にハラ刻み	分帯、貼付文	C2a	9	—	なし	粗な充填	隆線→沈線	
	A	7以下	2.5	1	1/4	貼付、刻み	分帯、区画、懸垂	A1b	5/3	—	なし	隆線→沈線	補修孔有り	
	A	12/5	4/0.5	1	1/4	刻み	区画、懸垂	A1b/B1a	5.5/1	浅い	三角形陰刻	分帯、隆線筋、充填	隆線→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a/B1a	2/1.5	浅め	なし	渦巻き、斜行、交互充填	—	
	D	11	4	1	1	なし	貼付文のみ	C2-3a	5	縦位浅い	交互刺突	横帯、懸垂	縄文→貼付文→横帯沈線→縦帯沈線	
	H	10	2	1	6	交互刺突	分帯	C3a	6.5	やや浅い	—	横帯、懸垂、格子目充填ほか	隆線→縦帯沈線→横帯沈線→充填沈線	
なし	G	8	0.5	1	2	貼付	分帯、貼付文	なし	—	—	—	—	—	
耳状突起ほか	A・F	10	5.5	1	1/4	貼付	分帯、区画、蛇行	B1b	5.5	—	なし	隆線筋、充填三角押文	隆線→縄文→沈線	
耳状突起ほか	A	4/1.5	1.5	1	4	貼付	分帯、区画、蛇行	A1b/B1b/C3a	3.5/2/4	浅め	半竹管刺突、入り組み陰刻、三叉文	隆線筋、刺突などで充填	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
耳状、6字状突起	A・F	7	5	1	1/4	貼付、刻み、刺突	区画文、分帯	A1a	3.5	浅め	刺突	隆線筋、斜行充填ほか	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	分帯はI~II帯に流れる
	A・F・C	9.5/2	2	1	1/2	縄文、貼付	分帯、懸垂	A1a	2.5	—	交互刺突	隆線筋、弧線文ほか	隆線→縄文→沈線	
	B・C	3/9	1	1	4	貼付	分帯、懸垂	A1a	3	—	なし	隆線筋、弧線文ほか	隆線→縄文→沈線	
	A・H	5.5/11	3.5	1	1	縄文、刺突	分帯、弧線文	C2a	7.5	浅め	交互刺突	隆線筋、懸垂ほか	隆線→沈線→縄文	
	H	6	2	1	4	ハラ刻み	分帯、懸垂	A1a/B1a	2/1	浅い	沈線内再刺突	隆線筋、充填	隆線→沈線→刺突	
橋状把手ほか	A	7	2.5	1	1/2	刻み、貼付	分帯、区画、円文ほか	A1a/B1b	7.5/3	—	三角押文、やや深い	隆線筋、区画中央三角押文	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
	A・D	8/12	~6	1	2/4	刻み、貼付	分帯、区画、垂下文	B1b	7	—	—	隆線筋、波状三角押文	隆線→沈線	
	A・F	7.5	3	1	2/4	なし	分帯、区画	A1b/B1b	7/4.5	—	なし	隆線筋、充填三角押文	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
耳状突起ほか	A・D・F	6.5	2.5	1	—	貼付	分帯、区画、垂下文	B1b/C3b	3.5	深い	なし	隆線筋、三角押文充填	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
なし	A・F	7.5	0.5	1	—	なし	分帯、区画	なし	—	—	—	—	—	
耳状突起ほか	A	6.5	1	1	4	貼付	分帯、区画	A1a	4	浅め	沈線内再刺突	隆線筋、斜行充填ほか	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
	G・A	5/9	2/4	1	4	刻み	分帯、区画	C2a	3.5	浅め	なし	隆線筋、波状ほかで粗な充填	隆線→縄文→隆線筋沈線→充填沈線	
	A	9	5	1	4	刻み	棒状貼付文	なし	—	—	—	—	棒状貼付→縄文	
	A, H	8	2	1	1/4/6	ハラ刻み、貼付	分帯、懸垂	A1a	2.5	—	交互刺突	隆線筋、弧線文ほか	隆線→縄文→沈線	
	A	8	2	1	1/4	なし	縦ぎ手文	C3a	4.5	—	なし	隆線筋、渦巻文ほか	隆線→沈線	
	A・F	7	2.5	1	2	なし	分帯、懸垂	A1a/B1a	4/0.5	B1深め	三角形陰刻、交互刺突	I帯充填	隆線→沈線→陰刻	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4.5	浅め	なし	分帯、懸垂	縄文→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	7	やや深め	なし	分帯、懸垂	重複無く不明	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	7.5	浅め	なし	分帯、区画	充填沈線→区画/蛇行沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	5.5	浅め	なし	分帯、懸垂、蛇行、渦巻き	沈線→縄文	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a/B1a	6/2	浅め	なし	A1分帯、懸垂、Bで充填	重複無く不明	
橋状把手	C	20	3.5	1	2/4	把手に沈線	分帯、区画	A1a	7.5	把手部深め	なし	懸垂	隆線→沈線→縄文	
なし	A	9	6.5	1	1/4	なし	区画	A1a	3	浅め	なし	隆線筋、区画内充填	隆線→隆線筋沈線→充填沈線	
なし	—	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4	—	I帯充填	区画、垂下文	縄文→沈線	

表32 長峯遺跡出土土器属性表(2)

図版 番号	掲載 土器 番号	通し (復元) 番号	遺構 記号	遺構 番号	主要出土 位置	接合 関係	形態の特徴					胎土	底部 圧痕ほか	地文・充填 装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部 形態	口唇 形態	底部 形態					縦位分割	横位分割	分割方法
476	2	211	SB	28	P1	別表	深鉢	I 2C3	H2	—	—	白2岩屑、雲母	—	縦L縄文	黒褐	?	I 5? II 4	隆線、貼付文
476	3	209	SB	28	P4	別表	深鉢	I 2C?	H2	B	—	白1、雲母	—	縦RL縄文	黒褐	I 4 II ?	I 2 II 2?	隆線
476	6	210	SB	28	P3	別表	深鉢	II 4B2	—	—	—	石英・雲母	—	C2a沈線	暗赤褐～黒褐	I 4 II 4	I 2? II 1	隆線
476	1	213	SB	30	P-2	別表	鉢	III 2C2	H1	A	—	白1多	—	なし	橙～褐灰	?	I 2 II 1	沈線
476	2	212	SB	30	P13	別表	深鉢	II 4?	H1	A	—	雲母、石英	—	横RL縄文	にぶい黄褐～褐灰	?	I 3 II ?	沈線
476	3	208	SB	30	P20	別表	深鉢	I 2C3?	H2	—	—	白2多、雲母	—	縦RL縄文	明赤褐	I 5 II 9	I 1 II 1	隆線、沈線
477	2	215	SB	32	炉P4	別表	深鉢	II 3C3	H1	A	—	白1多	—	幅19mm? 条線	明褐～褐灰	I 0 II 5	I 1 II 1	隆線
477	3	15	SB	32	埋ガメ	別表	深鉢	III 2C1	H1?	D	b	白1多	磨き、 部網代 残	幅12mm条線	にぶい黄橙	I・II 4	I 1 II 1	隆線
477	4	214	SB	32		別表	深鉢	I 4B3	H1	B	—	白1・2、雲母微	—	幅不明条線	明褐～褐灰	?	I 1 II 1	沈線、隆線
478	7	219	SB	32		別表	深鉢	?	—	—	a	白1・2	網代	幅19mm短条線	暗赤褐～黒褐	I ? II 4	?	沈線
478	8	206	SB	32		別表	深鉢	III 2? B3?	—	—	—	白1多	—	幅17mm条線	黒褐	?	?	隆線?
478	1	216	SB	33	埋ガメ NO2	別表	深鉢	III 2? C3	—	—	—	白1多	—	なし	にぶい橙～黒褐	I ? II 5	I 1 II 1	隆線、沈線
478	2	229	SB	33	埋ガメ	別表	深鉢	—	—	—	—	白1多	—	幅13mm条線	明褐～黒褐	I ? II 4	?	隆線
478	4	727	SB	33	P1	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	—	白1・2、雲母微	—	幅不明条線	黒褐	?	I 1 II 1	隆線
479	2	218	SB	35	埋ガメ NO2	別表	深鉢	? C?	—	—	b	白1	磨き	A1a沈線	にぶい黄橙	I ? II 8?	?	隆線
479	1	581	SB	36		別表	深鉢	I 6?	H2	A	—	白1	—	縦結束LR 縄文	暗赤褐～黒褐	?	?	隆線
479	1	288	SB	38		別表	深鉢	?	—	—	—	白1・2多	—	縦LR縄文	にぶい黄褐～褐灰	I ? II B	?	沈線
480	1	231	SB	39	埋ガメ	別表	深鉢	I 4C3?	H1	B	—	白1多	—	C3a沈線	暗赤褐～黒褐	?	I 1 II 1?	隆線
480	2	230	SB	39	炉ワキP1	別表	深鉢	I 4C3	H1	D	b	白1ほか	磨き	B1a沈線	明褐～黒褐	I 5? II 3	I 1 II 1	隆線
480	3	252	SB	39	炉ワキP2	別表	深鉢	I 2C3	H2	D	—	白1	—	A1a沈線	明赤褐～黒褐	I 4? II 4?	I 1 II 2	隆線
480	1	253	SB	40	ヒツ1 P1	別表	深鉢	? C?	—	—	—	白1ほか	—	A1a沈線	明赤褐～黒褐	I・II 4	I 1 II 1	隆線
480	1	235	SB	41	P60	別表	台付鉢	? C1?	—	—	f	白1多	—	B1a沈線	にぶい褐	I ? II 2	I ? II 2	隆線ほか
480	3	232	SB	41	P5	別表	鉢	IV 2	H1	A	b	白1・2ほか	磨き	C3a沈線	黄褐～暗赤褐	?	I 1 II 1	隆線
481	1	256	SB	42	炉P29	別表	深鉢	III 2C3	H1	B	—	白1・2、雲母微	—	幅6mm条線	にぶい橙～褐灰	I 0 II 7	I 1 II 1	隆線
481	2	221	SB	42	炉P28	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	b	白1多	磨き	B1a沈線	橙～灰褐	I ? II 8	I 2 II 1	隆線
481	4	236	SB	42	埋ガメ	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	—	白1多	—	B1a沈線	黄褐～褐灰	?	I 1 II 1	隆線
482	5	220	SB	42	炉P25	別表	深鉢	III 2B3	Y1	B	b	白1多	—	刺突	にぶい褐～褐灰	I ? II 8	I 1 II 1	沈線
482	2	222	SB	43	P1	別表	鉢	IV 1	H1	A	b	白2、雲母	磨き	C3a沈線	にぶい黄橙～褐灰	?	I 1 II 1	隆線
482	1	258	SB	44	埋ガメ	別表	深鉢	V 1	H2	D	—	灰色粒ほか	—	B1a沈線	にぶい橙～橙	I 4 II 8	I 2 II 1	隆線
483	1	226	SB	45		別表	深鉢	? B3?	—	—	b	白1多	—	B1a沈線	赤褐～黒褐	I ? II 6	?	隆線
484	1	237	SB	50	炉	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	—	白2多、雲母微	—	C2aか条線	赤褐～黒褐	I 0 II 6	I 1 II 1	隆線
484	2	718	SB	50	7	別表	深鉢	V 1	H1	A	—	白1岩屑、赤粒	—	A1a沈線	にぶい黄橙	4以上	I 2 II 1	隆線
484	1	13	SB	55	炉体	別表	深鉢	II 4? C3	—	—	—	白1多	—	なし	にぶい黄橙～褐灰	I ? II 6	多段	隆線
484	14	82	SB	55	P13	別表	深鉢	? C3	—	—	b	石英、雲母多	磨き、回 転擦痕	なし	赤褐～暗赤褐	I ? II 4	I ? II 1	隆線
485	14	187	SB	61		別表	深鉢	I 2C3	H2	B	—	白1多	—	指頭圧痕	にぶい橙～黒褐	?	I 1 II 1	隆線
486	17	133	SB	61	P51	別表	深鉢	III 2C3	Y2	B	c	白1・2、雲母微	磨き	指頭圧痕	明褐～黒褐	I 4?	1	波状口縁
486	18	83	SB	61	P65	別表	深鉢	III 2A3	H2	A	c	白1多	—	輪積み痕 残	明褐～暗赤褐	I 1 II 2	I 1 II 1	隆線、沈線
488	69	37	SB	61	P52	別表	深鉢	I 2C3	H2	B	—	石英、雲母多	—	L縄文	暗赤褐	I 4 II 2(3)	I 2 II 1	隆線
488	1	84	SB	62	SB62 埋 ガメ 炉	別表	深鉢	II 1B3?	H2	B	—	白2、雲母微	—	A1a沈線	赤褐～黒褐	I ? II 4	I 2 II 3以 上	隆線、沈線
489	1	38	SB	63	埋ガメ 炉	別表	深鉢	I 2C2	H2	C	—	白1多	—	なし	赤褐～黒褐	展開写真見 てから	1	突起、隆線
490	11	500	SB	63		別表	深鉢	? C3	—	—	—	白1、灰色多	—	I 帯横RL 縄文	明赤褐	?	I ? II 1	隆線
490	12	134	SB	63	P15 P18	別表	深鉢	II 1A3	H1?	A	c	白1、灰色粒多	—	横RL縄文	暗赤褐	?	I 2 II 1	隆線
490	15	75	SB	63	P2	別表	深鉢	V 1	H2	a	—	白1、雲母微	磨き	C3a沈線	明赤褐	3	1	突起、隆線
490	18	74	SB	63	SB63 P1	別表	深鉢	I 3C3	H2	B	—	白2多、石英、 雲母微	磨き	C3a沈線	明赤褐～黒褐	I 1 II 3.5	I 1 II 1	半隆起線
491	6	39	SB	64	フ	別表	深鉢	I 2C3	H2	B	b	白1多、黒色粒	磨き、縄 目状圧 痕一部 あり	なし	にぶい褐～褐灰	I 4 II 7-8	I 2 II 5	隆線、突起
492	8	41	SB	64	P84~90	別表	深鉢	V 1	H2	B	—	白1、黒色粒ほ か	—	なし	にぶい黄橙～黒褐	I 4 II ?	I 3 II 2	隆線、突起
493	28	282	SB	64		別表	深鉢	I 2C2	H2	B	—	白1多	—	縦RL軸●	褐灰	?	I 2 II ?	隆線、沈線
493	34	40	SB	64	P25	別表	深鉢	I 2C3	H2	b	—	白2多、石英、 雲母微	粗い磨 き	縦LR縄文	暗赤褐	I 4 II 4	I 2 II 1	突起、隆線
493	38	44	SB	64		別表	深鉢	? C3?	—	—	b	雲母	非回 転擦痕	なし	暗赤褐	I ? II 4?	?	隆線
494	46	472	SB	64		別表	深鉢	II 1C3	H2	A	—	白2大粒岩屑 多	—	なし	灰黄褐～黒褐	?	I 2 II 1?	沈線
494	47	43	SB	64	P23	別表	深鉢	II 1C3	H2	B	b	白1、灰色粒多	粗い磨 き	縦RL●ら くじょう たじう?	赤褐～黒褐	I 4 II 0	I 1 II 1	器形変換
494	52	143	SB	64	P15,7	別表	深鉢	II 1C3	H1	—	—	白2多	—	なし	にぶい黄橙	I 7 II 0	I 1 II 1	刻み、器形 変換

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾				施文順位	備考		
	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・組数	隆線・貼付方法	隆線上装飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ			刺突・刻突文、その他	沈線の用例
8字小突起	A	6.5	5	1/2	1/4	なし	分帯、渦巻き文	A1a/B1a/C2a	3.5		なし	A隆線脇・垂下文、B充填、C弧線文	隆線→縄文→沈線	
渦巻き突起	A・B	8以下	2	2	1/4	刻み	分帯、区画、波状	A1a	2.5		なし	隆線脇、垂下文	隆線・縄文→隆線脇沈線→垂下隆線	下端部打ち欠き、摩耗
X字状把手	A	5	1	2	4	なし	弧線文	A1a/B1a/C2a	2.5		なし	隆線脇、垂下文、充填	隆線→充填沈線→隆線脇・装飾沈線	
なし	E	5以上	0.5	1	3	なし	区画文	A1a/C3a	6/2.5	やや浅め	なし	区画、分帯、C3充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	5	浅め	充填刺突	区画、分帯	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	口縁打ち欠き
なし	A	8	6	2	1/4	なし	区画文	A1a/B1a	7/3	深い	なし	隆線脇、B1充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	C	11	1.5	1	3	なし	分帯、懸垂	a1a	5	浅め	なし	隆線脇、蛇行沈線	隆線→条線→沈線	
なし	A・F	8	3	1/2	4	刻み	分帯、垂下装飾	A1a	4.5	やや深い	なし	隆線脇	隆線→条線→沈線	
なし	C	11	2.5	1	3	なし	垂下渦巻き文	A1a	6.5~9	浅め	なし	隆線脇、分帯	隆線→条線→隆線脇沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	3.5	やや深め	なし	懸垂文ほか	懸垂沈線→充填条線→蛇行沈線	
X字状把手	E	13	1.5	2	3	なし	唐草文	A1a	7	浅め	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線	
なし	A	12	2	1	1/4	なし	分帯	A1a	3.5		なし	隆線脇、充填装飾	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	
なし	E	11	1	1	3	なし	唐草文	A1a	7	浅め	なし	隆線→条線→沈線		
なし	A・G	10	3	1	3	なし	分帯、懸垂	A1a	6.5	浅め	なし	隆線脇、蛇行沈線	隆線→条線→沈線→蛇行沈線	
なし	A	7.5	3	1/2	1/4	なし	各種垂下文	A1a	2.5	浅め	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A	5	4.5	1	1	なし	分帯、貼付文	なし	—	—	—	—	隆線→縄文	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	7		なし	懸垂文	縄文→沈線	
なし	A・E	8~	I帯 6、II帯 1	2	1/4	なし	区画、懸垂	A1a/C3a	6/3		なし	A隆線脇、C充填	隆線→充填沈線→隆線脇・蛇行沈線	
なし	A・F	5	3	1/2	2	なし	分帯、懸垂、渦巻き	B1a	1.5	やや深め	なし	充填	隆線→沈線→隆線脇沈線	
なし	F	5	1.5	1/2	2/4	刻み、貼付	分帯、区画、懸垂文	A1a	2.5		交互刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
剥落	A・F	7	3	1/2	4	なし	分帯、区画、懸垂	A1a	3.5		なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
剥落	A・F	7	4	1	1/4	なし	分帯、弧線文	B1a	3.5以下		交互刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A・F・E	6/9/8	3/7/1	1	2/4	罫に穿孔あり	分帯、罫、渦巻き垂下文	A1a/C3a	3.5	充填深い	全竹管先端刺突	隆線脇、B充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	E	14	1以下	1	3	なし	分帯、懸垂	A1a	6	浅め	なし	隆線脇、蛇行垂下	隆線→充填条線→隆線脇・蛇行沈線	
なし	E	10	1.5	1	2/3	なし	分帯、区画、懸垂	A1a/B1a	4/2	充填深め	なし	A隆線脇、B充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	
X字状把手	E	20	1	1/2	3	なし	唐草文	A1a/B1a	8/2	浅め	なし	A隆線脇、B充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4.5	やや深め	なし	S字、懸垂ほか		
なし	A・E	13/18	5	1	2/4	なし	分帯、渦巻きほか	A1a/C3a	6/2.5	C3深め	なし	A隆線脇、C充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	赤彩
大把手剥落	F	6	5	1~2	2/4	なし	分帯、区画、懸垂、渦巻き文	A1a/B1a	5/2	区画内やや深め	沈線内再刺突	A隆線脇、B充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	C	10	2	1	3	なし	懸垂文	A1a/B1a	6/1	B1やや深め	なし	隆線脇、垂下文、B充填	隆線→充填沈線→垂下・隆線脇沈線	
なし	E	11	2	1	4	なし	分帯、懸垂	A1a/C2a	6	浅い	なし	隆線脇	隆線→充填→隆線脇沈線	
なし	A	6	4	1	4	なし	分帯、区画、懸垂、渦巻き文	A1a	4.5	浅い	なし	隆線脇、充填ほか	隆線→沈線	
耳状突起ほか	A・D	8	1.5	1	1/4	刻み、ハラ刻み	分帯、区画ほか	A1a・B1a・C3a	4.5/9.5		半竹管刺突	隆線脇、充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	
眼鏡状突起	A・F	8	4	1	4	なし	分帯、曲隆線	A1a・b	4	やや深い	玉抱き三叉文	隆線脇、充填、沈線内再押圧	隆線→沈線	
眼鏡状突起	A	10	4	1	2	刻み	区画、ソウリ虫状文	A1b/B1a	12.5/2	やや浅い	なし	隆線脇	隆線→沈線	
眼鏡状突起	A・D	10	2~4	1	4	一部刻み	ソウリ虫文ほか	A1b	7	浅め	なし	隆線脇	隆線→沈線	
眼鏡状突起	A	8	4	1	4	一部刻み	懸垂、ソウリ虫文	A1b/B1a	7/1.5	浅め	なし	隆線脇、分帯	隆線→沈線	
巴状突起	A・D	6.5/15	5以上	1	4	なし	分帯、曲隆線	C3aとC3a + A1a/B1a	7/1.5	深め	三叉文	隆線脇、充填	隆線→縄文→沈線	C3沈線をA1で二度引き
し字突起	D/F	7.5~13	2	1	1/4	RL縄文	分帯、懸垂文	A1a/C2a/C3b	3/3/9	横A1やや深い	交互刺突、沈線内刺突、刺突充填、三叉文	隆線脇、充填、器形変換線にC3b	隆線→区画沈線→充填沈線	
なし	A	8	2.5	1	1/4	貼付	曲隆線文	B1a	3.5	深い	なし	隆線脇から充填	隆線→沈線	
なし	A	8	2.5	1	2/4	刻み	懸垂文、蛇行文	A1b/B1a	11/3		なし	隆線脇キャタビラ文、波状沈線	隆線→隆線脇沈線→波状沈線	
なし	A	12	5	1	4	ハラ刻み	分帯、区画文	C3a/B1a	9/1.5	C3やや浅い	なし	隆線脇	隆線→縄文→沈線	
なし	D	12	1.5	1	1/4	交互刺突	懸垂文	C3a	4.5	やや浅い	残部挟り三叉文	パネル、充填	隆線→沈線	
渦巻状突起	H	7	4	1	6	ハラ刻み	口唇部一条	C3a/B1a?	7/1	C3深い	—	C縦位区画文、B充填	区画沈線→充填沈線	
眼鏡状突起	A	5	1.5	1	4	貼付	分帯、区画	A1b	3		玉抱き三叉文	隆線脇・波状の三角押文	隆線→沈線	
渦巻状突起	A	5	2	1	4	貼付	分帯、区画	A1b/B1b	7/2.5		玉抱き三叉文	隆線脇、波状三角押文ほか	隆線→沈線	
耳状突起	A	7	3	1	4	貼付	分帯、区画	A1b/B1b/C3a	5/3/6	C3深い	C3連続刻み	隆線脇C3か角押、充填三角押	隆線→縄文→沈線	
橋状、渦巻状突起	A	7	2	1	4	貼付	弧状、懸垂文	C3a	4	やや深い	沈線重複刺突、交互刺突、三叉文	隆線脇、B字区画	隆線→沈線	
耳状突起	A	6	2	1	2	貼付文上沈線	分帯、区画	A1a	3	浅め	なし	隆線脇ほか	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	F	13	5	1	4	刻み	棒状貼付文のみ	C2a	3	浅め	なし	分帯、区画、充填	隆線→頭部充填沈線→横位沈線・体部垂下沈線	
なし	Dほか	9	9	1	1	なし	口縁部貼付文	C3a/C2a	5	C3深い	C3は刺突に近い	口縁部充填	縄文→沈線	
なし	F	9	6	1	2/4	角押文、刻み	分帯のみ	A1b/C3b	5/8	浅め	なし	I帯角押、口唇ハラ刻み	隆線→沈線	

表32 長峯遺跡出土土器属性表(3)

図版番号	掲載土器番号	通し(復元)番号	遺構記号	遺構番号	主要出土位置	接合関係	形態の特徴					胎土	底部圧痕ほか	地文・充填装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部形態	口唇形態	底部形態					縦位分割	横位分割	分割方法
495	65	21	SB	64		別表	有孔鉤付	IV1B1	H1	A	b	白2多	磨き	なし	明赤褐	4	1	把手
495	8	284	SB	66	P1	別表	深鉢	V2	H1	A	c	白1多	粗い磨き	なし	褐灰~にぶい黄橙	I0II8	I1II1	半隆起線
496	11	85	SB	68	P12下	別表	深鉢	I3C3	H1	B	-	雲母多、白2	-	横RL縄文	赤みがかった黒褐	I0II2	I2II1	隆線
497	3	67	SB	69		別表	深鉢	I2?	H1	C	-	石英、雲母ほか	-	RL縄文	暗赤褐	?	I1II?	隆線
498	18	52	SB	69	P62	別表	深鉢	I3A3	H2	-	-	白2多	-	なし	暗赤褐	?	I1II1	隆線
499	32	68	SB	69	P14	別表	深鉢	II4A3	Y1	B	c	白1多、白2	磨き	横RL縄文 I帯RL縄文、II帯指頭圧痕	暗赤褐~黒褐	?	I2II1?	器形変換
499	33	54	SB	69	P24	別表	深鉢	III1	H1	A	b	白1多、雲母微	磨き	-	明褐~黒褐	I4II0	I1II1	沈線
499	44	56	SB	69	P40	別表	深鉢	III1	Y2	-	c	白1多、雲母微	-	-	黒褐	I4II(3)	1	波状4、垂下 文単位3
499	53	51	SB	69	埋ガメ	別表	深鉢	-	-	-	-	白1多	-	なし	明赤褐~黒褐	I?II4	?	隆線
500	63	53	SB	69	P61	別表	深鉢	I2C3	H2	-	b	白1多、白2	-	なし	赤褐	I?II?	I1II1	隆線、沈線
502	42	88	SB	70	P1	別表	深鉢	II1C3?	H2	A	-	白2岩屑、雲母微	-	指頭圧痕	暗褐	I4?	I2II2?	隆線
503	23	265	SB	71		別表	深鉢	I4C3	H1	A	-	白1多	-	横RL縄文 I帯横、II帯縦RL縄文	黒褐~明褐	なし	なし	なし
503	1	239	SB	72	炉タイ	別表	深鉢	I2? C3?	-	-	-	石英、雲母	-	-	赤褐~黒褐	I?II2(4)	I1II2	隆線
504	1	405	SB	73	埋ガメ	別表	深鉢	III2C3	H1	A	-	石英多、白1	-	なし	にぶい黄褐~褐灰	?	I2II?	隆線
504	7	404	SB	73		別表	深鉢	I2?	Y2	B	-	白1多	-	横RL縄文	赤褐	?	?	把手、半隆起線
506	8	20	SB	79	P1	別表	深鉢	?B1	-	-	b	白1、石英、雲母	-	なし	赤褐	I4II4	I?II4	隆線
506	27	31	SB	80	P1 P7	別表	深鉢	III2C3	H2	B	-	雲母多	-	I帯横、II帯縦RL縄文	赤褐~黒褐	I4?II4	I1II1	隆線、沈線、無文帯
507	1	270	SB	82	炉体	別表	深鉢	III2C3	H2	B	-	白1・2多、雲母	-	I帯横、II帯縦RL縄文	黒褐	I2II4	I2II2	隆線、沈線、無文帯
507	11	406	SB	82		別表	深鉢	I1B3	H1	B	-	白1、雲母多	-	I帯横、II帯縦RL縄文	黒褐~暗赤褐	?	I1II1	隆線
508	1	271	SB	84	炉体	別表	深鉢	I2C3	H2	-	-	雲母多	-	I帯横・II帯縦RL縄文	赤褐~黒褐	I4II4	I1II1	隆線、突起
509	10	290	SB	85	P81	別表	深鉢	I2B3	H1?	B	-	精選、白1・灰色粒	-	縦RL縄文	灰黄褐	?	I4II1	沈線
509	12	286	SB	85	P87	別表	深鉢	II1C3	-	-	b	白色岩屑	?	-	灰褐	-	I2II1	沈線
510	1	190	SB	101		別表	深鉢	I2?	H2	B	-	白1、雲母ともに微	-	横RL縄文	暗赤褐	I4II?	I2II?	突起、半隆起線
510	8	108	SB	101	P9 P43	別表	深鉢	III1C3	Y2	A	b	白1多	-	横RL縄文	明赤褐~褐灰	?	I3II2	隆線
510	18	193	SB	101	P38 P39	別表	深鉢	II2C3	H1	F	b	石英、雲母多	-	なし	赤褐	?	I1II1	隆線
511	1	307	SB	102		別表	深鉢	II3B3?	H1?	A	-	白1多	-	幅不明条線	褐灰~にぶい赤褐	?	I1II1	器形変換
511	1	324	SB	103	炉上P12	別表	深鉢	I4B3	H2	B	-	白1、岩屑多	-	幅15mm条線	黒褐~明褐	?	I1II1	隆線
512	1	326	SB	112	P1	別表	深鉢	I4?C3	H1	C	-	白1多	-	C2aか?	黄褐~黒褐	I?II4	I1II1	隆線
512	4	409	SB	114		別表	深鉢	II1?	H2	A	-	白2、石英、雲母微	-	RL縄文	にぶい赤褐	?	I2II?	隆線
513	7	577	SB	114	P2	別表	深鉢	II4C3	H2	B	-	白1多	-	縦LR縄文	黒褐	?	I2II3	隆線
513	3	294	SB	115	P1	別表	深鉢	III2C3	H2	A	-	白1	-	幅12mm?条線	黒褐~にぶい黄橙	I3II5	I2II1	隆線、沈線
514	1	358	SB	118	P1	別表	鉢	III1C1	H1	B	-	白1多	-	なし	にぶい黄橙	?	I2	隆線
514	2	109	SB	118	ピット16 P1	別表	深鉢	I3B2	H1	A	b	白1多	磨き、縄目状圧痕・回転擦痕一部にあり	C3a沈線	暗赤褐~黒褐	I0II4	I1II2	隆線、沈線
514	3	224	SB	118	P29	別表	深鉢	III2?B2	-	-	b	白1多、黒色粒 砂粒多、雲母微	木葉痕	横L縄文	にぶい黄橙	I0?II2(6)	I1II1	隆線、把手
515	5	360	SB	118	P31	別表	深鉢	?C3?	-	-	-	-	-	C2a雨だれ状	明赤褐	I?II4	I?II1	把手
515	6	359	SB	118	P3	別表	深鉢	III2C1	-	-	b	白1多	磨き	縦RL縄文	にぶい橙	?	I1II2	隆線
515	7	311	SB	118	P32	別表	深鉢	I1C1	H1	B	b	白1多	網代	縦RL縄文	にぶい黄橙	I0II2(4)	I1II1	隆線、把手
516	1	295	SB	119	フ	別表	鉢	V2	H1	A	-	白1多	-	刺突文	にぶい褐~黒褐	?	0	なし
516	2	296	SB	121	埋ガメ	別表	深鉢	I4?B3	-	-	-	白1多	-	縦LR縄文	にぶい黄橙	?	I1?II1	隆線、沈線
516	1	298	SB	123	P13	別表	壺	IV2	H1	A	-	石英、白1	-	幅不明条線orC2a	にぶい黄橙~黒褐	I0II7	I1II1?	隆線
516	1	299	SB	124	ウツメ1	別表	深鉢	IV1B1	H1	C	-	白1、雲母	-	A1a沈線	明赤褐~黒褐	I7II7	I(1)II1	隆線
517	2	312	SB	124	ウツメ2	別表	深鉢	I4B3?	H2	-	-	白1多	-	B1a沈線	黒褐	I7II7	I1II1	隆線、沈線
517	4	300	SB	124		別表	壺	IV2	H1	A	-	白1多	-	-	褐	I0II?	?	隆線
517	7	313	SB	124	P11	別表	深鉢	V1	H1	B	-	雲母多	-	A1a沈線	黒褐~暗赤褐	I4II4?	I1II1	隆線
518	4	155	SB	127	埋ガメ	別表	深鉢	I4B3	H1	A	-	白1多	-	C3a沈線	明黄褐~黒褐	I?II10	I1II1	隆線
518	1	228	SB	128	P11	別表	深鉢	?B2?	-	-	b	白1、灰色多	風化	幅10mm以上条線	明褐~黒褐	I?II6	I1?II1	隆線、沈線
518	2	329	SB	128	P4	別表	深鉢	?C3	-	-	-	白1、雲母	-	B1a沈線 (条線状部分あり)	赤褐	?	I2?II1	隆線
518	3	337	SB	128		別表	深鉢	I1C3	H1	D	-	白1、雲母微	-	縦RL縄文	暗赤褐~黒褐	?	I1II1	肥厚帯
519	4	339	SB	128	セリ山西側	別表	深鉢	I3B2?	H1	A	-	白1、雲母微	-	幅16mm条線	にぶい黄橙~黒褐	?	I1II1?	隆線
519	5	338	SB	128		別表	深鉢	I?B3?	-	-	a	白1	-	縦結束RL縄文	にぶい黄褐	I?II8?	?	沈線

隆線系装飾										沈線系装飾				施文順位	備考
把手・突起類	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・相数	隆線・貼付方法	隆線上装飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ	刺突・陰刻文、その他	沈線の用例			
橋状把手	F	7.5	8.5	1	2/4	なし	鐫	C3a	3		三角陰刻、沈線彫刻	パネル文	鐫→沈線	赤彩50	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	C3a・b/A1a/B1a	7/0.5		交互刺突	C区画、A角押充填、B充填	区画沈線→充填沈線		
耳状突起ほか	H	8	3	1	4	貼付、ハラ刻み	区画、懸垂文	C3a/A1a	7/5			隆線脇、パネル文	隆線→沈線→縄文→沈線二度引き		
—	C・D	8	2.5	1	4	なし	分帯、区画ほか	A1a	5	やや浅い	玉抱き三叉文	隆線脇、各種装飾	隆線→沈線→縄文		
なし	A・H	8	4	1	1/4	ハラ刻み、七刻み	分帯、渦巻、ソウリ虫文ほか	A1b/B1b	7.5/2.5		なし	隆線脇、区画内装飾	隆線→沈線		
なし	D	6~	1~	1	4	なし	渦巻ほか横位蛇行	A1b/B1a	7/2.5	浅い	なし	隆線脇	隆線→縄文→沈線	補修孔あり	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a/B1a	10/2.5	浅い	ナデ円文	分帯、波状文、主装飾	縄文→沈線	補修孔あり	
口唇部1	H	7	4	1	6	ハラ刻み	口唇部、垂下文	C3a/B1a	5	1.5	残部処理三角陰刻	隆線脇、パネル文、Bで充填	隆線→?→充填→パネル沈線		
なし	F・I	10	3以下	1	2	連鎖状圧痕	分帯、区画	なし	—	—	—	—	—		
橋状把手	F	12	8	1	2	なし	分帯、区画文、円文ほか	A1a・b	5		円形刺突、三叉文	各種装飾による充填	隆線→沈線	A1bは沈線内再押圧の可能性有り、在地製作焼町?	
なし	A?・F・I	8.5	2	1	4	刻み、連鎖状圧痕	分帯、区画	C2a/C3b	6		なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—		
なし	A	7	1	1	4	貼付	分帯、区画	A1a	2	やや浅い	三叉文、交互刺突	隆線脇、充填、主装飾	隆線→縄文→沈線		
なし	F	5	2	1	1/4	一部で刻み	分帯、区画	A1a	3	やや深い	隆線上刺突	隆線脇、充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線		
山形把手	C	7	3.5	1	—	なし	円文のみ	C3a・b	6	深い	沈線脇、重複連鎖刻み	分帯、充填	隆線→沈線→縄文		
体部上半部	A・F	9	6.5	1	1/2	貼付	分帯、懸垂、逆U字文	なし	—	—	—	—	—	赤彩	
なし	A	7	3.5	1	4	貼付	分帯、懸垂	A1a	3		なし	隆線脇、弧線・円文	隆線→縄文→沈線		
なし	A	7~11	3	1	1~3	縄文	分帯、懸垂	A1a	3.5	やや深い	交互刺突	横位連続、弧線文	隆線→縄文→沈線		
なし	E	9	0.2		2/4	縄文	分帯、懸垂	A1a	3		三叉文	隆線脇、弧線ほかで充填	隆線→縄文→沈線		
なし	A・B	10	0.5	1	1/4	分帯線上指押し	分帯、懸垂、円文	A1a	5		三叉文、刺突文	隆線脇、I帯弧線文	隆線→沈線→縄文		
捻り突起	H	6	2.5	1	6	貼付	縦ぎ手文	C3a/B1a	4.5/1.5	やや深い	三角陰刻、疑似蓮華突	分帯、B字状・大柄コ字文ほか	隆線→沈線→縄文		
なし	なし	—	—	—	—	—	—	C2a	3.5	浅め	なし	縦充填沈線一分帯ほか沈線	縦充填沈線一分帯ほか沈線		
耳状突起	A	7	1.5	1	1/2	貼付、刻み	分帯、区画、突起	A1b/B1b/C3a	11/6/2	C深い	なし	隆線脇、分帯、	隆線→隆線脇沈線→充填三角押文・縄文		
なし	A	9	1.5	1	2/4	貼付	分帯、区画	A1b	5	浅め	なし	隆線脇角押文	隆線→縄文→角押文		
なし	A	9	5	1	2/4	なし	分帯のみ	A1a	5		なし	隆線脇、Y字文	隆線→沈線		
なし	A	4.5	2	1	4	なし	I帯横位	なし	—	—	—	—	不明		
なし	E	9	2	1	4	なし	口縁部区画文、体部渦巻懸垂文ほか	A1a	4.5		なし	隆線脇、口唇部	隆線→条線→沈線		
なし	B・H	6	3	1~2	1	なし	分帯、懸垂文ほか、Hは口唇部裏面	C3a/C2a	5	C3深い、充填浅い	なし	充填	充填→隆線→隆線脇沈線		
なし	A・F・I	5~	4	1	1/4	刻み、連鎖状圧痕十沈線	分帯、区画	A1a/B1a	1.5/0.5	浅め	交互刺突	隆線脇、充填	隆線→縄文→沈線		
眼鏡状把手	A・F	12	5	1	2/4	刻み	分帯、区画、蛇行文	A1a/A1b/B1a/C3a		11/6/2/8	交互刺突、三叉文	隆線脇、充填	隆線→沈線		
なし	E	16	2	1	なし	沈線	擦り付け	B1a	5	深い	なし	区画文、懸垂文	体部条線→沈線→区画内沈線		
?	A・E	8/12	3	1(一部二分)	2/4	二分	区画文	A1a	3	二分沈線深い	円形刺突	隆線脇、区画内充填ほか	隆線→沈線		
渦巻き状突起	F	7	3	2	2/5	矢羽根状刻み	懸垂文	A1a/C3a/b	3.5/4	充填浅め	なし	分帯、充填	隆線→充填沈線→隆線上沈線		
X字状把手	B	11	9	1	1	なし	分帯蛇行線	B1a	2.5	深い	なし	蛇行垂下線	隆線→縄文→垂下沈線		
X字状把手	D	20	3	1(3~4分)	4/6	3~4分	弧線・渦巻きほか	C3・2a	7	隆線上深い	なし	隆線上・脇、雨だれ状充填	隆線→隆線脇・脇沈線→充填沈線		
X字状把手	A	10~15	1~13	1(二分)	2/4	二分	分帯、区画文	A1a、C3a	4	やや浅い	なし	隆線上・脇、C3充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
X字状把手	A	7	3	2	1/2	なし	分帯ほか	A1a	7	深い	把手上ハラ刻み	X字把手上	隆線→縄文		
眼鏡状把手	E	8~20	0.5	1	2/4	なし	不整形区画ほか	A1a	3		充填刺突	隆線脇、把手上	隆線→刺突→隆線脇沈線	赤彩305	
なし	A	11	3	1	3	なし	区画、渦巻文	A1a	6	浅い	なし	隆線脇、懸垂	隆線→縄文→沈線		
なし	C・E	11	3	1	4	なし	渦巻き文ほか	A1a	8	やや浅い	なし	隆線脇	隆線→条線→隆線脇沈線	下半部打ち欠き、一部磨耗	
なし	A・F	5.5	3	1~3	2~4	一部で刻み	分帯、唐草文	A1a	4	やや浅い	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	隆線脇沈線施文後、充填沈線の追加あり	
なし	C	15	4	1(三分)	1/4	沈線で二分	I帯弧文	A1a・B1a	6/2	B1深い	なし	隆線脇、懸垂、充填ほか	隆線→懸垂沈線→充填沈線→蛇行沈線		
なし	E・F	11	1.5	1	1/4	なし	区画文?	A1a/C2a?	10/2	浅め	なし	隆線脇、C2充填	隆線→充填→隆線脇沈線	下半部打ち欠痕	
なし	A・F	8	5	1~2	4	貼付	分帯、懸垂、区画文	A1a	4.5		なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	C・E	7~13	3以下	1~2	3	なし	分帯、渦巻文	A1a/C3b	8	浅い	なし	隆線脇、垂下、充填	隆線→充填→沈線	打ち欠きあり	
なし	A	8	2.5	3	4	なし	分帯	A1a	3		沈線内再刺突	隆線脇、S字など	隆線→充填→沈線	打ち欠きあり	
なし	A・B	7	3	1/2	—	なし	分帯、懸垂ほか	B1a/A1a	2/4	頭部充填深い	沈線内再刺突	隆線脇、充填(体部一部で条線状)	基軸隆線→充填沈線→蛇行隆線など		
なし	なし	—	—	—	1	—	—	A1a	2		なし	区画、垂下文	縄文→沈線		
なし	A	6	3	2	4	貼付	分帯、区画	A1a	3~4		沈線内再刺突	隆線脇、充填(細め)	隆線→充填沈線→隆線脇沈線		
なし	なし	—	—	—	—	—	—	C2a	10	浅め	なし	懸垂文	縄文→沈線		

表32 長峯遺跡出土土器属性表(4)

図版番号	掲載土器番号	通し(復元)番号	遺構記号	遺構番号	主要出土位置	接合関係	形態の特徴					胎土	底部圧痕ほか	地文・充填装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部形態	口唇形態	底部形態					縦位分割	横位分割	分割方法
520	1	315	SB	133	炉	別表	深鉢	?B2?	—	—	—	白2岩屑	—	縦LR縄文	にぶい黄橙	I?II2?	?	沈線装飾
520	3	380	SB	133	炉P4	別表	深鉢	Ⅲ1C2	H1	B	b	白1多	—	C2a沈線	にぶい黄橙～黒褐	I0II4	I2II1	隆線、肥厚帯
520	5	314	SB	133	P11	別表	深鉢	V2	H1	—	b	白1岩屑	回転擦痕	縦RL縄文	暗赤褐	0	1	なし
520	1	343	SB	134		別表	深鉢	II4B3	—	—	—	白2岩屑、雲母	—	B1a沈線	暗赤褐	I?II3	I2?II1	隆線
520	2	385	SB	134		別表	深鉢	I5?	H2	D	—	石英、雲母	—	縦LR縄文	暗赤褐～黒褐	?	I1II1?	隆線
520	3	384	SB	134	P28	別表	深鉢	I5B3?	H2	—	—	石英、雲母	—	縦LR縄文	暗赤褐～黒褐	?	I2II1	隆線、沈線
521	6	342	SB	134	P33	別表	深鉢	II4B3	—	—	b	精選、白1	—	C3a沈線	にぶい黄橙	I?II4?	I3II1	隆線
521	2	305	SB	135	P2	別表	深鉢	I4B3	H1	A	—	白2多、石英	—	斜R縄文	にぶい黄橙～褐灰	I?II8	I1II1	隆線、沈線
521	3	345	SB	135	P7	別表	深鉢	I4B3	H1	A	—	白1多	—	なし	にぶい黄橙～黒褐	なし	なし	なし
521	2	387	SB	138	P26	別表	深鉢	I5B3	H1	E	—	石英、雲母	—	A1a沈線	暗赤褐	I?II4	I1II3	隆線
521	3	347	SB	138	P19	別表	深鉢	I3B3	H2	—	—	白1多	—	縦RL縄文	暗赤褐	?	I2?II1	隆線、沈線
522	7	348	SB	138	P18	別表	深鉢	Ⅲ2?	H2	B	—	白1多	—	I帯横、II帯縦RL縄文	暗赤褐	?	I1II?	隆線
522	1	349	SB	139	P3	別表	深鉢	I4C3	H2	—	b	白1・白2ほか	磨き	縦LR縄文	にぶい黄橙～褐灰	I?II6	I1II1	隆線
522	4	331	SB	139	P26	別表	深鉢	I4B3	H1	A	—	白1、灰色	—	幅11mm?条線	黒褐～暗赤褐	?	I1II	沈線
523	5	330	SB	139		別表	深鉢	Ⅲ2?	H1	A	—	白1多	—	幅18mm条線	褐灰～黒褐	I0II?	I1II1	隆線、沈線
523	8	100	SB	139	P1	別表	無頸壺	IV2?	H2	—	b	精選、白1	磨き、削り	なし	にぶい黄橙	?	I2II1	隆線
523	7	101	SB	140	SB140 P4	別表	深鉢	II4B3	H2	—	b	石英、雲母	磨き	なし	暗赤褐～黒褐	I?II4	I2II2	隆線
525	1	355	SB	144	P5.7.8	別表	深鉢	I4B3	H1	A	—	白1多	—	列点	明褐～褐灰	I0II5?	I2II1	隆線、沈線
525	3	495	SB	144	P3	別表	深鉢	I2A3	H2	A	—	白1多	—	横・斜RL縄文	暗赤褐～暗褐	?	I2II1	隆線、沈線
526	1	363	SB	145	P3	別表	深鉢	I4B2	H2	A	—	白1ほか	—	縦RL縄文	明褐～褐灰	I4?	I1II1	隆線、突起
527	1	5	SB	149	SB148?ガメ外	別表	深鉢	I4B3	H2	A	—	白1多	—	縦LR縄文	明黄褐～灰黄褐	I4?II10	I1II1	隆線
527	2	4	SB	149	SB148?ガメ内	別表	深鉢	I4B3?	H2	A	—	白1多	—	I帯横、II帯縦RL縄文	にぶい黄橙	I4II6	I1II1	隆線、沈線
527	1	372	SB	151	埋ガメ	別表	深鉢	I4B3	H1	C	—	白1多	—	横RL縄文	暗赤褐～黒褐	I0II4	I1II2	隆線
527	1	269	SB	152	埋ガメ	別表	深鉢	Ⅲ2B3?	H1	B	—	白1多	—	C3aか?	にぶい黄橙～黒褐	I0II5	I1II1?	把手
528	5	65	SB	156	P104	別表	深鉢	I6?C3	H2	B	—	白1・2多、雲母微	—	なし	暗赤褐～黒褐	I?II7	I2II2	隆線
529	12	58	SB	156	P103	別表	深鉢	I6C3	H2	B	c	白1多	磨き	なし	明赤褐	I4II6	I2II3	突起、区画文
529	14	365	SB	156	P101	別表	深鉢	I2C3	H2	B	—	白1多、雲母	—	なし	暗赤褐	?	I2II2?	隆線
529	22	482	SB	156		別表	深鉢	V2	H1	A	—	白1多、雲母微	—	なし	暗赤褐	?	1	隆線
529	23	60	SB	156	P107	別表	深鉢	?B3	—	—	b	白1、灰色岩屑	磨き、一部網代残	B1a沈線	にぶい赤褐	?	?	隆線
529	24	59	SB	156	P105	別表	深鉢	II4?B3	—	—	b	白1ほか	磨き	横RL縄文	黒褐	I?II7	I2?II1	沈線
531	51	366	SB	156	セシ北西	別表	深鉢	Ⅲ1C3	H1	B	—	白1多	—	斜RL縄文	にぶい橙	なし	I1II2	縄文の有無
531	1	375	SB	157	P9	別表	深鉢	I4B3	H1	C	—	黒粒多、雲母	—	横B1a沈線	黒褐～赤褐	I6II6	I1II1	隆線
531	2	411	SB	158	P15	別表	深鉢	I4?	H2	—	—	白1、灰色粒	—	縦LR縄文、軸?●	黒褐	?	I1II1	隆線装飾の有無
532	1	414	SB	161	ピット5P1	別表	深鉢	V2	H2	A	b	白1、雲母	ナデ、磨き	縦LR縄文	暗赤褐～黒褐	—	—	—
532	2	102	SB	161	ピット20 P1	別表	深鉢	I2?C3	—	—	—	石英、雲母	—	横RL縄文	暗赤褐～黒褐	I?II5?	I?II1	隆線
532	5	156	SB	161	P11	別表	深鉢	I4?	H1	—	—	石英、雲母、白1	—	幅13mm?条線	明褐～にぶい黄橙	I4II8	I1II1?	隆線
533	5	417	SB	162		別表	深鉢	I?C3	—	—	—	白1多	—	B1a沈線	灰褐	?	I?II1	隆線
533	1	420	SB	164	南側上層舎	別表	深鉢	II4B3?	H1	A	—	石英、雲母多	—	C4a沈線	暗赤褐～黒褐	I?II4	I2II1	隆線
533	2	122	SB	164	P37	別表	深鉢	I2B3	H1	B	—	白1、灰色粒多	—	縦L縄文	明黄褐～明褐	I0II7	I1II2	半隆起線、隆線
533	3	124	SB	164	P39	別表	深鉢	II1B3	H1	A	—	白1、灰色粒ほか	—	C2a沈線	にぶい黄橙	I0II2	I1II2	隆線
533	4	123	SB	164	P38	別表	深鉢	I2B3	H1	A	—	白1多	—	B1a沈線(C2?)	明褐～褐灰	I0II6	I1II1	隆線
533	5	419	SB	164	P35	別表	深鉢	II4B2?	—	—	—	白2岩屑、雲母	—	C3a沈線	にぶい赤褐	I?II4	I?II1	隆線
533	6	421	SB	164	SB164	別表	深鉢	II4B2?	—	—	—	白1多	—	B1a沈線	にぶい黄橙～黒褐	?	I2II2	隆線
533	7	418	SB	164		別表	深鉢	?C3	—	—	b	白1多	磨き	横RL縄文	暗赤褐	I?II4	I?II1	隆線
534	1	61	SB	166	P1	別表	有孔蹄付き	II4B1	H1	A	b	白1、雲母	不明圧痕	なし	灰褐～黒褐	0	I1II1	隆線
534	2	145	SB	167	P117	別表	深鉢	I2B3	H1	A	—	砂粒多、白1	—	縦LR縄文	明赤褐～にぶい黄橙	I4II8	I1II1	隆線、沈線
534	3	425	SB	168	P18	別表	深鉢	I4C3	H1	C	b	白1粒多	—	C3a?風化で不明	暗赤褐～黒褐(褐灰)	I2II4	I2II2	縦は把手・突起で見た場合
534	5	2	SB	168	P34	別表	深鉢	I6C2	H2	E	—	砂粒多、白1	—	C3a沈線	暗赤褐～黒褐	I4II7	I2II1	隆線、突起
535	6	125	SB	168	P33	別表	深鉢	I3C2	H1	A	—	白1粒、雲母微	—	縦LR縄文	褐	I0II3	I2II1	沈線
535	10	335	SB	168		別表	深鉢	II1B3?	H1	A	—	白1.2	—	横結束RL縄文	褐～褐灰	I4II4	1	貼付文、沈線
535	1	390	SB	169		別表	深鉢	Ⅲ2C3	H1	C	—	白1・2多	—	B1a沈線	明赤褐～灰褐	?	I2II1	隆線
536	2	116	SB	172	P45	別表	深鉢	I2B3	H2	—	—	白1、岩屑	—	体部縦RL縄文	黒褐	I4II0	I1II1	隆線
536	4	436	SB	172	P44	別表	深鉢	Ⅲ2C1	H1	A	—	白1多	—	縦LR縄文	暗赤褐～黒褐	?	I1II2	C3a沈線
536	5	435	SB	172	P1	別表	深鉢	II1B3	H1?	A	b	白1	網代	縦RL縄文	褐～黒褐	?II8	I2II2	隆線、沈線
537	1	157	SB	175	埋ガメ	別表	深鉢	I4C2	H?	C?	—	白1粒	—	ごく一部に縄文あり	にぶい橙	I?II2	I2II1	器形変換線

把手・突起部	隆線系装飾						沈線系装飾						施文順位	備考
	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・粗数	隆線・貼付方法	隆線上装飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ	刺突・隆刻文、その他	沈線の用例		
なし	A	8	4	1/2	1/4	なし	分帯、懸垂	A1a	3	やや浅い	なし	垂下十弧線文 隆線脇、蛇行垂下、C2充填	縄文→沈線 隆線→充填沈線→隆線脇 垂下沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
橋状把手 口唇部	A・B	8/3	5/2.5	1	2/4	貼付	分帯、懸垂、竊目充填	B1a	1.5	深い	なし	充填、隆線脇はわずか	隆線→沈線→竊目隆線	
	A	8	3	1/2	4	なし	分帯、懸垂	B1a/C3a	2/5	B1深め	なし	隆線脇、B1充填	隆線・縄文→沈線	
なし	A・F	7	6	2	1/4	なし	区画文	A1a/C3a	5.5	C3深い	なし	隆線脇、充填、弧状文	隆線→充填沈線→隆線脇	
	A・B	7	2	1	1/4	貼付	分帯、区画、渦巻き文など	A1a/C3a	3.5	やや深い	なし	A1a+b隆線脇、C3充填	隆線→充填沈線→隆線脇	
なし	E	8	1	1	1/4	沈線かかる	分帯/区画	A1a	5	—	なし	隆線脇、蛇行垂下文	隆線→縄文→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
?	A・B	6	2	1/2	1/4	なし	分帯、懸垂、波状充填	A1a	3.5	再刺突部深い	沈線内再刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇	
	A	単独部剥落	?	1?	1	貼付	垂下文	A1a/B1a	6/2	B1深い	なし	分帯、垂下ほか	縄文→隆線→沈線	
なし	A	7	3.5	2	1/4	なし	分帯/区画、渦巻き文	A1a	3.5	—	なし	隆線脇	隆線→縄文→沈線	
	E・G	14以下	3.5以下	1	2/4	なし	分帯、懸垂	A1a	4	浅い	なし	隆線脇	隆線・縄文→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	5.5	浅い	なし	分帯、懸垂文	条線→沈線	
なし	E	15	2	1	4	なし	懸垂文	A1a/B1a	7/3	分帯深め	なし	分帯、隆線脇、蛇行沈線	隆線・条線→隆線脇・蛇行沈線	
突起	A・E	7以上	1~5	1	2/4	なし	分帯、渦巻き文ほか	A1a	7	—	なし	隆線脇	隆線→沈線	赤彩384
9字突起	A・I	9/19	3以上	1	1/4	連続状押圧十沈線	分帯、懸垂文	C2・3a	4.5	やや深い	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇	
	なし	A・B	11/5	3/2.5	1/2	1/2	なし	波状文、U字文ほか	C3a	7	やや深い	列点状刺突	分帯、頭部充填、体部列点充填	頭部充填→分帯沈線→隆線→列点
逆し字突起	A	9/23	4/12	1(二分)	1/4	太隆線は二分	I帯区画	A1a	4	浅い	なし	隆線脇、分帯、体部で渦巻き文	隆線→縄文→沈線	
	A	9	3	2	1	突起部二分	I帯区画	A1a	5	深い	なし	隆線二分	縄文→隆線→沈線	
なし	A	5~8	3~5	1/2	1/4	なし	I帯区画、渦巻き文	A1a	7	浅い	なし	隆線脇、懸垂	隆線→縄文→沈線	SB149に変更
なし	E	5~11	0.5	1	3	なし	I帯区画、渦巻き文	A1a	7	浅い	なし	隆線脇、懸垂	隆線→縄文→沈線	SB149に変更
なし X字状把手 口唇部小突起	B	5	2	1	1	なし	波状	C3a	4.5	—	なし	横位分帯	縄文・沈線→隆線	
	E	13.5	2	2	3	なし	唐草文	A1a・C3a?	9/3	A1浅い	なし	隆線脇、C3充填	隆線・充填沈線→隆線脇沈線	
口唇部小突起 眼鏡状突起	A・D	7.5/10	4~	1	4	I帯でハラ刻み	分帯、区画文	A1b	8	やや浅め	なし	角状押圧、三角押文	隆線→沈線	
	A・D	5~7	1~4	1	4	一部刻み	分帯、区画	A1a/B1b/C3a	5/1/7/5	やや浅め	三叉文	隆線脇三角押文、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A	6	4	1	1/4	なし	分帯、区画ほか	A1b/B1a	6.5/2	やや深い	なし	隆線脇角・三角押圧、積波状	隆線→沈線	赤311
なし	A	8	2.5	1	1	刻み	懸垂文	C3a/B1a	6/1	C3深め	円形刺突、沈線脇刺突	隆線脇、区画、その他	隆線→沈線	
眼鏡状突起	A・H	6	2	1	2/4	刻み、ハラ刻み	分帯、懸垂	C2a/B1a	5/0.5	C2深い	区画隅を三角陰刻	隆線脇、区画、B1a充填	隆線→沈線→充填沈線→隆線上刻み	
	なし	—	—	—	—	—	—	C3a	5	横やや深め	区画隅を三角陰刻	区画、分帯	縄文→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
なし	A	7	2	1/2	4	なし	区画、懸垂、渦巻き文	A1a/B1a	3.5/1.5	Bがやや深い	なし	A隆線脇、B充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
	B	8.5	4.5	1	1	なし	蛇行、渦巻き文	なし	—	—	—	—	縄文→隆線	
	なし	—	—	—	—	—	—	なし	—	—	—	—	—	
	A	8	6以下	1	4	一部刻み沈線	分帯、クラシ、渦巻き垂下文	C3a	5	深い	なし	隆線脇	隆線→縄文→隆線脇沈線→隆線刻み沈線	
	A	8	3	2	2/4	なし	区画文、渦巻き文	A1a/B1a	3/2	—	なし	Aは隆線脇と懸垂、BはI帯充填と蛇行懸垂	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
	A	6.5	3	1	1/4	なし	分帯、懸垂	A1a/B1a	5/2	やや深い	交互刺突	隆線脇、充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	
	A	7	2	1/2	1	なし	分帯、区画、懸垂	C3a/A1b	5	やや浅め	なし	A1b隆線脇、C3充填	充填沈線→隆線→隆線脇押し引き	
なし	B	7	3	1	1	なし	蛇行懸垂文	C3a+A1a	8/4	深い	なし	分帯	縄文→沈線→隆線	
なし	B	4.5	2.5	2	1/5	ハラ刻み	分帯、垂下文	C2a	6	浅い	なし	充填	隆線→沈線→波状隆線	
	A・D	8~	3	1	3/4	刻み、貼付	分帯、懸垂	A1a、B1a	4/2.5	充填やや浅め	なし	隆線脇、B充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A	5/10	3.5/6	1	1/4	連続状押圧	分帯、懸垂、波状	C3a/A1b	3.5	—	なし	A1b隆線脇、C3充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線→隆線上加工	
なし	A	6	2	1~3	1/4	貼付	分帯、懸垂	B1a・b	2	深い	なし	隆線脇、充填	隆線→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	3.5	—	なし	分帯、懸垂ほか	縄文→沈線	
	F	11	5	1	2	なし	罫	なし	—	—	—	—	罫→穿孔	
なし	D・F	8~	1.5~	1/2	1/3	なし	I帯区画、渦巻き文	A1a	4.5	浅い	なし	隆線脇、懸垂	隆線→縄文→沈線	
剥落	B	5	2	1	1	なし	蛇行懸垂文	C3a	5	やや浅い	なし	充填	沈線→隆線	
X字状把手	B	3	1.5	1	1	なし	分帯、懸垂、竊目文	C3a	3	I帯深い、II帯充填浅い	なし	充填	沈線→隆線	
	なし	なし	—	—	—	—	—	A1a	3	浅い	交互刺突文	分帯、懸垂文	縄文→沈線	
なし	A	7.5	4	1	1/4	なし	貼付文のみ	C3a	6	—	なし	懸垂文	縄文→沈線→貼付文	
	A	8	3	1/2	4	なし	分帯、垂下文	A1a/B1a	5/2	隆線脇深い	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
	A・B	12/5	5/2	2	1/2/3	なし	分帯、区画、渦巻き文	A1a/C3a	4.5/3	浅い	なし	Aは隆線の押さ、CはI帯充填	A隆線→充填沈線→縄文→B隆線→隆線脇沈線	
なし	F	7	2	2	—	なし	半円文	C3a	7	やや浅い	なし	分帯	隆線→縄文→隆線	
なし	F	9	6	2	1	なし	I帯分帯	C2a	5	やや浅い	なし	分帯、懸垂	隆線・縄文→縦位沈線→分帯沈線	
剥落	C	12	4	1	2/4	なし	口唇部	A1a	2	やや浅め	なし	区画、渦巻き文	重複部なく不明	打ち割り



表32 長峯遺跡出土土器属性表 (5)

図版番号	掲載土器番号	通し(復元)番号	遺構記号	遺構番号	主要出土位置	接合関係	形態の特徴					胎土	底部圧痕ほか	地文・充填装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部形態	口唇形態	底部形態					縦位分割	横位分割	分割方法
537	10	78	SB	176	SB176 ピット24 P1	別表	深鉢	I 4C3	H2	B	b	白1多	—	なし	明赤褐	?	I 2 II 3	隆線
538	15	49	SB	176	P3	別表	深鉢	II 4C3	Y2	B	d	白2多	—	なし	黄褐～褐灰	I 4 II 4	I 3 II 2	隆線
538	21	136	SB	176	P9	別表	深鉢	III 2A3	H2	B	d	白1多	—	縦多条RL 縹文	赤褐	?	I 2 II 1	隆線
539	24	47	SB	176	SB176 P 2	別表	深鉢	III 2C1	H2	B	b	白1、雲母	磨き	指頭圧痕	暗赤褐～黒褐	I 4 II 2	I 2 II 2	沈線、隆線
539	32	48	SB	176	P4	別表	深鉢	I 2C3	Y1	B	d	白1多	不明痕 跡有	縦RL縹文	にぶい黄褐～褐灰	I 4 II 0	I 2 II 1	隆線、波状 口縁
540	38	429	SB	176	サレ	別表	深鉢	I 4C3	Y1	A	—	白2岩屑、雲 母・石英微	—	横RL縹文	黒褐	I 4?	0	波状口縁
540	39	77	SB	176	P31	別表	深鉢	II 4C3	H2	A	d	白2多、雲母	一部縹 目残	斜RL縹文	にぶい赤褐	I 4 II 0	I 2 II 1	突起、隆線
540	43	81	SB	176	P1	別表	深鉢	III 2C3	H2	B	b	白1多	磨き	横RL縹文	黒褐	I 1 II 2	I 1 II 1	隆線
541	49	76	SB	176	P7	別表	深鉢	III 2C3	H1	F	b	白1多	磨き	なし	にぶい褐	?	1	沈線
541	56	80	SB	176	P18	別表	深鉢	I 6C3	H2	D	b	石英・雲母多	—	なし	赤褐～暗赤褐	I ? II 4?	I 1 II 1	隆線
541	66	79	SB	176		別表	深鉢	? B3	—	—	b	白2岩屑多	磨き	なし	にぶい黄褐～褐灰	?	I ? II 1	隆線
542	74	89	SB	176	P12・P15	別表	深鉢 有孔 付き	V 3	H1	B	—	白1多	—	なし	にぶい褐	?	I 1 II ?	隆線
542	7	146	SB	180	サレ	別表	深鉢	II 1B3?	H1	A	—	白1多	—	なし	明赤褐～黒褐	I 0 II 6	I 1 II 2?	隆線
543	10	441	SB	181	P8	別表	深鉢	III 2B2?	Y1?	A	—	白2岩屑多	—	なし	にぶい黄褐～黒褐	I ? II 4?	I 1 II 1	隆線
545	2	3	SB	186	ウカメ	別表	深鉢	I 4B2	H1	B	—	白1・2、雲母微	—	幅12mm以 上条線	褐灰～黒褐	I 0 II 4	I 1 II 1	器形変換
545	3	451	SB	186	P26	別表	深鉢	I 3C3	H1	—	—	砂粒多 白2岩屑多、雲 母微	—	RL縹文	暗赤褐	I 5 II 10	I 1 II 1	隆線、沈線
546	12	127	SB	180	P1	別表	深鉢	I 2C2	Y1	B	b	白1、雲母	磨き	なし	にぶい黄褐～褐灰	I 4 ? II 12	I 2 II 1	隆線
547	1	303	SB	126	P18	別表	深鉢	I 5B3	H2	E	—	白、灰色粒	—	C3a沈線	赤褐～黒褐	I 4 II 4	I 2 II 1	隆線
547	5	96	SB	190	ピット3P-1	別表	深鉢	III 1C2	H1	A	b	白1、雲母	磨き	なし	黒褐	I 0 II 2	I 1 II 1	隆線、沈線
547	2	454	SB	195	ピット4 P1	別表	深鉢	I 2C3	H2	C	a	白1、雲母	磨き	なし	灰黄	I 4	—	貼付文
548	30	453	SB	195		別表	深鉢	I 4B3	H2	B	—	白1	—	なし	褐灰	?	?	隆線、把手
548	1	159	SB	196	埋カメ	別表	深鉢	I 4B3	H1	B	—	雲母多	—	B1a沈線	黒褐～暗赤褐	I 8 II 7	I 1 II 1	隆線
548	2	447	SB	196	埋カメ	別表	深鉢	? C2?	—	—	—	白1多	—	B1a沈線	赤褐	I ? II 4	I 2 ? II 2	隆線
549	3	158	SB	196	埋カメ2	別表	深鉢	V 1	H1	C	—	白1多	—	B1a沈線	灰黄褐～黒褐	I 4 ? II 4?	I 2 II 1	隆線
550	4	455	SB	200	埋カメ内側	別表	深鉢	—	—	—	—	精選、白1微	—	C2a	黒褐～灰褐	I ? II 4	I ? II 1?	把手、流体
551	1	63	SB	203	SB203 P2	別表	深鉢	I 1C3	H2	A	—	雲母多、白1ほ か	—	指頭圧痕	赤褐	I 4 II 0	I 1 II 1	貼付文、押 引文
551	2	62	SB	203	P1	別表	深鉢	III 1C3	H1	A	b	白1、雲母と石 英微	磨	なし	褐	なし	なし	—
551	1	128	SB	204	P10	別表	深鉢	I 2B3	H1	B	—	白1、灰色粒多	—	C3a沈線	赤褐～にぶい黄褐	I 0 II 2(4)	I 2 II 1	隆線
552	1	589	SB	206	P1	別表	深鉢	V 1	H2	C	—	白1多	—	B1a沈線	にぶい褐～黒褐	?	I 2 II 1	隆線
552	2	172	SB	209	SB209P1	別表	深鉢	I 2B3	H2	B	b	白1、灰色岩屑 ほか	磨き	C3a沈線	赤褐～褐	I 4 ? II 2	I 2 II 1	把手、隆線
553	12	739	SB	211		別表	深鉢	? B3	—	—	—	白1・2 石英・雲母、白 2少	—	C2～B1a	にぶい黄褐	I ? II 4	I ? II 1?	沈線装飾
553	1	525	SB	214	ピット18	別表	深鉢	I 2A3	Y2	B	d	白1多	磨き	なし	にぶい褐	I 4 II 3	I 2 II 1	把手、隆線
553	4	104	SB	214	P4	別表	深鉢	I 3C3	H2	B	b	白2、雲母ほか	磨き、一 部回転 擦痕残	斜RL縹文	にぶい褐	I 1 II 0	なし	—
553	6	105	SB	214	P21	別表	深鉢	I 2B3	H2	B	—	白1多	—	なし	明赤褐	?	I 2 II 1	隆線
554	30	117	SB	214	P19	別表	深鉢	II 1B3	Y1	A	b	白1、岩屑	ナデる 程度	なし	にぶい黄褐	I 4 II 4	I 2 II 1	隆線
554	33	106	SB	214	南東ト	別表	深鉢	II 3C3	Y2	B	b	石英、白2	磨き	なし	にぶい黄褐～灰黄 褐	I ? II 5	I 2 II 1	隆線
554	1	147	SB	215	炉P3	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	—	白1粒	—	幅14mm条 線	にぶい黄褐～褐灰	なし	I 1 II 1	口縁部肥厚
554	3	591	SB	215	P10	別表	深鉢	III 1C3	H1	A	—	白1粒	—	幅15mm条 線縹施文	赤褐	なし	I 1 II 1	沈線
554	4	592	SB	215	P6	別表	深鉢	I 3B3	H1	A	b	白1多、雲母	網代	なし	暗赤褐	なし	なし	—
556	31	139	SB	218	P26	別表	深鉢	? C3	—	—	b	石英・雲母	磨き	縦RL縹文	赤褐	I ? II 4	I 2 II 2	隆線
557	6	225	SB	223	P1	別表	深鉢	I 6B3	Y2	E	d	白1多、雲母微	磨き、回 転擦痕 微	C3a沈線	にぶい褐	I 4 II 2	I 2 II 1	把手、隆線
557	18	601	SB	223	P24	別表	深鉢	III 1C3	H1	A	b	白1多	—	縦RL縹文	暗赤褐	0	I 1 II 1	沈線
558	25	130	SB	223	P53 P79	別表	深鉢	? B3?	—	—	—	白1多	—	C3a縦位沈 線	にぶい褐	I ? II 4	I ? II 2	貼付文、沈 線文
558	26	141	SB	223		別表	深鉢	? C3	—	—	—	白1、灰色粒多	—	C3a沈線	黒褐	I ? II 2	I ? II 1	隆線
558	27	461	SB	223	P12	別表	深鉢	I 4B1	H2	A	—	精選、白1微	—	C3a縦位沈 線	暗赤褐	I 2 ? II 4	I 1 II 1	隆線
558	28	227	SB	223	南北ト SB223	別表	深鉢	? B3?	—	—	b	白1多	磨き	C3a沈線	暗赤褐～黒褐	I ? II 4	I ? II 2	隆線
558	29	458	SB	223	P101	別表	深鉢	? B3?	—	—	b	精選、白1微	磨き	縦位沈線	明赤褐～褐灰	I ? II 2	I ? II 1	隆線
558	30	459	SB	223	P100	別表	深鉢 台付き?	III 2C3	—	—	—	白1多ほか	—	沈線	明赤褐	I ? II 4?	I 1 II 1	隆線、沈線
558	32	460	SB	223	SB223	別表	深鉢 台付き	III 2B2	H2	A	f	石英・雲母、白 1	—	沈線	明赤褐	I 1 II 4	I 1 II 1	隆線、沈線
558	33	118	SB	223	P22	別表	深鉢 台付き	III 2C3	H1	A	f	白1多	ナデ	縦RL縹文	暗赤褐	I ? II 3	I 1 II 1	隆線
558	34	103	SB	223	P98	別表	深鉢	I 4B3	H1	A	—	白1多	—	?縹文	赤褐～黒褐	I 0 II 2(4?)	I 1 II 1	隆線
558	35	745	SB	223		別表	深鉢	? A3	—	—	b	白1多	縹目残 微かに 網代状 の圧痕	縦RL縹文	赤褐	I ? II 3	?	隆線
559	1	593	SB	224	P3	別表	深鉢	V 1	H1	A	e	白1・2多、石 英・雲母微	—	なし	赤褐	なし	なし	—



把手・突起類	隆線系裝飾						沈線系裝飾					施文順位	備考	
	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・組数	隆線・貼付方法	隆線上裝飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ	刺突・隆刻文、その他			沈線の用例
円形突起	A	10	1.5	1	2/4	刻み	分帯、区画	A1b/B1a/C3a	9/1.5/7			隆線脇、頭部充填	隆線→隆線脇沈線→波状沈線	
眼鏡状突起	A・C・H	10/17	2	1	4	刻み、ハラ刻み	分帯、区画	A1b・a、B1a	9/6/3	隆線脇深い	交互刺突、三叉文	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
口唇大突起1	A/D	12	1.5~6	1	2/4	刻み、突起部沈線	区画	A1a/B1a	4.5/2	やや浅い	交互沈線	隆線脇、裝飾充填	隆線→沈線→沈線	
口唇部4単位	C・D	14~	3	1	2/3	沈線文、交互刻み	抽象文、区画文	A1b・a、B1a	20/6/3.5	浅い	円形刺突、三叉文	隆線脇、隆線上、区画内充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線(二度引きか?)	
	A・C	15	3.5~	1		刻み	分帯、区画、円文	A1a・B1a	3/2	充填深い	交互刺突、三叉文	隆線脇、充填裝飾	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-	-	口縁折り返し→縄文	
3/4分眼鏡状突起	C	9	2.5	1	2/4	刻み	分帯、区画	B1a	1.5	やや深い	交互刺突	隆線脇、区画内裝飾充填	隆線→縄文→隆線脇沈線→充填沈線	
口唇大突起1	H	9	5.5	1		ハラ刻み	分帯、垂下文	A1b/B1a	9.5/2.5	やや浅い	突起部に三叉文	隆線脇	隆線→縄文→隆線脇沈線	
なし	なし	-	-	-	2/4	-	-	C3a、B1a、A1a	4.5/1/4	充填やや浅い	交互三叉・刻み	C3区画、B1充填、	区画沈線→充填沈線	C3にA1沈線二度引きあり
橋状、眼鏡状突起ほか	A・F	5	2/5.5	1	1/4	貼付、沈線	分帯、曲隆線	B1a	2	深い	玉抱き三叉文	隆線脇、充填	隆線→沈線	
なし	A	8	3	1	4	連鎖状圧痕	分帯	なし	-	-	-	-	-	
なし	H	7	2	1	4	刻み	分帯、懸垂	C3a、B1a	5/2	やや深め	残部処理三角陰刻	隆線脇、区画、区画内裝飾充填	隆線→充填沈線→区画沈線→折り消し	赤彩
なし	A/F	8	3	1	2/5	連鎖状圧痕	分帯、区画	C3a	7.5	深い	なし	I帯短沈線連鎖施文	沈線と隆線の重複部分なし	補修孔あり
なし	C	8	1	1	4	連鎖状圧痕、刻み	分帯、区画	A1a・b	3		充填は刺突に近い	隆線脇、充填角押文	隆線→沈線	
X字状把手	E	17	1	1		なし	唐草文	A1a	12	浅い	なし	隆線脇	隆線→条線→沈線	
なし	A	8	4.5	2	1/3	なし	分帯、渦巻文	A1a	9/3	浅い	なし	隆線脇幅広、垂下線幅狭	隆線→縄文→沈線	
なし	B/G	3/6	2	1	1/4	連鎖状圧痕、刻み	分帯、区画	A1b	2.5		なし	隆線脇、充填角押文	隆線→沈線	
なし	A・B	7	1	1	1/4	貼付	分帯、懸垂、褶曲文	A1a・b、C3a	3	Cやや深い	なし	隆線脇、区画内角押、Cで充填	隆線→条線→隆線脇沈線	
なし	A・D	3.5/20	2	1	4	三角押文、三叉文	区画、抽象文	A1b/B1b	5.5/2.5		三叉文	隆線脇	隆線→沈線	
橋状把手	A	5	2.5	1	1	なし	棒状貼付	なし	-	-	-	-	貼付→縄文	
なし	A	9/11	3	1	1/4	刻み、貼付	分帯、区画	A1a	2	浅め	なし	隆線脇、区画内充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	二次的に高温焼成灰色化
なし	B・F	7	3.5	1~3	3/4	なし	区画、懸垂文	A1a/B1a	5/2.5	B深い	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A	5	3	2	4	なし	分帯、懸垂、渦巻文	A1a/B1a	4/2		交互刺突、沈線内刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇・波状垂下	
なし	A	6	3	2	1/4	貼付	区画、懸垂ほか	A1a/B1a	3.5/2		交互刺突、沈線内刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
X字状把手剥落	E	11	0.5	2	3	なし	唐草文	C2a/A1a	4/5	A1浅い	なし	充填、隆線脇	隆線→充填沈線→隆線脇沈線?	
なし	A	7	3.5	1	4	刻み、貼付	I帯窓枠状区画	A1b	4	-	なし	隆線脇、区画内充填、分帯角押文	隆線→沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-	-	-	
なし	B	5	3.5	1~3	1/5	C3b刻み	分帯、懸垂文	C3a/B1a	4.5と2.5/3	頭部のみ深い	なし	頭部横走、体部充填	沈線→隆線	
なし	A	9以下	4以下	1~2	4	刻み	区画、懸垂、渦巻文	A1a/B1a	4/2		沈線内刺突	隆線脇、区画内充填、体部充填	隆線→沈線	
渦巻き、X字状把手	A・D	8/12	4/2	1(2分有)	1/4	刻み、二分	区画文、U字垂下文	C3a+A1a	7/3	やや深い	円文刺突	隆線脇、体部充填	隆線→沈線	
なし	なし	-	-	-	4	-	-	A1a/C2a	2.5	充填浅い	なし	A裝飾、C充填	充填沈線→裝飾沈線	
剥落	A・D・H	7~9	2~5	1	4	一部で刻み	分帯、区画文ほか	A1a/C3a・b/B1a	4/6/1.5	深い	なし	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
口唇部片内付き突起三角突起	A	7	2.5	1	4	刻み	口唇部、突起上裝飾	A1a	3		円文	隆線脇	縄文との重複部分なく不明	
なし	E	11以下	1以下	1	1/4	一部で刻み	分帯、区画文	A1a	2	I帯で深い	交互刻み	口縁部で裝飾、櫛形ない充填	隆線→沈線	
なし	D・F	6	1.5~7	1	1	刻み	分帯、区画文	A1b	3.5		なし	隆線脇、充填角押文	隆線→沈線	
なし	A	6	2	1	1/4	刻み、二分、貼付	分帯、区画文ほか	B1b	5	やや浅い	なし	隆線脇、隆線二分	隆線→沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-	-	-	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	B1a	2.5	浅深あり	なし	分帯	条線→分帯沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	-	-	-	
なし	A	8	5	1	4	なし	分帯、区画文	A1a	3	浅い	交互刺突(短沈線)	隆線脇から拡大	隆線→沈線→縄文	
大把手4	A・D他	9以上	3以上	1	1/4	沈線	分帯、懸垂、I帯加飾	C3a/B1a	7/3.5	深い	三叉文	隆線脇・裝飾、C3充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A	10	5	1	2	刻み	「し」字垂下文	A1a	4.5		なし	分帯、隆線脇	縄文→隆線→沈線	
なし	貼付文のみ	-	-	-	-	沈線で渦巻き描出	渦巻貼付文	C3a・b/A1a	5・3/2	A1a深い	なし	分帯、充填ほか	充填沈線→横位沈線→貼付文	C3施工具に広狭2種
なし	A	6	2.5	2	1/4	貼付	分帯、U字懸垂	A1a/C3a	3.5		なし	A隆線脇、C充填	隆線→沈線	
なし	B/E	5/9	3/1.5	1/2	1/4	貼付文、交互刺突	懸垂文・「し」字垂下文	A1a/C3a	2.5	C3aの方が深い	交互刺突	隆線脇、充填	充填沈線→隆線→隆線脇沈線	
なし	A・B	6	4以下	2	1/2	刻み、貼付	分帯、懸垂、波状充填	C3a	5		なし	充填	隆線→充填沈線→波状隆線→隆線加工	
眼鏡状突起	H・I	7/13	3.5	1(2)	1/6	二分	「し」字状懸垂文	A1a	2.5	やや深い	なし	充填	隆線→充填沈線→隆線おさえ沈線	
渦巻き状突起	D・I	8	2以下	1	1/4	沈線、貼付重ね	懸垂文	A1a・b	2.5	やや浅い	なし	隆線脇、充填、隆線加工	隆線→充填沈線→隆線脇	横位右→左方向三角押文、台付き
なし	A/F	13	4以上	1(2分有)	4	二分、口唇部隆線上刻み	懸垂文	A1a	3.5	やや浅い	なし	分帯、充填、隆線加工	隆線→充填沈線→隆線脇	台付き
なし	A	8	3	1	4	刻み	分帯、懸垂文	A1a	3	浅い	なし	隆線脇	隆線→縄文→隆線脇沈線→刻み	台付き
X字状把手	D(H)	17	2.5	(3)	6	三分	懸垂文、U字垂下文	C3a	5	深い	なし	隆線の三分	隆線→隆線おさえ沈線→縄文	
なし	A	10	1.5	1	4	貼付、刻み	U字懸垂	A1a	3	浅め	なし	隆線脇	隆線→縄文→沈線	
なし	なし	-	-	-	-	-	-	なし	-	-	なし	-	-	

表32 長峯遺跡出土土器属性表 (6)

図版番号	掲載土器番号	通し(復元)番号	遺構記号	遺構番号	主要出土位置	接合関係	形態の特徴					胎土	底部圧痕ほか	地文・充填装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部形態	口唇形態	底部形態					縦位分割	横位分割	分割方法
559	2	478	SB	224	P6	別表	深鉢	I 3B2	Y2	—	—	石英・雲母	—	矢羽根状沈線	にぶい赤褐	I 4? II 5	I II 1	突起・隆線
559	3	501	SB	224		別表	深鉢	? C3	—	—	—	白1多	—	なし	赤褐～黒褐	?	I ? II 1	隆線
559	4	509	SB	224	P4	別表	深鉢	I 4B1	H1	B	—	白1多	—	横RL縄文	赤褐	?	I II 2	隆線
559	5	430	SB	224	旧SB197上層	別表	深鉢	III 2B3	Y2	—	—	白1多	—	体部C2a縞形状	暗赤褐	?	I II 1	隆線
559	7	763	SB	224	P43	別表	深鉢	III 2B2	H1	—	—	白2、灰色粒	—	縦RL縄文	暗赤褐	I 0 II ?	I II 1	器形変換
560	2	119	SB	225	14.15P3 ピット14.15	別表	深鉢	I 5B3	H2	B	—	白1多	—	なし	明赤褐～灰褐	I 2(4) II ?	I 2 II 1	隆線
560	6	93	SB	225	P31	別表	有孔蹄付き深鉢	III 1A1	H1	B	a	白1、灰色粒多	磨き	なし	暗赤褐	I 0 II 1	I II 2	隆線、突起
561	1	205	SB	229	ピット15	別表	深鉢	I 3C3	H1	A	e	白1、灰色粒多	磨き	横RL縄文	赤褐～黒褐	なし	I II 1	隆線
561	2	596	SB	229	P4	別表	深鉢	III 2C3	H2?	A	—	白1多、雲母ほか微	—	体部指頭圧痕	暗赤褐	?	I II 1	隆線
561	3	112	SB	229	P1	別表	深鉢	I 2C3	H2	A	b	白1、灰色粒多	磨き	なし	明赤褐～黒褐	I 4 II 6	I II 1	隆線
561	4	448	SB	229	P2	別表	深鉢	I 5C3	H2	C	b	白1多	木葉	なし	赤褐～黒褐	I ? II 4?	0	隆線
561	7	111	SB	229	P3	別表	深鉢	III 1C2	H2	A	b	白1、灰色粒多	磨き	B1a沈線	にぶい橙	2	0	把手
562	3	66	SB	231	P22	別表	深鉢	I 2C3	H2	B	c	白1、灰色粒	粗い磨き	なし	赤褐	I 6 II 2	I 2 II 1	突起・隆線
562	7	597	SB	231	P19	別表	深鉢	I 3C3	H2	B	—	白1多	—	なし	明褐～灰褐	I 4 ? II 4	I 2 II 2	突起・隆線
562	11	150	SB	231	P24	別表	深鉢	I 2C3	H2	B	b	白1多	磨き	なし	赤褐～黒褐	I 3 II 3	I II 1	突起・隆線
562	12	149	SB	231		別表	深鉢	V 2	H1	B	a	白1・2岩屑多	磨き	縦RL縄文	明赤褐～黒褐	なし	1	なし
563	26	131	SB	231		別表	深鉢	? C3	—	—	c	白2、灰色粒	磨き	B1a沈線	暗赤褐	I ? II 2	I ? II 1	隆線
563	1	723	SB	232		別表	深鉢	I 3C3	H2	D	—	精選、白1少	—	指頭圧痕	にぶい褐～暗赤褐	?	I II 1	隆線
563	4	113	SB	232		別表	深鉢	III 1B2	H1	A	—	白1、雲母微	—	I 帯横RL縄文	褐	?	I 2 II 1	隆線
563	8	768	SB	232	P6	別表	深鉢	I 2C3?	—	—	—	白2、灰色粒	—	なし	褐灰	?	?	隆線
564	11	151	SB	232	P1	別表	深鉢	III 1B2	H1	B	—	白1、灰色多	—	縦LR縄文	暗赤褐～黒褐	?	I 2 II 1	隆線・沈線
564	12	152	SB	232	P4	別表	深鉢	I 3C2	H2	A	—	白1多	—	なし	暗赤褐	I 4 II 2	I II 1	隆線、突起
564	13	413	SB	232	P2	別表	深鉢	I 2C3	H2	C	—	石英・雲母多	—	なし	明褐～暗赤褐	?	I II 1	隆線、突起
565	15	604	SB	233		別表	深鉢	V 2	H2	A	—	灰色粒多	—	二部一部にRL縄文	黒褐	?	?	隆線
565	8	153	SB	234	P12	別表	深鉢	I 6A3	H2	A	b	白1、黒色粒ほか	一部回転擦痕	なし	にぶい橙	I ? II 10	I 2 II 2	隆線、突起
565	19	114	SB	234	P8	別表	深鉢	I 4C3	H1	A	b	白1ほか	—	横●縄文	褐灰～明褐	I 2(7) II 0	I II 1	内文、口縁部肥厚貼付文、器形変換
567	20	120	SB	234	P13	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	b	白1・2	粗い磨き	縦RL縄文	赤褐～黒褐	I 2 II 0	I II 1	隆線
567	31	772	SB	234	P10	別表	深鉢	?	—	—	—	石英・雲母	—	なし	褐	不明	不明	隆線
567	32	526	SB	234	P14	別表	深鉢	I 4C3	Y1	B	b	石英・雲母	剥落	なし	にぶい黄褐～褐灰	I 4 II 4	なし	隆線、波状口縁
567	33	606	SB	234	P11	別表	深鉢	?	—	—	b	石英・雲母	磨き	なし	赤褐	II 2	体部なし	隆線
568	11	64	SB	237	ピット24P3 ピット24P7	別表	深鉢	I 5C3	H2?	A	b	大粒白色岩屑	回転ナテ 回転擦り	なし	暗赤褐～にぶい橙	?	I 2 II 1	隆線
568	1	464	SB	238	P2	別表	深鉢	I 2 ? A3	—	—	a	白2多、雲母微	—	なし	暗赤褐	I ? II 4	I ? II 1	隆線
569	7	34	SB	238		別表	深鉢	? C3	—	—	a	白2、雲母	磨き	縦RL縄文	暗赤褐～黒褐	I ? II 4	I ? II 2	隆線
569	1	463	SB	239	旧SB239 ピット3	別表	深鉢	I 1B2	H2	A	—	石英・雲母	—	I 帯横、II 帯縦ほか、RL縄文	暗赤褐～黒褐	?	I II 1	隆線
570	1	223	SB	51	炉下	別表	深鉢	II 2B3	H2	B	b	白1・2岩屑多	網代	LR縄文	赤褐	?	I 2 II 1	隆線、器形変換
570	1	599	SB	240	P2	別表	深鉢	I 5C2	—	—	b	白色2岩屑、雲母	—	体部C3a縞位充填	暗赤褐	?	I 2 II 1	隆線
570	3	607	SB	241	7	別表	深鉢	V 2	H1	A	—	白1多	—	A1a沈線	暗褐	?	I 2 II 1	隆線・器形変換
571	3	261	SB	51	P28	別表	深鉢	V 2	H1	B	—	白1、灰色粒多	—	RL縄文	にぶい赤褐～黒褐	?	I II 2	隆線、沈線
571	1	278	SB	57	ウツリ	別表	深鉢	? C3	—	—	a	白1、灰色粒	網代	LR縄文	明赤褐～黒褐	?	I ? II 2?	沈線
572	1	357	SB	113		別表	深鉢	?	—	—	—	白2、雲母	—	枠内縦LR縄文	橙	?	I ? II 2?	沈線?
573	1	179	SX	1	埋か	別表	深鉢	I 1A3	H2	A	b	白2岩屑、雲母	—	横RL縄文	明褐～黒褐	I 4 II 3	I 2 II 1	隆線
573	2	16	SX	3	SX03	別表	深鉢	I 6C2	H2	A	—	白1、石英ほか	—	なし	褐灰～黒褐	I 4 II 4	I II 2	隆線、把手
574	1	173	UM	1	UM01	別表	深鉢	IV 1	H1	B	b	白1多	網代若干残	雨だれ状沈線	にぶい黄褐～褐灰	I 0 II 4	I II 1	隆線
574	2	199	UM	2	UM02	別表	深鉢	I 4B3	Y1	A	—	白1多、雲母微	—	LR縄文	にぶい黄橙～黒褐	?	I II 1	沈線装飾の切れ目
574	3	174	UM	3	UM3	別表	深鉢	V 1	H2	A	—	白1多	—	雨だれ状沈線	にぶい赤褐	I 2 II 4	I II 1	沈線、突起
575	4	175	UM	4	UM4	別表	深鉢	? C2?	—	—	b	白2多	網代痕	雨だれ状沈線	にぶい黄橙～褐灰	I ? II 4?	I ? II 1	隆線
575	8	176	UM	5	UM5	別表	深鉢	V 1	H1	A	a	白1多	—	雨だれ状沈線	赤褐～黒褐	I 0 II 4	I II 1	隆線
575	6	178	UM	8	UM08	別表	深鉢	I 5B3	H1	A	—	白1多	—	なし	明褐～明赤褐	I ? II 6	I 2 II 1	隆線
576	2	677	SB	91	IBSQ1	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	—	白1多、雲母微	—	I 帯横、II 帯縦RL縄文	赤褐～黒褐	I ? II 4?	I 2 II 4?	隆線、沈線
576	1	679	SQ	2	P3	別表	深鉢	I 1C3	H2	B	—	白1多	—	なし	明赤褐～黒褐	I 4 II 0	I II 1	器形変換、突起
576	2	527	SQ	2	P1	別表	深鉢	I 4C3	H2	B	—	白1多	—	なし	赤褐～暗赤褐	I 4 II 14	I II 2	隆線、沈線、突起
576	3	678	SQ	2	P2	別表	深鉢	III 1C3	H2	B	—	白1多	—	なし	明褐～黒褐	I 4 II 4	I 2 II ?	隆線、

隆線系装飾										沈線系装飾					施文順位	備考
把手・突起類	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・粗数	隆線・貼付方法	隆線上装飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ	刺突・陰刻文、その他	沈線の用例				
山形把手	A/C	8	5	2	1/4	なし	クランク文、腕骨文	A1a~B1a	3	一部深くなる	なし	隆線脳、縦位・矢羽根状	隆線→充填沈線→隆線脳			
X字状把手刺落	F/H	8	4	1	1	なし	蛇行懸垂・分帯	C3a	6.5	深い	なし	隆線脳	隆線→沈線→隆線			
なし	B	6.5	2	2	1	貼付文	分帯、懸垂	A1a	2.5	やや深い	なし	貼付文加工	隆線→沈線			
なし	A	11	4	1(二分)	1/4	二分	分帯、懸垂文ほか	A1a/C2a	4		なし	隆線二分、体部充填	隆線→充填沈線→隆線脳			
なし	B	4	2	1	二	なし	蛇行懸垂・分帯	なし	二	二	二	二	縄文→隆線			
なし	A/E	7/12	2.5/0.5	1	2/4	交互刻み、貼付	分帯、区画ほか	B1a/C3a	1/6	やや浅い	三叉文、C工 具で半円形刺突	隆線脳、充填装飾	隆線→沈線			
眼鏡状突起	A・D	8/11	2/0.5	1	2/3	なし	分帯、鐮	なし	一	一	一	一	隆線→隆線刻み→縄文	底部4ヶ所刻み、赤彩247		
なし	H	10	3	1	1/6	刻み	分帯	なし	二	二	なし	二	隆線→隆線刻み→縄文			
?	A?	10	4	1	2	連鎖状潰し	分帯、口縁部装飾	A1a	3		なし	分帯直下横位施文のみ	隆線→沈線			
なし	H	9	4	1	4/6	刻み	分帯、区画、懸垂文	A1b/C3a/B1a	8/1	やや浅い	玉抱き三叉文ほか	隆線脳、充填	隆線→パネル沈線→充填沈線			
眼鏡状突起	A	~10	3	1	4	貼付	曲隆線	A1a	4	焼町では浅め	玉抱き三叉文ほか	隆線脳から充填	隆線→沈線			
1対大把手	A	8	5	1	1	沈線、貼付	把手装飾	B1a	2.5	把手部深い	一	上下区画、充填、把手装飾	把手一分帯沈線→充填沈線			
円形突起	A・D	8/11	4.5	1	4	突起部刻み	分帯、区画文ほか	A1b/C3a/b/B1a	7.5/5	C3深い	半円刺突	隆線脳、一部区画内充填	隆線→充填沈線→隆線脳	押圧から刺突へ		
円十滴状突起	A	10	8	1	4	突起部刻み	分帯、区画文	A1a	5/2	隆線脳浅く	交互刺突、三叉文	隆線脳三角押文、単沈線	隆線→充填沈線→隆線脳			
小突起	A・C	10~13	4.5	1	3・4	なし	分帯、懸垂文、区画	A1b/C3a/B1a	11/1.5	やや浅く刺突に近い	なし	隆線脳爪形文	隆線→沈線			
なし	なし	一	一	一	一	一	一	なし	一	一	一	一	隆線→隆線脳			
なし	A	9	5.5	1	4	刻み	分帯、懸垂	C3a/B1a	7/1.5	C3深め	なし	隆線脳、B1充填	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			
口唇部小突起	A	8	3.5	1	4	刻み、貼付	分帯、懸垂ほか	A1b/B1b	10/3	やや浅い	半竹管刺突	隆線脳、I帯装飾充填三角押文ほか	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			
なし	A・D	7	2	1	4	貼付、刻み	区画、抽象文	A1a/b/B1a	9/1.5	浅め	なし	隆線脳、弧線ほか	隆線→縄文→沈線			
なし	A	11	5	1	4	ハラ刻み、貼付	区画、蛇行文	A1b/B1a/C3a	7/3/7	C3深い	三叉文	隆線脳、充填	隆線→沈線			
なし	H・D	8/20	4/1.5	1	1/4	H刻み、D二分ほか	分帯、区画、懸垂他	A1a/C3a/b	3/7/10.5	C3a深い	円形刺突、交互刺突、三叉文	隆線脳、分帯、ほか	隆線→縄文→沈線			
眼鏡状突起	A	8	3	1	4	刻み	区画文、蛇行懸垂文	C3a, A1b	7	一部やや深い	なし	隆線脳、充填、疑似蓮華文	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			
X字状突起ほか	A	8	5	1	4	ごく一部刻み	区画、曲隆線	A1a	5.5	深浅あり	玉抱き三叉文	隆線脳、充填文	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			
口唇部突起	A(F)	10	2	1	2/4/6	なし	懸垂、突起上蛇行線	C3a	9	深い	なし	区画、隆線脳	隆線→沈線→縄文			
耳状突起	A・F	9	5~12	1	2/4	なし	分帯、区画文	B1a/b	1/5	B1a深い	なし	隆線脳三角押文、鋭利沈線で充填	隆線→沈線			
なし	なし	一	一	一	2	一	一	なし	一	一	円形沈文	一	肥厚帯→円文→縄文			
卵形突起	I	28	12	1		縄文	貼付文のみ	なし	一	一	一	一	貼付文→縄文			
眼鏡状突起	A・F	8	4~13	1	1/4	刻み	曲隆線文	A1a	4	やや浅い	なし	隆線脳、粗な充填	隆線→沈線→刻み			
なし	A	6	3	1	4	なし	垂下曲隆線	A1a+b	5	やや浅い	隆刻三叉文、円形刺突	隆線脳、斜行充填	隆線→沈線	体部変則分割		
なし	A	8	3	1	4	なし	垂下文	A1a+b	3~5	深い	隆刻三叉文、円形刺突、沈線内再刻み	隆線脳、綾杉状充填	隆線→沈線			
なし	A(Bに近い)	5	3	1	1/4	角押文	分帯、櫛形文	A1b	3	やや浅い	なし	隆線脳、粗な充填	隆線→沈線			
なし	H	7	3	1	6	縄文	分帯、懸垂、渦巻き	C3a	6	浅い	三角形陰刻、交互刺突	隆線脳、充填装飾	隆線→沈線			
なし	A	10	2	2	1/4	縄文、貼付	分帯、懸垂	A1a	5		なし	隆線脳横帯	隆線→縄文→沈線			
口唇部突起	A	9以上	3	1	4	縄文	分帯、抽象文	A1a	3		交互刺突、沈線内刺突	隆線脳、体部横位	隆線→縄文→沈線	人体(手)の表現?		
なし	A	4.5	3	1	1/5	刻み	分帯、垂下	A1a	2.5		8字文内の刺突	垂下文、各種装飾	隆線→縄文→沈線			
剥落	B・A	7	2.5	1	1	基軸隆線への貼付	懸垂文、口縁部充填	C3a	5	やや深い	なし	隆線脳、体部充填	隆線→沈線			
なし	A・H	11	3.5/1	1	4/6	刻み、ハラ刻み	分帯、懸垂	A1a	3	隆線脳深め	交互刺突	隆線脳、充填	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			
なし	A	5.5	2.5	1	1/5	刻み	分帯	A1a	2.5		8字文内の刺突	各種装飾	隆線→沈線→縄文			
なし	なし	一	一	一	一	一	一	A1a	3		一	三角区画、分帯	?			
なし	A	9	2.5	1	1	刻み	懸垂文	A1a	3		なし	縄文帯の区画	隆線→縄文→沈線			
なし	A	9	2.5	1	2/7	連鎖状押圧	分帯、懸垂、区画	C2a	6	浅め	なし	隆線脳、頭部充填ほか	隆線→縄文→充填沈線→隆線脳沈線→波状沈線			
大把手1	A・D	12/18~	3	1	4	刻み	分帯、区画、懸垂ほか	C3a/A1b/B1a	8.5/1	やや深い	三叉文、交互刺突、半竹管刺突	隆線上装飾、隆線脳、充填	隆線→充填沈線→隆線脳沈線			
なし	A	11.5	3	1/2	2	なし	分帯、唐草文	A1a	6	やや浅い	なし	雨だれ状充填、の字文	隆線→沈線			
なし	なし	一	一	一	一	一	一	A1a	2.5		なし	装飾の枠	沈線→縄文			
なし	なし	一	一	一	一	一	一	A1a/B1a	6/3	充填深い	なし	分帯、懸垂、渦巻き、B充填	A沈線→B充填沈線			
なし	E	7.5	1	1	3	なし	分帯、縦区画、渦巻き文	A1a/B1a	5.5/2.5	浅め	沈線内刺突	隆線脳、区画内充填	隆線→充填沈線→隆線脳沈線			
なし	A	11	2	1	2	なし	分帯、懸垂	A1a	7.5	やや浅い	なし	雨だれ状沈線充填	隆線→沈線			
なし	A・B	8.5/4	2.5	1	1/4	刻み、貼付	分帯、区画、籠目充填	A1a/B1a	2.5/1.5		三叉文	隆線脳、区画内充填	隆線→充填沈線→隆線脳沈線			
なし	C	10	3	1	1	縄文、交互刺突	分帯・貼付	C3a/B1a	5.5/0.5	浅め	交互刺突、三叉文ほか	隆線→縄文→横位沈線→縦位沈線				
窓枠状突起	A	12	5.5	1	4	刻み、貼付	突起部のみ	A1b/B1a	5/0.5		なし	I帯枠、B充填	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			
口唇部小突起	A	6	1.5	1	4	刻み	分帯、区画	A1b/C3a/b	7・2/3.5	浅め	残部処理三角印刻、沈線脳刻み	隆線脳押印文、II帯縦位区画	隆線→沈線			
橋状把手	A	6	1	1	1/4	刻み、貼付	分帯、区画	A1b	3		なし	隆線脳、区画内充填角押文	隆線→隆線脳沈線→充填沈線			

表32 長峯遺跡出土土器属性表 (7)

図版番号	掲載土器番号	通し(復元)番号	遺構記号	遺構番号	主要出土位置	接合関係	形態的特徴					胎土	底部圧痕(ほか)	地文・充填装飾	色調	器面分割		
							器種	器形類別	口縁部形態	口唇形態	底部形態					縦位分割	横位分割	分割方法
577	1	578	SQ	6		別表	深鉢	I 2C3?	H2?	B	—	雲母、石英多	—	A1a沈線	褐灰	?	I 2 II?	器形変換、沈線
577	1	528	SQ	9		別表	深鉢	I 2C3	H2?	B	—	白2、雲母多	—	縦結束RL縄文	暗赤褐～黒褐	I ? II 4	I 1 II 1	隆線
578	1	515	SQ	8	SQ08 4A南7	別表	深鉢	I 1C2	H2	B	b	白1多、雲母微	磨き	なし	にぶい赤褐～褐灰	I 4 II 4	I 1 II 1	器形変換、隆線
578	1	683	SQ	11		別表	深鉢	I 1C3?	H2	B	—	白1、雲母多	—	RL縄文+結束部	黒褐	?	I 2 II 2	隆線
578	1	684	SQ	12		別表	深鉢	II 1?	H2	A	—	白2多、雲母微	—	縦RL縄文?	褐灰～黒褐	?	I 2 II 2?	器形変換、沈線、棒状貼付文、隆線
579	1	529	SQ	10	SQ10	別表	深鉢	III 2C3	H1	A	b	白1多	磨き	指頭圧痕	にぶい赤褐～黒褐	I 4(3) II 0	I 4	隆線
579	1	687	SQ	14	SQ14	別表	深鉢	III 1B2	H2	A	—	白2、雲母多	—	C3a沈線	にぶい褐	I 2 ? II 4	I 1 II 2	隆線、沈線
579	1	688	SQ	22	P13	別表	深鉢	II 4A3	H2	B	d	白1多、雲母微	磨き	短軸緒状体●埋	明褐～褐灰	I ? II 4.5	I 1 II 2	隆線
580	2	689	SQ	35	SQ35	別表	深鉢	III 1C3	H1	A	—	白1、黒色粒ほか	—	なし	にぶい黄橙～黒褐	?	I 1 II 1	隆線
580	1	690	SF	11	P3	別表	深鉢	III 1C3	H2	A	b	白1・2/黒粒多	磨き	縦RL縄文	にぶい黄褐	?	I 1 II 1	隆線
580	2	691	SF	11		別表	深鉢	I 5C3	—	—	b	白1	磨き	なし	にぶい赤褐	?	I 1 II 1	器形変換
583	125	613	SK	288		別表	深鉢	? C3	—	—	b	白1、雲母微	回転擦痕	なし	赤褐	I ? II 3	I ? II 2	隆線
584	144	614	SK	352		別表	深鉢	I 2C3	H1?	B	—	白1・2、雲母多	—	縦結束RL縄文	黒褐	?	I 1 II 1	隆線
585	175	616	SK	417		別表	深鉢	I 2B3	Y1	A	—	石英・雲母多	—	なし	にぶい黄褐～黒褐	?	I 1 II 3	沈線
585	184	657	SK	423	SK423	別表	深鉢	I 1A3	H2	B	a	白1、雲母	磨き	RL縄文	暗赤褐～黒褐	I 4 II 4	I 2 II 2	隆線、沈線
586	209	661	SK	521	SK521	別表	深鉢	I 3C3	H1	A	—	白1、灰色多	—	なし	褐灰～黒褐	?	I 1 II 1	隆線
586	215	530	SK	542	SK542	別表	深鉢	I 4C3	Y1	B	c	白1多	—	横RL縄文	明赤褐～褐灰	I 4 II 0	I 2 II 1	隆線
588	258	6	SK	680	IBSX02	別表	深鉢	III 2B3	Y4	—	—	白1ほか	—	沈線区画内LR縄文	黒褐	I 3 II 3	I 1 II 1	隆線
589	281	531	SK	791	カ	別表	深鉢	III 1C3	H1	A	b	白1多、雲母微	磨き	横RL縄文	赤褐～褐灰	II 3	II 2	三角押文
590	328	637	SK	1063	P6	別表	深鉢	V 1	H1	B	—	石英・雲母多	—	B1a沈線	暗赤褐～黒褐	0	1	—
590	347	639	SK	1147	P1	別表	深鉢	I 4C3	Y1	B	—	白2、砂ほか	—	沈線装飾内RL縄文	にぶい褐～黒褐	I 4 ?	?	波状口縁
591	348	638	SK	1147	SK1147 SK1548	別表	深鉢	V 1	H1	A	—	白1、岩屑	—	八字沈線	橙～褐灰	?	I 1 II 1	沈線
591	373	663	SK	1251		別表	深鉢	III 1C3	H1?	A	—	白1岩屑	—	幅13mm? 条線	黒褐～褐灰	?	I 2 II 1	隆線
592	385	642	SK	1323		別表	深鉢	I 4B3?	H1	B	—	白1	—	幅14mm? 条線	にぶい褐	?	I 0 II 1	隆線
592	386	643	SK	1323		別表	深鉢	V 1	H1	A	b	灰色粒ほか	磨き	C2a沈線or条線	暗赤褐	?	I 1 II 1	沈線
593	402	644	SK	1492		別表	深鉢	I 4B3	H1	C	b	白1ほか	—	LR縄文	にぶい橙	I ? II 4	I ? II 2	隆線
593	403	645	SK	1492	P1	別表	深鉢	I 2B3	H1	B	b	白1多	磨き	横RL縄文	赤褐～黒褐	I 0 II 4	I 1 II 1	隆線
594	433	646	SK	1546	P2	別表	深鉢	III 2B3	H1	A	b	白1、白2多	磨き	縦RL縄文	にぶい黄褐	?	I 1 II 1	沈線
597	557	532	SK	2213	P1	別表	深鉢	I 2A3	H2	B	d	白1多	磨き	なし	赤褐～黒褐	I 4 II 5	I 1 II 2	隆線
598	577	667	SK	2383		別表	深鉢	V 3	H2	D	—	白1、白2	—	B1a沈線	明褐～赤褐	?	I 2 II 1	隆線
599	605	673	SK	2538	SK2538	別表	深鉢	III 2C1	H2	D	—	白1、石英ほか	—	B1a沈線	にぶい褐～黒褐	I 2 II 4	I 2 II 1	把手、隆線
600	615	670	SK	2607	SK2607	別表	深鉢	? B2?	—	—	b	白1多、石英微	磨き	C3a沈線	赤褐	I ? II 4	I ? II 1	隆線
601	663	672	SK	2841	P1	別表	深鉢	V 1	H1	A	—	白1	—	LR縄文	にぶい黄橙～黒褐	?	I 2 II 2	沈線
602	678	656	SK	2892	SK2892 P6SB228?	別表	深鉢	? C1?	—	—	b	白1多、白2	若干回転擦痕	なし	にぶい黄橙～黒褐	?	?	隆線
603	693	533	SK	2994		別表	深鉢	I 2C3	H1	B	—	白1多、雲母	—	縦結束RL縄文	暗赤褐～黒褐	I ? II 4?	I 1 II 1	隆線
604	733	675	SK	3255		別表	深鉢	I 2C3	H1	B	—	白1多	—	LR縄文? (風化)	橙	?	I 2 II 1	沈線
604	734	534	SK	3257	P2	別表	深鉢	I 3C3	Y1	A	d	白1多	—	縦RL縄文	明褐～褐灰	I 4 II 0	I 1 II 1	隆線
605	11	706	LM	75		別表	深鉢	I 4B3?	H1	A	—	白1、雲母微	—	幅20mm条線	橙	?	I 1 II 1	沈線
605	12	707	LM	75		別表	深鉢	V 1	H1	A	—	白1、雲母微	—	八字沈線	明褐～黒褐	I ? II 4	I 1 II 1	沈線
605	1	701	5区 P5		P5	別表	深鉢	I 2?	H2	B	—	白1、石英	—	縦L縄文	にぶい褐	I 4 ? II ?	I 2 II ?	隆線
606	5	535	III-J	20	6ゴカ-20	別表	深鉢	III 1C3	H1	B	c	白1多	—	輪積痕	赤褐～黒褐	?	3?	装飾の変化
606	5	697	III-G	22	7ゲ	別表	深鉢	III 2B3	Y1	D	b	白1	網代痕	縄文(無節?)	黒褐	?	I 1 II 2	沈線、隆線

把手・突起類	隆線系装飾						沈線系装飾						施文順位	備考
	隆線・形状	隆線・幅	隆線・高さ	隆線・組数	隆線・貼付方法	隆線上装飾	隆線の用例	沈線・形状	沈線・幅	沈線・深さ	刺突・陰刻文、その他	沈線の用例		
	C	9	2.5	1	1	交互沈線	貼付文のみ	A1a・b	1.5	浅め	沈線内再刺突、交互刺突	分帯、充填	貼付文→分帯沈線→充填沈線	
	A	8	3	1	2/4	縄文、貼付	分帯、懸垂	A1a	3.5	やや深め	三叉文	横位隆線脇、I帯充填	隆線→縄文→沈線	
円形ほか	A・G	10	1~1.0	1	1	刻み、角押文、連鎖状押圧	懸垂文、突起	A1b2種	8.5/4	浅め	交互刺突	I帯充填	隆線→角押文	
	A	9	2	1	2/4	縄文、刻み	分帯、区画文	A1a	3		三叉文	隆線脇、垂下文、渦巻きなど	隆線→縄文→沈線	
	A	11	4	1	1	刻み	貼付文のみ	C2a	4.5	浅め	なし	横位区画、充填など	貼付文→縦位沈線→横位沈線	
棒状把手	A	8	1	1	1/4	刻み、貼付	分帯、区画	A1b	4		なし	隆線脇、区画内波状	隆線→沈線	
眼鏡状ほか	H	11.5	4	1	1/6	ハラ刻み、交互刺突	分帯、貼付	C3a	4/2		交互刺突	隆線脇、懸垂、区画、充填	隆線→区画沈線→充填沈線	
	A	10	3	1	2/4	刻み	分帯、区画	C2・3a/A1a	10	I帯深い	交互刺突	沈線脇、区画内充填	隆線→縄文→充填沈線→隆線脇沈線	
	A	11	5.5	1	4	刻み	分帯、ソウリムシ文	A1b・B1b/C3a	7/5	A浅め	なし	隆線→沈線		
	A	8	4	1	3	刻み、三分、貼付	分帯、懸垂	なし	—	—	—	—	縄文→隆線?	
	B	5.5	2.5	1	1	なし	弧線文、充填	なし	—	—	—	—		
	A・F	6.5	2	1	2/4	なし	区画、懸垂、弧状	B1a・b	2.5		なし	隆線脇、三角押文区画内充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	
なし	A(H)	6	2	1	2/4	なし	分帯、懸垂、区画	A1a・b	3	浅め	玉抱き三叉文	隆線脇、I帯充填	隆線→縄文→沈線	
なし	A	7	4	1	1	交互刺突	貼付文のみ	C3・2a/A1b	6.5/4.5	充填浅い	交互刺突	分帯、懸垂、格子目充填	貼付文→懸垂沈線→充填沈線→横位沈線	
	A	7	0.5	1	2/4	縄文	分帯、懸垂、貼付	C3a/B1a	4.5/0.5	浅め	交互刺突、玉抱き三叉文	隆線脇、区画内ほか	隆線→縄文→沈線	
	D・F	8.5/26.5	1以上	1	4	刻み、沈線装飾	分帯、懸垂、単位装飾	A1a/C3a	2.5/7		交互刺突、円刺突・半円刺突	隆線脇、隆線上装飾	隆線→隆線脇沈線→隆線上装飾	
棒状突起高い8字小突起ほか	A	8	4	1	1/4	刻み	分帯、区画	A1a/C3a	6/3.5		交互沈線	隆線脇、充填	隆線→縄文→充填沈線→隆線脇沈線→隆線上加工	
なし	A・F	7.5	3	1	2	刻み	分帯、垂下文	A1a	2.5		なし	X字区画ほか主装飾	隆線→沈線→縄文	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	B1b	4.5		なし、ナデによる擦消装飾	分帯、弧状装飾	縄文→擦消装飾→三角押文	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	B1a	2		なし	充填		
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4	深め		渦巻き他、全装飾	沈線→縄文	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	3		なし	分帯、懸垂、充填		
	C	12	4	1	2	なし	分帯、懸垂文	なし	—	—	—	—	隆線→条線	
なし	E	10	1.5	1	3	なし	懸垂	A1a	6	浅め	なし	隆線脇、波状垂下	隆線→条線→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	7/4.5		なし	弧線文、懸垂文	沈線→条線(C2沈線)	
	B・H	5	1.5	1/3	1/6	貼付	頭部波状、懸垂、弧状文	C3a	7	浅め	なし	体部上半横位	沈線→縄文→隆線	
	B	4.5	1.5	1	1	なし	波状分帯、垂下	なし	—	—	—	—	縄文→隆線	
口唇部小突起	なし	—	—	—	—	—	—	A1a/C2a	3/4	浅め	なし	弧線文、懸垂文	縄文→沈線	
橋状把手	A	8.5	2	1	3	刻み	分帯、区画、ソウリムシ文	A1b/B1a/C2a	7.5/2/4	浅め	なし	隆線脇、区画内充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
橋状把手	A	6	2	1/2	1	なし	分帯、懸垂	A1a/B1a	3/2		沈線内再刺突	隆線脇、B1充填	隆線→充填→隆線脇沈線	
橋状把手	A	7	2.5	1/2	1/4	なし	分帯、唐草文	B1a	2		連続刺突	隆線脇、充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
眼鏡状	A	7.5	5.5	2	1/3	貼付	懸垂、ひねり貼付	C3a	4	浅め	なし	充填	隆線→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	3.5	浅め	沈線末端刺突	分帯	隆線→沈線	
	D	26	2	1(二分)	2/4	二分	相対弧線文	A1a	3.5	深淺あり	なし	隆線脇、隆線上	隆線→沈線	赤彩
	A	7.5	1	1	1/4	一部で縄文、貼付	分帯、懸垂	A1a	4.5		沈線脇刺突	横位隆線脇、I帯弧線文ほか	隆線→縄文→沈線	
円形突起	A	16	6	1	2	なし	突起部のみ	A1a	3.5		交互刺突	弧線文	隆線→沈線	
	C・D	10	4	1	4	交互刺突、刻み	分帯、区画、渦巻き	C3a/B1a	8/3	充填深い	なし	隆線脇、I帯充填	隆線→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a	4.5	浅め	なし	分帯、懸垂	条線→沈線	
なし	なし	—	—	—	—	—	—	A1a/B1a	4.5/1.5	充填浅い	なし	分帯、懸垂、B充填	重複部なし不明	
橋状把手	H	6	3	1	6	ハラ刻み	分帯、貼付ほか	C3a	3	格子目浅い	なし	隆線脇、格子目充填	隆線→縄文→充填沈線→隆線脇沈線	
なし	A・D	6/10	2.5	1	4	刻み	区画文、ソウリムシ文	A1b・B1a・b	7.5/5/2.5	B深め	交互三叉	隆線脇、区画内充填	隆線→隆線脇沈線→充填沈線	
8字突起	B	3	0.5	1	1	刻み	垂下文	A1a	1	浅め	なし	装飾帯	隆線→沈線→縄文→磨き	

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(1)

図版番号	赤彩・漆番号	復元番号(青)	遺構・地区		層位・出土地点	取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面付着状況	内面塗彩色	内面付着状況	肉眼観察	永嶋正春先生のご教示	備考	
			記号	番号															コメント
468	25	3	97	SB	14	ピット5	P1	ミニチュア	完形	中期	無文	なし	なし	黒	A1	済	専用容器として作ったミニチュアか?	漆容器、特殊品箱に保管	
478	9	403	713	SB	32	炉	p8	炉、p17、フ、フ1	無頭壺?	体	中期・後葉	低陰線+条線	赤	黒	赤	未			
479	4	301	250	SB	37		P2	浅鉢	口~底部	中期・後葉	陰線+沈線	赤	D1	赤	D2	未			
488	82	36	94	SB	61		P19	深鉢	口~底部	中期・中葉	半陰起線+縄文	なし	なし	黒	A1	済		小形品	
497	43	302	86	SB	68		P9	浅鉢	口~体	中期・中葉	半陰起線	赤?	F2	赤?	F2	未		北陸系	
502	49	64	244	SB	70		P23	有孔鍔付き土器?	多数破片	中期	陰線のみ	赤・黒	D1	赤	D1	済	良質な顔料、カーボン付着のため赤が固着した。漆ではない	復元済み	
502	50	63	243	SB	70		P12	有孔鍔付き土器?	ほぼ完形	中	陰線のみ	赤・黒	D1	赤・黒	D1	済	漆に於ては付着が偶発的な感じ。底部破断面まで黒付着、割れた後比熱のため漆の塗り可能性もある。赤の上不明タールの付着か?	復元済み	
504	3	68	245	SB	75		P23	有孔鍔付き土器?	多数破片	中期	陰線のみ	赤・黒	赤D2	赤	D2	済	赤彩中心。黒は塗ったかどうか不明	復元済み	
506	8	75	20	SB	79		P1	有孔鍔付き土器	体~底	中期	陰線のみ	赤・黒	D1	なし	なし	済		復元済み	
514	1	308	327	SB	116	フクド	P1	浅鉢	口~底	中期	無文	赤?	F2	赤?	F2	未			
516	1	305	295	SB	119	フクド	P1	広口壺	口~体	中期・後葉	列点+低陰線	なし	なし	赤	D1	未			
516	2	304	92	SB	119	西区フ		小形深鉢	体~底	中期・後葉	単沈線	なし	なし	黒	A1	未		容器	
523	8	384	100	SB	120	区道		鉢	体	中期・後葉	低陰線+沈線	なし	なし	赤	A1	済		復元100のSB139と接合	
524	4	113	517	SB	143		P74	浅鉢	口縁~	中期	無文	赤・黒	F2	赤・黒	F2	済		復元済み	
525	4	309	333	SB	144	西区	P1	浅鉢?	底	中期	無文	なし	なし	赤	F1	未			
529	14	311	365	SB		データ消しちゃった		復元に行ってる											
543	5	405	0	SB	181	ピット10		有孔鍔付き土器	体	中期		なし		赤	F2	未		拓181009	
544	1	303	91	SB	186	ピット1	2	東西ベルトIV1層	小形深鉢	口~底	中期・後葉	条線状	赤	D2	赤・黒	A1	未		容器
544	1	414	0	SB	185	ピット1	p1	浅鉢	口縁	中期中葉	突起のみ	なし	なし	赤	F2	未		拓185008	
544	2	415	0	SB	185	南北トレ		深鉢	口縁	中期中葉	三角押文	なし	なし	黒	D1	未		拓185020	
547	5	194	96	SB	190	ピット3	P1	ミニチュア	完形	中期・中葉	三角押文	黒	D1	D1	D1	済	漆容器、赤の種類見つける必要あり。内部の土あり		
547	33	196	95	SB	195	ピット5	P3	ミニチュア	口~底部	中期・中葉	角押文	黒	D2	赤・黒	赤F2	済	内面黒には膜質あり	三本指、未洗浄のまま分析へ	
554	29	216	321	SB	214		P1他	有孔鍔付き土器	体部	中期・中葉	人体文	赤・黒	C1	黒?	D1	済	黒漆下地の上に赤、ベンガラ		
560	6	247	93	SB	225		P1	有孔鍔付き土器	完形	中期・中葉	陰線のみ	赤・黒	赤F2	赤・黒	D1	済	塗った雰囲気	特殊品箱	
560	9	250	90	SB	225		P16、P23	有孔鍔付き土器	口縁~体部	中期	陰線のみ	赤・黒	C1	赤・黒	D1	済	赤主体、黒は熱で変色した可能性と塗り分けの可能性あり	復元用、SB217とSB217(SB216含む)に同一個体ありか?	
563	33	260	519	SB	231		P16、P23	有孔鍔付き土器	口縁~体部	中期	陰線のみ	赤	F2	なし	なし	済	全面にあった可能性あり	復元	
565	12	404	0	SB	233	ピット		有孔鍔付き土器	体	中期		なし	なし	赤	F1	未		拓233032	
568	9	279	246	SB	237	ピット24	P1	浅鉢	口縁装飾	中期	陰線のみ	赤	D1	赤	F1	済	内側には塗りあり、外側全面に赤		
	1			SB	3		P2	浅鉢	口縁	中期・中葉	角押文	なし	なし	黒・赤	D1	済			
	2			SB	4	フ上1区	P7	浅鉢	口縁	中期・中葉	連線状陰線	なし	なし	赤	D2	済			
	4			SB	14		P20	深鉢	口縁	中期・中葉	三角押文	なし	なし	赤	D2	済	かろうじて残っている		
	5			SB	22			小鉢	体	中期	無文	不明	不明	赤	D2	未			
	6			SB	28		P3	浅鉢	口縁	中期	単沈線	赤	D2	なし	なし	未			
	7			SB	30		P6	浅鉢	口縁直下	中期・後葉	単沈線	赤	F2	なし	なし	未		P6と同一個体か?	
	8			SB	30	トレ		浅鉢	口縁直下	中期・後葉	単沈線	赤	F2	なし	なし	未			
	9			SB	30	3区		不明	体	不明	風化で不明	不明	風化	赤	A1	未			
	10			SB	32	ピット6		不明	体	不明	縄文	なし	なし	赤	A1	未			
	11			SB	34	上層		有孔鍔付き土器	体	中期	なし	なし	なし	赤	F2	未			
	12			SB	39	ピット		不明	口縁	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	D1	未			
	13			SB	39	レ		鉢?	体	中期・後葉	無文	なし	なし	赤・黒	D1	未			
	14			SB	39	P2		不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	D1	未			
	15			SB	39	下層		無頭壺?	体	中期・後葉	低陰線	赤	F2	なし	なし	未		偶然の付着か?	
	16			SB	41	フクド		不明	体	中期・後葉	低陰線	赤	F1	赤	F1	未			
	17			SB	42	フ		不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	D2	未			
	18			SB	43.44	フクド		不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	D1	未			
	19			SB	43.44	フクド		不明	体	中期・後葉	低陰線	赤	D2	なし	なし	未			
	20			SB	43.44	フクド		不明	体	中期・後葉	陰線+単沈線	なし	なし	赤	F2	未			
	21			SB	45	フクド		浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F1	未			
	22			SB	46		P1	浅鉢	口縁	中期・後葉	陰線	赤	E2	赤	F2	未			
	23			SB	47	フ		不明	体	中期	無文	赤	D1	なし	なし	未			
	24			SB	51		P6	不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	A2	未			
	25			SB	51	43区		不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	A2	未			
	26			SB	61	3区		有孔鍔付き土器	孔、鍔部	中期	陰線のみ	赤・黒	A2	赤	A2	済	孔の中に入り込んでいない。塗りあさりした塗り方があったか?ニカフどか...間に合わせ...キズが強くケケ...漆であれば残りはもつとよい。全体に...漆とすれば薄い		
	27			SB	61	南北トレ南		有孔鍔付き土器	体	中期	無文	赤	D2	なし	なし	済			
	28	316		SB	61	1区		深鉢	体	中期・中葉	三角押文	黒	B1	なし	なし	未			
	29			SB	61	南北トレ北		有孔鍔付き土器	体	中期	陰線のみ	なし	なし	赤	D2	未			
	30			SB	61	南北トレ北		不明	体	中期	剥落不明	なし	風化	赤	F2	未			
	31			SB	61	東西トレ西		有孔鍔付き土器	体	中期	無文	赤	A2	赤	F2	済			
	32			SB	61	南北トレ北		器	体	中期・中葉	三角押文	赤	E1	なし	なし	未			
	33			SB	61	1区		有孔鍔付き土器	体	中	陰線のみ	黒	D1	黒	F2	済			
	34			SB	61			浅鉢?	口縁	中期・前葉	口縁部沈線1本	赤	F2	赤	B1	済	たまり状		
	35			SB	61	2区		不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	D2	済			
	37			SB	61	2区上層含		有孔鍔付き土器?	体	中	陰線のみ	赤・黒	D1	なし	なし	済	赤彩とはわかるが、漆かどうか?		
	38			SB	61	西		不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	D1	済	薄い塗り?		
	39			SB	62	東西トレ上層含		有孔鍔付き土器	体	中期	陰線のみ	赤・黒?	D1	なし	なし	済	黒は漆としては怪しい。		
	40			SB	62	南北トレ南上層含		鉢	体	中期	無文	赤	D2	赤	A2	済			

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(2)

図版番号	赤彩・漆番号	復元番号(青)	遺構・地区		取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面着状況	内面塗彩色	内面着状況	肉眼観察	永嶋正春先生のご教示 コメント	備考
			記号	番号													
41	SB	63			P15		?	体	中期	無文	赤	A2	赤	A2	済	凹部への残り	
42	SB	63			P45		有孔鋳付 き土器?	体	中期・中葉	単沈線+縄文	赤	A2	赤	F1	済	いい色の赤	
43	SB	64	フ	南北トレ南 上層舎			?	体	中期	無文	なし	なし	赤	D1	済	残り悪い、痛み激しい	
44	SB	64		1区			有孔鋳付 き土器?	口縁	中期	無文	赤・黒	D1	不明	不明	済	熱で変色?	内面剝離
45	SB	64		1区			?	体	中期	無文	なし	なし	赤・黒	D1	済		2破片
46	SB	64		東西トレ			?	体	中期	隆線のみ	赤	D1	なし	なし	済		
47	SB	64		東西トレ 南北トレ南 上層舎			?	体	中期	無文	赤・黒	赤D1	赤・黒	D1	済	薄い黒微妙	
48	SB	64		東西トレ3~ 6層			?	体	中期	無文	赤・黒	D1	赤・黒	D1	済	汚れたな付着	
49	SB	64		6層			?	体	中期	無文	赤・黒	D1	赤	F1	済		4破片
50	21 SB	64		南北トレ南 上層舎			有孔鋳付 き土器	口縁~底 部	中期	半隆起線	赤・黒	F1	赤	D1 全体的	済	漆塗り分け	復元済み
51	SB	64		1区上層舎			?	体	中期	無文	赤・黒	D1	赤・黒	D1	済	「汚れたな付着」 赤は、黒の熱変色で黒くなっ た可能性あり	
52	SB	64		1区上層舎			?	体	中期	無文	黒	D1	赤・黒	D1	済		
53	SB	64		フ			?	体	中期	無文	赤	D1	赤	E2	済	痕跡程度	
54	SB	64		フ			?	底部	中期	無文	赤・黒	A2	赤	A2	済	擦痕のようなものあり、痕跡	
55	SB	66		ピット10			深鉢	口縁	中期・中葉	無文	なし	なし	赤	D1	済	付着か使用痕跡か不明	
56	SB	66		ピット3			?	体	中期	無文	なし	なし	なし	D1	済		
57	SB	66		ピット3			深鉢	体	中期・中葉	キョタピラ文	黒	D1	赤?	不明	済	黒は炭化物付着のみか?	3破片
58	SB	68					浅鉢	底部層	中期	無文	なし	なし	赤・黒	D1	済	作業痕跡か? あまりにどれやすいので漆で はないかも?ニカワかでん ぶん質、しかも軽い塗り	
59	SB	69		1区			?	体	中期	無文	赤、 黒?	D2	赤	F1	済		
60	SB	69		3区上層舎			有孔鋳付 き土器	口~体部	中期	隆線のみ	赤・黒	D1	赤・黒	D1	済	赤が本来のもの?	復元済み
61	SB	70		3区上層舎			深鉢	体	中期・後葉	隆線のみ	なし	なし	赤	D1	済	パレットか? 漆ではない。炭化物か油 燻。	
62	SB	70		3区上層舎			有孔鋳付 き土器?	体	中期	低隆線	黒	D1	なし	なし	済		
65	SB	70		1.2層			有孔鋳付 き土器?	多数破片	中期	隆線のみ	赤・黒	D2	黒?	なし	済		復元済み
66	SB	71		1層			不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	F2	未		
67	SB	71		1層			土製耳飾	完形	中期	無文	赤	A1	なし	なし	済		特殊品箱
69	SB	77		べ			有孔鋳付 き土器	口縁	中期	隆線のみ	赤	F1	赤	F1	済		
70	SB	77		べ			?	体	中期	無文	赤	D1	なし	なし	済	痕跡のみ 区分けて赤彩。粉っぽくは ない	
71	317 SB	77		トレ			有孔鋳付 き土器?	体	中期	隆線のみ	赤	B1	なし	なし	済	内面荒れている器面に付着	
72	SB	77		ピット3			?	体	中	無文	赤	F1	赤	D1	済		
73	SB	77		トレ、べ、4 区			鉢	口縁	中期	無文	赤・黒	D2	なし	なし	済		
74	SB	77		トレ、べ、4 区			有孔鋳付 き土器?	体	中期	隆線のみ	赤	F2	なし	なし	済	肉眼ではきびしい。 赤色基本で、炭化変色。パ レット状に使っていたか?刷 毛目状痕跡	
75	318 SB	101					?	底部	中期	無文	なし	なし	赤・黒	B1	済	火を受けて黒色化	
77	SB	114					有孔鋳付 き土器	口縁~鉢	中期	隆線のみ	赤・黒	D1	赤・黒	D1	済		一応、ピックアップ するが、漆ではなさ
78	319 SB	114					ミニチュア	底	中期・中葉	縄文+単沈線	なし	なし	黒	D1	未		
79	SB	114					?	体	中期	無文	赤	F2	赤	F2	済		
80	SB	114					?	口縁	中期	無文	赤	F2	赤	F2	済		
81	SB	114					?	体	中期	無文	なし	なし	赤	F1	済	胎王に入り込んでいる。塗彩 ではない	
82	SB	114					有孔鋳付 き土器?	体	中期・中葉	帯縄文	なし	なし	赤	F2	済		
83	SB	114					有孔鋳付 き土器?	体	中期	単沈線	赤	F1	なし	なし	済		
84	SB	114.12		ピット23			?	口縁	中期	無文	なし	なし	赤	A1	済		
85	SB	114.12		2周溝			深鉢	口縁	中期	縄文	なし	なし	赤・黒	F2	済	赤彩・漆の類ではない? 部分的な塗り。縄文部分ほ ずしている。漆とすればひ ょうに薄い。	
86	320 SB	114.12		ピット18			有孔鋳付 き土器	体部	中期・中葉	帯縄文	赤	B1	なし	なし	済		
87	SB	114.12		ピット23			有孔鋳付 き土器	体部	中期・中葉	人体文の指	赤?	不明	赤	F1	済	偶然的な付着か?	二本指
88	SB	116					有孔鋳付 き土器	口縁	中期	銅と孔	なし	なし	赤	F2	未		
89	SB	116					浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	D1	未		
90	SB	116					小鉢?	口縁	中期・後葉	無文	赤	D2	赤	F2	未		
91	SB	117		炬フキン			不明	体	中期	無文	赤	D2	赤	F2	未		
92	SB	118		南西			不明	体	不明	無文	赤・黒	D2	赤	A2	未		
93	SB	118					不明	体	中期	無文	赤	F2	赤	F2	未		
94	SB	118		ピット11			不明	体	中期・後葉	低隆線	赤	F2	赤	F1	未		
95	SB	118		南西フクド			深鉢	体	中期・後葉	隆線上に刻み	なし	なし	赤	F2	未		
96	SB	121					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
97	SB	123		レキフキン			不明	体	中期・後葉	二本隆線	なし	なし	赤	F2	未		
98	SB	123		トレ			鉢?	口縁	中期	無文	なし	なし	赤	A2	未		
99	SB	124		炬			不明	体	中期	無文	なし	なし	赤	A2	未		
100	SB	128		南東上層			浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	なし	なし	未		
101	SB	128		南西上層			有孔鋳付 き土器	体	中期	銅と孔	赤	F2	赤	F2	未		
102	SB	128		トレ西側			深鉢	体	中期・後葉	縄文+単沈線	なし	なし	赤	D2	未		
103	SB	130		ピット7			不明	体	中期・後葉	低隆線	なし	なし	赤	F2	未		
104	SB	130		ピット2・3			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
105	SB	131		フクド西			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤・黒	D1	未		
106	SB	131		フクド西 フクド東上 層			不明	体	不明	無文	赤	A2	赤?	?	未		
107	SB	132		1区			不明	体	不明	隆線	赤	D1	黒	A1	未		
108	SB	133		1区			不明	体	中期・後葉	低隆線	赤・黒	A2	赤・黒	D2	未		
109	SB	133		ベルト			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤・黒	D1	未		



表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(3)

図版番号	赤彩・漆番号	復元番号(青)	遺構・地区		層位・出土地点	取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面付着状況	内面塗彩色	内面付着状況	肉眼観察	永嶋正春先生のご教示	備考
			記号	番号														
110	SB	134.14	東西トレ					浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F2	未		体?
111	SB	138	トレ					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	E2	未		一部割離
112	SB	139	3区					不明	体	中期・後葉	装・単沈線	なし	なし	赤	F1	未		
114	SB	143			P51	P61		?	体	中期	単沈線+縄文	黒?	なし	なし	未			塗りではない
115	SB	143	北西区					浅鉢	口縁	中期	無文	赤	D1	赤	D1	済		両面塗り
116	SB	144	北西区					不明	体	不明	無文	赤・黒	A2	なし	なし	未		口唇部残存良好
117	SB	144	南東区					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	E2	未		
118	SB	145			P6			不明	体	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		
119	SB	153	検出面					不明	体	不明	無文	赤	A2	なし	なし	未		
120	SB	156	北西区下					有孔罎付	体	中期	隆線のみ	赤	D2	赤	D1	済		
121	SB	156	層			P42		?	底部	中期	無文	赤	F1	なし	なし	済		色悪い。黒は油煙か?
122	SB	156	上層					有孔罎付	孔・罎	中期	無文	赤?	F2	なし	なし	済		
123	SB	157	東西ベルト					不明	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		
124	SB	157	東2層下			P3		鉢?	体	中期・後葉	縄文+単沈線	なし	なし	赤	F2	未		
125	SB	157	層					浅鉢か?	体	不明	無文	なし	なし	赤・黒	D2	未		
126	SB	157	南北トレ南					深鉢か?	体	中期・後葉	半隆起線	赤	D2	赤	F1	未		
127	SB	157	北西区					深鉢?	体	不明	無文	赤	D2	なし	なし	未		
128	SB	158	北西区					有孔罎付	体	中期	罎のみ	赤	F2	なし	なし	未		
129	SB	158	床上					浅鉢?	体	不明	無文	なし	なし	赤	A2	未		
130	SB	158				P63		浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	A2	未		北東区に同一個体か?
131	SB	158	層					浅鉢?	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F2	未		
132	SB	160	炉			P1		浅鉢?	口縁	中期・後葉	隆線+単沈線	赤	D2	赤	F2	未		SKに変更
133	SB	161	トレ東					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
134	SB	161	トレ東					深鉢?	口縁直下	中期・中葉	隆線上ハ7刻み	なし	なし	赤	F2	未		
135	SB	161				4		深鉢?	底	中期・後葉	単沈線	なし	なし	赤・黒	F2	未		
136	SB	161	P29			3区		不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	F2	未		
137	SB	161	1区					浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	A2	なし	なし	未		
138	SB	162	フクド3区					有孔罎付	体	中期	隆線	赤	A2	赤	A2	未		SB225と同一片?
139	SB	163						不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	D2	未		
140	SB	164	東西ベルト					不明	口縁	中~後期	装・単沈線	赤	E2	赤	A2	未		
141	SB	164	フクド北上					不明	口縁	不明	剥落不明	不明	不明	赤	F2	未		外面剥落
142	SB	164	東西ベルト					浅鉢	口縁	期	無文	なし	なし	赤	E2	未		2片、北陸系
143	SB	164	層含む					不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	F2	未		
144	SB	164				P7	P29	浅鉢	口縁	中期	半隆起線	なし	なし	赤	F2	未		4片、北陸系
145	SB	164	上層					有孔罎付	体	中期	隆線のみ	赤	D2	赤	F2	未		
146	SB	166				P1		有孔罎付	口~底部	中期	記載もれ	赤	F1	なし	なし	済		本来、赤彩か
147	SB	167.17	子					不明	体	不明	無文	不明	風化	赤	D2	未		復元済み
148	SB	168	下層					浅鉢	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		外面風化で不明
149	SB	168	下層					浅鉢?	体	期	無文	赤	D2	赤	A2	未		
150	SB	168	下層					浅鉢?	体	期	無文	なし	なし	赤	D2	未		
151	SB	168	南北ベルト2					深鉢?	口縁	中期?	縄文	赤	A2	赤	A2	未		
152	SB	169	ピット4					浅鉢	口縁	中期	低隆線	赤	E2	なし	なし	未		
153	SB	169				P32		不明	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		
154	SB	171	ベルト					不明	口縁	不明	無文	赤	D2	なし	なし	未		
155	SB	172	南西区					浅鉢?	体	中期・後葉	隆線+単沈線	赤	E2	なし	なし	未		
156	SB	172	トレンチ					浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	D2	赤	D1	未		一部黒くなっている
157	SB	172				P13		不明	体	不明	無文	不明	不明	赤	F2	未		外面剥落不明
158	SB	172	上層					浅鉢?	口縁	中期	無文	なし	なし	赤	F2	未		
159	SB	173	フクド					有孔罎付	口縁	中期	隆線	なし	なし	赤	F2	未		
160	SB	173	フクド					不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤・黒	D2	未		
161	SB	175	C区					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	D1	未		
162	SB	176	トレンチ				P2, P3 下部, P1 2, P15, P43, P4 4, P76, P110, C 区, E区, B-B' ベ、C-	有孔罎付	孔・罎	中期?	記載もれ	赤	D1	なし	なし	済		
163	SB	176				P2		有孔罎付	口~体部	中期・中葉	半隆起線(バネ ル)	赤・黒	D1	赤	F2	済		表面無文部のみ赤
164	SB	176	サブトレ					?	体	中期?	半隆起線+縄文	赤	F1	赤	F2	済		文様内色分け?
165	SB	176	C-C'ベ					?	口縁	中期	無文	赤	D1	なし	なし	済		塗り分け不明
166	SB	176	D区					有孔罎付	罎部	中期	無文	赤	D1	不明	不明	済		痛み激しい
167	SB	181				P6		深鉢	顔面把手	中期・中葉	無文	黒	D1	なし	なし	済		特殊品箱
168	SB	181				P13		有孔罎付	口縁~罎	中期	隆線のみ	赤	A2	赤		済		内外面赤彩
169	SB	181				P1		有孔罎付	体	中期・中葉	半隆起線(バネ ル)	黒	B1	赤	F2	済		SB176と同一個体か?
170	SB	181	11区南			NO.1		土製耳飾	完形	中期	無文	赤	A1	赤	A1	済		特殊品箱
171	SB	181.18	フクド					有孔罎付	体	中期	低隆線	赤・黒	D1	赤・黒	D1	未		
172	SB	183	フクド					有孔罎付	体	中期	罎と孔	なし	なし	赤	F2	未		
173	SB	185	ピット2					有孔罎付	体	中期	隆線のみ	赤	B1	赤	F1	済		外面塗り分けか?
174	SB	185	東西トレン					有孔罎付	体	中期	無文	赤	D2	不明	不明	済		内面荒れて不明
175	SB	185	子					?	底部	中期	無文	赤	D1	赤	D1	済		内外面にあり
176	SB	185	南北ベ					?	底部	中期	無文	なし	なし	赤	A2	済		2破片
177	SB	185	ベ西					有孔罎付	体	中期	隆線のみ	赤	A2	赤	F2	済		内外面あり
178	SB	185	子					?	底部	中期	無文	不明	不明	赤	F2	済		
179	SB	186	層					不明	口縁	不明	無文	赤	D2	赤	D1	未		明
180	SB	186	フクド					不明	体	中期?	単沈線(低隆線?)	なし	なし	赤	F2	未		
181	SB	186	層					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
182	SB	186						不明	体	不明	無文	赤	F2	なし	なし	未		
183	SB	187	フ					深鉢	口縁	中	無文	なし	なし	赤	D1	済		
184	SB	187	フ			P3	フ	深鉢	底部	中期	無文	赤	D1	赤?	不明	済		



表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(4)

図版番号	赤彩・漆番号	復元番号(青)	遺構・地区		取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面付着状況	内面塗彩色	内面付着状況	肉眼観察	永嶋正春先生のご教示	備考
			記号	番号													
	185	SB	187	東西ベ			有孔鍔付き土器	体	中期	隆線のみ	赤・黒	D1	不明	不明	済	外面漆の可能性あり	内面痛み激しい
	186	SB	187.19	テ			有孔鍔付き土器	体	中期	無文	赤	F2	不明	不明	済	外面黒は不明	内面は荒れ
	187	SB	187.19	テ			有孔鍔付き土器	口～鍔	中期	無文	不明	剥落	赤・黒	D1	済	吸着して...本付け漆	
	188	SB	188.19	テ			不明	体	不明	無文	赤・黒	B1	なし	なし	未		
	189	SB	189	トレンチ			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	190	SB	189		P17		浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F2	未		
	191	SB	189	フクド			不明	体	不明	剥落不明	不明	不明	赤	F2	未		外面剥落
	192	SB	190	フ			有孔鍔付き土器	孔・鍔	中	無文	赤・黒			黒D1, 赤D2	済		
	193	SB	190	SB187含む			?	体部	中期	無文	赤・黒	D2	なし	なし	済		
	195	SB	191	南北ベ			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	197	SB	195	フ			ば	体部	中期	隆線のみ	赤	F2	不明	不明	済		器面あれている
	198	SB	195	南西区			浅鉢	口縁	中期	無文	なし	D1	なし	なし	済	外面の黒は湯煙か	
	199	SB	196	フクド			無頭蓋?	体	中期・後葉	低隆線	赤	D2	赤	赤	未		
	200	SB	197		P106		?	底部	中期	無文	黒?	なし	赤・黒	F2	済	塗りではない付着	底部のみ血状に残存
	201	SB	197	コ下北区			深鉢	口縁	中期	単沈線	黒	F1	赤	F1	済		
	202	SB	204	北区			浅鉢?	口縁	中期?	無文	赤	E2	赤	E2	未		
	203	SB	204	北区			浅鉢?	口縁	中期・後葉	無文	赤	A2	赤	F2	未		
	204	SB	207	下層			不明	体	中期・後葉	装・単沈線	赤	D2	赤	D2	未		
	205	SB	207	ピット3			不明	口縁	中期・後葉	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	206	SB	208	フクド北区			不明	体	不明	無文	赤	D2	赤	D2	未		
	207	SB	208	ピット7		Ⅲ～Ⅳ層上	浅鉢?	口縁	中期	単沈線	赤	D2	赤	D1	未		
	208	SB	210	2区			浅鉢	突起	中期・中葉	隆線のみ	黒?	F2	赤	A2	済		外面は汚れじょう
	209	SB	211	上のSK内			不明	体	不明	無文	赤	A2	なし	なし	未		
	210	SB	213	4区			不明	体	不明	無文	赤	F2	なし	なし	未		
	211	SB	213	2区			不明	体	不明	無文	黒	D2	なし	なし	未		
	212	SB	213	2区			不明	体	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		2片
	213	SB	213	4区			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F1	未		
	214	SB	213	3区			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F1	未		2片
	215	SB	213	2区			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	217	SB	214	東ベ			深鉢	体部	中期・中葉	単沈線	赤・黒	D1	なし	なし	済		
	218	SB	214	南西区			有孔鍔付き土器	口縁～鍔	中期	無文	赤・黒	F2	なし	なし	済	黒の上に赤	2片
	219	SB	214	南西区			深鉢	体部	中期・中葉	単沈線	黒?	F2	黒	A1	済	生状態、熱で水分をばとす時、被熱して残ったものか	漆容器か?
	220	SB	214	北西区			深鉢	口縁付近～肩部	中	単沈線	黒	D1	なし	なし	済		
	221	SB	214	床上南東トレンチ			土塊・赤色顔料?		中期								
	222	SB	214	フ			有孔鍔付き土器	口縁～鍔	中期	無文	黒	D2	赤	F2	済	薄い漆か?	
	223	SB	214	フ			有孔鍔付き土器	鍔・体部	中期	縄文	なし	なし	なし	なし	済	なし	
	224	SB	214	フ			深鉢	底部直上	中期・中葉	単沈線	黒	F2	黒	A1	済		容器か?
	225	SB	214	上層			土塊	容器部	中期・中葉		赤	F1	赤	D1	済	ベンガラ?	特殊品箱
	226	322	SB	218	2区		浅鉢	口縁	中期	系)	赤	F1	赤	A2	済		外面は口唇部のみ
	227	SB	218	床上			赤色顔料		中期	無文				F2	済	SB214より色よい	
	228	SB	218	フ2区			有孔鍔付き土器	口縁～鍔	中期・中葉	縄文	なし	なし	赤?	F2	済	赤あり?	
	229	SB	218		P13	ベルト	浅鉢	底部	中期	無文	なし	なし	赤	D1	済	質よくない、色悪い	復元用、同一個体と見られる口縁あり
	230	SB	218		P16		深鉢	体部	中期・中葉	縄文	赤?	F2	赤	F2	済	色悪い	
	231	SB	218	2区			浅鉢	口縁	中期・中葉	隆線のみ	赤?	F2	なし	なし	済		ごくわずか点であり
	232	SB	218	ベルト			有孔鍔付き土器	口縁	中期	隆線のみ	赤	F2	赤	F2	済		
	233	SB	218	3区			有孔鍔付き土器	体部	中期・中葉	隆線のみ	赤	F2	赤?	?	済	色悪い	
	234	SB	219	検出面			不明	口縁	中期	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	235	SB	221				不明	体	不明	無文	赤	F2	なし	なし	未		
	236	SB	221	フクド			不明	体	不明	無文	赤	D1	なし	なし	未		
	237	SB	223	東南ベ			?	口縁	中期	無文	赤	D1	なし	なし	済		
	238	SB	223	南西			有孔鍔付き土器	孔・鍔	中期・中葉	単沈線	赤	F2	なし	なし	済		
	239	SB	223	北西			鉢?	体部	中期	無文	赤	D2	赤	F2	済		
	240	SB	223	南東			有孔鍔付き土器	鍔部	中期		赤・黒	D2	なし	なし	済		
	241	SB	223	南東			有孔鍔付き土器	口縁～鍔	中期		赤・黒	D1	赤・黒	D2	済		
	242	SB	223	南東		2, 4, 6同一個体か?	有孔鍔付き土器	孔・鍔	中期	無文	黒?	?	赤	F2	済		
	243	SB	223		P39		?	体部	中期	無文	なし	なし	赤	F1	済		
	244	SB	223		P56		有孔鍔付き土器	孔・鍔	中期	無文	赤	F1	赤	F2	済		
	245	SB	223		P70		浅鉢	口縁	中期	無文	赤	F2	なし	なし	済		
	246	SB	224	フクド			浅鉢?	口縁	中期・後葉	半隆起線	赤	E1	なし	なし	未		
	248	SB	225	フ3区			有孔鍔付き土器?	体部	中期・中葉	半隆起線	赤	F2	赤	F2	済	黒いのは油煙か?	
	249	SB	225	フ4区			?	体部	中期	隆線のみ	不明	不明	赤	D2	済		外面痛み激しい
	251	SB	225	フ2区			有孔鍔付き土器	口縁	中期	無文	赤・黒	F2	赤	D2	済		
	252	SB	225				有孔鍔付き土器	孔・鍔	中期	無文	なし	なし	なし	なし	済	胎土中の赤色粒子がつぶれたもの	
	253	SB	225	フ4区			有孔鍔付き土器?	体部	中期	隆線のみ	なし	なし	赤	D1	済	外面の黒はカーボン吸着	
	254	SB	225	フ3区			?	体部	中期	無文	赤	E1	なし	なし	済	赤彩の可能性あり	穴の中のみ
	255	SB	225	4区			不明	体	中期・後葉	低隆線	なし	なし	赤	F2	未		
	256	SB	225	フ2区			有孔鍔付き土器	孔・鍔	中期	隆線のみ	赤	D2	なし	なし	済	口唇部偶然の付着の可能性もあり、	
	257	SB	225	フ1ベ・フ2			有孔鍔付き土器?	体	中期	無文	なし	なし	赤・黒	D1	未		
	258	SB	229	ベ			有孔鍔付き土器?	体部	中期	隆線のみ	赤	D2	なし	なし	済		
	259	SB	229	フ北東			有孔鍔付き土器	体部	中	無文	なし	なし	なし	なし	済	胎土中の赤色粒子	
	261	SB	232	SB233含む			有孔鍔付き土器	体部	中期	隆線のみ	なし	なし	なし	なし	済	カーボン吸着のみ	
	262	SB	232	SB233含む			有孔鍔付き土器	口縁部	中期	隆線のみ	赤	A2	赤	A2	済	黒は油煙か?	
	263	SB	232	トレンチ			?	体部	中期	無文	赤	A1	赤	A2	済	赤彩	
	264	SB	232.23				?	底部	中	無文	なし	なし	なし	済	何らかの付着物		

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(5)

図版番号	赤彩・漆番号	復元番号(青)	遺構・地区		取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面付着状況	内面塗彩色	内面付着状況	永嶋正春先生のご教示		備考	
			記号	番号											層位・出土地点	コメント		肉眼観察
	265	SB	232	23				体部	中期	無文	なし	なし	なし	なし	済	カーボンの吸着		
	266	SB	232	23				体部	中期	陰線のみ	なし	なし	なし	なし	済	カーボンの吸着		
	267	SB	233					底部直上	中期	無文	なし	なし	なし	なし	済	内面の黒はお焦げか		
	268	SB	233	南東				有孔鍔付き土器	孔、鍔部	中期	陰線のみ	赤	F2	赤	A2	済	赤彩	
	269	SB	233	南東				有孔鍔付き土器?	体部	中期	陰線のみ	なし	なし	なし	なし	済	カーボンの吸着のみ	
	270	SB	233	東へ				浅鉢	体部	中期	無文	なし	なし	赤	E1	済		
	271	SB	233	南東側				有孔鍔付き土器?	体部	中期	無文	赤?	F2?	赤	D1	済	内側は漆の可能性あるがわかりづらい	
	272	SB	233	南東				有孔鍔付き土器	体部	中期	陰線のみ	赤・黒	A1	なし	なし	済	黒漆の上に赤	
	273	SB	234	東区				有孔鍔付き土器	体部3片	中期	低陰線	なし	なし	赤	F2	済	外面の黒はよごれの付着か?	
	274	SB	234	南側				?	底部?	中期	無文	なし	なし	赤	F1	済		
	275	SB	234	西区				有孔鍔付き土器	体部	中期・中葉	顔面装飾	赤	D2	赤	A2	済	目・口、顔以外に赤	
	276	SB	234					有孔鍔付き土器	体部	中期・中葉	低陰線	なし	なし	赤	F2	済	外面の黒はカーボンの付着	
	277	SB	237	ピット24				?	体部	中期	無文	なし	なし	赤	F2	済	黒は付着物、赤色悪い外は汚れ、内は容器として赤付着	
	278	SB	237	ピット24				?	底部	中期	無文	赤	F2	赤	A1	済		
	280	SK	141	上層				不明	底	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	281	SK	344					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	A2	未		
	282	SK	776	上層				不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		2片
	283	SK	825					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	284	SK	825					不明	底	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		
	285	SK	897					不明	体	不明	無文	赤	D2	なし	なし	未		
	286	SK	1036					有孔鍔付き土器	体	中期	鍔	赤	F2	なし	なし	未		
	287	SK	1047					鉢?	口縁	中期	単沈線	赤	F2	赤	E2	未		
	288	SK	1260					有孔鍔付き土器	体	中期	鍔と孔	赤	D2	赤	F2	未		
	289	SK	1353					有孔鍔付き土器	口縁	中期	縄文+貼付陰線	赤	F2	赤	D1	未		
	290	SK	1394					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	E1	未		
	291	SK	1593					不明	体	中期・後葉	低陰線(単沈線)	なし	なし	赤	F2	未		
	292	SK	1748					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	D1	未		3片
	293	323	SK	1930				ミニチュア	底	中期・後葉	条線	なし	なし	黒	A1	未		
	294	SK	2723					不明	口縁	不明	無文	赤	F2	赤	F2	未		
	295	SQ	5					不明	体	不明	無文	なし	なし	赤・黒	D2	未		
	296	LM	33					有孔鍔付き土器?	体	中期	陰線	赤	E2	なし	なし	未		
	297	LM	60					不明	体	中期・後葉	単沈線	赤	D2	赤	F2	未		
	298	LM	65					不明	把手	中期・後葉	陰線	赤	D1	なし	なし	未		
	299	IVG	19	11区南Ⅲ層下				土製耳飾	完形	中期	無文	赤	F2	赤	F2	済		特殊遺物
	300	SB	163	北側				有孔鍔付き土器?	体	中期	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	306	SB	158	西				不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		胎土中の赤色粒
	307	328	SB	128	2層下	南壁際トレ	SB143.14	浅鉢	口~体	中期	無文	なし	なし	赤	D1	未		
	310	SB	144		P31	4検出面		浅鉢	底	中期	無文	なし	なし	赤	D1	未		
	312	0	ⅢJ	16.21	コカ(黒褐土)			浅鉢?	体	中期	無文	なし	なし	黒	B1	未		油煙の可能性大
	313	0	IVC	21	南北トレ			小型鉢?	体	中期?	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	314	0	IVF	5.8	森土・コカ			浅鉢?	口縁	中期・中葉	陰線	黒?	E2	赤・黒	D2	未		
	315	0	F.G	15.16	1.6、IV層			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	B2	未		
	316	0	IVF	25	Ⅲ層			不明	口縁	中期?	無文	赤	F2	赤	A2	未		
	317	0	IVF	17.18	Ⅲ~Ⅳ層			有孔鍔付き土器	体	中期	鍔・孔	赤・黒	D1	赤	D2	未		
	318	0	IVF	19	上			浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	赤・黒	F1	赤・黒	F2	未		
	319	0	IVF	20	Ⅲ層			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤・黒	D1	未		
	320	0	IVF	20	Ⅲ層			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	D1	未		
	321	0	IVF	23	杭付近、西田Ⅲ~Ⅳ層(上層)			鉢?	体	中期?	無文	赤・黒	D1	赤	D2	未		
	322	0	IVF	24	Ⅲ層(上層)			深鉢	体	中期・後葉	平行沈線	なし	なし	赤	D1	未		
	323	0	IVF	24	Ⅲ~Ⅳ層			鉢?	体	中期?	無文	赤・黒	D1	なし	なし	未		黒は油煙か?
	324	0	IVF	25	Ⅲ層			浅鉢	体	中期・後葉	無文	赤	F1	赤	F2	未		
	325	0	IVF	25	東西トレ			深鉢	口縁	中期・後葉	条線	赤・黒	D1	黒?	D2	未		歴博に行ってるのと接合するか?
	326	0	IVF	25	SB?フクド			鉢	体	中期・後葉	陰線	なし	なし	赤	F2	未		
	327	0	IVG	1	コカ			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	D2	未		
	328	0	IVG	5	ケ			不明	体	中期?	無文	黒?	F2	赤	A1	未		黒は油煙か?
	329	0	IVG	6	Ⅲ~Ⅳ層			有孔鍔付き土器?	体	中期	陰線	黒	A1	なし	なし	未		
	330	0	IVG	9	Ⅲ~Ⅳ層			有孔鍔付き土器	体	中期	鍔と孔	赤	D2	赤	D2	未		
	331	0	IVG	10	南へⅢ層(上層)			鉢?	体	中期?	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	332	0	IVG	10	含)			深鉢か有孔鍔付き	体	中期	縄文	なし	なし	赤	D2	未		
	333	0	欠番															
	334	0	欠番															
	335	0	IVG	18	東西トレSB内			深鉢か有孔鍔付き	体	中期	縄文	なし	なし	赤	D2	未		
	336	0	IVG	18	東西トレSB内			ミニチュア?	口縁	中期?	無文	赤	D1	赤	D1	未		外面は口唇部のみ
	337	0	IVG	19	Ⅳ層			有孔鍔付き土器?	体	中期	沈線	赤	E1	なし	なし	未		
	338	0	IVG	19	Ⅲ~Ⅳ層			鉢	体	中期・後葉	陰線+沈線	なし	なし	赤	F2	未		
	339	0	IVG	19	Ⅲ~Ⅳ層			浅鉢	口縁	中期・後葉	無文	なし	なし	赤・黒	D1	未		
	340	0	IVG	19	Ⅲ~Ⅳ層			不明	体	中期・後葉	陰線+半隆起線	赤	D1	赤	F1	未		
	341	0	IVG	19	Ⅲ~Ⅳ層			鉢か有孔鍔付き土器?	体	中期・後葉	陰線	赤	D1	赤・黒	D1	未		
	342	0	IVG	19	Ⅲ~Ⅳ層			有孔鍔付き土器?	口縁	中期	陰線	赤・黒	D1	赤・黒	F2	未		
	343	0	IVG	22	Ⅲ層(SB上)			深鉢(浅いやつ)	口縁	中期・後葉	陰線+縄文	赤	D1	赤	F2	未		
	344	0	IVG	22	Ⅲ層(SB上)			不明	口縁	中期?	無文	赤	A2	なし	なし	未		
	345	0	IVG	22	Ⅲ層(SB上)			不明	体	中期?	無文	赤	F1	なし	なし	未		

表33 長峯遺跡出土赤彩・漆関連資料一覧(6)

図版番号	赤彩・漆番号	復元番号(青)	遺構・地区		層位・出土地点	取上番号	接合・同一個体番号	器種	残存部位	時期	文様	外面塗彩色	外面付着状況	内面塗彩色	内面付着状況	肉眼観察	永嶋正春先生のご教示	
			記号	番号													コメント	備考
	346	0	IVG	22	Ⅲ層(SB上)			不明	体	中期?	無文	赤	F1	なし	なし	未		
	347	0	IVH	6	Ⅲ層(上層)			浅鉢?	口縁	中期・後葉?	無文	赤	D2	赤	F2	未		外面は口唇部のみ
	348	0	IVK	4	I~Ⅲ層			深鉢	口縁	中期・後葉	縄文	なし	なし	赤	D1	未		
	349	0	IVK	4	Ⅳ層(上層)			浅鉢?	口縁	中期・後葉	単沈線	赤	E1	赤	E2	未		
	350	0	IVL	4	Ⅳ層ブロック土			壺?	口縁	中期・後葉	単沈線	黒	D1	なし	なし	未		外面洪がついたような色、2片
	351	0	IVL	5	Ⅲ層(上層)			有孔罎付き土器	体	中期	低隆線	なし	なし	赤	F2	未		油煙か?
	352	0	IVL	5	Ⅲ層(上層)			不明	体	中期?	無文	なし	なし	黒	D1	未		
	353	0	IVL	5	Ⅲ層(上層)			有孔罎付き土器	体	中期・中葉	隆線上刻み	赤	E1	なし	なし	未		
	354	0	IVL	5	Ⅲ層(上層)			不明	底	中期?	無文	なし	なし	赤	F1	未		
	355	0	次番													未		
	356	0	次番													未		
	357	0	次番													未		
	358	0	IVL	12	Ⅳ層ブロック土			深鉢	体	中期・後葉か後期	単沈線+縄文	赤	E1	なし	なし	未		拓本とるか?
	359	0	IVM	1	Ⅳ層			深鉢	体	中期・後葉	縄文(より糸)	なし	なし	赤	F2	未		
	360	0	IVM	1	SB?フグド			不明	口縁	中期	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	361	0	IVM	1	SB?フグド			不明	体	不明	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	362	0	IVM	1	SB?ケ			短頸壺?	口縁	中期・後葉	無文	赤	F1	なし	なし	未		
	363	0	IVM	1	SB?ケ			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	D2	未		
	364	0	IVM	1.2	Ⅳ層上ケ			不明	底	中期?	無文	なし	なし	赤	D2	未		
	365	0	次番													未		
	366	0	IVM	2	SB?フグド			不明	体	中期・後葉?	無文	なし	なし	赤	D2	未		
	367	0	IVM	2	SB?フグド			不明	口縁	中期?	無文	赤・黒	D1	赤・黒	D2	未		
	368	0	区		ケ			不明	体	中期?	無文	赤・黒	D2	赤・黒	D2	未		
	369	0	区南		ケ			不明	体	中期?	無文	赤	D2	なし	なし	未		
	370	0	次番													未		
	371	0	区5		東シヤテイ5a層			不明	口縁	中期?	無文	赤	D1	なし	なし	未		口唇部のみ
	372	0	区7		ヒヨウケ			浅鉢?	体	中期・後葉	無文	赤	F2	赤	F2	未		
	373	0	区N		コカトレ			不明	体	後期?	無文	赤	D2	赤	A2	未		
	374	0	区N		I~Ⅲ層			不明	体	中期?	隆線	なし	なし	赤	A2	未		3片
	375	0	区S		試掘1トレ			不明	体	中期	半隆起線	赤	D1	赤	D1	未		
	376	0	区S		ケ			深鉢?	体	中期	縄文	なし	なし	赤	A2	未		
	377	0	区S		ケ			不明	口縁	中期?	無文	赤	F2	赤	A1	未		
	378	0	区道		ヒヨウケ			不明	体	中期	縄文	なし	なし	赤	D1	未		
	379	0	区道		ヒヨウケ			有孔罎付き土器	口縁	中期	罎と孔	黒	B1	黒	F1	未		
	380	0	区S		ヒヨ			不明	体	不明	剥落	不明	不明	赤	A1	未		
	381	0	区N		ケ			浅鉢?	体	不明	無文	なし	なし	赤・黒	B1	未		
	382	0	区N		V層上			不明	体	不明	無文	黒?	D2	なし	なし	未		
	383	0	区道		ヒヨコカ			鉢	口縁	中期?	無文	黒	D1	なし	なし	未		油煙の可能性あり
	385	0	区S		西田・東西トレ			有孔罎付き土器	口縁	中期	罎と孔	赤	F2	赤	F2	未		
	386	0	区S		Ⅲa層			鉢	体	中期・後葉	隆線	赤・黒	D1	赤	D1	未		
	387	0	区S		Ⅲa層			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	A2	未		
	388	0	区S		西田・Ⅲ~Ⅳ層			有孔罎付き土器?	体	中期	単沈線	赤	D2	なし	なし	未		3片
	389	0	次番													未		
	390	0	次番													未		
	391	0	区S		東西べ			有孔罎付き土器	体	中期	低隆線	赤	D1	赤	A2	未		
	392	0	区S		東西べ			不明	底	中期?	無文	なし	なし	赤	A2	未		
	393	0	区S		西田ヒヨ			不明	口縁	中期?	単沈線	赤	D2	赤	D1	未		
	394	0	区S		西田Ⅲ~Ⅳ層			不明	体	中期?	無文	なし	なし	赤	D1	未		
	395	0	区N		I~Ⅲ層			有孔罎付き土器か	体	中期・中葉	刻み隆線+単沈線	赤	E1	なし	なし	未		
	396	0	SB	176		P47		有孔罎付き土器?	体部	中期・中葉	帯縄文	赤	C1	なし	なし	未		
	397	0	区N		東田ケ			有孔罎付き土器か	体	中期・中葉	刻み隆線	赤・黒	D1	なし	なし	未		庭博にいつてるのに接合する
	398	0	Z					有孔罎付き土器	体	中期・中葉	隆線+半隆起線	赤・黒	E1	赤	A2	未		
	399	0	Z					浅鉢?	口縁	中期・後葉?	無文	赤	D1	赤	A2	未		
	400	0	Z					不明	口縁	中期?	無文	赤	D1	赤	F1	未		
	401	0	SB	64	3~5層ほか	p4.63		浅鉢	口縁	中期・中葉	無文	なし	なし	赤・黒	F1	未		外面削り
	402	0	SB	16	<1層			浅鉢	口縁	中期	無文	なし	なし	赤	F2	未		
	406	0	SB	180		p2	FB区ほか	有孔罎付き土器	体	中期		赤	F2	なし		未		
	407	0	SK	409				深鉢	底部	中期		なし		赤	D2	未		
	408	0	SK	803				注口か?	体	後期		赤	F2	なし		未		
	409	0	SK	1147		p14		鉢	体			なし		赤	F2	未		
	410	548	SB	71	Ⅱ層			土製耳飾	完形	中期		赤	A2	赤	なし	未		
	411	549	SB	181		No.1		土製耳飾	完形	中期		赤	A1	赤	A1	未		
	412	550	IVG	19	Ⅲ層下面			土製耳飾	半完形	中期		赤	D1	赤	D1	未		
	413	242	SB	214	上層			土製器or把手	か	中期		なし		赤	D2	未		
	416	0	SB	124		p12		鉢	体	中期後葉	渦巻き・条線	なし		赤	A2	未		拓124001
	417	0	SB	185	東西トレ			浅鉢	口縁	中期中葉		なし		赤	F2	未		拓185023

穴住居跡から出土した例には、SB124図版517-4に壺形土器の体部上半を割り取り、割れ口を研磨した例がある。屋外埋設土器UM1図版574-1には、体部下半に穿孔が認められる。また、土製品に含めた図版609-24例は、土器体部から割り取ったものを研磨し、加工しようとした例である。

### 3 土製品

長峯遺跡から出土した土製品は、装身具である耳飾3点、祭祀関係遺物とされる土偶14点（内図版609-7は把手の可能性あり）、土鈴1点、用途不明の土器片製円板94点である。また、研磨された土器片1点が土坑（SK601）から出土した（表34）。

**ア 耳飾**（図版608）中期中葉～後葉の住居跡から出土しており、いずれも鼓形、無文で赤彩が施されている。

**イ 土偶**（図版608・609）土器総量103点の遺跡においては少数に止まっている。中葉は出尻形の立体土偶を中心に9点、後葉は立体形が4点、時期不明が1点である。図版609-7は口径10.5cmの容器を抱えた例である。類例がなく注意を要する1点である。腰部以下が欠損しているため大形深鉢の把手の可能性も残っている。

**ウ 土鈴**（図版609）後葉3期の住居跡床面より出土した。不整球形で文様などは施されていない。内部に小礫製の中子が残存している。また、SB78-7は、ミニチュア土器としたが土鈴の可能性もある。

**エ 土器片製円板**（図版609・表35）聖石遺跡と異なって中期後葉の資料が皆無である。中期前葉（五領ヶ台Ⅱ式）～中葉（勝坂Ⅱ式）までがほとんどを占め、特に前葉にピークが認められる。中葉に属す遺構出土であっても前葉の土器片を利用した混入例が認められる。形態は、円形と隅丸長方形が完成品と考えら

表34 長峯遺跡出土土製品一覧

図版番号	復元通番号	器種	遺構・地区名		層位	取上番号	残存部位	重さ(g)	胎土	色調	製作痕跡	装飾	分類		時期	備考
			記号	番号									全体	部分		
608	1	548	土製耳飾	SB	71	1層	完形	10.60	白色粒子	赤褐? (赤彩により不明) 赤彩により不明		無文	耳栓	鼓形	中期	赤彩410
608	2	549	土製耳飾	SB	181		完形	5.80	不明			無文	耳栓	鼓形	中期	赤彩411
608	3	550	土製耳飾	IV	G19	Ⅲ層下面	片側端部欠損	4.10	白色粒子	赤褐		無文	耳栓	鼓形	中期	赤彩412
609	1	240	土鈴	SB	157	床上	完形	40.00	白色粒子	褐色(やや赤み有)	手づくね	なし	不整球形		中期後葉	中子入り
608	1	546	土偶	SB	229	東レンヂ	右腕～胸部部分	63.50	白色粒子多、雲母微	暗赤褐～黒褐		沈線	立像?	腕に穿孔あり	中期中葉?	
608	2	241	土偶	SB	61	フ	乳房直下から両足	408.64	白色・灰色粒(雲母・石英なし)	褐色～黒褐	腕をつなぐ心棒痕跡	三角押文、三叉文	立像	出尻	中期中葉2	
608	3	540	土偶	SB	112	フ	頭部～右足の一部まで、両腕付根のみ	89.10	白色粒。岩屑、雲母微	赤褐～暗赤褐	頭部は頭部へのはめ込み式	細沈線	立像	臀部・臍貼付	中期後葉	
608	4	541	土偶	SB	121		p15 頭部～頭部	65.00	黒色粒多、雲母微	にぶい黄褐～黒褐		沈線、顔面様細沈線、頭髪編みこみ	立像		中期後葉	
608	5	543	土偶	SB	161	フ①区	体部のみ	66.30	白色粒。岩屑、雲母微	褐灰～にぶい黄橙		ラフな沈線	立像	臀部貼付、臍部凹形刺突	中期後葉	
608	6	777	土偶	LM	76	べ	腹～臀部	90.80	白色粒子	にぶい黄橙		三角押文、陰刻文	立像	出尻	中期中葉2	
609	7	242	土偶(把手?)	SB	214	上層	左腕付根、背部、腹部容器	640.92	白色粒子多、雲母	褐色～暗赤褐	脚部接合粘土紐	無文	立像か土器把手	容器抱き抱え	中期中葉	容器内赤彩
		778	土偶	SB	72		腹・背部の一部	24.90	白色粒子	灰黄褐～黒褐	粘土芯有り	押し引き文	立像?	出尻?	中期中葉1?	
		542	把手?	SB	156	検出面	体部的一部分	110.60	白色粒多、雲母微	黒褐	粘土貼付	沈線、腹を抱える手部の表現有り	土器把手(土偶?)		中期中葉	
		776	土偶	SB	157		右足～腰部	9.30	白色粒子	褐		無文	立像	長靴状	中期	
		544	土偶	SB	176		p107 片脚部の一部	95.50	白色粒子・岩屑多、雲母微	灰黄褐～黒褐		沈線	立像		中期中葉	
		545	土偶	SB	176		p108 片脚部の一部	63.80	白色粒子多、雲母微	黒褐		沈線	立像		中期中葉	
		775	土偶	IV	I 24	Ⅲ～Ⅳ層	左腹部～左臀部	15.60	白色粒・岩屑	赤褐		細沈線	立像	臀部貼付	中期後葉	
		779	土偶	IV	G15	Ⅲ～Ⅳ層	背部と左臀部表面のみ	28.90	白色岩屑ほか	明褐	粘土芯有り	背骨部沈線のみ	立像	出尻	中期中葉	
		547	土偶	12区北		Ⅱ～Ⅲ層	臀部・乳房を除く体部	98.10	白色粒子・雲母	褐色(やや赤み有)	上下に心棒痕跡	沈線	立像?		中期中葉	

れるが、全体の14%にすぎない。大半は五角形～六角形に粗割し、一部を磨くに止まった事例である。大きさは、円形～隅丸方形を呈するタイプで平均4cm、隅丸長方形～楕円形を呈するタイプで平均長軸4.5、短軸3.5cmである。平均的な大きさでは、聖石遺跡（中期後葉）より小ぶりである。

表35 長峯遺跡出土土器片製円板一覧（1）

図版番号	土器片製円板番号	遺構・地区		層位	取上番号ほか	平面形分類	加工状況分類	利用部位	欠損状況	計測値				遺構時期		土器片時期	備考		
		記号	番号							長軸長 (mm)	短軸長 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	大区分	中区分				
609	1	1	SB	1		フNo.1	不整形円形	E	深鉢体部		34	32	9	10.95	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期前葉		
609	2	8	SB	2		H-9No.7IV層	円形	A	深鉢体部		29	27	13	12.29	中期	中葉	不明		
609	3	10	SB	4		フ上層No.	隅丸五角形	C	深鉢口縁		32	29	10	8.16	中期	中葉	中葉		
609	4	11	SB	4		フ上層No.	円形	A	深鉢体部		38	36	11	15.57	中期	中葉	中葉		
609	5	12	SB	4		フ上層No.	不整形円形	B	深鉢体部		48	45	9	17.14	中期	中葉	不明		
609	6	14	SB	4		トレ	不整五角形	D	深鉢体部		39	34	11	15.40	中期	中葉	中葉		
609	7	15	SB	5		P61	隅丸六角形	D	深鉢底部		59	49	15	47.20	中期	前葉・中葉 2軒重複	不明		
609	8	18	SB	5		フ	隅丸五角形	D	深鉢体部		41	35	11	18.25	中期	前葉・中葉 2軒重複	不明		
609	9	28	SB	6		フ	不整形円形	D	深鉢体部		38	37	11	18.70	中期	中葉	中期前葉		
609	10	29	SB	6		フ上層No.	不整形円形	D	深鉢口縁		73	65	14	53.52	中期	中葉	中期前葉		
609	11	36	SB	14		フNo.3	隅丸方形	B	深鉢体部	一部	31	-30.5	9.5	11.32	中期	中葉	中期前葉		
609	12	43	SB	16		フ北東No.	隅丸方形	A	深鉢体部		35	33	10	13.95	中期	前葉	中期前葉		
609	13	45	SB	18		P6	不整形円形	F	深鉢体部		45	43	14	26.04	中期	中葉	中葉		
609	14	49	SB	62		P1	不整楕円形	E	深鉢体部		55	47	13	33.92	中期	前葉	中期前葉		
609	15	54	SB	72		フ	楕円形	A	深鉢体部		30	25	11.5	10.39	中期	前葉	中期前葉		
609	16	55	SB	73		5区斜面	円形	A	深鉢体部		23	22	11	6.74	中期	中葉	中期前葉		
609	17	58	SB	82		フ	不整楕円形	D	浅鉢口縁		57	49	13	33.46	中期	前葉	中期前葉		
609	18	71	SB	128		北西I層	不整形	E	深鉢底部		51	42	10	22.43	中期	後葉	不明		
609	19	72	SB	182		P15	不整形	F	深鉢底部		70	68	11	66.66	中期	不明	不明		
609	20	62	SB	185		北カヘギ	隅丸長方形	A	深鉢体部		52	29	11	20.26	中期	中葉	不明		
609	21	67	SB	231		フNo.4 (SB225含)	隅丸長方形	A	深鉢体部		45	25	13	16.39	中期	中葉	中期前葉		
609	22	76	SK	340			不整形円形	A	深鉢体部		29	25	9	9.08	中期	前葉	中期前葉		
609	23	79	SK	897			不整形円形	C	深鉢体部		32	30	10	12.25	中期	前葉?	中期前葉?		
609	24	96	SK	601		p31.4 8.51	不整形	C	深鉢体部		122	101	7	112.50	後期		後期?	穿孔部分を 研磨加工	
	90	12区				ミチ・ヨコカ	不整楕円形	D	深鉢体部		44	38	10	22.00			不明		
	95	3A区				ケ	隅丸五角形	E	深鉢体部		42	41	10	20.17			不明		
	91	3C				ケ	隅丸五角形	D	深鉢体部		28	27	9	8.29			不明		
	84	III-18				皿層	不整形円形	D	深鉢体部		28	26	10	7.20			不明		
	85	III-F				11ヶ	隅丸方形	E	深鉢体部		28	27	9	8.73			不明		
	86	III-G				4ヶ	不整形円形	E	深鉢体部		31	31	9	10.97			不明		
	87	III-1				3	隅丸六角形	E	深鉢体部		52	50	13	40.67			不明		
	88	III-1				7	6層	不整形円形	D	深鉢体部		37	35	8	15.02			中期前葉	
	89	5区				テイチ、カワ 5a層	隅丸五角形	E	深鉢体部		36	35	10	16.09			中期前葉		
	92	8区				Nカ	隅丸六角形	E	深鉢体部		41	40	11	22.68			不明		
	93	8区				東田ヒヨ～ ホ	隅丸六角形	F	深鉢体部		53	51	10	35.57			不明		
	94	8区				東田ヒヨ～ ホ	隅丸五角形	F	深鉢体部		34	33	9	12.25			不明		
	74	LM				ベ	円形	A	深鉢体部	半損	33	-24	8	7.40			不明		
	2	SB				ベ	不整形円形	D	深鉢頸部		31	31	13	9.12	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期前葉		
	3	SB				トレ	隅丸五角形	D	深鉢体部		31	29	10	8.45	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期中葉		
	4	SB				2	隅丸五角形	D	深鉢体部		49	41	11	14.22	中期	中葉	中期前葉		
	5	SB				2	フNo.1	隅丸五角形	D	深鉢体部		34	33	9	10.77	中期	中葉	不明	
	6	SB				2	フNo.3	不整形	D	深鉢頸部	一部	46	-39	9	13.18	中期	中葉	中期前葉～ 中葉?	
	7	SB				2	H-9No.16 I層	隅丸長方形	C	深鉢体部		53	48	15	32.27	中期	中葉	中期前葉	
	9	SB				4	フ上層No.	不整形円形	A	深鉢体部	一部	33	-30	15	16.77	中期	中葉	不明	
	13	SB				4	C20 7ヶ	不整形円形	A?	深鉢体部	半損	31	-25	14	10.91	中期	中葉	不明	
	16	SB				5	P109	不整楕円形	F	深鉢体部		36	28	12	9.54	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期前葉	
	17	SB				5	フ	楕円形	F	深鉢体部		32	26	11	6.59	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期中葉	
	19	SB				5	フ	隅丸五角形	D	深鉢体部		39	32	13	17.90	中期	前葉・中葉 2軒重複	不明	
	20	SB				5	フNo.3	隅丸五角形	D	深鉢体部	一部	39	-33	9	11.67	中期	前葉・中葉 2軒重複	不明	
	21	SB				5	フNo.3 ヽ	隅丸五角形	D	深鉢体部		36	27	11	9.86	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期前葉	
	22	SB				5	ベ	隅丸長方形 形?	D	深鉢体部	半損	41	-24	12	12.61	中期	前葉・中葉 2軒重複	不明	
	23	SB				5	ベ	隅丸五角形	F	深鉢体部		49	46	13	21.16	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期前葉	
	24	SB				5	フNo.3	円形	D	深鉢体部		26	25	10.5	8.79	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期前葉	

表35 長峯遺跡出土土器片製円板一覧(2)

図版番号	土器片製円板番号	遺構・地区		層位	取上番号ほか	平面形分類	加工状況分類	利用部位	欠損状況	計測値				遺構時期		土器片時期	備考
		記号	番号							長軸長(mm)	短軸長(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	大区分	中区分		
	25	SB	5	トレ		不整形	A	深鉢体部		29	28	8.5	8.04	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期中葉	
	26	SB	5	トレ		隅丸方形	D	深鉢体部		39	38	12	19.87	中期	前葉・中葉 2軒重複	不明	
	27	SB	5	ベ		隅丸五角形	D	深鉢体部		29	27	8	7.81	中期	前葉・中葉 2軒重複	中期中葉	
	30	SB	6	フ上層No.		隅丸五角形	D	深鉢体部		39	38	9	14.57	中期	中葉	不明	
	31	SB	9	フ中層No.		隅丸方形	D	深鉢体部		29	27	8.5	7.70	中期	前葉	不明	
	32	SB	9	フ下層		不整形	D	深鉢体部		37	31.5	9	11.72	中期	前葉	不明	
	33	SB	9	C19-13グ		隅丸長方形	D	深鉢体部		54	42	12	32.69	中期	前葉	不明	
	34	SB	10	フ上層		不整形	D	深鉢体部		48	41	10	22.66	中期	中葉	不明	
	35	SB	10	フ上層		不整形	E	深鉢体部		41	37	8	11.32	中期	中葉	中期中葉	
	37	SB	14	フNo.4		不整形	E	深鉢体部		40	36	10.5	17.16	中期	中葉	不明	
	38	SB	14	トレ		隅丸長方形	D	深鉢体部		49	42	11	23.44	中期	中葉	不明	
	39	SB	16		P4	隅丸長方形	D	深鉢体部		35	24	9	8.09	中期	前葉	不明	
	40	SB	16		P6	隅丸長方形	D	深鉢体部		41	35	8.5	14.82	中期	前葉	中期中葉	
	41	SB	16	フ北東No.		隅丸五角形	D	深鉢体部	一部	44	-42	8.5	17.08	中期	前葉	不明	
	42	SB	16	フ北東No.		隅丸長方形	D	深鉢体部		49	33	8	14.99	中期	前葉	不明	
	44	SB	16	フ北東No.		隅丸五角形	E	深鉢体部		46	37	10.5	20.96	中期	前葉	不明	
	46	SB	18		P7	不整形	F	深鉢体部		32	22	9	7.29	中期	前葉	中期中葉	
	47	SB	18	ベ		不整形	E	深鉢底部		36	35	16	21.34	中期	中葉	不明	
	48	SB	61	フNo.3		隅丸方形	A	深鉢体部	一部	33	-29	12	9.71	中期	中葉	中期中葉	
	50	SB	62	フNo.3 上層含		楕円形	E	深鉢把手		45	21	17	14.91	中期	前葉	不明	円盤ではない、把手部を研磨?
	51	SB	62	フNo.3 上層含		不整形	E	深鉢体部		43	24	12	11.32	中期	前葉	不明	
	52	SB	64	フNo.1 上層含		不整形	E	深鉢体部		32	30	11	9.69	中期	中葉	中期中葉	
	53	SB	71	フ南西		不整形	E	深鉢体部		38	37	10	15.41	中期	中葉	不明	
	56	SB	76	ベ		不整形	F	深鉢体部		29	27	9	7.86	中期	中葉	中期中葉	
	57	SB	77	フNo.		不整形	D	深鉢体部		26	22	9	5.61	中期	中葉	中期中葉	
	59	SB	82	フ		円形	B	深鉢体部		28	27	11	9.64	中期	前葉	不明	
	60	SB	82	フ		円形	D	浅鉢口縁		45	43	14	24.29	中期	前葉	中期中葉	
	61	SB	82	フ		隅丸五角形	D	深鉢体部	一部	48	-39	12	25.00	中期	前葉	不明	
	63	SB	213		P5	隅丸六角形	F	深鉢体部		51	43	11	23.90	中期	一	不明	
	64	SB	225	フ1 (SB231含)		隅丸長方形	E	深鉢体部	一部	60	43	14	44.18	中期	中葉	不明	
	65	SB	225	フNo.1 (SB231含)		不整形	D	深鉢体部		53	50	10	27.29	中期	中葉	不明	
	66	SB	225	トレ北東		不整形	D	深鉢体部		39	33	13	18.74	中期	中葉	不明	
	68	SB	231	フNo.4 (SB225含)		楕円?形	A?	深鉢体部	半損	26	-24	10	7.78	中期	中葉	不明	
	69	SB	233	東西トレ		円形	B	深鉢体部		27	26	10	8.99	中期	中葉	不明	
	70	SB	238			隅丸方形	D	深鉢体部		30	27	10	9.28	中期	前葉	中期中葉	
	73	SB	207	ケ		不整形	F	深鉢体部		32	28	7	8.61	中期	不明	不明	
	81	SF	2			不整形	D	深鉢体部		41	40	12	22.77			不明	
	75	SK	141・142	上層含		不整形	C	深鉢体部	半損	35	-28	8	10.37	中期	前葉	不明	
	77	SK	422or 431			隅丸六角形	E	深鉢体部		46	41	11	25.71	中期	不明	中期中葉?	
	78	SK	852			不整形	E	深鉢底部		37	31	11	16.08	中期	前葉	不明	
	80	SK	3094			不整形	D	深鉢体部		36	34	13	20.77	中期	前葉?	不明	
	82	SQ	3		P2	不整形	D	深鉢体部	半損	53	-30	13	22.21			不明	
	83	SQ	11			円形	D	深鉢体部	半損	31	-15	7	3.57	中期	前葉	中期中葉	

## 4 石器

### (1) 概要

長峯遺跡からは、搬入礫や一部の丸石・石柱・碎片を除く石器、および石器素材・屑が26,958点出土した。重量は、搬入礫や重量を計測しなかった剥片・屑片を除き2,782,449 gである。

器種分類は聖石遺跡に準じた。ただし、聖石遺跡には見られなかった小形剥片を利用した石匙の項目を追加した。また、磨石・凹石・敲石類に含めたが、扁平礫の側縁に鈍い機能面を作出した礫器が多く認められた。分類された各種石器の遺構毎の組成は表37の通りである。また、各器種別の出土位置や図版番号、重量に関しては、CD表36に示した。

(2) 各種石器の特徴

ア 小形剥片石器

- ①石 鏃 (図版610・611-1~65) 344点 (300.39 g) を数える。そのうち黒曜石339点 (294.53 g)、その他5点 (5.86 g) である。基部は凹基の例が大半を占め、わずかに有茎 (65ほか) が認められる。縄文時代中期・後期のほか早・前期の土器が出土している点から、その時期の石鏃も含まれていると見られるが、型式分類による分離は行っていない。
- ②石 槍 (図版611-66~68) 10点 (127.12 g) を数える。そのうち黒曜石8点 (95.93 g)、その他2点 (31.19 g) である。67は基部調整などが不十分で石鏃未製品の可能性もある。
- ③石鏃未製品 (図版611-69~73) 62点 (137.36 g) で、そのうち黒曜石61点 (128.3 g)、その他1点 (19.06 g) である。素材中央付近の厚みを取り除けなかったために放棄した例、調整中に破損した例が多く認められる。73は石鏃としての形態を調整する前の小形両面調整石器の可能性はある。
- ④石 錐 (図版611・612-74~93) 140点 (329.65 g) を数え、黒曜石138点 (287.38 g)、その他は2点 (42.27 g) である。つまみ部の作出があるもの、棒状に加工されたもの、機能部のみを作出したものがある。
- ⑤小形刃器 (図版613・614-102~121) 105点 (965.56 g) を数え、そのうち黒曜石84点 (914.46 g)、その他21点 (51.1 g) である。小形石匙は別項目とした。特徴的な刃器では、聖石遺跡と同様の細長い片刃タイプ (110・111ほか) の例がある。また、身部が幅広となるタイプ (105・107・109ほか) がある。搔器と見られる102などはごく少数しか認められなかった。
- ⑥小形石匙 (図版612-94~101) 黒曜石やチャートなどの緻密な石材を利用し、刃部幅が5 cm以下の例を小形とした。ただし測定値は漸移的に変化しており、小形と大形の区分は必ずしも明瞭ではない。97は黒曜石製のため小形とした。14点 (258.61 g) が出土し、そのうち黒曜石4点 (166.06 g)、その他10点 (92.55 g) である。中期中葉の土坑に伴う例がある。
- ⑦くさび形石器 (図版614-122~136) 2100点 (4675.02 g) を数え、すべて黒曜石である。聖石遺跡に比べ124のような定形例の割合が少ない。不定形の多くは楔としての機能を持つものではなく、両極石核や屑片の可能性はある。

表36 長峯遺跡出土石器器種別一覧

(-)表示は計測方向欠損品

図版	器種の番号	器種	器種別番号	大々-大地区	中地区	遺構記号	遺構番号①	遺構番号②	施設名・位置	層位名	取上げ番号	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg	石材	備考
610	1	1 石鏃	1			SB	4				S5	21	18	2.5	0.62	黒曜石	
610	2	1 石鏃	2			SB	4				S8	19	18	2	0.73	黒曜石	
610	3	1 石鏃	3			SB	4				S16	23	16	4.5	1.02	黒曜石	
		1 石鏃	4			SB	4				S19	-23	-12	3	0.7	黒曜石	
		1 石鏃	5			SB	4				S24	20	-12	4.5	0.91	黒曜石	
		1 石鏃	6			SB	4				S28	26	-16	4	1.17	黒曜石	
		1 石鏃	7			SB	4					34	-13	8	3.54	黒曜石	
610	4	1 石鏃	8			SB	4					21	17	1.5	0.54	黒曜石	
		1 石鏃	9			SB	4					-21	15	2	0.68	黒曜石	
		1 石鏃	10			SB	4				P6	25	-12	2.5	0.46	黒曜石	
		1 石鏃	11			SB	4		ピット4			24	-13	2.5	0.58	黒曜石	
610	5	1 石鏃	12			SB	4		7No5			21	18	5	1.18	黒曜石	
610	6	1 石鏃	13			SB	4		7No5			31	-13	4.5	1.14	黒曜石	









